

(公財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
[報告書]

16

2020年3月
ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、(公財)北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、ニッセイ基礎研究所が実施した「北九州芸術劇場 事業評価調査(その16)」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

北九州芸術劇場は、そうした動きに先立ち、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

16年目にあたる2018年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。その結果からは、これまでと同様に、北九州芸術劇場が着実に成果をあげ、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。また、今年度は⑤テーマ調査として、「北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証」と題し、今期の北九州市文化振興計画で掲げた施策の方針に沿って、2010年度から2018年度までの9カ年で北九州芸術劇場が推進した取組を振り返り、事業の実績、成果及び波及効果を整理した。

なお、事業評価調査は本年度を含め16年間継続してきたが、その間に劇場の運営環境や条件が変化したこともあり、事業実績やアンケート調査などの調査結果の特徴や傾向が見えにくくなりつつある。そこで、事業評価の調査結果をより明確に把握し時系列の推移などを説明できるよう、図表の表現など報告書の編集方法を工夫した。

末筆ではあるが、2003年度以降、16ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた(公財)北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2020年3月
ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室

◎ 目 次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成	i
-----------------------------	---

[本編]

第1章 2018年度事業の概要と実績	3
第2章 観客の特性と観客からみた評価	10
第3章 貸館利用者からみた評価	18
第4章 経済波及効果とパブリシティ効果	22
第5章 テーマ調査：北九州市文化振興計画における 劇場による取組の検証	27
第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果	40

[資料編]

資料Ⅰ 実績調査結果	資-1
資料Ⅱ 観客調査結果	資-25
資料Ⅲ 貸館利用者調査結果	資-57
資料Ⅳ 経済波及効果	資-113
資料Ⅴ パブリシティ効果	資-127

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1. 調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

16年目にあたる2018年度は、2003年度あるいは2004年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

- ①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
- ②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
- ③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
- ④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出

を実施した。さらに、2018年度の「テーマ調査」として、

- ⑤北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証
- と題し、実績調査とヒアリングによる調査を実施した。

(2) 調査の内容

①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から16年間の経年分析を行なった(詳細は、p.資-1～資-23参照)。

②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-25～資-79参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンル等)など、観客特性の把握

③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、2018年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-81～資-112参照)。

④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-113～資-125参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-127～資-133参照)。

⑤北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証

「北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証」と題し、今期の北九州市文化

振興計画で掲げた施策の方針に沿って、2010年度から2018年度までの9カ年で北九州芸術劇場が推進した取組を振り返り、事業の実績、成果及び波及効果を整理した。

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる6つの章によって構成されている。

- 「第1章 2018年度事業の概要と実績」
劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章 観客の特性と観客からみた評価」
自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見(公演やサービスへの満足度など)、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章 貸館利用者からみた評価」
貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章 経済波及効果とパブリシティ効果」
産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章 テーマ調査:北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証」
実績調査とグループヒアリング調査から得られた論点を整理し、調査結果と考察をまとめた。
- 「第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果」
第1章から第5章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。
 - A 劇場の設置目的:
鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動支援、地域への貢献
 - B 運営・管理: 場の提供・支援、施設のホスピタリティ・サービス、施設の維持管理
 - C 経営: 経営体制、リサーチ&マーケティング、経営努力

(2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「実績調査結果」では、2018年度の劇場運営の基礎データや2003年以降の推移を整理した。
- 資料Ⅱ「観客調査結果」では、2018年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「貸館利用者調査結果」では、2010年度～18年度の9ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅳ「経済波及効果」では、2018年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需

要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。

- 資料Ⅴ「パブリシティー一覧」では、2018年度の新聞記事掲載件数や金額換算の実績や2003年以降の推移を整理した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(研究理事・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 主任研究員)

太田真奈美(社会研究部 研究アシスタント)

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2018年度事業の概要と実績

事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2018年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と2018年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

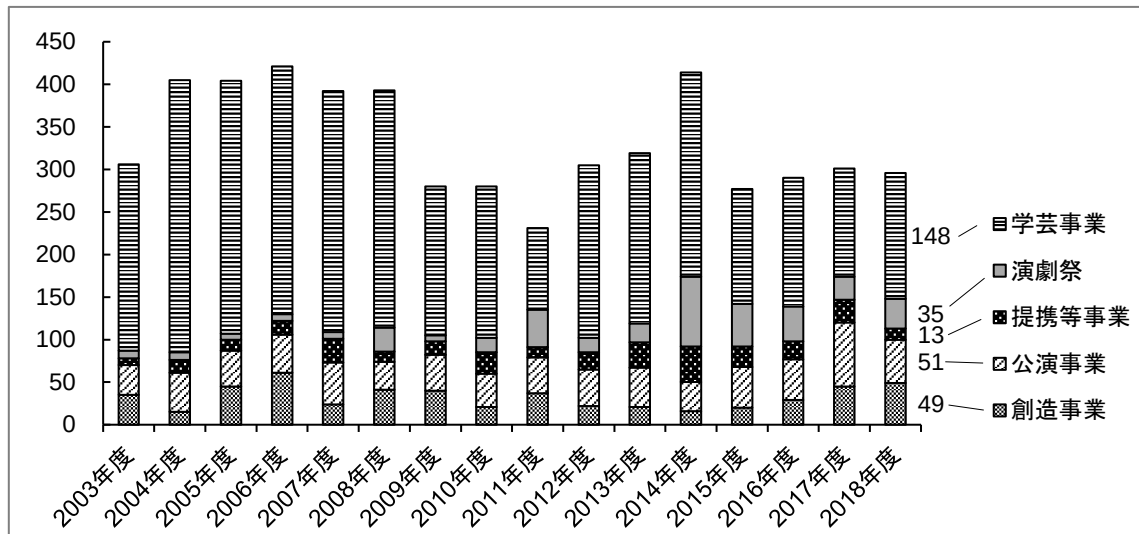
北九州芸術劇場では、開館以来「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードにした事業展開が行われてきた。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州発のオリジナリティのある良質の作品づくりを通じて、地域資源の発掘と北九州市のシティブランド発信に取り組む。
- **【育つ】**: 『交流』と『育成』を柱に、舞台芸術の力を活用し、地域の未来を担う人材を育成する。
- **【観る】**: 幅広いラインナップの充実を図り、市民に良質な公演を提供する。また、新たな観客づくりや、にぎわいづくりに寄与する。
- **【支える】**: 市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を積極的に行う。

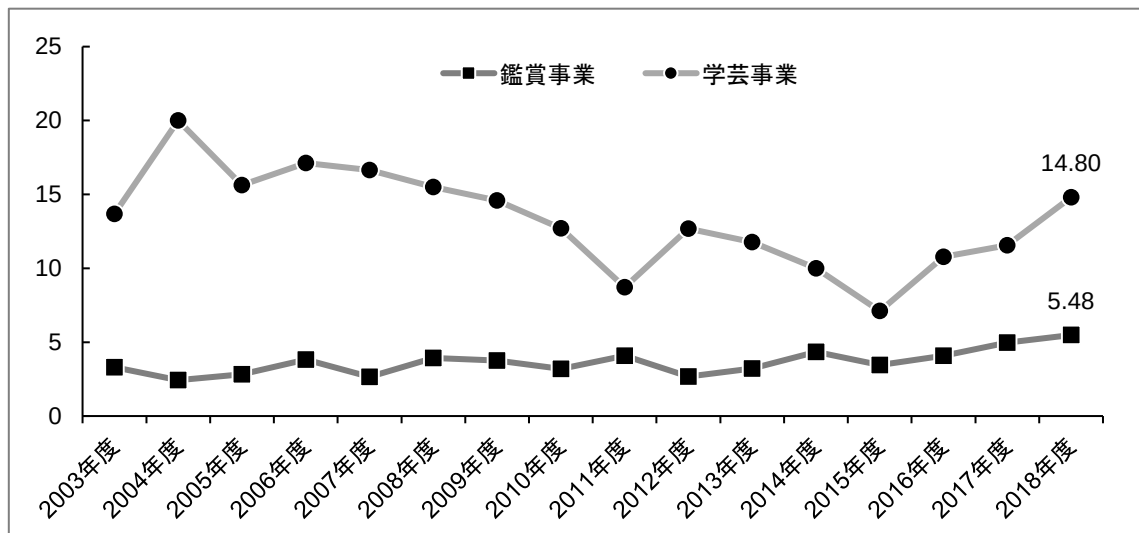
(2) 事業の内容と実績、入場者数

- 2018年度も4つのコンセプトに基づき、2018年度の自主事業の事業数は、鑑賞事業が27事業、学芸事業が10事業、支援事業が5事業となっている。2003年度の開館以降で学芸事業は最も少ない事業数となっている。鑑賞事業では2003年度と同じ事業数だが、2003年度は年度途中からの開館であるため、鑑賞事業においても最も少ない事業数となっている。
- 2018年度の鑑賞事業の公演回数は148回、学芸事業の実施回数は148回、支援事業は54回となっている(図表1-1)。鑑賞事業の1事業あたりの公演回数は5.48回、学芸事業の1事業あたりの実施回数は14.80回となっている(図表1-2)。鑑賞事業で1事業あたりの公演回数は開館以降で最多数となっている。
- 2018年度の鑑賞事業の入場者数は22,075人、学芸事業の参加者数は1,800人、支援事業の参加者数は2,438人となっており、年間の入場者(参加者)数の総合計は23,875人となっている。2018年度は、各事業の入場者(参加者)と総合計の人数が開館以降で最少となっている。
- 2018年度の鑑賞事業で、総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数は20,473人で、総席数は23,961席となっており、入場率は85.4%となっている(図表1-3)。

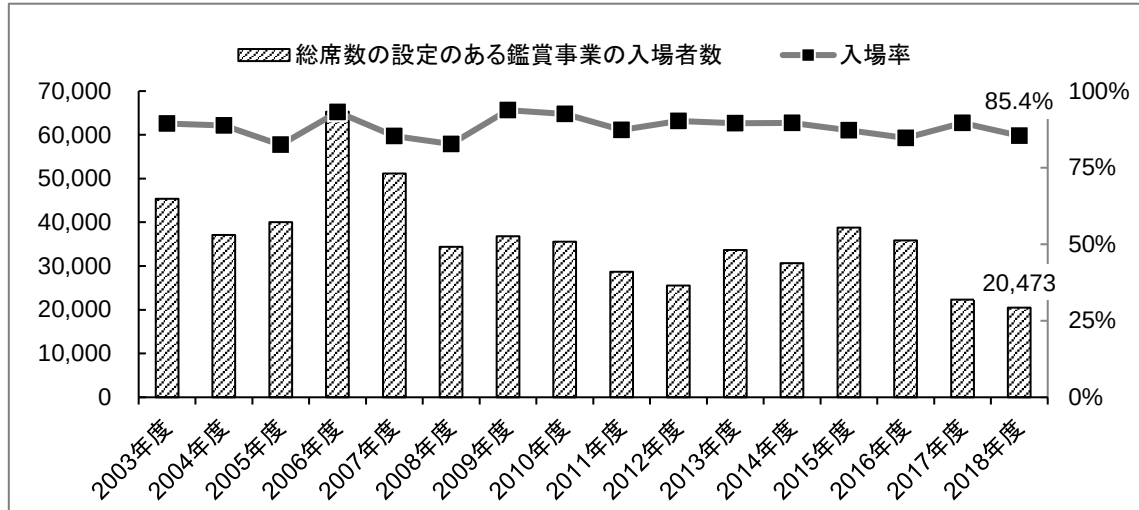
図表1-1 公演(実施)回数の実績



図表1-2 1事業あたりの公演(実施)回数



図表1-3 入場者数と入場率



- 以下、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。

①創る:創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
 - 熊本県出身の劇作家・演出家 田上豊と九州出身の俳優たちが綴る、笑いあり涙ありの九州男児劇「せなに泣く」
 - 北九州の街に長年暮らしてきた高齢者の方々の様々な“思い出”や“記憶”を地元の若手作家たちがインタビューし物語をつくる、7年目を迎えた「Re:北九州の記憶」
 - 本当の幸せとは何か？を問うメーテルリンクの不朽の名作をもとに、市民のみなさんとワークショップを重ねた市民参加企画、合唱物語「わたしの青い鳥2018」
 - パリ市立劇場との共同プロデュースを30年以上続ける、日本を代表する舞踏カンパニー・山海塾の4年ぶり待望の新作「Arc 薄明・薄暮」世界初演といった事業が実施された。
- 2018年度は4事業で49回の公演・ワークショップが行われ、入場者数は2,528人となっている。2017年度と比べると、回数は増えたが入場者数は減少している(2017年度の実績は5事業、45回、3,641人)。入場率では、2017年度の92%から2018年度では85%と減少している。
- 個別の入場率では「Re:北九州の記憶」のリーディング公演で100%、「せなに泣く」の公演が88%、「わたしの青い鳥2018」の公演で86%となっており、市民からの支持の高さがうかがえる。

②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
 - 初めて出会った仲間たちと一緒に2つの劇場体験コースの中で、劇場や演劇に触れる5日間のワークショップ、「夏休み！子どもの劇場体験2018」(台風12号のため1日中止)
 - 「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」として、演劇・ダンス分野から地元や国内外で活躍するアーティストを招いて行う「アウトリーチ」
 - 高校生に〔的〕を絞った取り組みを通して、演劇・パフォーマンスをより身近に感じていただき、高校生が劇場を〔的〕にして集うきっかけを提供した「高校生〔的〕シアター」
 - 地域文化の振興を担う人材(市民、劇場・文化施設等のスタッフ、地域のアーティスト等)の育成や人的ネットワークの形成を目的に、舞台芸術分野の専門家を招いたレクチャーやワークショップなどを開催した「劇場塾2018」
- など、学芸事業全体では、創造参加も含め、10事業で148回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は3,372人となっている。

③観る:公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、1989年に初演されて以来、常に上演を熱望される野田作品の金字塔「贗作 桜の森の満開の下」、現代日本を覆う奇妙な“空気”の正体に迫り、観客を凍りつかせた二兎社「ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ」、1992年アルベールビル五輪の開閉会式演出で世界的振付家の一人として名を馳せたフランスの振付家、フィリップ・ドゥクフレ/DCAの「新作短編集(2017)―Nouvelles Pièces Courtes」、サーカス文化の本場、カナダ・ケベック州で誕生し、世界15ヶ国で上演された劇場型サーカス「マシーン・ドゥ・シルク」など、幅広い観客層を対象とした公演が実施された。
- 公演事業では15事業が上演され、公演数は51回、入場者数は15,704人となっている。2017

年度と比べると、公演数は減少し、入場者数は増加している(2017年度の実績は75回、14,447人)。公演事業の入場率は88%と高い。

- 提携等事業では、小劇場・現代演劇や落語など5事業が上演され、公演数は13回、入場者数は2,633人であった。2017年度と比べると、公演数、入場者数ともに減少している(2017年度の実績は27回、10,585人)。
- 創造事業、公演事業、提携等事業、フェスティバルを含めた公演事業全体の公演作品数は27本、公演数は148回、入場者数は22,075人である。2017年度の年間入場者数と比べると、公演回数、入場者数ともに減少している(2017年度の実績は35本、174回、29,671人)。

④支える: 地元劇団等の創造活動支援、多施設との連携、貸館事業

- 「支える」に対応した主催事業では、
 - 「ものづくりの都市」として栄えてきた北九州の地域資源や生活文化を活用し、演劇、ダンス、音楽、アートのプログラムをまちなかで開催した「北九州芸術工業地帯」
 - 劇場や街なかを会場に、公演やワークショップなど、国内外で活躍するアーティストによる多彩なプログラムで開催された「ダンスダイブウィーク」
 - スタッフ・役者を実際に担当し、作品上演までを短期集中で学びたい20名を募集した「シアターラボ」
 - 地域文化の発展・表現活動の支援の一環として、創造工房・稽古場を作品上演の場として使用する「演カツ!!」などを行った。
- 支援事業の入場者数は2,438人(前掲の「観る: 公演事業」と「育つ: 学芸事業」の入場者数の計に含まれる)。
- また、「支える」では市民の文化活動の支援を貸館として行い、「提案する劇場」として、使用申込みから当日までのケア、催し内容へのアドバイス、施設の安全性や非常時対応の説明等、使用者が安心して催しを開催できるように総合的にサポートした。
- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、公演や講演など、計207事業が開催された。公演・講演数は276回、総来場者数は132,877人となっている。

⑤利用者数、利用件数

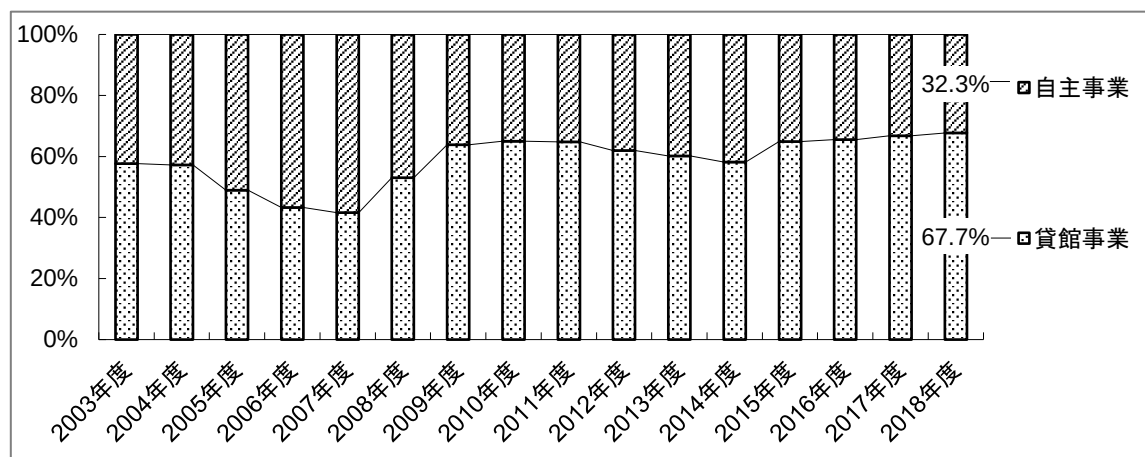
- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数を見ると、2018年度は1,477件の利用があり、利用者数は約26万人となっている。
- そのうち、利用件数は自主事業477件、貸館事業1,000件となっており、利用者数は自主事業約3万3,000人、貸館事業約22万2,000人である(図表1-4)。前年度と比べて、自主事業、貸館事業ともに利用件数と利用者数は減少している。自主事業での利用者数は開館以降最少となっている。
- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースでみると、2018年度は、貸館事業が67.7%、自主事業は32.3%となっており、2003年度の開館以降で貸館事業の比率が最多となっている(図表1-5)。開館から2007年度までは自主事業の利用の比率が増加傾向にあったが、2008年度以降は貸館事業の比率が増加傾向にある。
- ホールの規模別の自主事業・貸館事業の比率を見ると、2018年度は大ホールが11.9%、中劇場が34.1%、小劇場が50.1%となっている(図表1-6)。とくに小劇場の自主事業での利用の比率は、2003年度以降で最少となっている。

- ・ 2013年度以降の第3期からは、自主事業が劇場から地域に出て展開する企画が増加しており、その分、劇場は貸館事業に利用されることが増加していると考えられる。

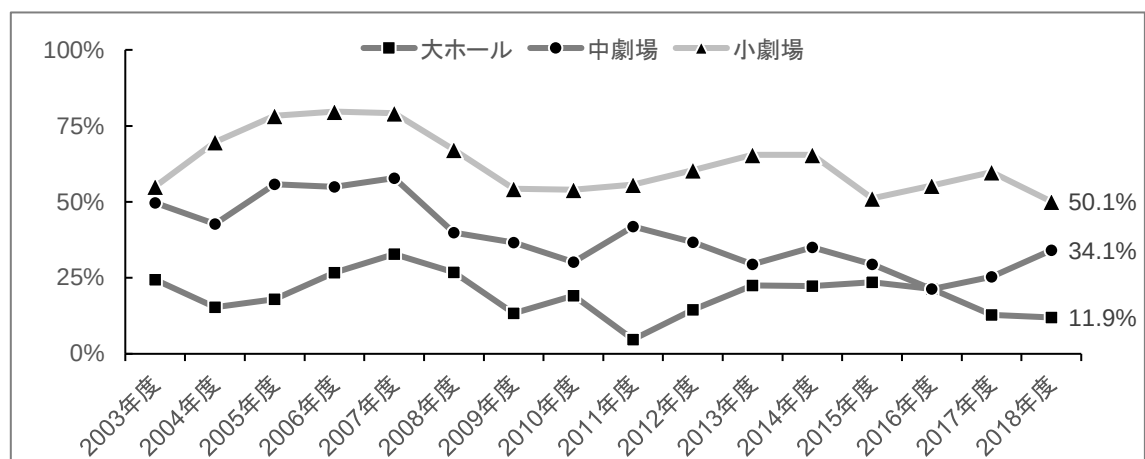
図表1-4 施設の利用者数

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	23,937	93,100	117,037	22,890	41,524	64,414	7,402	10,769	18,171	54,229	145,393	199,622
2004年度	22,445	175,273	197,718	29,970	71,901	101,871	16,996	13,626	30,622	69,411	260,800	330,211
2005年度	13,034	160,673	173,707	33,153	55,644	88,797	14,592	10,478	25,070	60,779	226,795	287,574
2006年度	26,027	134,966	160,993	29,814	55,050	84,864	15,651	8,853	24,504	71,492	198,869	270,361
2007年度	34,015	132,444	166,459	29,182	58,491	87,673	17,837	10,772	28,609	81,034	201,707	282,741
2008年度	17,877	133,686	151,563	17,699	77,324	95,023	14,661	17,281	31,942	50,237	228,291	278,528
2009年度	7,625	138,611	146,236	22,087	86,166	108,253	12,873	18,186	31,059	42,585	242,963	285,548
2010年度	21,429	155,767	177,196	16,140	88,614	104,754	12,457	16,967	29,424	50,026	261,348	311,374
2011年度	2,979	163,922	166,901	20,838	70,958	91,796	11,947	19,011	30,958	35,764	253,891	289,655
2012年度	10,696	139,621	150,317	18,158	75,782	93,940	12,954	18,014	30,968	41,808	233,417	275,225
2013年度	23,017	131,814	154,831	15,696	83,956	99,652	15,563	13,088	28,651	54,276	228,858	283,134
2014年度	19,526	121,017	140,543	10,645	69,397	80,042	12,726	16,140	28,866	42,897	206,554	249,451
2015年度	25,106	133,240	158,346	19,581	81,557	101,138	10,555	19,839	30,394	55,242	234,636	289,878
2016年度	30,999	129,465	160,464	10,753	75,534	86,287	12,419	17,893	30,312	54,171	222,892	277,063
2017年度	11,962	148,154	160,116	11,455	78,566	90,021	11,128	15,770	26,898	34,545	242,490	277,035
2018年度	12,757	139,469	152,226	12,676	63,035	75,711	7,958	19,216	27,174	33,391	221,720	255,111
累計	303,431	2,231,222	2,534,653	320,737	1,133,499	1,454,236	207,719	245,903	453,622	831,887	3,610,624	4,442,511

図表1-5 自主事業・貸館事業比率 [件数ベース]



図表1-6 ホール別の自主事業比率 [件数ベース]



(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の施設稼働率(利用対象日数に対する公演日数の割合)は、大ホールが85%、中劇場は77%、小劇場は89%となっており、3ホール合計では83%となっている(図表1-7)。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2017年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70.3%)と比較して高い水準にある。
- 施設の稼働率について第1期、第2期、第3期を比較すると、第3期は大ホール、中劇場、小劇場ともに稼働率が第1期と第2期を上回っている。ただし、限られたスタッフ体制のもとでの施設利用の安全性を考慮すると、稼働率が100%に近づくことが望ましいわけではない。

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の2018年度の事業費は約2億300万円となっている。前年度(約2億300万円)に同規模となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約9,800万円で全体の49%、市の補助金が約6,300万円で31%、文化庁と(一財)地域創造などによる外部資金が約4,100万円で20%となっている(図表1-8、図表1-9)。事業費の財源のうちチケット収入と外部資金で事業費のおよそ7割(69%)をカバーしている。
- 全国平均の試算値※と比較すると、2018年度のチケット収入の割合は平均を上回っている。全国平均の試算値での「設置者からの補助金・委託費」(53%)が、北九州芸術劇場における2003～2018年度累計のチケット収入の割合(52%)とほぼ同じ比率となっている。

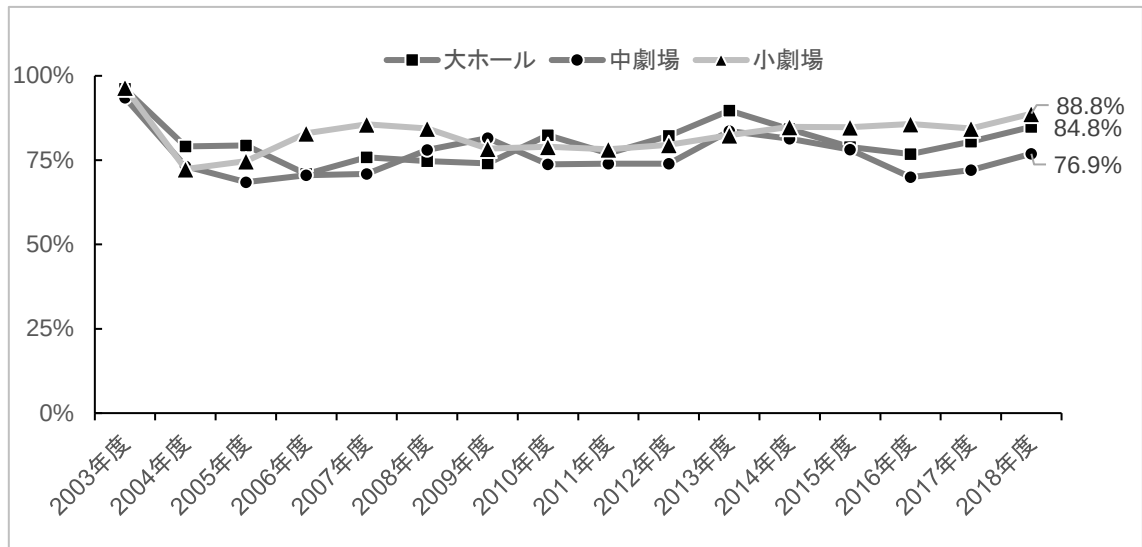
※(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年)から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの収入」が67.0%、「事業収入」が11.7%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が2.1%である。

※指定管理施設の平成25年度決算金額平均値の「収入」欄から、それぞれの内訳比率を算出したため、「設置者からの収入」には人件費や運営管理費の財源でもある指定管理料が含まれている。

(2) 事業収支

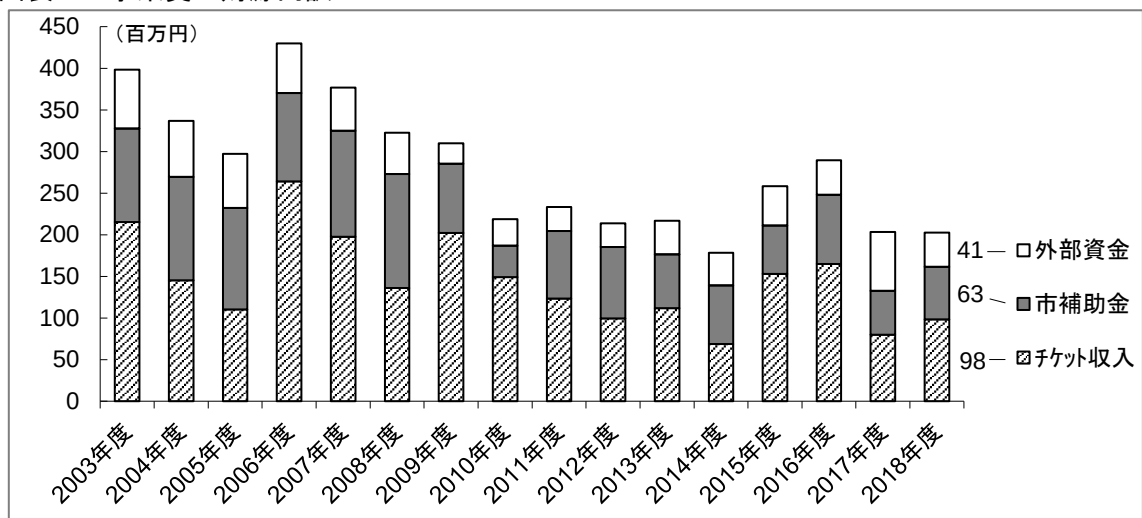
- 2018年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約1,806万円の減収、補助金等収入は約1,471万円の減収となっている。2018年度は事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。
- 劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていることとともに、積極的な営業努力を行っていることがうかがえる。

図表1-7 北九州芸術劇場の稼働率

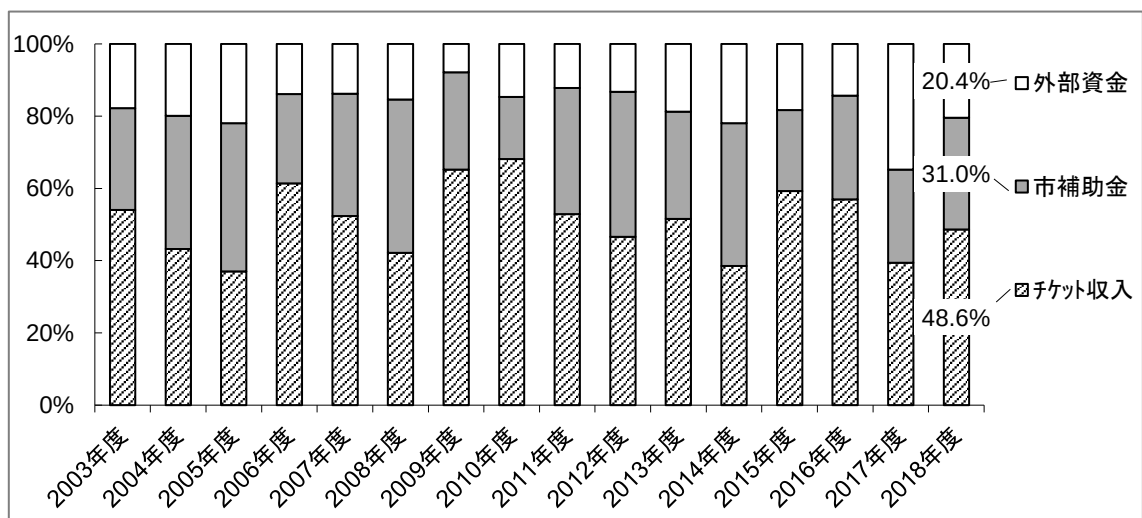


注) 稼働率は「公演日数／利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

図表1-8 事業費の財源内訳



図表1-9 事業費の比率



第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に会場した観客に対するアンケート調査の結果から、2018年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

1. 観客調査の実施要領

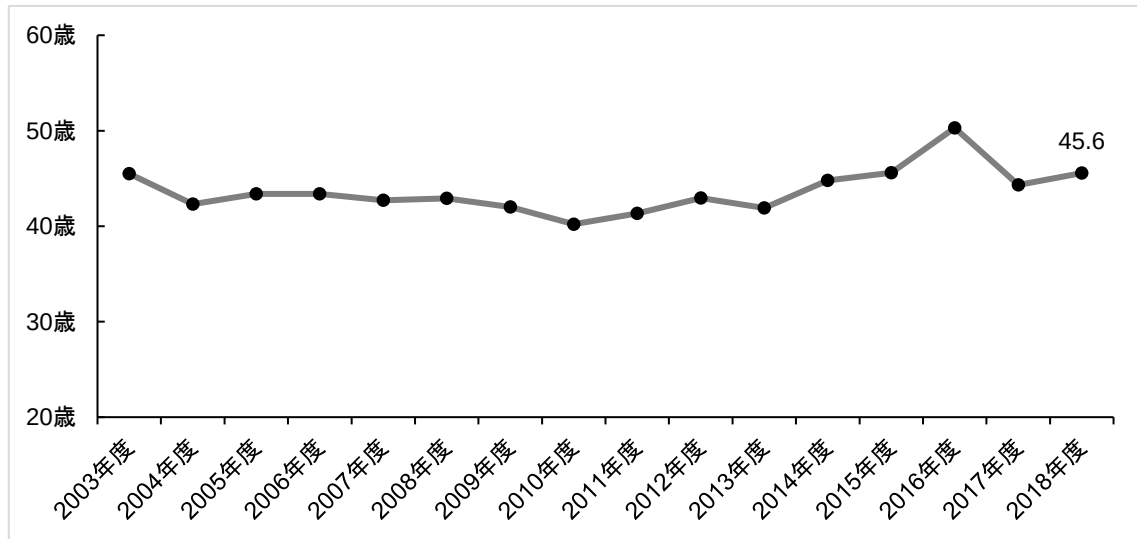
- 調査の対象:2018年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演 24公演
- 配布・回収方法:各公演初日の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期:2018年4月7日～2019年3月29日
- 有効回答数(回収率):940件、回収率:12.3%(配布数:7,661件)

2. 観客調査の結果概要

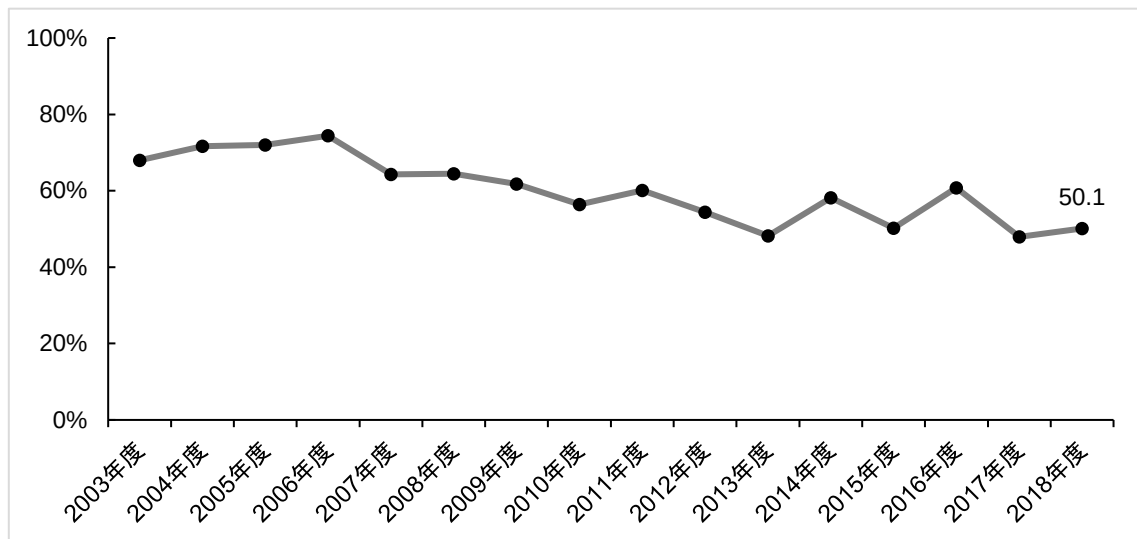
(1)観客(アンケート回答者)の属性

- 観客は、男性が22%、女性が78%と、女性の割合が高い。いずれのジャンルも男性に比べて女性の割合が高い。
- 平均年齢は45.6歳。年齢層に大きな偏りはなく、「50歳代」が26.0%と最も割合が高い。「40歳代」が24.7%、「60歳以上」が19.5%、「30歳代」が12.7%、「18～29歳」が11.1%、「18歳未満」が5.9%と、幅広い年齢層の観客が来場している。
- 平均年齢は、2003年度が45.5歳で、2004年から2015年度までは40.2歳～45.6歳の範囲で40歳台前半を維持できているが、2016年度は開館以降で初めて50歳を超えて最も高い平均年齢となった(図表2-1)。
- 居住地域は、北九州市及び周辺地域が50%(「北九州市」:44%、北九州市周辺:6%)を占めるが(図表2-2)、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は38%となっている。
- 観客の居住地域の経年推移を見ると、07年度以降は増減があるものの、北九州市と周辺以外のエリア(福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など)の割合が3割を超え、北九州市+周辺が減少する傾向にあった。
- 福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県(22件)、熊本県(18件)、佐賀県(12件)、長崎県(8件)、宮崎県(5件)、鹿児島県(9件)等の記載がある。九州・山口以外では、沖縄県、千葉県の回答もある。
- チケットクラブに加入している割合は25%、加入していない割合は63%である(図表2-3)。現在チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向のある割合は16%、ない割合は49%である。無回答の割合も36%と高い(入会の意向が明確ではない人は無回答の場合が多いと考えられる)。

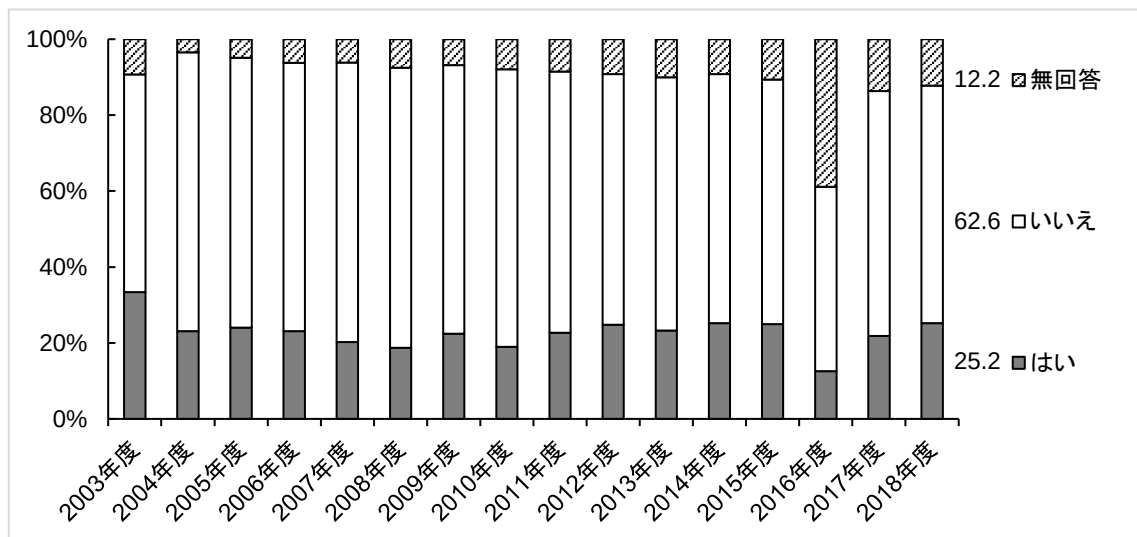
図表2-1 平均年齢



図表2-2 居住地域(北九州市+周辺の割合)



図表2-3 チケットクラブ入会の有無



(2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

①来場公演のジャンル

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が71%である。アンケート配布公演24公演のうち16公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 年齢別に来場公演のジャンルをみると、18歳未満では「ダンス・現代舞踊」の割合が36%と他の年齢層に比べて高い(全体では「ダンス・現代舞踊」は20%)。

②公演情報の入手経路

- 公演情報の入手経路は、全体では「友人・知人から聞いた」が19%、「ホームページ・ブログ」が19%、「他の公演会場で配布されたチラシ」が15%、「Facebook、TwitterなどのSNS」が15%となっている(図表2-4)。
- 公演情報の入手経路を、年齢別で見ると、18～29歳では「Facebook、TwitterなどのSNS」、「40歳代」と「50歳代」は「ホームページ・ブログ」、「60歳以上」は「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が5回までの回答者では「友人・知人から聞いた」の割合が最も高く、6～10回は「ホームページ・ブログ」、11回以上は「他の公演で配布されたチラシ」の割合が最も高い。
- 鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」の割合は多くなる傾向にある一方で、「友人・知人から聞いた」の割合は少なくなる傾向にある。

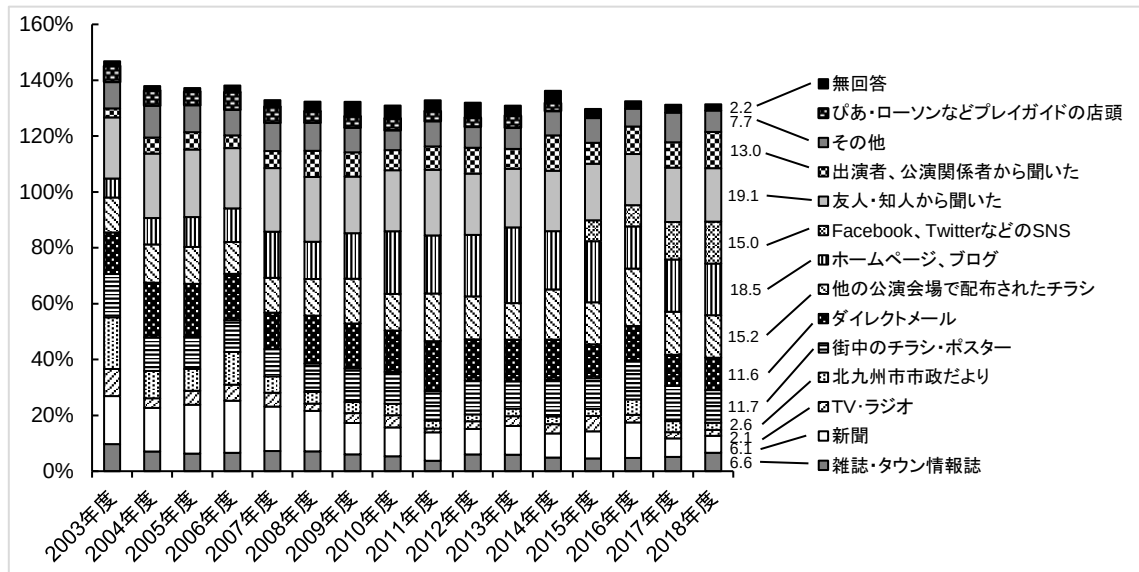
③公演に来た理由

- 公演に来た理由については、「公演内容が面白そうだったから」が54.1%、「出演者が好きだから」が49.9%となっている(図表2-5)。18歳未満では「人に誘われたから」の割合が他の年代に比べて高く、18～29歳から40歳代までは「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。
- 過去調査と比較して、2018年度は2003年度に次いで「公演内容が面白そうだったから」の割合が高くなっている。「公演内容が面白そうだったから」が「出演者が好きだから」を上回ったのは2003年度、2014年度、2018年度の3回となっている。

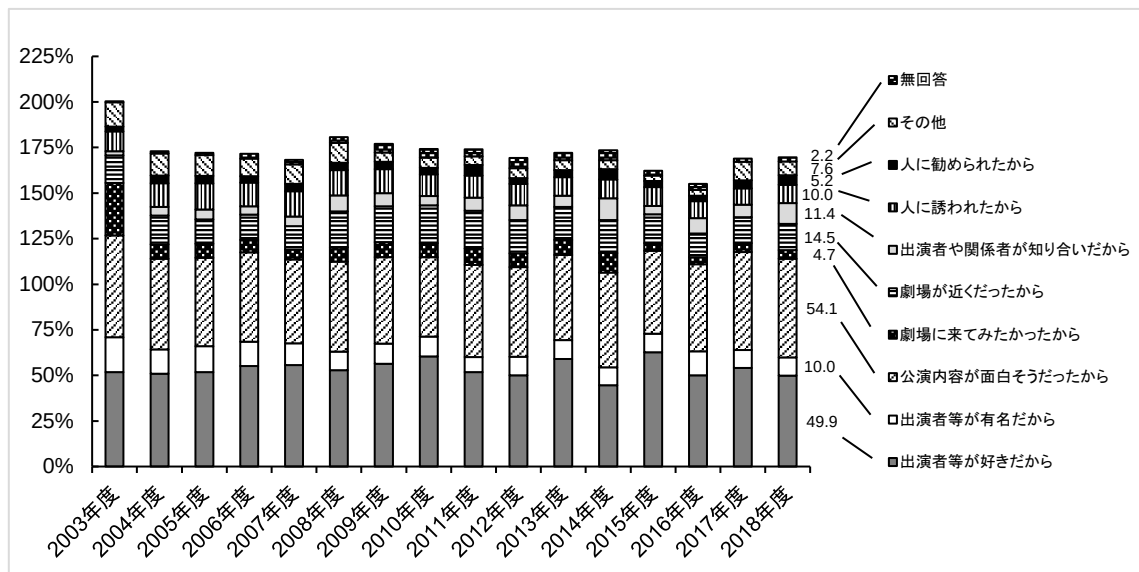
④北九州芸術劇場での鑑賞経験

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は、11回以上が26%と最も高い。次いで、今日が初めて(22%)、3～5回(17%)、6～10回(13%)、1～2回(11%)と、大きな偏りがなく分布している。初めてからリピーターまで、幅広い層が来場している。
- 北九州芸術劇場の鑑賞経験が6回以上の割合の推移を見ると、2008年度までの調査では増加傾向で2008～2009年度は30%を超えていたものの、2010年度は29%と減少し、2011年度以降は、6回以上の割合が30%から40%の間を増減している(図表2-6)。6回以上の割合は2014年度で40%と過去最高となっている。
- 年々劇場での鑑賞経験の多い観客が増えており、6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは年齢別では40歳代以上で、2018年度では60歳以上で6回以上の鑑賞経験者の割合は56%である。

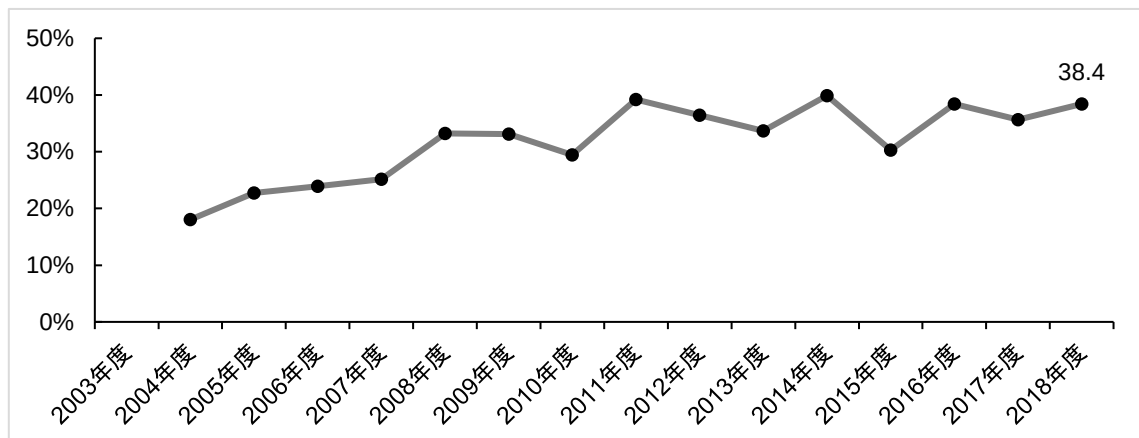
図表2-4 公演情報の入手経路



図表2-5 公演に来た理由



図表2-6 北九州芸術劇場での鑑賞経験(6回以上の割合)



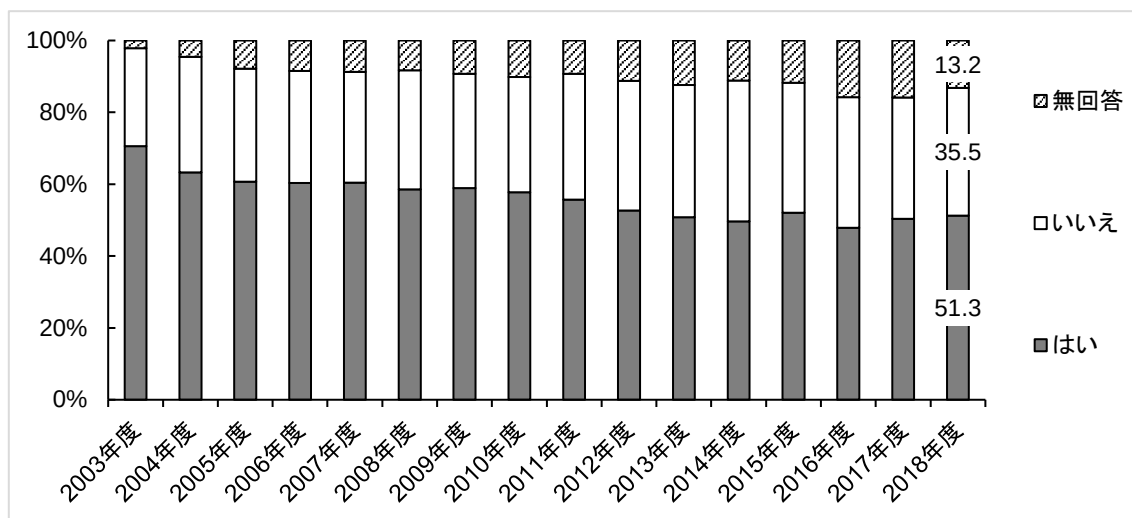
⑤公演前後の飲食やショッピング

- 公演前後に飲食やショッピングをしている割合は51%である(図表2-7)。飲食をしている場合の平均金額は1,776.7円、ショッピングをしている場合の平均金額は3,635.8円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額は増額し、ショッピング平均額は減少している。

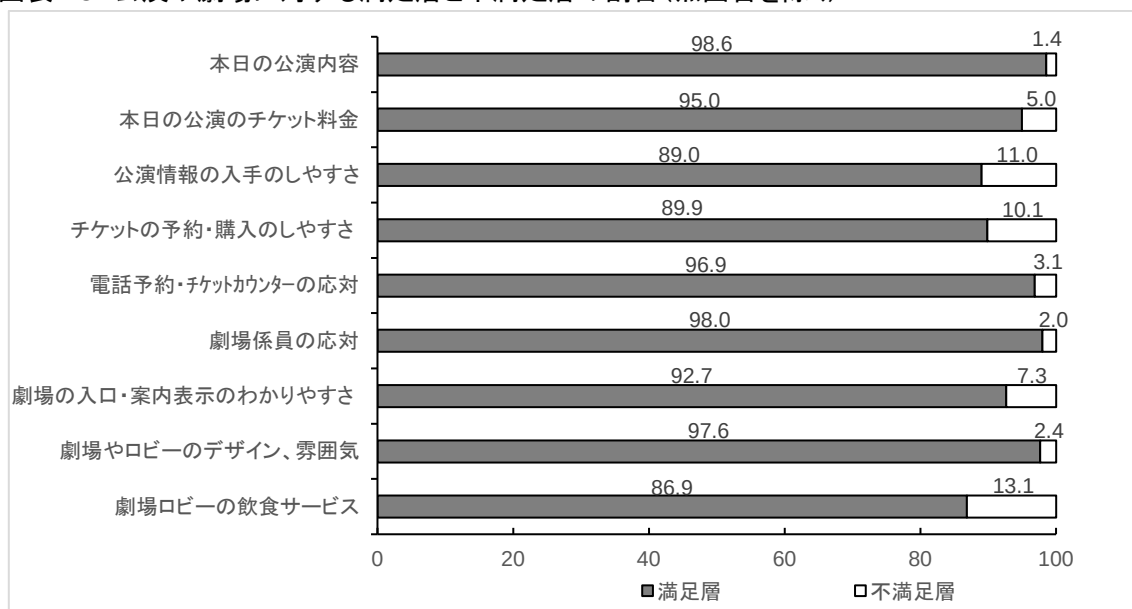
(3) 公演や劇場に対する満足度

- 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターへの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の6項目である(図表2-8)。
- 特に、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」の2項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ63%、52%と高い評価となっている。
- 年齢層が高いほど満足層の割合が低くなる傾向は「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」で顕著である。
- 無回答が多い「電話予約・チケットカウンターへの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、利用したことがない人が多いと考えられる。
- 過去調査結果の満足層の推移を見ると、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターへの応対」、「劇場係員の応対」は2003年度もしくは2004年度以降は安定して高い評価を得ており、それ以外の項目でも、おおむね増加傾向となっている。18年度は「本日の公演内容」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」で過去最高の満足層の割合となっている。
- 「公演内容」については、2003年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。2018年度は開館以降で最も高い割合(99%)となっている。
- 「公演のチケット料金」も2005年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも関わっていると考えられる。
- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、増減しながらも満足度は向上し、2015年度の満足層の割合が前年度に比べて減少したが2016年度に再び向上した。
- 「劇場係員の応対」は開館当初から、「電話予約・チケットカウンターへの応対」は2004年度から満足層の割合が90%を超えており、そのまま高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は満足度の伸びが大きい。ホームページからのオンラインチケット購入が可能となった2011年度に90%まで伸び、2015年度は前年度から減少したが、2016年度は再び向上した。
- 施設に関わる3項目のうち、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は、開館当初から満足層の割合が高く、徐々に向上し、2018年度は開館以降で最も高い割合(98%)となっている。
- 「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かったが、年々満足度が高まっており、2018年度は93%となっている。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。
- 2018年度の劇場に対する総合的な意見(満足度)については、満足層が98%(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)である。過去調査結果の満足層の推移を見ると、満足層の割合は12年度の98%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、2017年度は2012年度と同率で過去最高の割合となっている(図表2-9)

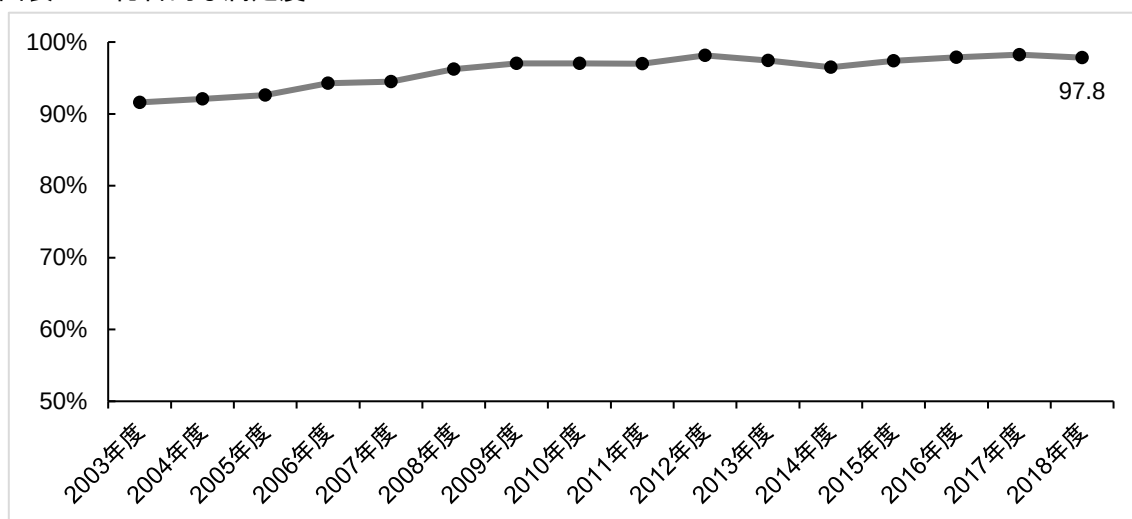
● 図表2-7 公演前後の飲食・ショッピング



図表2-8 公演や劇場に対する満足層と不満足層の割合（無回答を除く）



図表2-9 総合的な満足度



(4) 劇場の運営方針について

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」(※)については、いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は95%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は99%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も77%と高い割合を占める(図表2-10)。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わり、16年度からアンケート調査に含めている。

- 「観る」については、「ぜひやってほしい」が77%と高い割合となっている(本アンケートが鑑賞者を対象としたアンケートであることには留意が必要である)。「創る」、「育つ」、「支える」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」がいずれも約50%と約半数を占めている。
- 「創る」、「育つ」、「支える」は29歳以下で「ぜひやってほしい」への割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。

(5) 日頃の鑑賞活動について

①日頃コンサートや演劇に出かける頻度

- コン서트や演劇に出かける頻度については、年に1～2回程度(20%)が最も割合が高く、次いで年に3～4回程度が18%、年に5～9回程度(15%)と続いており、月に1回以上出かける割合は26%となっている。日頃コンサートや演劇に出かける人は多く、回答者の鑑賞頻度は多様である。
- 北九州芸術劇場での鑑賞頻度が高いほど、日頃コンサートや演劇に出かける頻度も高く、その傾向は顕著である。北九州芸術劇場で「11回以上」の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は59%を占める。

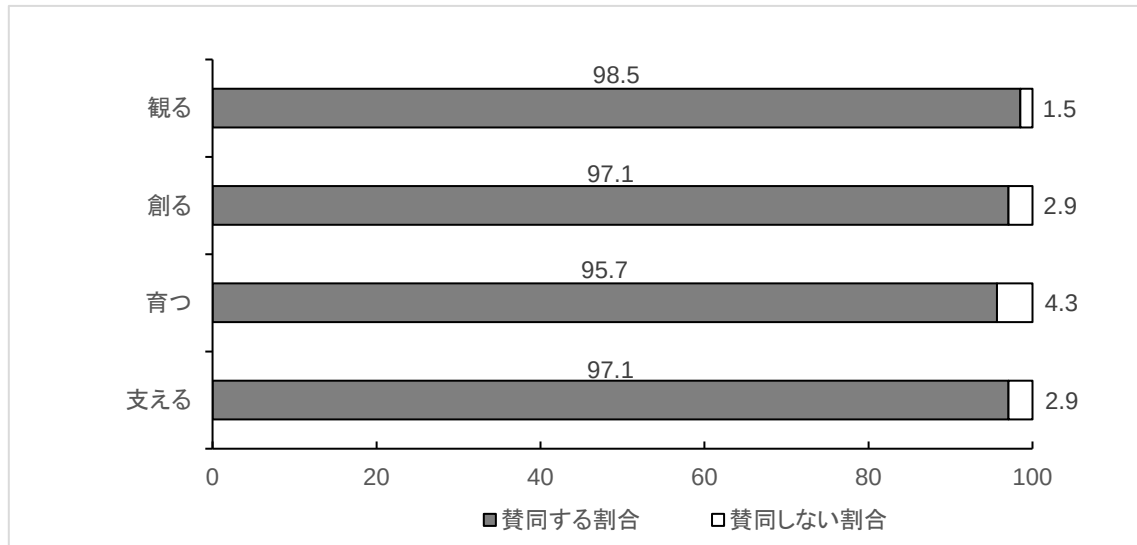
②来場の妨げになっていること

- 来場の妨げになっていることは、「会場が遠い」(27%)、「チケット代金が高い」(23%)、「開催時間が間に合わない」(20%)、「仕事や勉強で忙しい」(19%)、「特に妨げは感じない」(17%)となっている(図表2-11)。

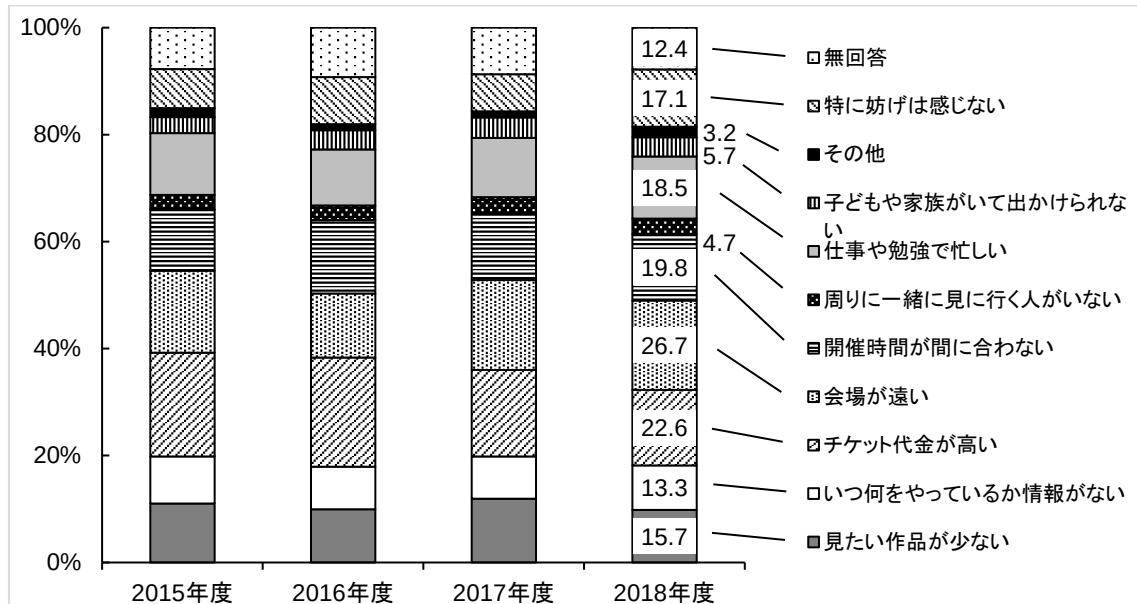
※2015年度から設問を加えた。

- 18歳未満と60歳以上では「特に妨げは感じない」の割合が最も高い。

図表2-10 運営方針への賛同する割合と賛同しない割合（無回答を除く）



図表2-11 来場の妨げになっていること



第3章 貸館利用者からみた評価

1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象:2018年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:215件
- 有効回答数(回収率): 147件(68.4%)

2. 利用者調査の結果概要

(1)劇場の使いごちに関する総合的な満足度

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が84%、「まあ満足している」が12%である。劇場利用者の満足度は大変高い。
- 2010年度以降の経年変化でみると、2018年度は「とても満足している」回答が、最も高い割合となっている(図表3-1)。

(2)施設に関する意見

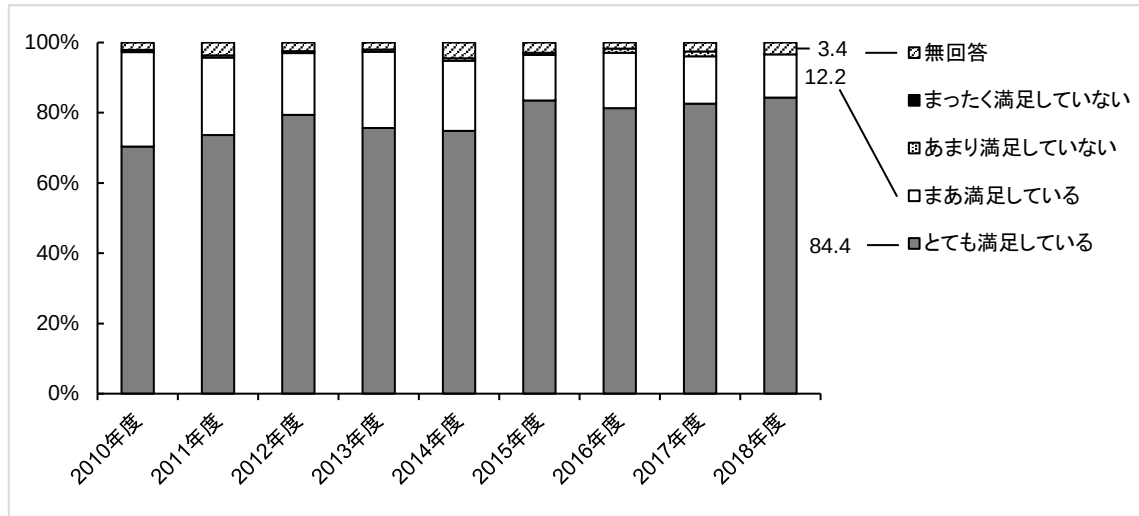
- 施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「館内が清潔」で100%となっており、他の項目はいずれも95%以上となっている。
- 「はい」の割合をみると、「館内が清潔」、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備・機器が充実している」の3項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い(図表3-2)。
- 2010年以降の経年変化を見ると、「館内が清潔」は「はい」の回答は常に高い割合(97%以上)を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」だが、2018年度は2017年度に次いで2番目に高い割合(82%)となっている。一方、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」が徐々に減少傾向にあり、2010年度以降で最も低い割合(90%)となっている。

※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側(リバーウォーク北九州)と協議・調整する等の対策を講じている。

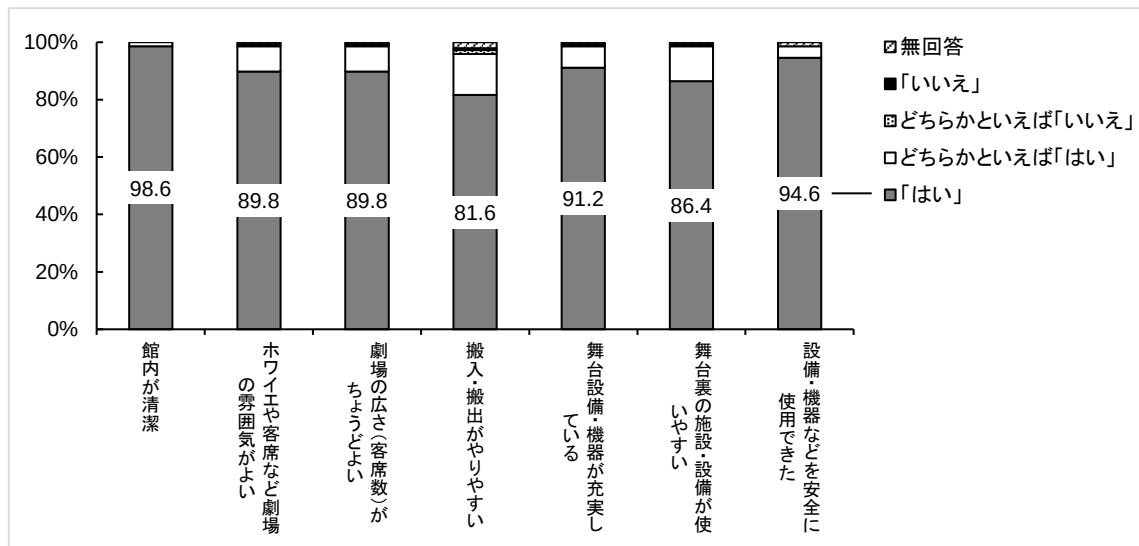
(3)運営や対応に関する意見

- 劇場の運営や対応に関する11項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「現在の開館時間は適当」以外の10項目で99%以上となっている(図表3-3)。「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」については、肯定的な評価が100%と高い評価となっている。
- 経年変化を見ると、「事務スタッフの対応がよい」、「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの対応がよい」は「はい」の回答が2010年以降90%を超えており常に高い割合を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「現在の開館時間は適当」だが、2017年度に続いて高い割合(75%)となっている。

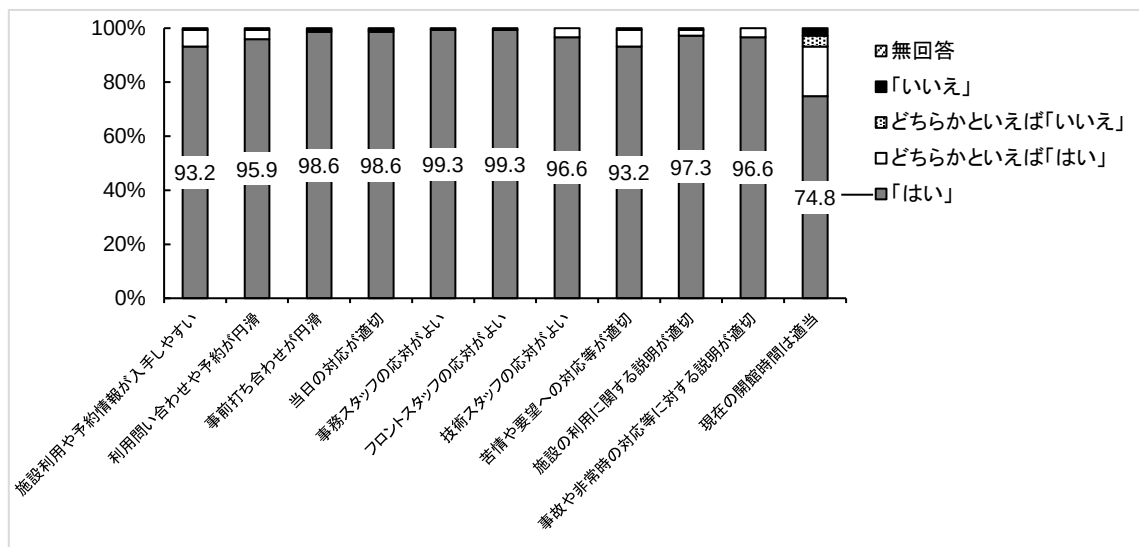
図表3-1 使いごちに関する総合的な意見



図表3-2 施設(ハード)に関する意見



図表3-3 運営や応対(ソフト)に関する意見



(4) 今後の利用の意向

- 今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が97%、「どちらかといえば『はい』」が3%となっており、今後の利用の意向のある回答（「はい」＋「どちらかといえば『はい』」）は100%となっている。
- 2010年度以降の経年変化でみると、2018年度は「はい」の回答が、最も高い割合となっている（図表3-4）。今後の利用意向の高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものであると考えられる。

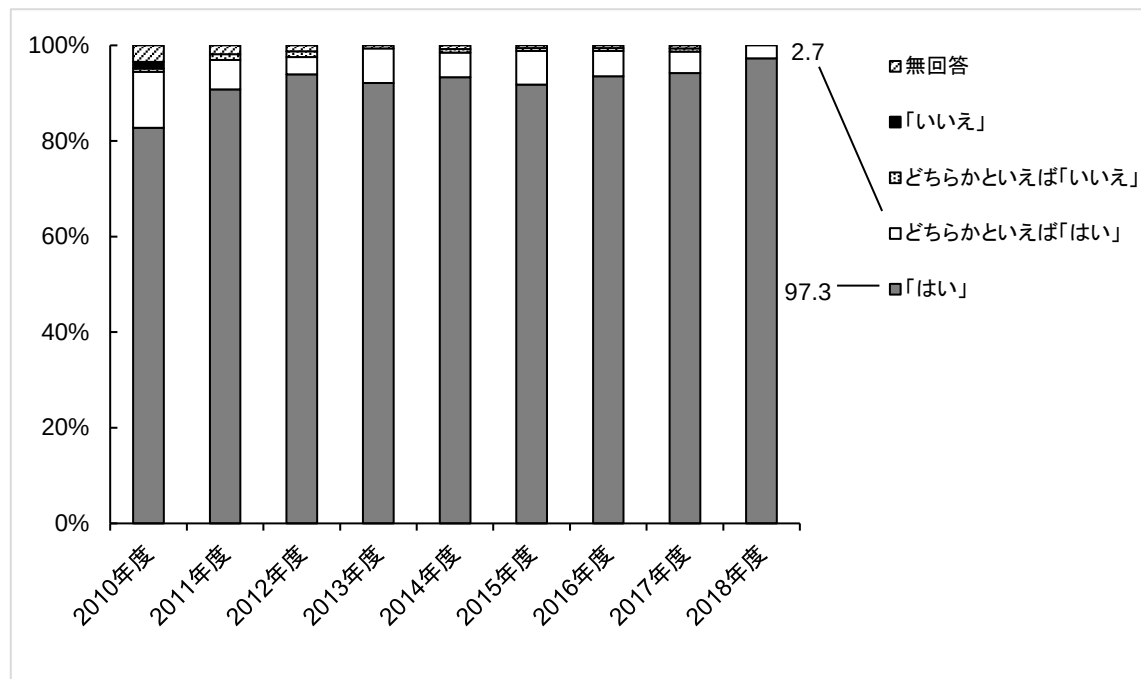
(5) 利用の際、重視すること

- 施設を利用する際重視することとして回答が多いのは、「立地がよいこと」（87%）、「ホール」の規模が適切」（85.0%）となっている。次いで、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「利用料金が安い」、「舞台設備・機器が充実」が50%台となっている。「立地がよいこと」と「ホールの規模が適切」、「利用料金が安い」は、2010年度以降で最も高い割合となっている。
- 施設を利用する際に最も重視することは「立地が良いこと」（34%）が最も多く、次いで「ホールの規模が適切」（25%）、「分野に適したホール特性」（22%）と続いている。2番目に重視することは、「ホールの規模が適切」（24%）が最も多く、次いで「立地が良いこと」と「利用料金が安い」が同割合（17%）となっている。「利用料金が安い」は、最も重視する割合よりも2番目に重視する割合が高い（図表3-5）。

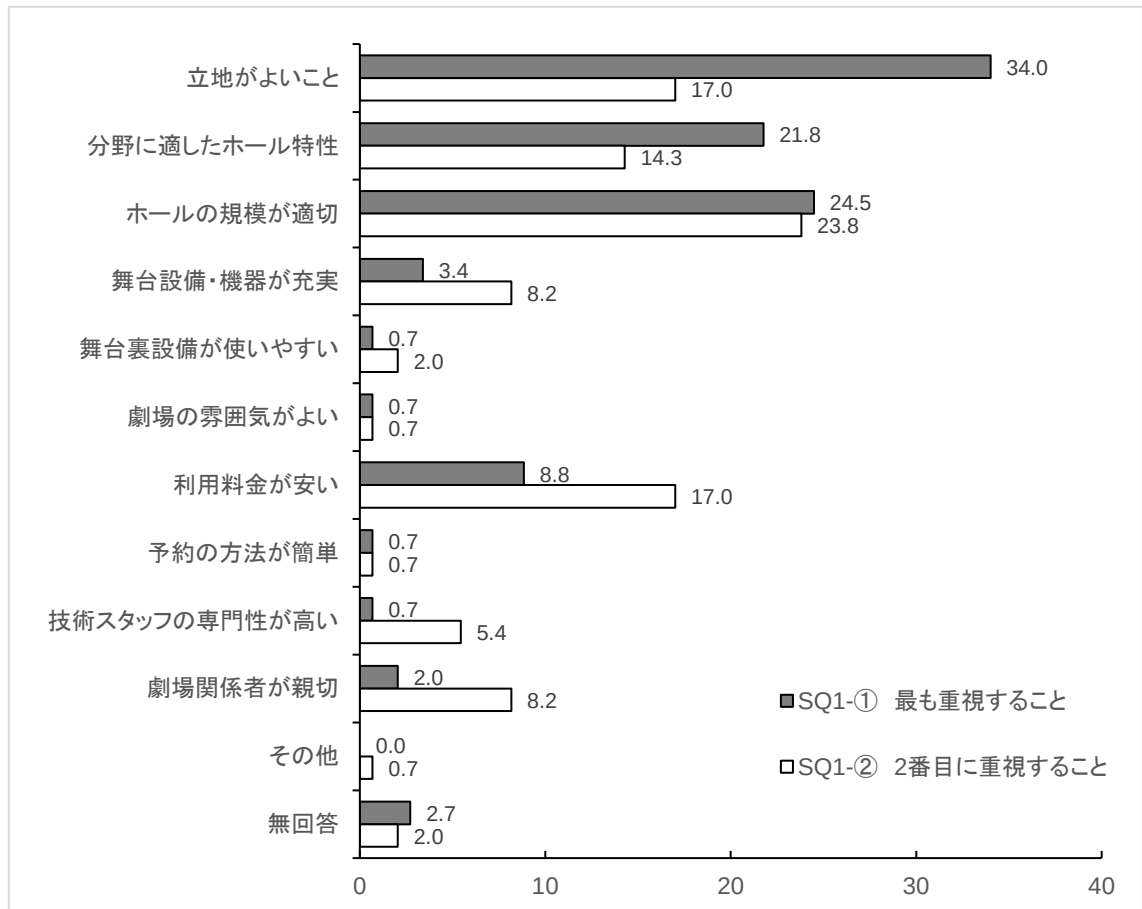
(6) 利用のきっかけ

- 劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、70%を占めている。劇場への満足度が高くリピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」（14%）となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっている（図表3-6）。

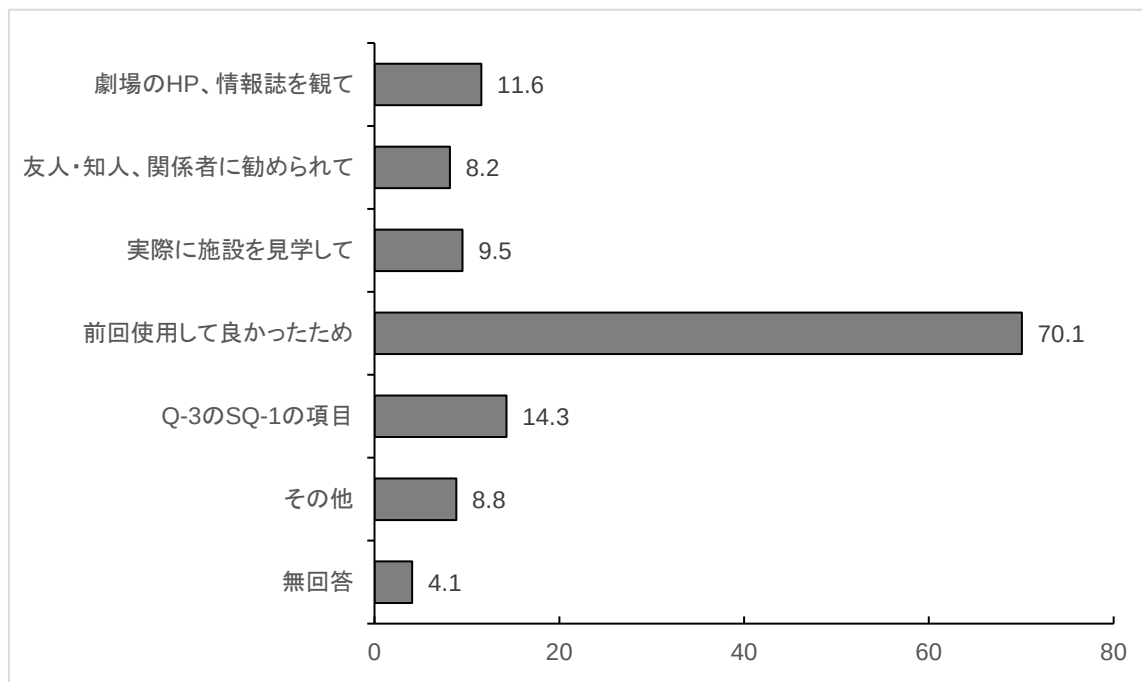
図表3-4 今後の利用の意向



図表3-5 利用の際、重視すること



図表3-6 利用のきっかけ



第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要（直接的経済効果）、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

2018年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出（最終需要）は、
 - ①劇場の管理運営に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館事業の主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる（図表4-1）。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。なお、本文中および図表に表記されている個別の項目の数値は100万円未満を四捨五入しているため、小計、合計、誘発係数には四捨五入による誤差が生じている箇所がある。
- ①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億4,300万円、2億300万円、1億3,700万円、合計で9億8,200万円となっている。そのうち、70%にあたる約6億8,900万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が8億5,900万円、②が3億2,100万円、③が2億700万円、合計で13億8,700万円である。そのうち、64%にあたる8億9,000万円が北九州市内

での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.41、北九州市内で1.29である。

- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、約4億9,400万円～5億3,100万円、生産誘発係数は1.30である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約18億8,100万円～19億1,700万円で生産誘発係数は1.38、北九州市内に限ってみると、約13億8,400万円～14億2,100万円で生産誘発係数は1.29となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では129～133人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で116～119人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億4,300万円 (5億6,800万円)	8億5,900万円 (7億3,400万円)	1.34 (1.29)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	2億300万円 (5,000万円)	3億2,100万円 (6,400万円)	1.59 (1.30)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億3,700万円 (7,100万円)	2億700万円 (9,200万円)	1.51 (1.29)
	小計	9億8,200万円 (6億8,900万円)	13億8,700万円 (8億9,000万円)	1.41 (1.29)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	5,700万円 ～8,500万円	7,300万円 ～1億900万円	1.28
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	3億2,300万円	4億2,100万円	1.30
	小計(参考値)	3億8,000万円 ～4億800万円	4億9,400万円 ～5億3,100万円	1.30
	合計(参考値)	13億6,200万円 ～13億9,100万円 (10億6,900万円 ～10億9,700万円)	18億8,100万円 ～19億1,700万円 (13億8,400万円 ～14億2,100万円)	1.38 (1.29)
		雇用効果		
		(北九州市内)		
		129～133人(就業者ベース)		
		116～119人(雇用者ベース)		

※下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館事業については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。

※図表に表記されている数値は100万円未満を四捨五入しているため、誤差が生じている箇所がある。

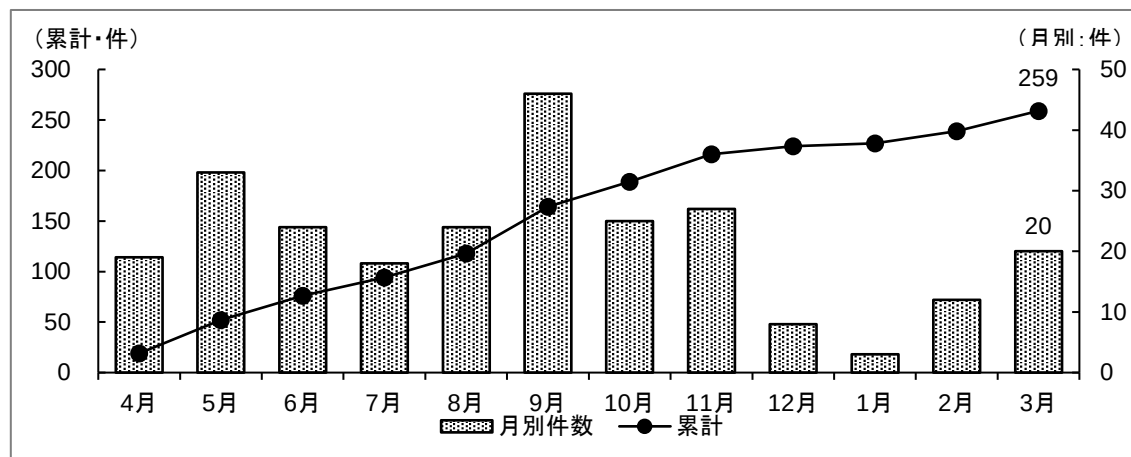
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、2003年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、2018年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

(1) 「北九州芸術劇場」をキーワードとした17年度の掲載記事の件数と内容

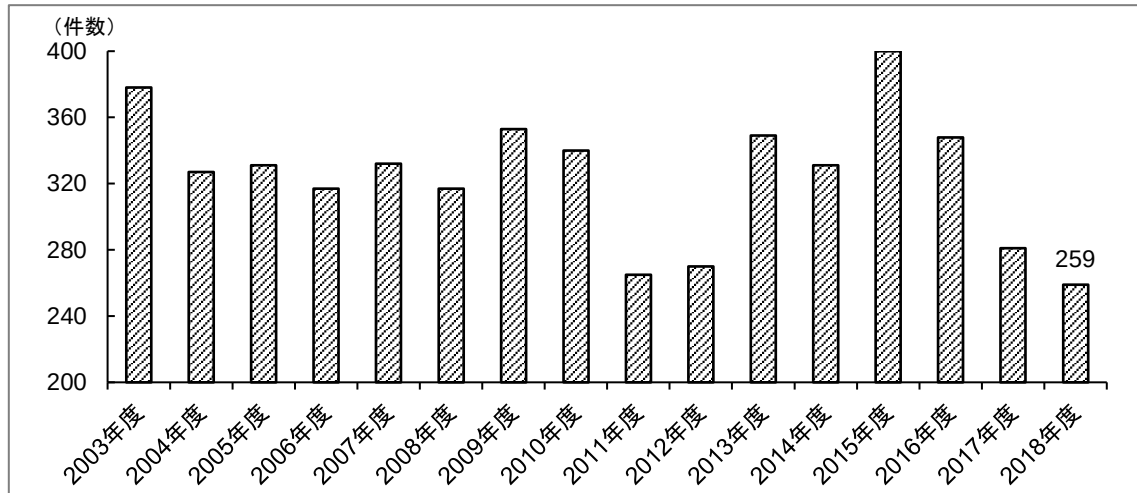
- 2018年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は259件である(図表4-2)。
- 2003年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。2004年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。2011年度は過去最少の掲載件数となったが、その要因は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられるが、2018年度は2011年度を下回り、掲載件数は開館以降で最も少ない件数となっている(図表4-3)。
- 新聞別に見ると、2018年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(105件)、次いで、朝日新聞(48件)、毎日新聞(34件)、読売新聞(24件)、日経新聞(7件)となっている。その他、九州各県をはじめとする地方新聞は41件となっている(図表4-4)。
- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベント情報(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、138件であった(2017年度:160件)。
- その内容を「主催/提携・協力事業」「学芸事業」「貸館事業」「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ52件、12件、62件、12件であった(図表4-5)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計

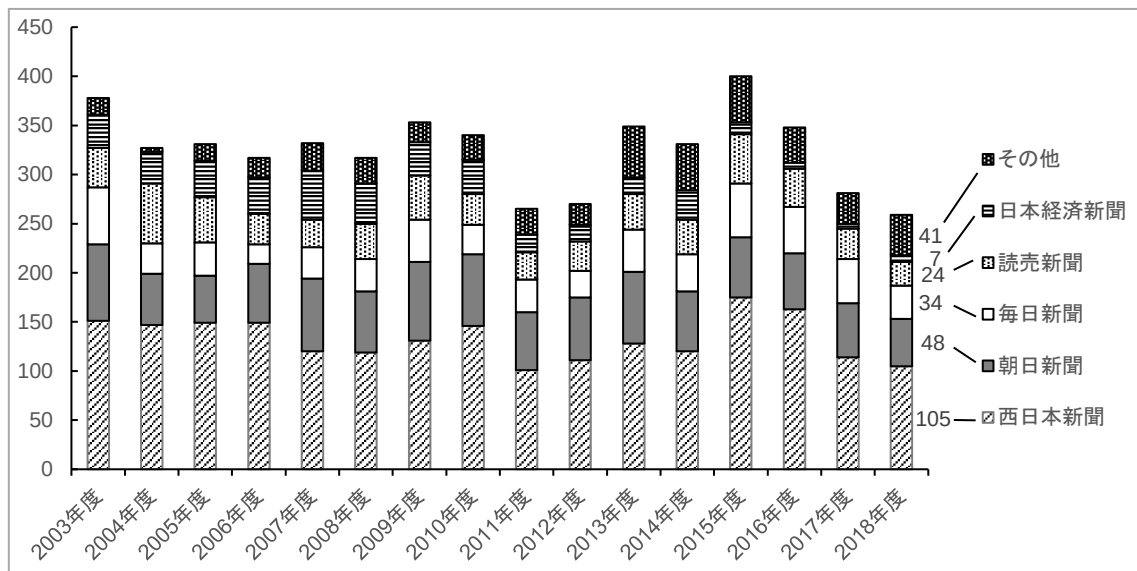


資料)「日経テレコン」記事検索の結果より作成(図表4-3, 4-4も同様)

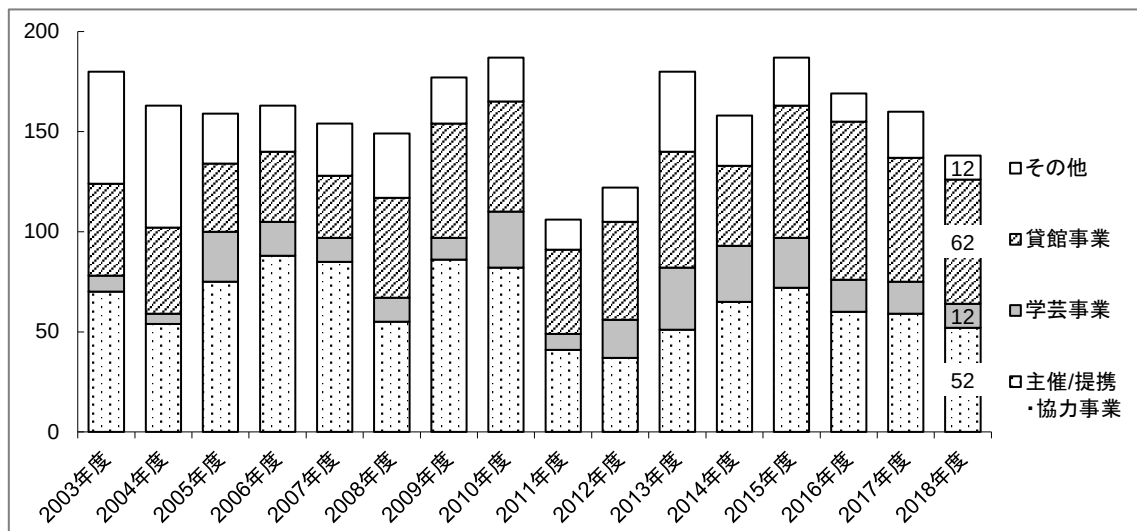
図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数



図表4-4 新聞別件数



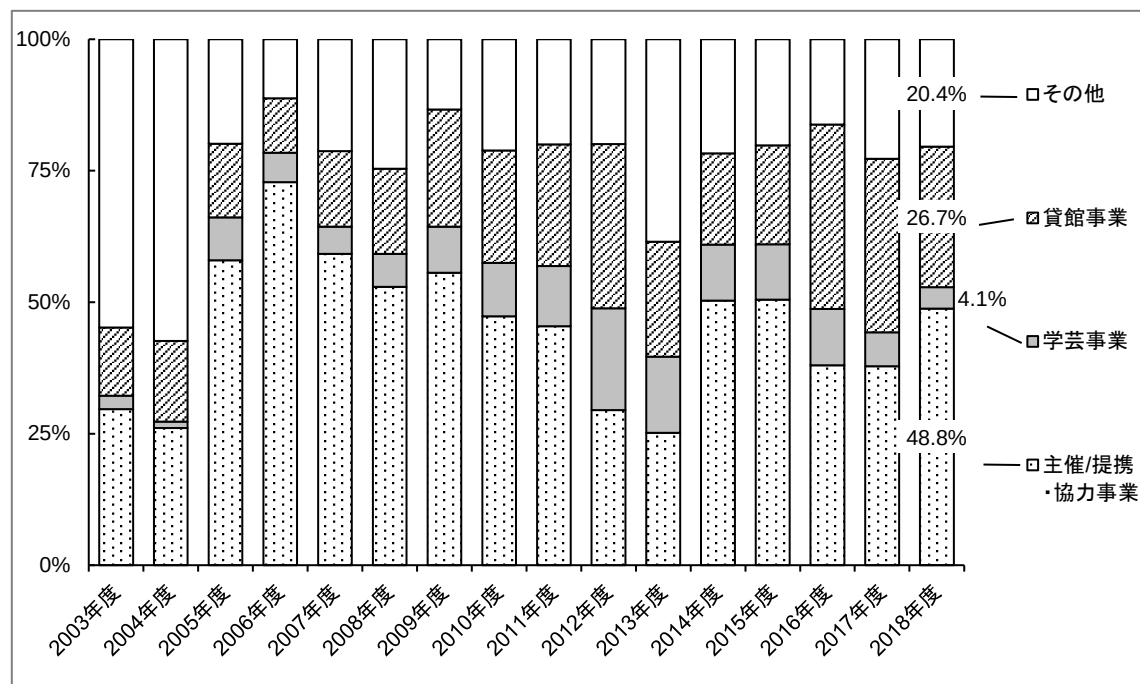
図表4-5 新聞掲載記事の内容と件数



(2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら138件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億6,400万円という結果となっている(2017年度:約1億5,300万円)。
- 2003年度は開館、2004年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 2005年度は全国展開型の創造事業の公演数が多く、2006年度は朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙の掲載件数が多かった。広告の単価は全国紙で高いため、2005年度と2006年度は全体の掲載件数は突出して多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。
- 2007年度以降は、コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになっている。2018年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約6,300万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模を大幅に上回る成果を生み出していると言える。
- 事業ごとの掲載割合を金額換算ベースで見た場合、2009年度の時点で過半数の割合だった主催/提携・協力事業の割合が年々減少し、学芸事業、貸館事業、その他事業の割合が年々増加してきたが、2014年度は主催/提携・協力事業の割合が2013年度に比べて大幅に増加した(図表4-6)。

図表4-6 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース]



※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

第5章 テーマ調査：北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証

今期の北九州市文化振興計画で掲げた施策の方針に沿って、2010年度から2018年度までの9カ年で北九州芸術劇場が推進した取り組みを振り返り、事業の実績、成果及び波及効果を整理した。

1. 北九州市文化芸術振興計画の4つの戦略に基づいた事業実績の整理

北九州市文化振興計画では、基本理念に定める「市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち」の実現を目指すため、計画期間（2010年度策定、2016年度改定、計画期間2010～2020年度）において、次の4つの戦略により取り組みの重点化を図り、文化芸術の振興に努めた。

基本理念：市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち

- 戦略1：北九州市らしさや特徴をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する
- 戦略2：次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる
- 戦略3：文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む
- 戦略4：本市の文化芸術の魅力を国内外に、積極的に発信する

これらの4つの戦略に沿って、北九州芸術劇場の2010年度から2018年度の事業実績（主に定量的なデータ）を整理、集計、分析することで、各戦略によるアウトプット（結果）やアウトカム（成果）を把握する。なお、事業実績を整理・分類する際に「支援事業」（2014年度以降）に含まれる再掲の事業は集計に含まず、学芸事業での複数回のワークショップや連続した講座等の参加人数は延人数を採用し、集計している。

(1) 戦略1:北九州市らしさや特徴をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する

【北九州市文化振興計画の記述】

伝統芸能や文化財、著名な作家を輩出している文学、漫画・アニメなどのメディア芸術といった、本市の文化芸術の強みを生かして、市民のシビックプライドをより高める施策を展開します。

戦略1では、本市の文化芸術の強みを生かすこと、市民のシビックプライドをより高めることが求められている。北九州芸術劇場では、九州全域、あるいは西日本の拠点劇場として、劇場が有している企画制作と舞台技術の専門性や高度な機能を発揮した事業が、この戦略に該当する。そこで、創造事業(劇場内での実績のみ、外部の劇場では戦略4で扱う)、公演事業・提携事業(戦略2、3で扱うもの以外)を中心に、計画期間の公演数、入場者数の推移を整理する。

図表5-1:戦略1に位置付けられる主な事業(2010～2018年度)

年度	事業名
継続事業	- 北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥」 - 北九州芸術劇場+市民共同創作劇 「Re:北九州の記憶」(2013年度～) - ダンスダイブウィーク(2013年度～)
2010年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「BEN」 「小松政夫とイッセー尾形のびーめん生活 2010in小倉」 - 北九州演劇フェスティバル 2011「三人姉妹」
2011年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「江戸の青空 弐 ～惚れた晴れたの八百八町」 - 北九州芸術劇場プロデュース「テトラポット」 - 南河内万歳一座 内藤裕敬プロデュース「七人の部長」
2012年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」 - 二兎社+公立劇場共同制作 「こんばんは、父さん」※読売 - サンプル「自慢の息子」※2
2013年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「彼の地」 - イキウメ「獣の柱まとめ＊図書館的人生(下)」※読売 - 飛ぶ劇場 vol.34「大砲の家族」
2014年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」 - Co.山田うん「ワン◆ピース 2014」「十三夜」※JDF - 彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾「ジュリアス・シーザー」
2015年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「彼の地」 - NODA・MAP 第19回公演「エッグ」※読売 - KERA・MAP#006「グッドバイ」※読売
2016年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「しなやか見渡す穴は森は雨」 「パーマ屋スマレ」 - 木ノ下歌舞伎「勸進帳」
2017年度	- 北九州芸術劇場プロデュース「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」 - 関数ドミノ※読売 - イキウメ「散歩する侵略者」※岸田
2018年度	北九州芸術劇場プロデュース 九州男児劇「せなに泣く」

	・ 二兎社「ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ」※1 ・ PARCO プロデュース 2018「チルドレン」※1
--	---

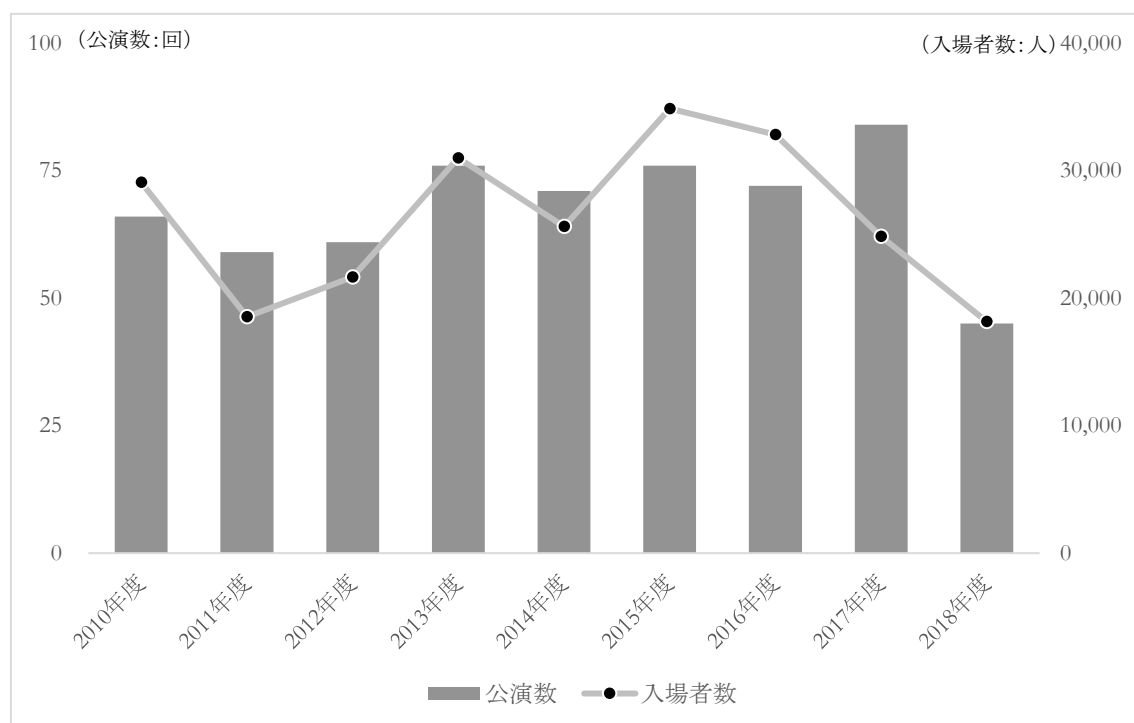
※読売…作品、俳優、スタッフのいずれかが読売演劇大賞(主催:読売新聞社)を受賞

※岸田…岸田國士戯曲賞(主催:白水社)受賞作品

※JDF…日本ダンスフォーラム大賞(主催:日本ダンスフォーラム)

- ・ 戦略1に位置付けられる事業は、日本を代表する劇団、劇作家、演出家、ダンスカンパニーや振付家による質の高い公演を市民に提供し続けてきたことが第一に挙げられる。
- ・ そうした国内外で高く評価される舞台芸術公演と並んで、地域の劇団、劇作家、俳優を起用したプロデュース公演や市民参加による企画を継続事業として展開し、「北九州らしさ」を前面に出す劇場のレパートリーとして定着させつつ、人材を育成してきたと言える。

図表5-2:戦略1に位置付けられる事業の公演数と入場者数の推移



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	総計
公演数 (回)	66	59	61	76	71	76	72	84	45	610
入場者数 (人)	29,095	18,541	21,665	30,992	25,625	34,869	32,831	24,839	18,151	236,608

- ・ 戦略1「北九州市らしさや特徴をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する」に位置付けられる事業の公演数は、2010年度から2018年度までの9か年で計610回、入場者数は23万6,608人となっている。公演数は年間45回から84回の範囲を推移し、入場者数は約1万8千人から約3万5千人の範囲を推移している。席数が設定されている公演事業について、入場率の平均(設定席数の総計における入場者数の総計の割合)は88.4%となっている。

(2) 戦略2: 次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる

【北九州市文化振興計画の記述】

子どもたちが質の高い文化芸術を間近に観て、聴いて、体験して、感動する機会を増やすとともに、若手のアーティストが創造し、活躍できる環境の整備を進めます。また、文化芸術の担い手だけではなく、つなぎ手(コーディネーター)などの専門家を目指す人材の育成に努めます。

戦略2では、子どもたちが質の高い文化芸術に接する機会と、若手アーティストのための環境整備、コーディネーターとなる人材育成などに取り組むことが求められている。北九州芸術劇場では、子どもたちを対象とした公演事業や、若手アーティストやコーディネーターのための学芸事業などが、この戦略2に該当する。そうした公演事業や学芸事業等を中心に、計画期間の実施回数、参加者数の推移を整理する。

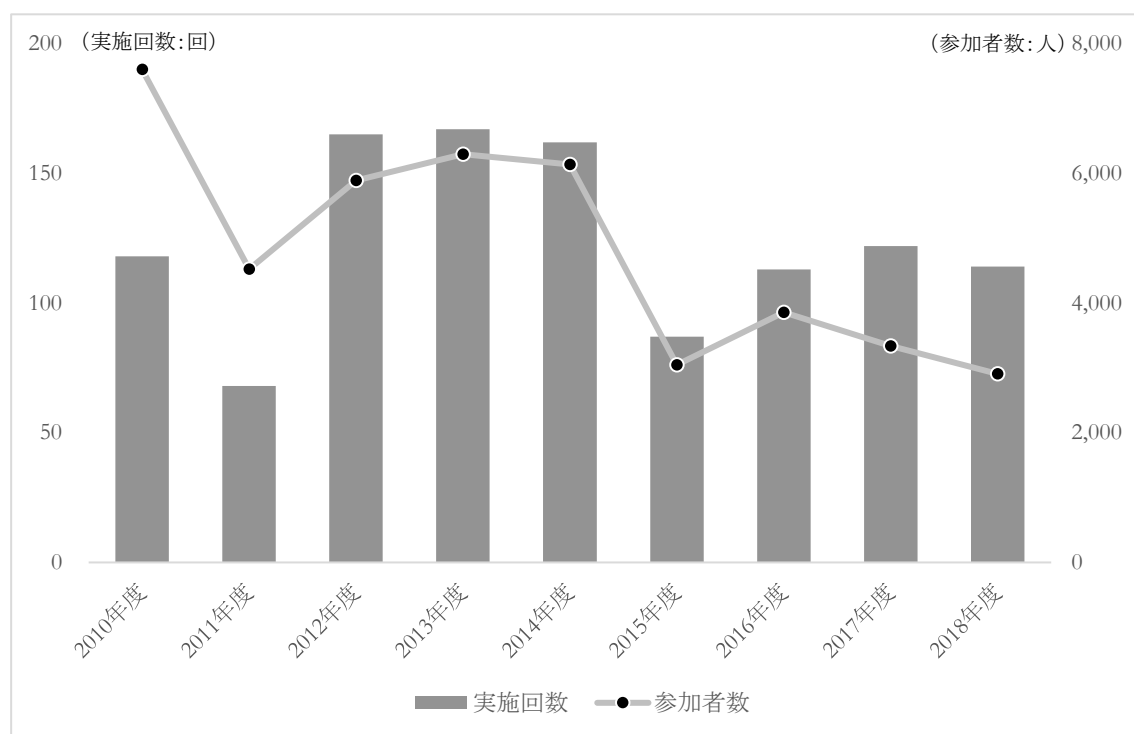
図表5-3: 戦略2に位置付けられる主な事業(2010～2018年度)

年度	事業名
継続事業	・ 月猫えほん音楽会／大人も一緒に子どもたちの劇場 ・ 高校生のための演劇塾／劇場塾 ・ シアターラボ
2010 年度	・ 北九州パントマイム教室 ・ 教育普及事業「ドラマ・ワークショップ」 ・ 子どものための演劇ワークショップ「チャレンジ！えんげき」
2011 年度	・ 人形劇俳優”たいらじょう”の世界 人形劇ミュージカル「オズの魔法使い」 ・ 平成 23 年度公共ホール演劇ネットワーク事業「劇団衛星のcockpit」ワークショップ ・ 講師:伊藤キム「働く人のためのダンスワークショップ」
2012 年度	・ ツトエ meets 北九州 vol.8 マームとジプシー「ワタシんち、通過。のち、ダイジェスト」 ・ シアターデモ 2013 誰にでも書ける、あなたにしか書けない戯曲講座 ・ 「劇トツ×20 分」
2013 年度	・ 北九州芸術劇場 10 周年 夏のバックステージツアー2013 劇場探検隊 2013 ・ 近藤良平とつくる!『リバダン』《ワークショップ》 ・ おやじフレーバーズがコンテンポラリーダンスを踊る企画
2014 年度	・ 子供のためのシェイクスピア 20 周年記念公演「ハムレット」 ・ 「Q学」 ・ 講師:阿部初美 産み育てワークショップ
2015 年度	・ 高校生[的]チケット(公演チケットの高校生価格の設定) ・ 東野祥子ダンスワークショップ ・ 北九州芸術劇場 創造工房「演カツ!!」稽古場公演 Act.base「蝶のごとく」
2016 年度	・ おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」 ・ 北九州 GERO 活動プロジェクト[公演] ・ 「風、騒グ。」関連企画 北九州芸術劇場×檸檬句会
2017 年度	・ バットシェバ舞踊団ダンサーによる《GAGA ワorkshop》(対象:一般) ・ 全国4館連携フォーラム事業 音楽がヒラク未来 ～音楽で越境する～ ・ 集まれリバダン!! プロジェクト「踏み出せリバダン!!」ワークショップ

2018 年度	- 夏休み！子どもの劇場体験 2018 - 市民劇場文化サポーター育成事業 ワークショップ - ストップギャップダンスカンパニー 一般向け ワークショップ
---------	---

- 戦略2に位置付けられる事業の多くはワークショップや講座形式の企画となっており、参加対象は、親子、小学生、中学生、高校生、教員、俳優や劇作家などの表現者、制作者や文化事業に関わる行政職員、ボランティアといったつなぎ手を対象にしたものが多い。
- また、公演形式の企画は、親子を対象にした演目と、地域の演劇人の人材育成の成果発表的なプログラムで、小劇場や創造工房を会場にすることが多い。
- とくに2011年度以降は、劇場での公演に携わるアーティストがアウトリーチや劇場内でのワークショップを行うことや、プロデュース公演の制作プロセスや広報活動を様々な取り組みに応用し、多面的に展開する傾向が強くなっている。

図表5-4:戦略2に位置付けられる事業の実施回数と参加者数の推移



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	総計
実施回数 (回)	118	68	165	167	162	87	113	122	114	1,116
参加者数 (人)	7,601	4,525	5,889	6,297	6,139	3,049	3,855	3,336	2,907	43,598

- 戦略2「次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる」に位置付けられる事業の実施回数は9か年で計1,116回、参加者数は4万3,598人となっている。実施回数は、東日本大震災が発生した2011年度が68回となっているが、それ以外は年間113回から167回の範囲を推移し、参加者数は約3,000人から約7,600人の範囲を推移している。席数が設定されている公演事業(野外イベント、ワークショップやアウトリーチなどを除く)について、入場率の平均(設定席数の総計における入場者数の総計の割合)は87.9%となっている。

(3) 戦略3:文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む

【北九州市文化振興計画の記述】

教育、福祉、観光、産業など幅広い分野と連携しながら、文化芸術の持つ底力を生かし、市民がいきいきと生きるまちづくりやにぎわいづくりを進めます。

戦略3では、様々な政策領域と連携し、文化芸術を活用したまちづくりやにぎわいづくりが鍵となっている。北九州芸術劇場では、劇場の外部に出向いて行うアウトリーチをはじめとして、教育、福祉、観光、産業などの外部と連携した学芸事業や連携事業などが、この戦略3に該当する。そうした学芸事業や連携事業等を中心に、計画期間中の実施回数、参加者数の推移を整理する。

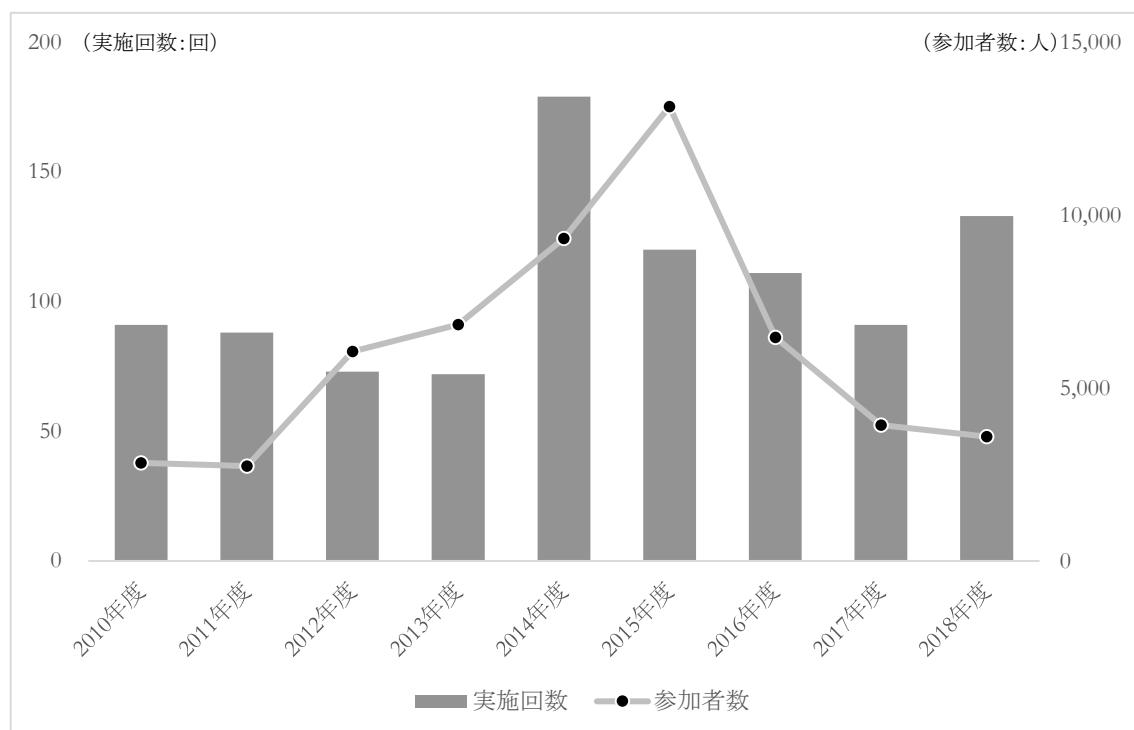
図表5-5:戦略3に位置付けられる主な事業(2010～2018年度)

年度	事業名
継続事業	- アーティスト往来プログラム - 地域のアートレパートリー創造事業(2013～2017年度) - 北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館(2013～2017年度)
2010年度	- エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ「演劇でつなぐ“縁”劇ワークショップ」 - 月1ダンス部 ダンスを踊ってみる編 - 北九州演劇フェスティバル 2011「寄席 京町小屋」
2011年度	- ダンスワークショップ「TOTOのCMダンスの続きをおどろう」 - 講師:山田うん ワークショップ「ダンスの時間ですよ」 - 人形劇俳優“たいらじょう”の世界 人形劇ミュージカル「オズの魔法使い」アウトリーチ
2012年度	- まちなか ラブ♥リーディング vol.1～vol.6 - 学園祭やぶり 本番 - 日韓子ども演劇キャンプ「チャレンジ！えんげき 2012」
2013年度	- 夕暮れダンス「ちよいとゴメンよ、じゃまするよ」 - レジラボ!!モノレール公演「DANCE/燈」 「ドラロケ!!」ワークショップ～写真家、浅田政志とつくるドラマチックモノレール～
2014年度	- DANCE20min. - 演劇的工場夜景ツアー「ひかりとけむり」 - 東筑紫学園高等学校演劇類型との連携事業
2015年度	『ぶらり♪まちなか劇さんぽ～まちなかで気軽に楽しめる演劇月間～』 - 私のまちを楽しもう！門司港編(市広報室受託事業) - ミュージックギャラクシー999～音楽の銀河へようこそ～3館連携事業
2016年度	- レインボードロップス ダンス公演「探せ宝を、虹のふもとに！」 - 旦過市場アーティストインレジデンス「旦過語り物語」 3館連携事業 [公演]「どこをどうぶつる」
2017年度	- 夕暮れダンス化計画 - 写真家、浅田政志とつくる「ドラマチックロケーション！@スペースワールド」 - 北九州市子ども・若者応援センターYELL ワークショップ
2018年度	「Re:北九州の記憶」[関連企画]市立八幡図書館 朗読講座内 戯曲朗読講座 - 高齢者福祉施設ワークショップ 講師:北村成美

・三宜楼公演「うろきんさ」

- ・戦略3に位置付けられる事業の多くはアウトリーチによるワークショップや、フェスティバルでの小規模な公演となっており、小・中学校、商店街や店舗、福祉施設、公園、リバーウォークなど、多種多様な場と対象者に活動を広げてきた。
- ・教育、福祉、観光、産業、若者といった幅広い分野と連携することで演劇やダンスの楽しさや魅力を市民に届けると同時に、演劇やダンスを介して、地域住民の出会いや交流を促し、地域資源に光を当ててコミュニティを活性化させてきた。
- ・異なる分野の相手との連携では、初期段階では小規模な取り組みだった活動が、継続するうちに参加者が増えたり活動が広がったりすることで、年中行事化したり、新たな担い手が生まれて自主的な活動に発展するなど、地域への波及効果が生まれている。

図表5-6:戦略3に位置付けられる事業の実施回数と参加者数の推移



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	総計
実施回数 (回)	91	88	73	72	179	120	111	91	133	958
参加者数 (人)	2,834	2,743	6,060	6,837	9,326	13,141	6,465	3,931	3,591	54,928

- ・戦略3「文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む」に位置付けられる事業の実施回数は9か年で計958回、参加者数は5万4,928人(屋外での常設展示企画の入場者数は除く)となっている。実施回数は年間72回から179回の範囲を推移し、参加者数は約2,700人から約13,000人の範囲を推移している。あらかじめ席数が設定されている公演事業(屋外イベントや展示、ワークショップやアウトリーチ以外)について、入場率の平均(設定席数の総計における入場者数の総計の割合)は88.9%となっている。

(4) 戦略4:本市の文化芸術の魅力を国内外に、積極的に発信する

【北九州市文化振興計画の記述】

国内にとどまらず世界に向けた情報発信について工夫します。また、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向けて、国と連携しながら、来日した外国人に地域文化を体験してもらう文化プログラムの実施を検討します。

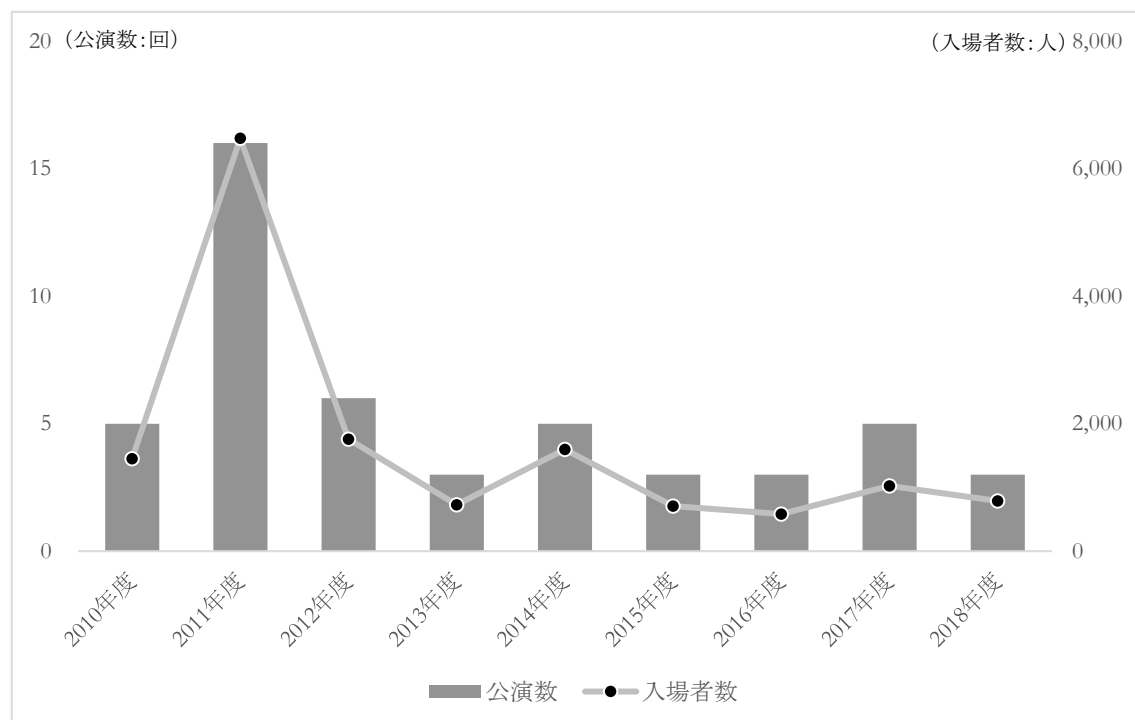
戦略4では、国内や世界に向けた情報発信が求められている。北九州芸術劇場では、劇場の企画制作の専門性や舞台技術の高度な機能に加えて、舞台芸術業界との人的ネットワークを発揮することで、国内や海外の劇場でプロデュース公演を行っていることが、この戦略4に該当する。そうした創造事業などの国内外の劇場での公演数、入場者数を整理する。

図表5-7:戦略4に位置付けられる主な事業(2010～2018年度)

年度	事業名
2010 年度	- 北九州芸術劇場×パリ市立劇場×山海塾 共同プロデュース 山海塾「二つの流れーから・み」 「BEN」(あうるすぽっと)
2011 年度	「江戸の青空 弐 ～惚れた晴れたの八百八町」(世田谷パブリックシアター、はつかいち文化ホールさくらびあ)
2012 年度	「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」(あうるすぽっと) - 北九州芸術劇場×リヨン・ダンス・ビエンナーレ×パリ市立劇場×山海塾共同プロデュース「歴史いぜんの記憶ーうむすな」
2013 年度	「彼の地」(あうるすぽっと)
2014 年度	「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」(あうるすぽっと) - 北九州芸術劇場×パリ市立劇場×エスプラネイドーシアターズ・オン・ザ・ベイ×山海塾 共同プロデュース山海塾「海の賑わい 陸の静寂ーめぐり」世界初演
2015 年度	「彼の地」(あうるすぽっと)
2016 年度	「しなやか見渡す穴は森は雨」(あうるすぽっと)
2017 年度	「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」(あうるすぽっと、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース)
2018 年度	北九州芸術劇場×パリ市立劇場×山海塾共同プロデュース 山海塾「Arc 薄明・薄暮」世界初演

- 戦略4に位置付けられる事業は、北九州芸術劇場プロデュースによる公演の国内ツアー、及び、山海塾との共同プロデュースによる北九州芸術劇場での公演(世界初演を含む)となっている。
- 北九州芸術劇場プロデュースの東京公演は、豊島区立舞台芸術交流センター「あうるすぽっと」を会場にすることが多く、1作品につき3回から4回の公演を行っている。第一線で活躍する劇作家や演出家による作品で、北九州市を拠点に活動している俳優を起用することで、北九州市の地域文化の創造・発信を担っている。
- 日本を代表するダンスカンパニーである山海塾との共同プロデュースは、パリ市立劇場やエスプラネイドーシアターズ・オン・ザ・ベイ(シンガポール)といった世界的に著名な劇場との国際共同制作でもあり、北九州芸術劇場の名を国際的に知らしめる稀有な機会となっている。

図表5-8:戦略4に位置付けられる事業の公演数と入場者数の推移



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	総計
公演数 (回)	5	16	6	3	5	3	3	5	3	49
入場者数 (人)	1,453	6,475	1,755	727	1,597	706	582	1,026	788	15,109

- 戦略4「本市の文化芸術の魅力を国内外に、積極的に発信する」に位置付けられる事業の公演数は9か年で計49回、参加者数は1万5,109人となっている。実施回数は年間3回から16回の範囲を推移し、参加者数は582人から6,475人の範囲を推移している。2011年度が突出して多いのは、北九州芸術劇場プロデュース公演を3会場で16公演行ったことが大きい(例年は1～2会場で3～4回公演)。席数が設定されている公演事業について、入場率の平均(設定席数の総計における入場者数の総計の割合)は82.0%となっている。

2. 北九州市文化芸術振興計画の5つの施策別に基づいた成果と波及効果

2010～2018の事業評価報告書を元に、北九州市文化芸術振興計画に掲げられた7つの施策から、劇場の事業が関連する以下の5つの施策別に、主に定性的な観点から事業の成果と波及効果を整理する。

- 施策1:市民の文化芸術活動の促進
- 施策2:市民が文化芸術に接する機会の拡大
- 施策3:発信力の高い文化芸術の振興
- 施策4:文化芸術の担い手の育成
- 施策7:文化芸術によるまちづくり

これらの5つの施策に沿って、北九州芸術劇場の2010～2018の例年の事業評価や各年でのテーマ調査等から、主に定性的な評価を整理することで、各施策のアウトカム(成果)やインパクト(波及効果)を把握する。

(1) 施策1:市民の文化芸術活動の促進

【北九州市文化振興計画の記述】

市民が主体となった文化芸術活動においては、当然ながら市民がプレーヤーであり、鑑賞者(観客)であり、また、活動を支える存在でもあります。

そして行政は、企業などとも連携しながら、市民が活動しやすいように、ハード・ソフト両面での環境づくりを行う役割を担っています。

今後も、年齢、性別、障害の有無、国籍等にかかわらず、幅広い層の市民が参加する、生活に根ざした文化の振興について、市民や企業などと協力しながら支援を行っていきます。

- 施策1では、市民による創作、発表、鑑賞などの文化芸術活動を促すためのハード・ソフト両面での環境づくりや、幅広い層の市民の参加を支援することを述べている。北九州芸術劇場としては、市民に施設や設備の利用に供する貸館事業のサービスを行っている。そこで、計画期間中の貸館事業の成果や波及効果を総括する。
- 北九州芸術劇場の貸館事業では、常に施設や設備の安全かつ効果的な利用に努めており、高い満足度を得ている。利用者のアンケートでも劇場利用者の満足度は常に高く、施設面、運営面の両面で高い評価を受け続けている。
- また劇場としての主催事業では、戦略2「次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる」や戦略3「文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む」に位置付けられる様々なワークショップやアウトリーチにおいて、年齢や障害の有無にかかわらず、演劇やダンスの活動に参加できる機会を、積極的に提供してきた。
- とくに、活動の場を劇場の中から地域へと外に出て、商店街や民間企業、障害者や高齢者のための施設などと連携したアウトリーチやフェスティバルでは、文字通り「市民がプレーヤーであり、鑑賞者(観客)であり、活動を支える存在」として、全国的に見ても特筆に値する公共劇場の事業となっている。

(2) 施策2:市民が文化芸術に接する機会の拡大

【北九州市文化振興計画の記述】

市民自身による文化芸術に関する活動が活発に行われるとともに、行政も、市民が文化芸術に接する機会の提供を目的として、多様な取り組みを行っています。平成24年度には、黒崎文化ホール(黒崎ひびしんホール)、北九州市漫画ミュージアムが整備されました。

また、北九州芸術劇場、響ホール、美術館、自然史・歴史博物館などの文化施設においても、市民が日常生活の中で多様な文化芸術に接する機会や交流の場を、引き続き充実させていきます。

また、図書館については、文字、活字の文化振興の拠点として、地域文化の発展を支える知的基盤として、資料やサービスの充実を図ります。

- ・ 施策2では、市民が日常生活の中で多様な文化芸術に接する機会や交流の場の充実を述べている。北九州芸術劇場では、国内外の多彩な舞台芸術公演を市民に提供し、そのための広報やPRを積極的に展開している。そこで、計画期間中の公演事業や提携事業の成果や波及効果を総括する。
- ・ 戦略1「北九州市らしさや特徴をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する」に位置付けられる市民参加企画の合唱物語「わたしの青い鳥」、市民協働創作劇「Re: 北九州の記憶」など、市民が多様な文化芸術に接する機会や交流の場を劇場のレパートリーとして長期にわたって継続し、定着させてきた。
- ・ また、戦略3「文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む」に位置付けられる事業では、北九州市立美術館分館をはじめ、響ホール、北九州市漫画ミュージアム、到津の森公園、八幡図書館といった市内の様々な文化施設や公共施設とジャンルを越えて連携し、「市民が日常生活の中で多様な文化芸術に接する機会や交流の場」の結節点(ハブ)として機能してきた。

(3) 施策3:発信力の高い文化芸術の振興

【北九州市文化振興計画の記述】

「文化芸術の取り組みが評価され、市内外の注目を浴び、人が訪れる」そのような状況を作り出すことで、まちの発信力、文化力が高まります。

「文化芸術の街」としてのイメージを構築することが、本市が文化振興施策を進める上での課題となっています。そのためには、発信力、訴求力の高いイベント等が多くあるといった直接的な魅力だけでなく、高い市民意識に支えられた文化的なまちづくりが行われなければなりません。

本市は、どこの都市にも負けない、多様で優れた多くの文化資源を保有しています。文学の分野では、火野葦平や松本清張など著名な作家を輩出しています。メディア芸術の分野では、松本零士やわたせせいぞうなど個性が光る漫画家を輩出し、音楽の分野では、少年少女合唱団や中学校合唱部、吹奏楽部等が高いレベルを維持するなど、ジャンルは豊富です。このように幅広い分野で、地域の活性化のけん引力となる、北九州発で発信力の高い文化芸術の振興を図ります。

- ・ 施策3では、文化芸術による発信力や訴求力、地域の活性化をけん引するような文化芸術の振興について述べている。北九州芸術劇場では、劇場独自のプロデュース公演を北九

州市以外の劇場でも上演し、舞台芸術の創造・発信している。そこで、計画期間中の創造事業の成果や波及効果について総括する。

- 九州または西日本エリアにおいても優れた施設や設備、さらに制作や技術のスタッフを有する北九州芸術劇場は、国内外で高く評価されている舞台芸術公演のツアー会場となっており、発信力と訴求力の高さにおいても北九州市を代表する文化資源と言える。
- 戦略1「北九州市らしさや特徴をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する」に位置付けられる事業においても、日本を代表する演劇やダンスの公演と、地域の劇団、劇作家、俳優を起用したプロデュース公演や市民参加による企画が、ともに北九州芸術劇場の舞台を作っている点が重要である。
- 戦略4「本市の文化芸術の魅力を国内外に、積極的に発信する」に位置付けられる北九州芸術劇場プロデュース公演など、「北九州発」の文化芸術を国内外に発信することで、他都市からの文化芸術を移入するだけではなく本市の発信力や文化力を高め、「文化芸術の街」としてのイメージの構築に貢献している。

(4) 施策4:文化芸術の担い手の育成

【北九州市文化振興計画の記述】

将来の文化芸術を担う子どもの豊かな心や感性・創造性を育むため、子どもたちが身近に伝統文化や文化芸術にふれる機会を充実させます。

また、これからの地域文化の振興を担う人材(市民、劇場、文化施設等のスタッフ、教育者、地域のアーティスト等)の育成や人的ネットワークの形成に取り組みます。

さらに、アウトリーチなどの実施に当たっては、教育委員会等と情報を共有し、協議・調整する必要があります。そのため「北九州市総合教育会議」などを通じて、教育委員会等と連携をさらに強化して取り組みます。

- 施策4では、将来の文化芸術を担う子どもたちや、地域文化の振興を担う人材の育成などについて述べている。北九州芸術劇場では、学校へのアウトリーチや劇場でのインリーチ、舞台芸術の表現を生み出すアーティストや環境を支えるスタッフなどの若手の人材の育成などに取り組んでいる。そこで、計画期間中の学芸事業の成果や波及効果について総括する。
- 戦略2「次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる」では、小中学生や高校生、教員を対象にした様々なワークショップを展開し、また、親子を対象とした優れた舞台芸術公演を安価な価格で提供するなど、子どもたちが身近に舞台芸術にふれる機会の充実に努めてきた。
- 中でも、戦略2での「高校生のための演劇塾」や戦略3での「東筑紫学園高等学校との連携」など、北九州芸術劇場が有する人的ネットワークを最大限に活用しながら、十代後半の高校生にターゲットを当てて演劇やダンスに興味や関心のある人材を開拓、育成してきた。
- また、戦略1「北九州市らしさや特徴をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する」に位置付けられる「劇場プロデュース」や「リーディングセッション」といった事業を通じて地元の劇団、劇作家、俳優、スタッフ等を積極的に登用し、充実した創造環境により、将来の地域文化の振興を担う人材の育成と人的ネットワークの形成に取り組んできた。

(5) 施策7:文化芸術によるまちづくり

【北九州市文化振興計画の記述】

本市では、日常においても、稽古事や趣味などをとおして、文化芸術活動が盛んに行われています。

市民がゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を送り、まちのにぎわいを創出する上で文化芸術の果たすべき役割は、一層高まっていくと思われます。

そこで本市は、文化芸術を担う市民やアーティスト、クリエイターが集まる環境の整備を進め、さらなる文化芸術の振興に努めます。加えて、文化芸術の持つ力を地域経済、教育、福祉などに生かし、創造的なまちづくりを進めていきます。

- 施策7では、まちのにぎわいを創出する上での文化芸術の役割や、地域経済、教育、福祉などに文化芸術を生かすことを述べている。北九州芸術劇場では、教育、福祉、商工、観光等、多様な主体との協働や連携を行い、経済波及効果についても把握している。そこで、計画期間中の劇場外での様々な事業展開の成果や経済的な波及効果について総括する。
- 戦略3「文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む」に位置付けられる北九州舞台芸術フェスティバル「北九州芸術工業地帯」では、リバーサイドウォーク北九州、京町・魚町などの商店街、北九州モノレール、門司港近郊、スペースワールドなど、劇場から地域へと飛び出して市内各所にまちのにぎわいを生み出してきた。
- 戦略2「次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる」に位置付けられる学芸事業、創造・公演参加の中でも、「劇場塾」などは、文化芸術を担う市民やアーティスト、クリエイターの育成とともに、文化芸術と市民とのつなぎ手となる人材の育成にも注力してきた。
- 戦略1や戦略4に位置付けられる、劇場の舞台・客席空間での優れた舞台芸術公演だけでなく、戦略2や戦略3に位置付けられるワークショップ、アウトリーチ、フェスティバルなど、幅広い市民に向けた多面的な展開によって、文化芸術の持つ力を様々な領域に生かしながら、創造的なまちづくりの推進に貢献している。

第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、2003年度から18年度までの16ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。2007年度までは、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、2008年度に、(一財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目(戦略目標)を設定、さらに評価中項目(戦略)とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表6-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表6-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

戦略・評価軸		No	評価大項目
A	劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
		A-1	鑑賞系事業
		A-2	創造系事業
		A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
		A-4	普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)
		A-5	市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)
		A-6	地域への貢献①(地域経済への波及効果など)
		A-7	地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)
		A-8	広域施設としての役割発揮
B	管理運営	B-1	場の提供・支援(貸館)
		B-2	施設のホスピタリティ・サービス
		B-3	施設の維持管理
C	経営	C-1	経営体制
		C-2	リサーチ&マーケティング
		C-3	経営努力

- 2018年度は、上記図表6-1の基本フレームに基づいて、2003年度から2018年度の16ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表6-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション 「創る」「育つ」「観る」「支える」

①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、2014年度から「支える」が加わった。
- 2014年度から、4つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業、市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を展開し、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 2010年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。
- 2016年度に実施したグループインタビューでは「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わり」をテーマに設定したところ、教育や福祉といった分野の団体からは、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果であるという見方が多く、地域経済の担い手である企業からは、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。

②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)

- 観客の運営方針への支持率※は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の2003年度から継続して90%を超えている。

※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

③劇場の来場者(利用者)数

- 北九州芸術劇場への年間来場者(利用者)数は、2005年度以降、毎年27～28万人で推移しているが、2018年度は約26万人となった。また、この16年間で利用者数は延べ444万人を超えた。2018年4月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約95万であり、すでに人口の4倍以上の利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇術劇場を地域になくてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

A-1 鑑賞系事業 「観る」

「観る」: 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 2018年度も、「観る」(鑑賞事業)では、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

②年間延べ観客数

- 2018年度の公演事業については、15事業で51回の公演が行われた。入場者数は15,704人、

入場率は88%である。

- 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、27事業、公演回数は148回。入場者数は22,075人、入場率は85%となっている。

③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演(主催／提携・協力事業)に対する観客の満足度をみると、開館年度(2003年度)から継続して「(本日の)公演内容」への満足度の高さが顕著である。2018年度も満足層の割合※は99%で、そのうち無回答を除いた「たいへん満足」の割合が77%と、観客からの高い評価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「(本日の)公演のチケット料金」も満足層の割合は95%であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。

④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 2009年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 2009年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

A-2 創造系事業 「創る」

【創る】：北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 2018年度も、全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。
- 入場率では北九州芸術劇場プロデュース 九州男児劇「せなに泣く」で88%となっている。創造系事業全体の入場率が85%を超えており、市民からの支持の高さがうかがえる。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。

②年間延べ観客数

- 2018年度、「創る」では、4事業で49回の公演が行われ、入場者は2,528人、入場率は平均で85%と高い入場率となっている。

③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 2010年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。
- 2009年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に

一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

〔育つ〕:アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワークづくり等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、普及系事業を継続的に実施している。2018年度は、初めて出会った仲間たちと一緒に2つの劇場体験コースの中で、劇場や演劇に触れる5日間のワークショップ「夏休み！子どもの劇場体験2018」といった、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。
- 「高校生〔的〕シアター」や「劇場塾2018」など、将来を担う子どもたち、俳優や劇作家などの表現者、制作者や文化事業に関わる行政職員、ボランティアといったつなぎ手を対象にした人材育成・教育普及事業に継続的に取り組んでいる。

②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 2018年度の主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は65回、参加延人数は1,379人。

③講座・ワークショップ参加者の満足度

- 2015年度に実施したワークショップ参加者を対象としたアンケート調査によると、講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高く、参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度は94%(うち「たいへん満足」は64%)となっている。
- 「たいへん満足」の割合の高い項目は、劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%)となっている。

④参加者が事業から得たもの(事業の効果)

- 2015年度に実施したワークショップ参加者を対象としたグループインタビュー調査によると、ワークショップに参加したことが、表現の技術や活動をさらに向上させたり、活動の展開を広げたりするきっかけや意欲を持つことにつながっている。
- さらに、自分自身の価値観や生き方が大きく変わったり、参加者相互が家族のようにつながったりするような、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。

A-4 普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)

①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 2017年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園!？」等を行った。
- 2018年度に実施した「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」での市内の小学校のほか、「ひとまち+アーツ協働事業」での高齢者福祉施設でのアウトリーチなど、教育・福祉関係での活動に取り組んだ。

②学校等と連携したプログラム数と参加人数

2018年度に学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は83回、参加延人数は1,993人となっている。

- 2016年度に実施したグループインタビューで、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。

A-5 市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)

① ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業を実施しており、2018年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2018」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」の3事業で42回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は401人。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」は2004年度から継続実施されている事業で、市民に定着していることがうかがえる。
- 2010年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。

② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」については、肯定的な評価が100%と高い評価となっている。
- 「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「はい」(75%)の回答が少なく関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」をみても、満足層の割合※は99%となっている。これらの項目では、「はい」という積極的な評価も高い。
- 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い(なお、2009年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。)。

A-6 地域への貢献①(地域経済への波及効果など)

① 地域外からの来場者割合

- 観客アンケート結果をみると、2007年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、2018年度は38%となっている。

② 公演鑑賞に伴う消費行動

- 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、2018年度の飲食またはショッピングをした人の割合は51%。
- 飲食をしている割合は57%で平均金額は1,777円、ショッピングをしている割合は37%で平均金額は3,636円となっている。

※ 「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

③経済波及効果

- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた2018年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約6.4億円、主催事業が約2億円、主催事業の観客の消費支出が約1.4億円となっている。
- それらの経済波及効果は、約13.9億円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約3.8～4.1億円、経済波及効果が約4.9～5.3億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業（観客消費支出含む）で1.41、貸館を含めると1.38となっている。試算を始めた2004年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45～1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで129～133人、雇用者ベースで116～119人という結果となっている。

A-7 地域への貢献②（地域アピール、ブランド力のアップなど）

①シビックプライドの醸成

- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り（シビックプライド）の一部となっていることは、2010年度の座談会出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。
- 2016年度に実施したグループインタビューで、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ（結節点）、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。

②パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する2018年度の記事掲載件数は138件。新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、2018年度は約1億6,400万円となる。
- 2018年度では「九州男児劇」、「贗作 桜の森の満開の下」、「山海塾」といった公演事業に関する紹介記事も多い。
- 2018年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約6,300万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模の約2.6倍の成果を生み出していると言える。

A-8 広域施設としての役割発揮

①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 2009年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。
- また、「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。
- 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇

場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。

②当該文化施設の運営だけにとられない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。
- 今後の北九州芸術劇場あるいは(公財)北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。
- (公社)日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援(貸館)[支える]

①ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、2014年度から「支える」として地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

②貸館事業における入場者数

- 2018年度の貸館の公演・講演事業数は207事業。計276回の公演・講演が実施され、入場者数は132,877人となっている。

③利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度※は100%で、利用者のほぼ全員が満足している。また、今後の利用意向※も100%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。
- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度※は、「現在の開館時間は適当である」を除いて99%以上と非常に高い。また、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
- 2005年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

①公演や催し物情報に関する満足度

- 開館年度(2003年度)に満足度が65%であった「公演情報の入手のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続いてきたが、2018年度は89%で2017年度とほぼ横ばいとなっている。

②ホスピタリティに関する満足度

- 2003年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続き、2018年度は93%で17年度から2ポイントの増加となっている。
- 満足度の上昇は、①公演や催し物情報に関する満足度と同様に、開館から16年が経過し、

※ 満足度は「たいへん満足」+「まあ満足」の割合、利用意向は「はい」+「どちらかと言えば『はい』」の割合。無回答は除く。

観客が劇場に慣れてきたことであろうが、案内表示の増設や既存サインの大型化など、劇場側の工夫によるところも大きいといえる。

- 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は2003年度の88%から高い満足度が少しずつ上昇し、2018年度は98%となっている。

③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度

- 2003年度から満足度の高かった「劇場係員の応対」は、継続して高い満足度を保っており、18年度も98%と満足層の割合は非常に高い。また、「電話予約・チケットカウンターの応対」の満足度も97%で、劇場の顧客応対は高い評価を受けている。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、2003年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、2004年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、オンラインチケット購入システムを導入した2011年度以降およそ90%の満足度を維持したが、2015年度に79%と10ポイント減少し、2016年度に91%に持ち直している。

④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、2007年度に80%に達し、2018年度は87%となっている。

B-3 施設の維持管理

①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「館内が清潔」、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備・機器が充実している」については、「はい」への回答が90%以上と大変高い評価となっている。また、2005年度(利用者調査開始年度)以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが85%、中劇場が77%、小劇場が89%である。
- 開館年の2003年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、2016年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2014年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準にある。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。

C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

C-3 経営努力

①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の2018年度の事業費は2億262万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の49%、市の補助金が31%、文化庁と(一財)地域創造、その他助成金による外部資金が20%となっている。

②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 2018年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約1,806万円の減収、補助金等収入は約1,471万円の減収となっている。2018年度は事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。

3. 事業評価の結果から－今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、2003年度の開館年度から図表6-2のと通りの調査を行ってきた。

図表6-2 北九州芸術劇場における実施調査

年度	継続調査	テーマ調査
2003	劇場運営基礎データの収集・分析 パブリシティ効果の把握	
2004	経済波及効果の算出	専門家による座談会（開場から1年間の劇場運営の成果について）、ワークショップ参加者を対象とした学芸調査（アンケート／グループインタビュー）
2005	貸館利用者を対象としたアンケート調査（実施：2005年度～）	市民意識調査（アンケート）
2006		（舞台芸術の公演による）劇場使用者へのグループインタビュー
2007	（整理・分析：2007年度）	学校を対象とした学芸調査（アンケート）
2008		劇場スタッフへのグループインタビュー
2009		北九州芸術劇場の広域的役割と長期的ビジョンに関するグループインタビュー
2010		舞台芸術以外の分野から見た北九州芸術劇場の役割（座談会）
2011		
2012		北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化
2013		北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年
2014		舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場
2015		ワークショップ参加者を対象とした調査
2016		まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査
2017		
2018		北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証

最後に、今後の事業評価を継続する上で、検討・留意すべきだと考えられる事項を、次の6点に整理した。

①継続調査

経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望まれる。

②地域や市民への効果を把握するための定性調査

また、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するため、定性調査の実施も検討したい。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客（あるいはチケットクラブ会員）、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域（市民センターなど）でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、効果を把握する機会が必要だと考えられる。また、2005年度の市民意識調査の実施から10年以上経過していることから、今後タイミングを見て、同様の市民調査の実施を検討する必要がある。

③劇場内部での事業評価の活用

2008年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①この事業評価調査の結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的である PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフのより積極的な関わりを促していくことが重要だと考えられる。

④評価結果の公表と発信

北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書(本編)をホームページで公開するなど、市民へのアカウンタビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目にあたり、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い取り組みだと言える。公共劇場や文化関係者の間でその成果を共有するためにも、より積極的な公表や発信が望まれる。

⑤次の戦略構築への活用

また、次の北九州芸術劇場の戦略構築のために、これまでの事業評価の結果を活用することが望まれる。2009年度のグループインタビュー調査、2010度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけでなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

⑥次期北九州市文化振興計画を見据えた事業評価の再構築

前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築も視野に入りたい。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も再検討する必要がある。この数年間、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な

観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっている点も否めない。また、観客や利用者以外の市民、舞台芸術以外の芸術分野、あるいは劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー(利害関係者)との関係を広げていくことが2010年度の座談会でも期待されている。

また近年、文化政策や文化プログラムなどの事業評価の手法そのものが変化しており、評価の理論的なフレームワークとして用いられることの多いロジック・モデルの手法などを北九州芸術劇場の事業評価にも取り入れることも考えられる。その試行として、2012年度のテーマ調査では、10年間の事業評価の主要な項目を、結果(アウトプット)、短期的・中長期的な成果(アウトカム)、直接的・間接的な影響や効果(インパクト)に分けて整理した。それらも踏まえた上で、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進化させることが望まれる。

図表6-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で2003年度～2018年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

※事業評価の結果を、定量評価(事業実績データ、アンケート調査データ)とともに、定性評価(グループインタビュー等)の結果も含めて総合的に整理した。

※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。

※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価(達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標)項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A:劇場の設置目的

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0	[ミッション] 「創る」 「育つ」 「観る」 「支える」	①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	- 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定、2014年度から「支える」が加わった。 [専門家との座談会/10年度]では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価している。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。 [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度]では、教育や福祉の団体からは、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果だという見方が多く、地域経済の担い手である企業からは、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。	3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 14年度から運営方針に加わった「支える」に対しても支持率は高いが、新たな方針が加わったことによる成果の広がりが望まれる。	- 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。 - 観客調査の継続。 - 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)	- 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年(2003年)度から90%以上。 ○2018年度 創る:97%、育つ:96%、観る:99%、支える:97% [観客調査/2018年度] - 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 ○創る:81%、育つ:90%、観る:90% [市民調査/2005年度] ※支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合(%)は小数点以下を四捨五入して掲載。		
		③事業や運営に対する自己評価や振り返り、運営データの蓄積	業務の振り返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。[劇場スタッフへのグルイン/2008年度]	事業評価データ等を活用し、係を超えた振り返りの機会づくりが必要。	
		④市民の劇場の認知度や劇場への意見	- 市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。 [市民調査/2005年度] - 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。 [劇場スタッフへのグルイン/2008年度]	運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。	
		⑤劇場の来場者(利用者)数	年間来場者(利用者)数は、2005年度から2009年度まで毎年27～28万人で推移。2010年度は1年間で31万人に増加した。2018年度は約26万人。開館からの16年間で延べ444万人が来場。	北九州市の人口(2018年4月1日現在)は約95万人であり、すでに人口の4倍以上の利用者が来場。	
A-1	[鑑賞系事業] 「観る」 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	- 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊など幅広いラインナップの公演事業を実施。 - 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 ○年齢層 29歳以下:17%、30歳代:13%、40歳代:25%、50歳代:26%、60歳以上:20% 平均年齢:46歳。[観客調査/2018年度] ○北九州芸術劇場での鑑賞経験 今日が初めて:22%、1～2回:11%、3～5回:17%、6回以上:38% - 北九州市域外(北九州市内+北九州近隣地域を除く)からの観客は、2013年度が過去最高の割合(44%)。 ○2006年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%⇒17:40%⇒18:38%	小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。	- 観客調査の継続。 - 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	2018年度の公演事業は15事業、公演回数は51回、入場者数は15,704人である。入場率は88%。 - 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、27事業、公演回数は148回、入場者数は22,075人である。入場率は85%。	公演事業全体で極めて高い入場率。「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。	
		③公演に対する観客の満足度	- 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は99%。「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 - 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。) ○公演内容 2003年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97%⇒11:98%⇒12:98%⇒13:97%⇒14:97%⇒15:98%⇒16:98%⇒17:98%⇒18:99% ○公演のチケット料金 2003年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91%⇒11:94%⇒12:94%⇒13:93%⇒14:94%⇒15:92%⇒16:94%⇒17:95%⇒18:95%[観客調査/2018年度] 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/2010年度]	「観る」という方針では、福岡市と何らかの機能分担をした上で、「創る」、「育つ」、「支える」に重点を置いていくことも、将来のひとつの方向性だと考えられる。 - 公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。	
		④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	- 公演事業での劇場使用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/2006年度] [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度]でも、魅力的なものを呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 [全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度]では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。	- 北九州市域外からの観客も増加しており、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されている。中長期的な市内と市域外との集客バランスの検討。 - 観客調査のアンケートにおける無回答の割合が増加している。	

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-2	[創造系事業] 「創る」 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます	①ミッションに基づいた創造系事業の実施	● 全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。 ● 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。 ● 2018年度は北九州芸術劇場プロデュース 九州男児劇「せなに泣く」を稽古見学・一般公開稽古を4回、公演を5回行った。	● 高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。 ● 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● 九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。 ● 今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。 ● 美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。	● 観客調査の継続。 ● 創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	● 2018年度は、4事業で49回の公演が行われ、入場者は2,528人。入場率では平均で85%。 ● 「せなに泣く」で88%となっており、創造系事業全体の入場率が85%を超えている。		
		③創造系事業の公演に対する観客の満足度	● 鑑賞系事業③を参照		
		④創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果	● 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグルイン/2006年度] ● [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。 ● [専門家との座談会/2010年度]では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。 ● [全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度]では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。		
A-3	「育つ」 アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワークづくり等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します [普及系事業①] 主に劇場内で実施するワークショップや講座など	①ミッションに基づいた普及系事業の実施	● 普及系事業を継続的に実施。2018年度も、初めて出会った仲間たちと一緒に2つの劇場体験コースの中で、劇場や演劇に触れる5日間のワークショップ「夏休み！子どもの劇場体験2018」、「高校生[的]シアター」や「劇場塾2018」などの多様なプログラムを実施。	● 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● ワorkshopや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことで鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生まれている。 ● 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 ● 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。	● 事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 ● 長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。
		②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数	● 2018年度は、主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は65回、参加延人数は1,379人。 ● 「ダンスダイブウィーク」や「地域のアートレパトリー創造事業」など、地域と劇場との関係を積極的に開拓するような企画内容が多く見られる。		
		③講座・ワークショップ参加者の満足度	● 講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。[学芸調査・アンケート/2015年度] ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度 満足層:94%、うち「たいへん満足」:64% ○「たいへん満足」の割合が高い項目 劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%)		
		④参加者が事業から得たもの(事業の効果)ー講座・ワークショップ	● 講座やワークショップに参加したことで、参加者は次のような効果があったと感じている。[学芸調査・アンケート/2015年度] 「人間関係に広がりが生まれた」(70%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(53%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(53%)、「舞台づくりや劇場について新たな発見があった」(52%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(46%)など。 ● グループインタビューでも、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。[学芸調査・グルイン/2015年度]		
A-4	[普及系事業②] アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など	①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容	● 2017年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園!？」等を行った。 ● 2018年度に実施した「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」での市内の小学校のほか、「ひとまち+アーツ協働事業」での高齢者福祉施設でのアウトリーチなど、教育・福祉関係での活動に取り組んだ。		
		②学校等と連携したプログラム数と参加者数	● 学校との連携事業への評価 [小学校を対象としたアンケート調査/2007年度] ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、「自分の考えや気持ちを表現する力」(80%)、「豊かな感受性や想像力」(61%)、「人とコミュニケーションする力」(52%)については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。 ● 2018年度に実施した学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は83回、参加人数は1,993人となっている。 ● [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/2016年度]では、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-5	[市民文化活動支援] 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など	①ミッションに基づいた市民活動支援の実施	- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。 2018年度は、合唱物語合唱物語「わたしの青い鳥2018」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」などの3事業で42回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は401人。 - 合唱物語「わたしの青い鳥」は、2004年度からの継続事業。 [専門家との座談会/2010年度]では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。	- 市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。 - 貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。	- 貸館調査の継続。 - 市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。 - 開館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)	- 貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについては、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」については、肯定的な評価が100%と高い評価となっている。 - 関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」も99%の高い満足度。[貸館調査/2018年度]		
A-6	[地域への貢献①] 地域経済への波及効果など	①地域外からの来場者割合	2006年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、2018年度は38%となっている。 ○地域外からの来場者割合 2006年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%⇒17:40%⇒18:38%[観客調査/2018年度]	- 北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。 - 観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。 - 今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。	- 地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。 - 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 - 所得増、雇用増、税収増の試算。 - 貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。 - 開館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②公演鑑賞に伴う消費行動	- 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、2018年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は51%。 - 飲食をしている場合の平均金額は1,777円、ショッピングの場合は3,636円。[観客調査/2018年度]		
		③経済波及効果	2018年度の経済波及効果を算出すると、 ○最終需要 劇場の管理運営:約6.4億円、主催事業:約2億円、主催事業の観客の消費支出:約1.4億円 (参考値)貸館事業に基づいた最終需要:約3.8〜4.1億円 ※試算 ○経済波及効果 約13.9億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約4.9〜5.3億円 ※試算 - 経済波及効果の誘発係数は、 ○管理運営・主催事業・主催事業観客消費支出:1.41 ○貸館を含めた消費支出:1.38 2004年度以降、運営管理・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45〜1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしている。 - 雇用効果は、就業者ベースで129〜133人、雇用者ベースで116〜119人。		
A-7	[地域への貢献②] 地域アピール、ブランド力のアップなど	①シビックプライドの醸成	- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、2010年度の座談会出席者の共通認識であった。 - その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/2010年度] [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/2016年度]では、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。	- 毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がりを評価。 - 新聞掲載記事の広告宣伝費への換算金額は、市の事業に対する補助金(約6,300万円)を大きく上回る規模であり、北九州芸術劇場の事業や運営が高いパブリシティ効果を生み出している。 - 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。 - 北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。	- より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。 - 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 - 市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。
		②パブリシティ効果	- 北九州芸術劇場や劇場事業に関する2018年度の記事掲載件数は138件。 138件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、2018年度は約1億6,400万円(2017年度:約1億5,300万円)。 2018年度では「九州男児劇」、「贗作 桜の森の満開の下」、「山海塾」といった公演事業に関する紹介記事も多い。		
		③劇場・ホールの存在を肯定的に考えている市民の割合	- 市民調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。 - 劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。 - 一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/2005年度] - 劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのが、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/2008年度]		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-8	〔広域施設としての役割発揮〕 圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします ＊「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定	①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携	● 舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。 ● 「シアターコラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。〔九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度〕 ● 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。〔舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/2014年度〕	● 今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。 ● 「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。 ● 国や他の地方自治体（とくに九州圏域の県や市）との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。	● 広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②当該文化施設の運営だけにとられない圏域全体の文化振興	● 北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。〔九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度〕 ● 国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ヴィジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。〔全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度〕 ● 2003年に開館して以来、「創る」、「観る」、「育つ」という事業の考え方と、事業評価を行うことの二点において、北九州芸術劇場が公共劇場のスタンダードを形成してきたと言える。〔北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年/2013年度〕 ● （公社）日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート（回答32件）によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。〔舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/2014年度〕		

B:管理運営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～18年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1	「支える」 [場の提供・支援(貸館事業)]	①ミッションに基づいた貸館事業の実施	貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。	- 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100%近い割合であることは、利用者からの大きな評価。 - 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	- 貸館調査の継続。 - 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②貸館における入場者数	2018年度の貸館公演・講演は207事業。計276回の公演・講演が実施され、入場者数は132,877人。		
		③利用者の満足度	- 劇場利用に関する総合的な満足度は99%。今後の利用意向も100%と満足度はたいへん高い。 - ソフト面に関する12項目のうち、「開館時間が適当である」以外は、満足層の割合が99%以上。貸館事業におけるスタッフの応対への評価は高い。[貸館調査/2018年度] 2005年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。		
B-2	[施設のホスピタリティ・サービス]	①公演や催し物情報に関する満足度	開館年度(2003年度)に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続いてきたが、2018年度は89%で2017年度からほぼ横ばいとなっている。[観客調査/2018年度] ○公演情報の入手のしやすさ 2003年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:88%⇒14:88%⇒15:83%⇒16:91%⇒17:89%⇒18:89%	- 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から10年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。 - 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	- 観客調査の継続。 - 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②ホスピタリティに関する満足度	- 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、2018度は93%であった。 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は2003年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、2018年度は98%となっている。[観客調査/2018年度] ○案内表示 2003年度:69%⇒04:74%⇒05:77%⇒06:79%⇒07:82%⇒08:87%⇒09:88%⇒10:89%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:92%⇒15:89%⇒16:92%⇒17:91%⇒18:93% ○デザイン・雰囲気 2003年度:88%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:93%⇒07:94%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:96%⇒14:97%⇒15:95%⇒16:97%⇒17:97%⇒18:98%		
		③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度	「電話予約・チケットカウンターの応対」「劇場係員の応対」への満足度は大変高い。「劇場係員の応対」については、開館年度から90%以上の満足度を維持、2018年度は98%であった。 - 開館年度(2003年度)に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続き、2014年度には89%の満足度となった。2015年度に79%に減少したが、2016年度に91%に持ち直している[観客調査/2018年度] ○劇場係員の応対 2003年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98%⇒11:99%⇒12:99%⇒13:98%⇒14:97%⇒15:97%⇒16:98%⇒17:98%⇒18:98% ○電話・チケットカウンター 2003年度:80%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:92%⇒07:93%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:95%⇒14:95%⇒15:95%⇒16:97%⇒17:98%⇒18:97% ○チケットの予約購入 2003年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:89%⇒15:79%⇒16:91%⇒17:90%⇒18:90%		
		④飲食に関する満足度	劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、2007年度に80%に達し、2018年度は87%となっている。[観客調査/2018年度] ○飲食サービス 2003年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86%⇒11:88%⇒12:86%⇒13:85%⇒14:87%⇒15:87%⇒16:87%⇒17:86%⇒18:87%		
B-3	[施設の維持管理]	①施設の維持管理	貸館調査でも、劇場の施設や設備などハード面で利用者からの満足度は大変高いが、搬入・搬出のしやすさについては複合施設でエレベーターを使用することから、他の項目に較べて満足度は低い。満足層の割合は次のとおり。[貸館調査/2018年度] ○館内は清潔に保たれていた:100% ○劇場の広さ(客席数)がちょうどよい:99% ○舞台設備・機器は充実している:99% ○設備・機器などを安全に使用できた:100% ○ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい:99% ○搬入・搬出がやりやすい:96% ○楽屋など舞台裏の施設が使いやすい:99%	- 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。 - スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。	- 貸館調査の継続。 - 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 - 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。
		②稼働率	- 施設稼働率は、大ホールが85%、中劇場が77%、小劇場が89%である。 - 開館年の2003年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均(専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。		

C:経営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～18年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
C-3	[経営努力]	①外部資金、チケット収入の割合	2018年度事業費は約2億262万円。財源内訳は、チケット収入:約9,849万円(49%)、外部資金:約4,139万円(20%)、市の補助金:約6,275万円(31%)。 - チケット収入と外部資金の2003年度からの比率をみると次のとおり。 ○チケット収入 2003年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68%⇒11:53%⇒12:47%⇒13:52%⇒14:39%⇒15:59%⇒16:57%⇒17:39%⇒18:49% ○外部資金 2003年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15%⇒11:12%⇒12:13%⇒13:19%⇒14:22%⇒15:18%⇒16:14%⇒17:35%⇒18:20%	チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。	- 継続したデータ収集・分析の実施。 - 詳細調査の必要性の検討、実施。
		②事業収支からみた経営努力	2018年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約1,806万円の減収、補助金等収入は約1,471万円の減収となっており、事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。		

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

北九州芸術劇場
事業評価調査
〔資料編〕



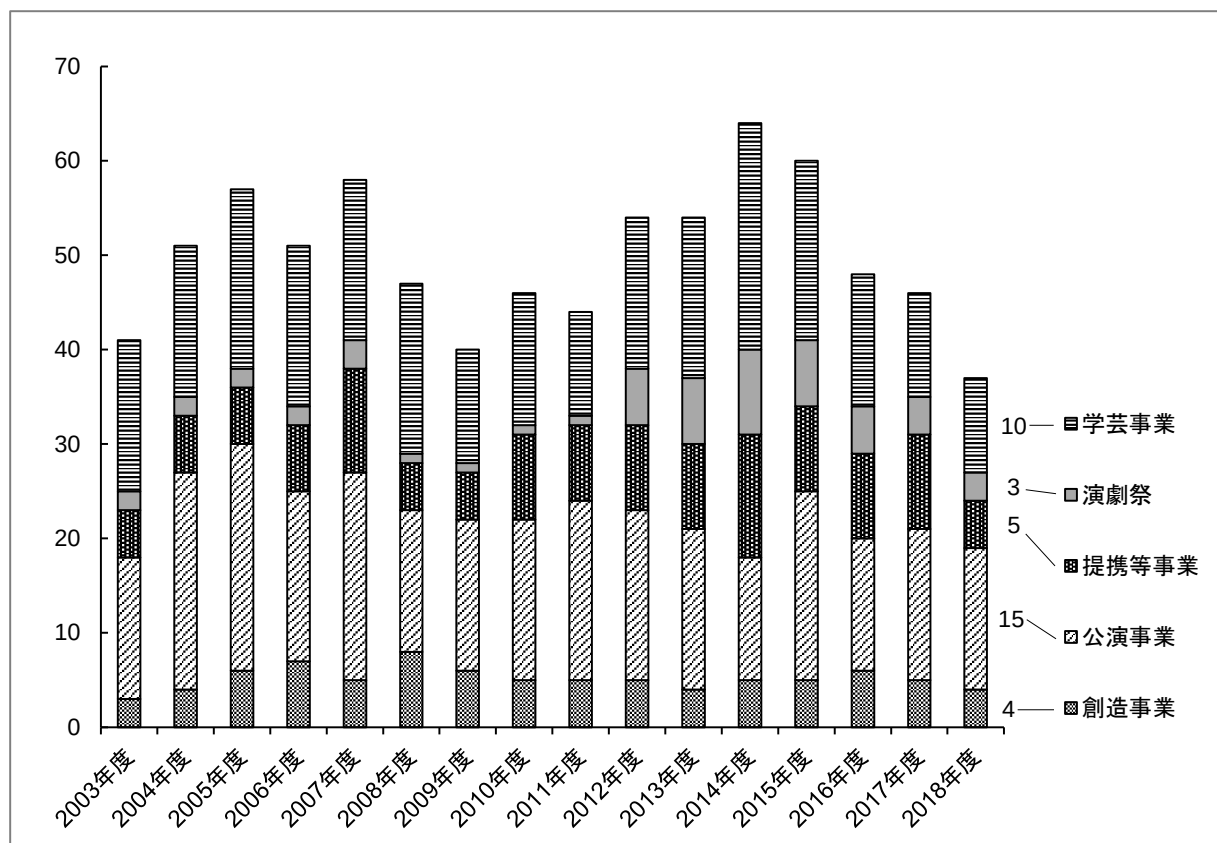
実績調査結果

(1) 事業数

2018年度の自主事業の事業数は、鑑賞事業が27事業、学芸事業が10事業、支援事業が5事業となっている。2003年度の開館以降で学芸事業は最も少ない事業数となっている。鑑賞事業では2003年度と同じ事業数だが、2003年度は年度途中からの開館であるため、鑑賞事業においても最も少ない事業数となっている。

	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	計			
2003年度	3	15	5	2	2	27	16	—	—
2004年度	4	23	6	—	2	35	16	—	—
2005年度	6	24	6	—	2	38	19	—	—
2006年度	7	18	7	—	2	34	17	—	—
2007年度	5	22	11	—	3	41	17	—	—
2008年度	8	15	5	—	1	29	18	—	—
2009年度	6	16	5	—	1	28	12	—	—
2010年度	5	17	9	—	1	32	14	—	—
2011年度	5	19	8	—	1	33	11	—	—
2012年度	5	18	9	—	6	38	16	—	—
2013年度	4	17	9	—	7	37	17	—	—
2014年度	5	13	13	—	9	40	24	—	1
2015年度	5	20	9	—	7	41	19	5	3
2016年度	6	14	9	—	5	34	14	6	3
2017年度	5	16	10	—	4	35	11	4	3
2018年度	4	15	5	—	3	27	10	5	—
累計	83	282	126	2	56	549	251	20	10

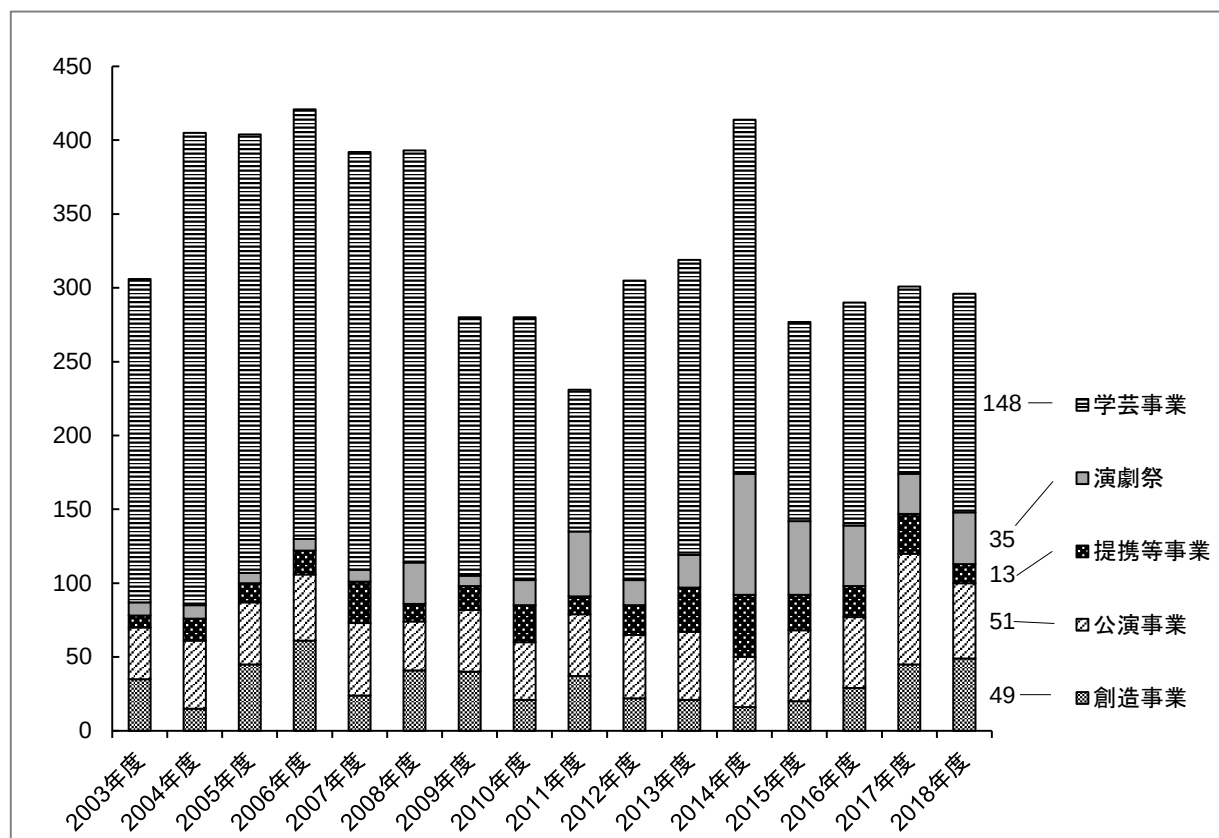
※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として、2014年度より「北九州舞台芸術フェスティバル『北九州芸術工業地帯』」として開催。



(2) 公演(実施)回数

2018年度の鑑賞事業の公演回数は148回、学芸事業の実施回数は148回、支援事業は54回となっている。

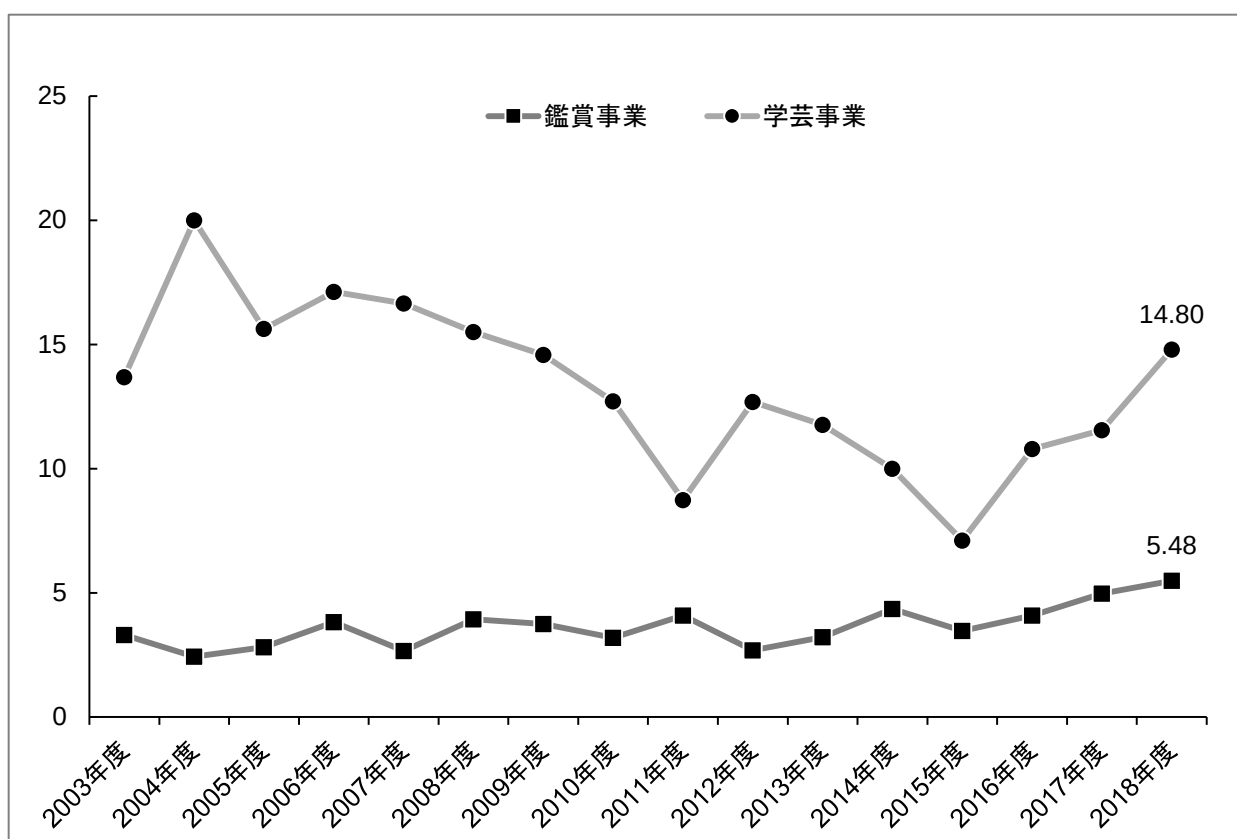
	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	計			
2003年度	35	35	8	2	9	89	219	—	—
2004年度	15	46	15	—	9	85	320	—	—
2005年度	45	42	13	—	7	107	297	—	—
2006年度	61	45	16	—	8	130	291	—	—
2007年度	24	49	28	—	8	109	283	—	—
2008年度	41	33	12	—	28	114	279	—	—
2009年度	40	42	16	—	7	105	175	—	—
2010年度	21	39	25	—	17	102	178	—	—
2011年度	37	42	12	—	44	135	96	—	—
2012年度	22	43	20	—	17	102	203	—	—
2013年度	21	46	30	—	22	119	200	—	—
2014年度	16	34	42	—	82	174	240	—	3
2015年度	20	48	24	—	50	142	135	75	14
2016年度	29	48	21	—	41	139	151	77	16
2017年度	45	75	27	—	27	174	127	90	15
2018年度	49	51	13	—	35	148	148	54	—
累計	521	718	322	2	411	1,974	3,342	296	48



(3) 1事業あたりの公演(実施)回数

2018年度の鑑賞事業の1事業あたりの公演回数は5.48回、学芸事業の1事業あたりの実施回数は14.80回となっている。鑑賞事業で1事業あたりの公演回数は開館以降で最多数となっている。また、鑑賞事業の1事業あたりの公演回数は、年度によって増減するものの、増加傾向となっている。

	鑑賞事業	学芸事業
2003年度	3.30	13.69
2004年度	2.43	20.00
2005年度	2.82	15.63
2006年度	3.82	17.12
2007年度	2.66	16.65
2008年度	3.93	15.50
2009年度	3.75	14.58
2010年度	3.19	12.71
2011年度	4.09	8.73
2012年度	2.68	12.69
2013年度	3.22	11.76
2014年度	4.35	10.00
2015年度	3.46	7.11
2016年度	4.09	10.79
2017年度	4.97	11.55
2018年度	5.48	14.80



(4) 入場者(参加者)数

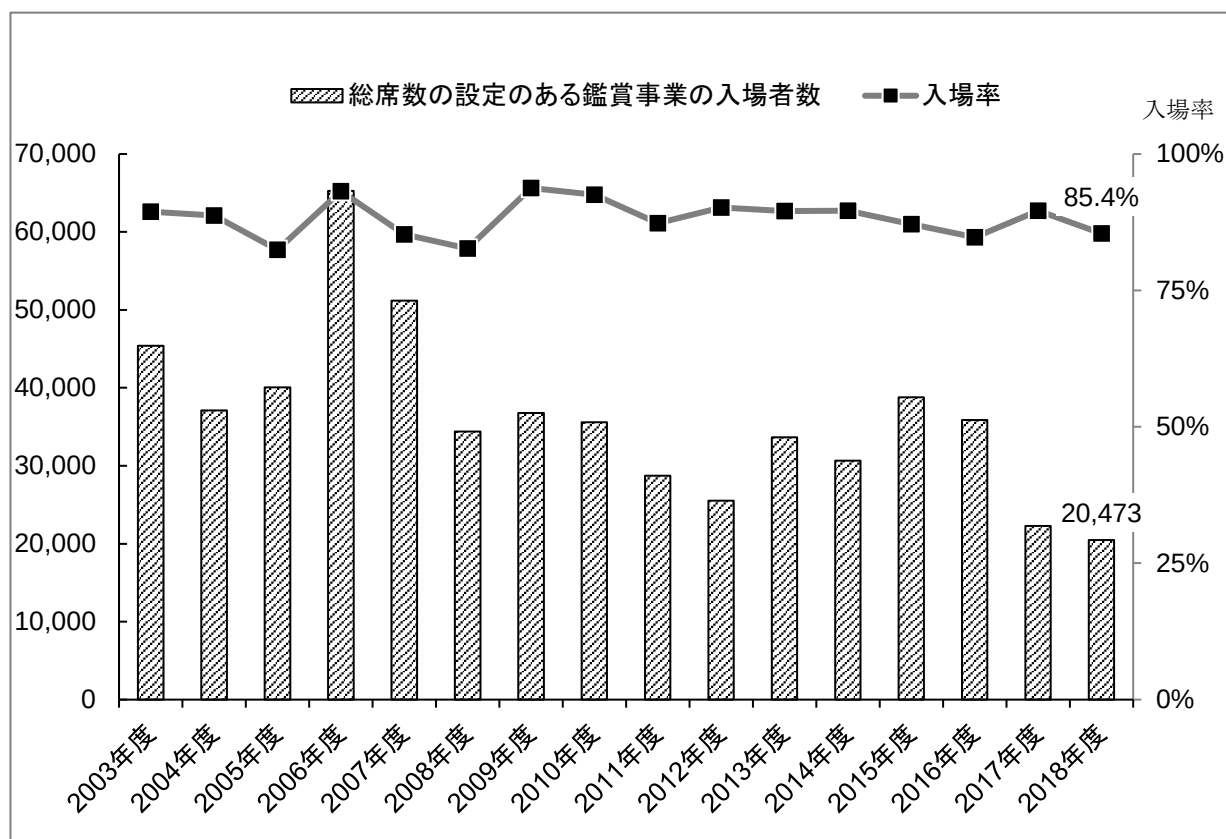
2018年度の鑑賞事業の入場者数は22,075人、学芸事業の参加者数は1,800人、支援事業の参加者数は2,438人となっており、年間の入場者(参加者)数の総合計は23,875人となっている。2018年度は、各事業の入場者(参加者)と総合計の人数が開館以降で最少となっている。

	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業	総合計
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	計				
2003年度	13,350	22,079	7,382	1,592	987	45,390	2,404	—	—	47,794
2004年度	3,292	26,361	6,211	—	1,231	37,095	4,734	—	—	41,829
2005年度	9,332	21,294	6,642	—	2,779	40,047	6,327	—	—	46,374
2006年度	27,107	29,813	7,259	—	1,110	65,289	6,758	—	—	72,047
2007年度	5,224	32,378	11,869	—	1,724	51,195	6,200	—	—	57,395
2008年度	12,320	18,164	3,895	—	1,689	36,068	10,577	—	—	46,645
2009年度	12,841	19,439	3,947	—	556	36,783	5,889	—	—	42,672
2010年度	3,124	24,229	6,427	—	1,799	35,579	5,404	—	—	40,983
2011年度	10,846	14,036	2,229	—	1,605	28,716	3,568	—	—	32,284
2012年度	3,847	18,517	2,996	—	4,098	29,458	5,900	—	—	35,358
2013年度	3,208	20,319	11,202	—	3,583	38,312	6,554	—	—	44,866
2014年度	3,974	14,482	13,152	—	4,451	36,059	6,332	—	296	42,687
2015年度	2,723	26,296	9,918	—	6,459	45,396	6,377	9,774	1,463	49,162
2016年度	3,128	23,970	8,117	—	1,530	36,745	5,496	3,113	2,385	40,989
2017年度	3,641	14,447	10,585	—	998	29,671	2,988	2,560	1,255	32,416
2018年度	2,528	15,704	2,633	—	1,210	22,075	1,800	2,438	—	23,875
累計	120,485	341,528	114,464	1,592	35,809	613,878	87,308	17,885	5,399	697,376

(5) 入場者数と入場率

2018年度の鑑賞事業で、総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数は20,473人で、総席数は23,961席となっており、入場率は85.4%となっている。

	鑑賞事業の入場者数の計(再掲含む)	総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数(実数:再掲除く)	総席数	入場率
2003年度	45,390	45,390	50,756	89.4%
2004年度	37,095	37,095	41,808	88.7%
2005年度	40,047	40,047	48,575	82.4%
2006年度	65,289	65,289	70,065	93.2%
2007年度	51,195	51,195	60,036	85.3%
2008年度	36,068	34,379	41,580	82.7%
2009年度	36,783	36,783	39,225	93.8%
2010年度	35,579	35,579	38,447	92.5%
2011年度	28,716	28,716	32,885	87.3%
2012年度	29,458	25,537	28,316	90.2%
2013年度	38,312	33,657	37,585	89.5%
2014年度	36,059	30,678	34,225	89.6%
2015年度	45,396	38,781	44,494	87.2%
2016年度	36,745	35,866	42,333	84.7%
2017年度	29,671	22,301	24,886	89.6%
2018年度	22,075	20,473	23,961	85.4%
累計	613,878	581,766	659,177	88.3%



(6) 5カ年毎の事業数、公演(実施)回数、入場者(参加者)数

2003年度から2017年度までの15年間で5カ年毎で3期に区分して事業数、公演(実施)回数、入場(参加)者数の平均を算出した。5カ年毎の公演(実施)回数では、鑑賞事業1事業あたりの公演数が、第1期で2.97回だったのが、第2期、第3期と回数が伸び続けて2018年度では5.48回となっている。

5カ年毎の事業数の平均

	鑑賞事業					学芸事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計	
第1期 平均 2003年度～2007年度	5	20	7	2	35	17
第2期 平均 2008年度～2012年度	6	17	7	2	32	14
第3期 平均 2013年度～2017年度	5	16	10	6	37	17
2018年度	4	15	5	3	27	10

5カ年毎の公演数・実施回数の平均

	鑑賞事業					学芸事業	鑑賞事業1事業あたりの公演数	学芸事業1事業あたりの回数
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計			
第1期 平均 2003年度～2007年度	36	43	16	8	104	282	2.97	16.59
第2期 平均 2008年度～2012年度	32	40	17	23	112	186	3.49	13.11
第3期 平均 2013年度～2017年度	26	50	29	44	150	171	4.00	10.04
2018年度	49	51	13	35	148	148	5.48	14.80

5カ年毎の入場者・参加者数の平均

	鑑賞事業					学芸事業	総合計
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計		
第1期 平均 2003年度～2007年度	11,661	26,385	7,873	1,566	47,803	5,285	53,088
第2期 平均 2008年度～2012年度	8,596	18,877	3,899	1,949	33,321	6,268	39,588
第3期 平均 2013年度～2017年度	3,335	19,903	10,595	3,404	37,237	5,549	42,024
2018年度	2,528	15,704	2,633	1,210	22,075	1,800	23,875

	公演事業の入場者数の計(再掲含む)	総席数の設定のある公演事業の入場者数(実数:再掲除く)	総席数	入場率
第1期 平均 2003年度～2007年度	47,803	47,803	54,248	88.1%
第2期 平均 2008年度～2012年度	33,321	32,199	36,091	89.2%
第3期 平均 2013年度～2017年度	37,237	32,257	36,705	87.9%
2018年度	22,075	20,473	23,961	85.4%

(7) 2018年度自主事業一覧

1 創造事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場プロデュース / 市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2018」公演						
	コーラスワークショップ(対象:小学生～一般)	中劇場・小劇場	5/11～7/1	15	-	82	-
	アウトリーチ(対象:一般)	門司メディカルセンター	6/8	1	-	130	-
	公演	中劇場	7/1	1	480	411	85.6%
	北九州芸術劇場プロデュース / 市民参加企画 小計			17	480	623	
2	北九州芸術劇場+市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」						
	「Re:北九州の記憶」戯曲講座	会議室	4/12・13・19、 7/26・27、8/3・ 4、3/13・14	9	-	39	-
	リーディング公演 ※一般公開	小劇場	10/7～8	2	252	251	99.6%
	※学校鑑賞(東筑紫学園高等学校)		10/9	1	106	86	81.1%
	[関連企画]リーディング公演「春の夢みたい」	永犬丸西市民センター 多目的ホール	2/2	1	-	60	-
	[関連企画]市立八幡図書館 朗読講座内 戯曲朗読講座	八幡図書館	9～3月	7	-	49	-
	北九州芸術劇場+市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」 小計			20	358	485	
3	北九州芸術劇場プロデュース 九州男児劇「せなに泣く」						
	稽古見学・一般公開稽古(対象:一般、中高生)	創造工房	11/7,17,21,22	4	-	73	-
	公演	小劇場	11/29～12/2	5	635	559	88.0%
	北九州芸術劇場プロデュース 九州男児劇「せなに泣く」 小計			9	635	632	
4	北九州芸術劇場×パリ市立劇場×山海塾共同プロデュース 山海塾「Arc 薄明・薄暮」世界初演						
	[関連企画]プレトーク企画「SALON du Sankai Juku」	カフェ カウサ2F	3/15	1	-	7	-
	公演「Arc 薄明・薄暮」世界初演	中劇場	3/23～24	2	980	781	79.7%
	山海塾「新作」世界初演 小計			3	980	788	
創造事業 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				49	2,453	2,528 2,088	85.1%

2 学芸事業

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
1	高校生[的]シアター						
	高校生のための演劇塾(戯曲講座)	会議室・ セミナールーム	6/23・30 7/14・21	4	高校生	6	24
	高校生のための演劇塾(夏期ゼミ)	大ホール・小劇場 創造工房・セミナールーム	8/6～8	3	高校生	68	204
	柴田隆弘ワークショップ	創造工房・ セミナールーム	8/18 8/19	1 1	高校生 一般	6 12	6 12
	「モギテク」	創造工房・ セミナールーム	8/25～26	2	高校生	30	60
	多田淳之介ワークショップ	大手町練習場	12/22	1	高校生	8	8
			12/23	1	一般	15	15
	高校生[的]シアター 小計			13		145	329
2	シアターラボ2019						
	初心者向け戯曲講座「誰にでも書ける、あなたにしか書けない戯曲講座」	会議室	7/22	1	一般	24	24
	本格的戯曲講座	セミナールーム	9/1・17、10/6・ 27、11/6・29	7		3	21
	[演出講座]	セミナールーム	2/2	1		19	19
	[テクニカル講座]		2/16	1		19	19
	[稽古]	創造工房	2/25～3/8	10		19	188
	[公演]リーディング公演「ネコに無礼講」	創造工房	3/9～10	3		171	171
	シアターラボ2019 小計			23		255	442
3	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ！！」						
	演カツ！！「有門正太郎プレゼンツワークショップ」	創造工房	7/15～16、8/20 8/21	3	一般	16	32
	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ！！」 小計			3	中止	16	32

	事業名		会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
4	キタQ アーティスト ふれあいプログラム							
	講師:有門正太郎	アウトリーチ	西小倉小学校	9/10～11	4	小学生	61	117
		アウトリーチ	寿山小学校	9/13～14	4	小学生	47	93
		アウトリーチ	西小倉小学校	9/18～19	4	小学生	61	123
		アウトリーチ	南小倉中学校	12/18～19	4	中学生	72	143
	講師:セレノグラフィカ	アウトリーチ	小倉北 特別支援学校	11/12～13、 15～16	8	小学生・ 中学生	55	108
	講師:北尾亘	アウトリーチ	大里柳小学校	11/19～21	6	小学生	97	194
		アウトリーチ	中尾小学校	12/3～4	4	小学生	67	134
		アウトリーチ	桜丘小学校	12/10～11	4	小学生	43	86
	講師:守田慎之介	アウトリーチ	港ヶ丘小学校	11/27～28	4	小学生	59	113
		アウトリーチ	朽網小学校	1/15・17	4	小学生	53	108
	アウトリーチ	湯川小学校	1/29～31	6	小学生	90	166	
	キタQ アーティスト ふれあいプログラム 小計				52		705	1,385
5	ひとまち+アーツ協働事業							
	YELLワークショップ	講師:有門正太郎、守田慎之介	黒崎コムシティ ユースステーション レインボープラザ7階	12/5・12、1/9・ 16、2/6・20、 3/20・27	8	YELL利用者	14	61
	演劇ワークショップ	講師:有門正太郎	黒崎コムシティ ユースステーション	4/18	1	YELL利用者	7	7
	演劇ワークショップ	講師:守田慎之介	黒崎コムシティ ユースステーション	10/10	1	YELL利用者	5	5
	高齢者福祉施設ワークショップ	講師:北村成美	望玄荘(ぼうげんそう) (北九州市小倉北区)	11/28	1	高齢者福祉 施設利用者	42	42
	レインボードロップス	ワークショップ	ウエル戸畑研修室6AB、戸 畑市民会館リハール室、大 手町練習場	11/10・11、12/23・ 24、1/19・20、 2/10・11	8	障害のある 方、踊ることが 好きな方、小 学校4年生以上	26	162
	ワークインプログレス		大手町練習場	2/11	1		54	54
	子ども食堂	インリーチ	日明市民センター	12/11	1	子ども食堂 職員	12	12
	ひとまち+アーツ協働事業 小計				21		160	343
6	夏休み！子どもの劇場体験2018		小劇場・ 創造工房他	7/29 7/30～8/2	4	小学生	30	119
7	劇場塾2018							
	オープンレクチャーvol.1 『日本の現代演劇断片～演出家を中心に』		創造工房	10/8	1	小学生 以上	40	40
	アーティストや舞台芸術に関わる方のためのクラス 「まちとつくる、アート・舞台芸術の可能性を探そう ～門司港編～」		門司港美術工芸研究 所、港ハウス 2F 多目 的ホール	10/13	1	演劇・ダン ス・音楽・美 術などの表 現活動に携 わっている 方	8	8
			創造工房	10/14	1		8	8
	オープンレクチャー vol.2『舞台の名脇役～小道具の世界』		セミナールーム	12/15・16	2	中学生以上	23	44
	地域文化コーディネートクラス 「アートでつながる、ひと・もの・まち～芸術文化がつくる、 新たな"つながり"を探そう～」		大手町練習場	12/20・21	1	芸術文化やま ちづくりのコ ーディネートに関 心のある方	17	33
	劇場塾2018 小計				6		96	133
8	東筑紫学園高等学校演劇類型との連携事業							
	講師:岩崎正裕	ワークショップ	東筑紫学園 高等学校	12/10	1	東筑紫学園 高校生	31	31
		ワークショップ		2/19	1		20	20
	東筑紫学園高等学校演劇類型との連携事業 小計				2		51	51
9	地域のアートレパートリー創造事業							
	「待てないリバダン!!」プレステージ		エナジーコート ・創造工房	4/11	1	一般	28	28
	「踊れリバダン!!」セレモニー			4/21	1		70	70
	集まれ「リバダン!!」プロジェクト第三弾 こどもと一緒にリバダン!!ワークショップ 職業体験・ワーク ショップ		小劇場	9/17	2	5歳以上小 学6年生以下 のお子様	39	39
	集まれ「リバダン!!」プロジェクト第三弾 こどもと一緒にリバダン!!ワークショップ 発表		リバーウォー ク北九州1階	9/23	1		17	17
	ありがとう「リバダン!!」フィナーレパフォーマンス ～集まれ！リバダンサー達～ 事前ワークショップ		小劇場・ 大ホール	11/1・2	2	ダンスや RWKをこ よなく愛する 人々& RWK従業 員	52	52
	ありがとう「リバダン!!」フィナーレパフォーマンス ～集まれ！リバダンサー達～ 本番		紫川水上 ステージ	11/2	1		35	35
	地域のアートレパートリー創造事業 小計				8		241	241

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
10	市民劇場文化サポーター育成事業						
	OBOG連絡会議	会議室	4/15	1	劇場文化サポーター	10	10
	ミーティング	会議室・セミナールーム	4/21,5/19,6/16,7/14,8/18,9/8,10/6,11/10,12/15,1/12,2/23,3/16	12		30	226
	OBOG交流会	創造工房・セミナールーム	6/3	1		34	34
	ワークショップ	小劇場	9/15	1		13	13
	バックステージツアー	中劇場	10/9	1		14	14
	市民劇場文化サポーター育成事業 小計			16		101	297
学芸事業(創造・公演(アウトリーチ&ワークショップ等)を除く)				148		1,800	3,372

3 公演事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	「赤道の下のマクベス」	中劇場	4/15	1	614	431	70.2%
2	「寿歌」						
	事前レクチャー	アートライブラリー	5/20	1	-	7	-
	公演	小劇場	5/26～27	2	208	192	92.3%
	「寿歌」 小計			3	208	199	92.3%
3	フィリップ・ドゥクフレ/DCA「新作短編集(2017)－Nouvelles Pièces Courtes」						
	カンパニーDCA ワークショップ	創造工房	7/5	1	-	22	-
	公演	中劇場	7/7～8	2	646	545	84.4%
	フィリップ・ドゥクフレ/DCA「新作短編集(2017)－Nouvelles Pièces Courtes」			3	646	567	84.4%
4	「劇トツ×20分」2018	小劇場	7/8	1	162	156	96.3%
5	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2018—海外編—「ホワイト“White”」	小劇場	7/20～22	5	300	267	89.0%
6	シアターサーカス「MACHINE DE CIRQUE マシン・ド・シルク」	中劇場	8/2	1	619	593	95.8%
7	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2018「不思議の国のアリス」	中劇場舞台上	8/11～12	2	382	363	95.0%
8	二兎社「ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ」	中劇場	8/25～26	2	1,320	1,273	96.4%
9	ダンスダイブウィーク						
	夕暮れダンス「ちよいとごめんよ、じゃまするよ。」2018	大手町練習場	8/19	1	-	19	-
	～帰ってきた、野外角打ち～ ワークショップ	創造工房・セミナールーム	9/2、22～23	3	-	14	-
		リバーウオーク北九州1階	9/23	1	-	150	-
	康本雅子ダンスワークショップ						
	①オヤコロりんダンスワークショップ(対象:2～6歳までのお子様とその親)	創造工房	9/9	1	-	32	-
	②ダンス未満ダンス以上♡ワークショップ	創造工房	9/9	1	-	18	-
	昭和館で、ダンスに魅せられて夕暮れダンス関連企画「昭和館にじゃまするよ。」	小倉昭和館	9/9	1	-	10	-
	井手茂太ワークショップ(対象:18歳以上で舞台経験のある方)	創造工房	9/13～16	4	-	18	-
	井手茂太ショーイング「ギミック」	リバーウオーク北九州1階	9/16	1	-	100	-
	森下真樹「ベートーヴェン交響曲第5番『運命』全楽章を踊る」	小劇場	9/22～23	2	244	237	97.1%
	ダンスダイブウィーク 小計			15	244	598	97.1%
10	PARCOプロデュース2018「チルドレン」	中劇場	10/13～14	2	1,194	730	61.1%
11	NODA・MAP第22回公演「質作 桜の森の満開の下」	大ホール	10/25～29	6	7,350	7,006	95.3%
12	ゲゲゲの先生へ	大ホール	11/17～18	2	2,372	1,858	78.3%
13	KERA・MAP #008 「修道女たち」	中劇場	12/1～2	3	1,683	1,323	78.6%
14	カンパニー・デラシネラ「ドン・キホーテ」	北九州市立美術館本館1階エントランスホール	12/8	2	214	195	91.1%

	公 演 名		会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
15	ストップギャップダンスカンパニー「エノマスルーム」							
	ダンサー向け	ワークショップ	小劇場	3/13	1	-	10	-
	一般向け	ワークショップ		3/14	1	-	26	-
	公演			3/16	1	110	109	99.1%
	ストップギャップダンスカンパニー「エノマスルーム」 小計				2	110	135	99.1%
公演事業(北九州舞台芸術フェスティバルを除く) 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)					51	17,418	15,704 15,278	87.7%

〈北九州舞台芸術フェスティバル「北九州芸術工業地帯」〉

1	三宜楼公演「うろきんさ」	三宜楼 百畳間	9/15～	2	168	164	97.6%
2	モノレール公演「アイ・ノチス・パイ・ストッピング・プレシン グ」	北九州 モノレール	3/9～10	3	342	310	90.6%
3	関連企画「ぶらり♪まちなか劇さんぽ」 (7劇団による公演＋市民参加企画)	小倉北区内 店舗等	3/23～24	30	-	736	-
北九州舞台芸術フェスティバル 小計				35	510	1,210	92.9%

公演事業 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				86	17,928	16,914 15,752	87.9%
--	--	--	--	----	--------	------------------	-------

※客席数を定めていないプログラムは、入場率の算定には含めていない。

4 提携等事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	MONO「隣の芝生も。」	小劇場	4/7～8	3	408	326	79.9%
2	PARCOプロデュース2018「ハンゲマン」	中劇場	6/21～22	2	1,216	521	42.8%
3	ゴジゲン第15回公演「君が君で君で君を君を」	小劇場	10/19～21	4	424	354	83.5%
4	空晴＋南河内万歳一座☆オールスターズ「隠れ家」	小劇場	3/2～3	2	224	171	76.3%
5	コント集団カジャラ 第4回公演「怪獣たちの宴」	中劇場	3/29～30	2	1,308	1,261	96.4%
提携事業 小計				13	3,580	2,633	73.5%

小計(創造・公演・提携等事業)(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				148	23,961	22,075 20,473	85.4%
--	--	--	--	-----	--------	------------------	-------

5 支援事業

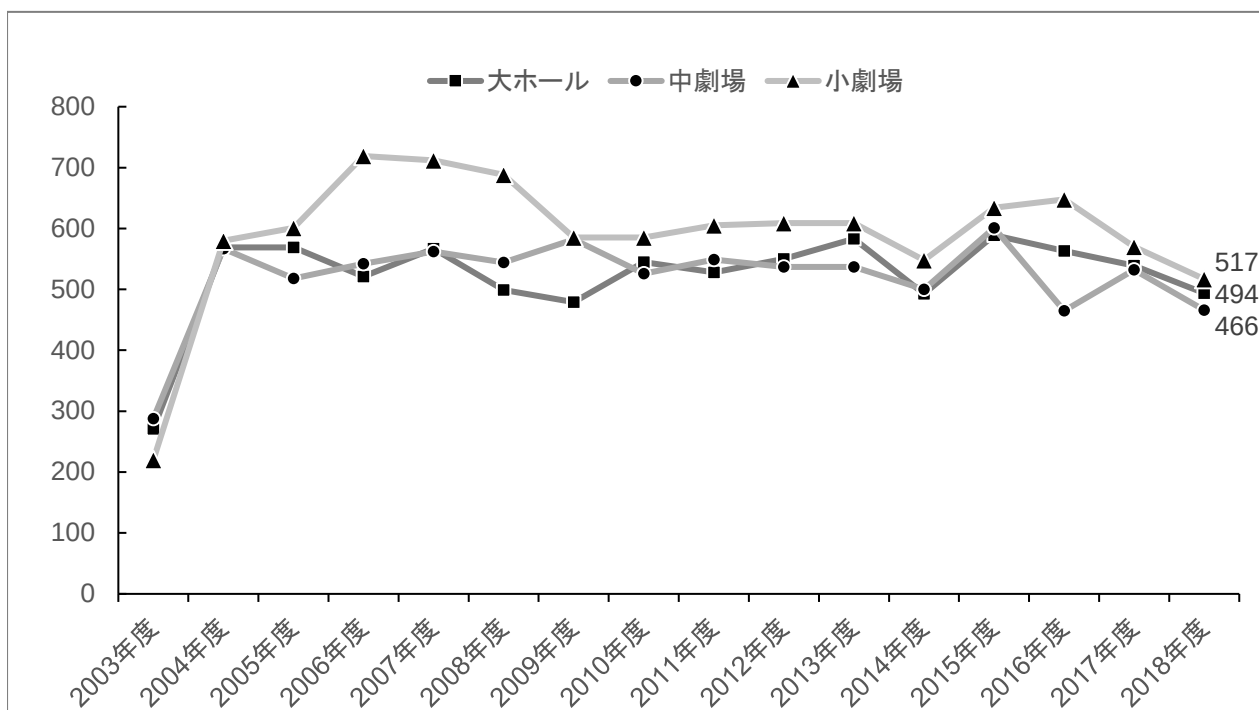
	公 演 名	会 場	公演日	回数	対象及び 設定席数	入場者数	入場率
1	シアターラボ2018 <再掲:2学芸事業(2)参照>	創造工房	7/22～ 3/10	23	一般	442	-
2	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ!!」 <再掲:2学芸事業(3)参照>	創造工房	7/15～16、 8/20	3	一般	32	-
3	「劇トツ×20分」2018 <再掲:3公演事業(5)参照>	小劇場	7/8	1	一般	156	96.3%
4	ダンスダイブウィーク <再掲:3公演事業(9)参照>	市内各所・小劇場など	8/19～9/23	15	一般	598	97.1%
5	平成30年度北九州舞台芸術フェスティバル 「北九州芸術工業地帯」 <再掲:3公演事業参照>	市内各所	9月、3月	35	一般	1,210	92.9%
支援事業 小計				54	1,683	2,438	-

総 合 計 ※再掲の事業(支援事業は全て)は総計には含まず ※学芸事業は延人数ではなく参加者・入場者実数で計上 ※入場率は設定席数のない事業を除いて算出				296	23,961	23,875	85.4%
--	--	--	--	-----	--------	--------	-------

(8) 施設の利用件数

2018年度の施設利用の件数を見ると、大ホールは494件、中劇場は466件、小劇場は517件で、合計1,477件の利用となっている。3つのホールの合計のうち、貸館事業での利用が1,000件、自主事業での利用は477件となっている。

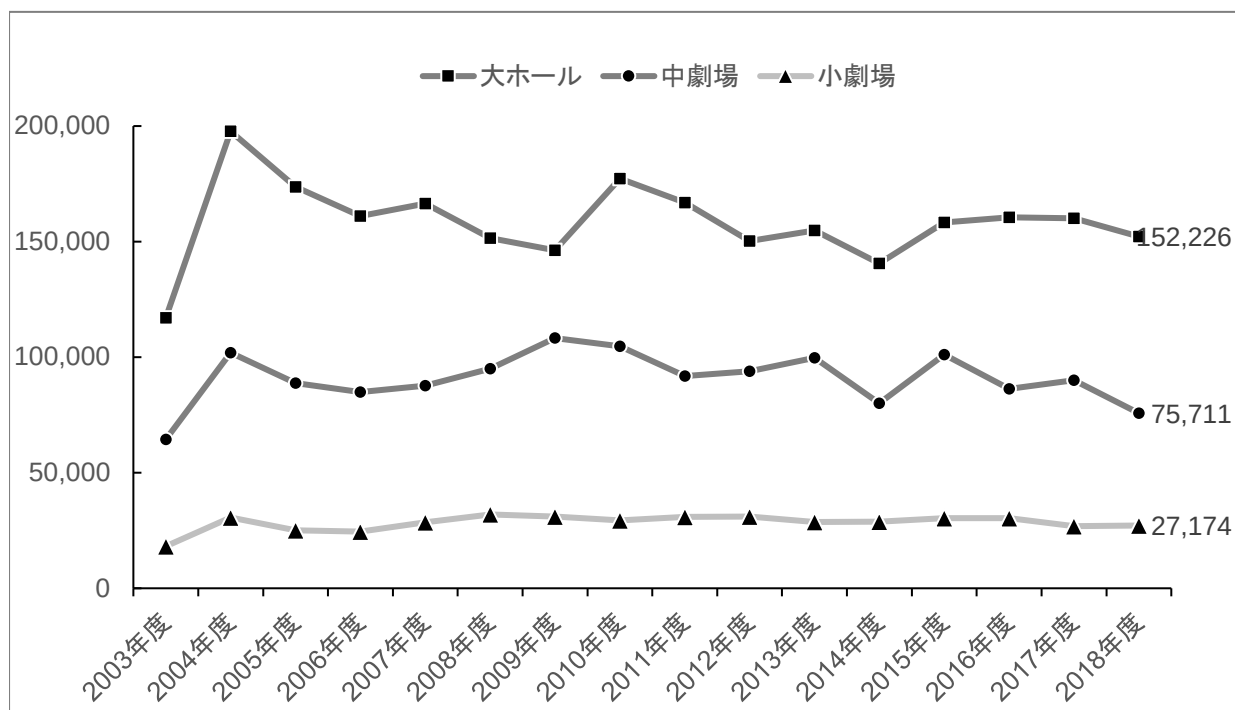
	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	66	205	271	143	145	288	121	99	220	330	449	779
2004年度	87	482	569	242	325	567	404	176	580	733	983	1,716
2005年度	102	467	569	289	229	518	471	130	601	862	826	1,688
2006年度	139	382	521	298	244	542	573	146	719	1,010	772	1,782
2007年度	186	381	567	325	237	562	564	148	712	1,075	766	1,841
2008年度	134	365	499	217	327	544	462	226	688	813	918	1,731
2009年度	64	415	479	213	369	582	318	267	585	595	1,051	1,646
2010年度	104	441	545	159	367	526	316	269	585	579	1,077	1,656
2011年度	25	503	528	230	319	549	337	268	605	592	1,090	1,682
2012年度	80	470	550	197	340	537	368	241	609	645	1,051	1,696
2013年度	131	452	583	158	379	537	399	210	609	688	1,041	1,729
2014年度	110	383	493	175	325	500	359	189	548	644	897	1,541
2015年度	139	450	589	177	424	601	324	310	634	640	1,184	1,824
2016年度	120	443	563	99	366	465	359	289	648	578	1,098	1,676
2017年度	69	470	539	135	397	532	341	229	570	545	1,096	1,641
2018年度	59	435	494	159	307	466	259	258	517	477	1,000	1,477
累計	1,615	6,744	8,359	3,216	5,100	8,316	5,716	3,197	8,913	10,329	14,299	24,628



(9) 施設の利用者数

2018年度の施設の利用者数を見ると、大ホールは152,226人、中劇場は75,711人、小劇場は27,174人で、合計255,111人となっている。3つのホールの合計のうち、貸館事業での利用者数は221,720人、自主事業での利用者数は33,391人となっている。自主事業での利用者数は、開館以降最少となっている。

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	23,937	93,100	117,037	22,890	41,524	64,414	7,402	10,769	18,171	54,229	145,393	199,622
2004年度	22,445	175,273	197,718	29,970	71,901	101,871	16,996	13,626	30,622	69,411	260,800	330,211
2005年度	13,034	160,673	173,707	33,153	55,644	88,797	14,592	10,478	25,070	60,779	226,795	287,574
2006年度	26,027	134,966	160,993	29,814	55,050	84,864	15,651	8,853	24,504	71,492	198,869	270,361
2007年度	34,015	132,444	166,459	29,182	58,491	87,673	17,837	10,772	28,609	81,034	201,707	282,741
2008年度	17,877	133,686	151,563	17,699	77,324	95,023	14,661	17,281	31,942	50,237	228,291	278,528
2009年度	7,625	138,611	146,236	22,087	86,166	108,253	12,873	18,186	31,059	42,585	242,963	285,548
2010年度	21,429	155,767	177,196	16,140	88,614	104,754	12,457	16,967	29,424	50,026	261,348	311,374
2011年度	2,979	163,922	166,901	20,838	70,958	91,796	11,947	19,011	30,958	35,764	253,891	289,655
2012年度	10,696	139,621	150,317	18,158	75,782	93,940	12,954	18,014	30,968	41,808	233,417	275,225
2013年度	23,017	131,814	154,831	15,696	83,956	99,652	15,563	13,088	28,651	54,276	228,858	283,134
2014年度	19,526	121,017	140,543	10,645	69,397	80,042	12,726	16,140	28,866	42,897	206,554	249,451
2015年度	25,106	133,240	158,346	19,581	81,557	101,138	10,555	19,839	30,394	55,242	234,636	289,878
2016年度	30,999	129,465	160,464	10,753	75,534	86,287	12,419	17,893	30,312	54,171	222,892	277,063
2017年度	11,962	148,154	160,116	11,455	78,566	90,021	11,128	15,770	26,898	34,545	242,490	277,035
2018年度	12,757	139,469	152,226	12,676	63,035	75,711	7,958	19,216	27,174	33,391	221,720	255,111
累計	303,431	2,231,222	2,534,653	320,737	1,133,499	1,454,236	207,719	245,903	453,622	831,887	3,610,624	4,442,511

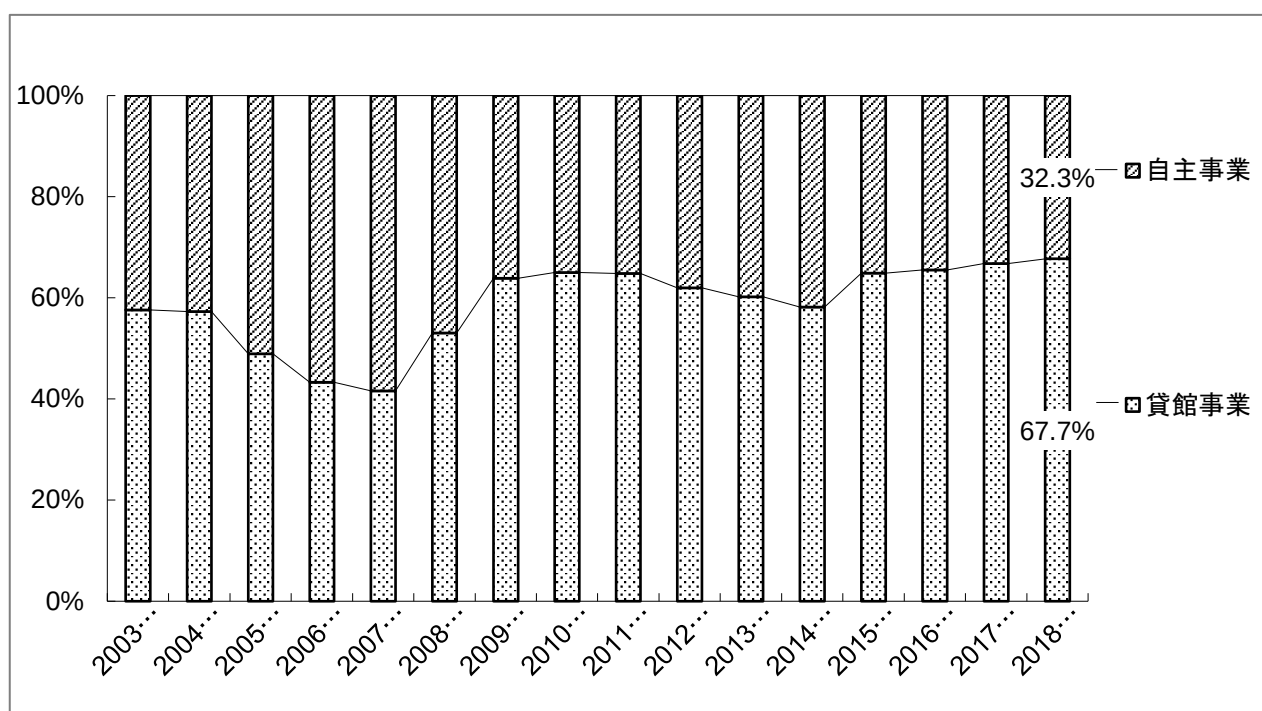


(10) 自主事業・貸館事業比率

2018年度の施設の利用件数で、自主事業と貸館事業の比率は、貸館事業が67.7%、自主事業は32.3%となっており、2003年度の開館以降で貸館事業の比率が最多となっている。開館から2007年度までは自主事業の利用の比率が増加傾向にあったが、2008年度以降は貸館事業の比率が増加傾向にある。

自主事業と貸館事業の比率
[件数ベース]

	貸館事業	自主事業
2003年度	57.6%	42.4%
2004年度	57.3%	42.7%
2005年度	48.9%	51.1%
2006年度	43.3%	56.7%
2007年度	41.6%	58.4%
2008年度	53.0%	47.0%
2009年度	63.9%	36.1%
2010年度	65.0%	35.0%
2011年度	64.8%	35.2%
2012年度	62.0%	38.0%
2013年度	60.2%	39.8%
2014年度	58.2%	41.8%
2015年度	64.9%	35.1%
2016年度	65.5%	34.5%
2017年度	66.8%	33.2%
2018年度	67.7%	32.3%

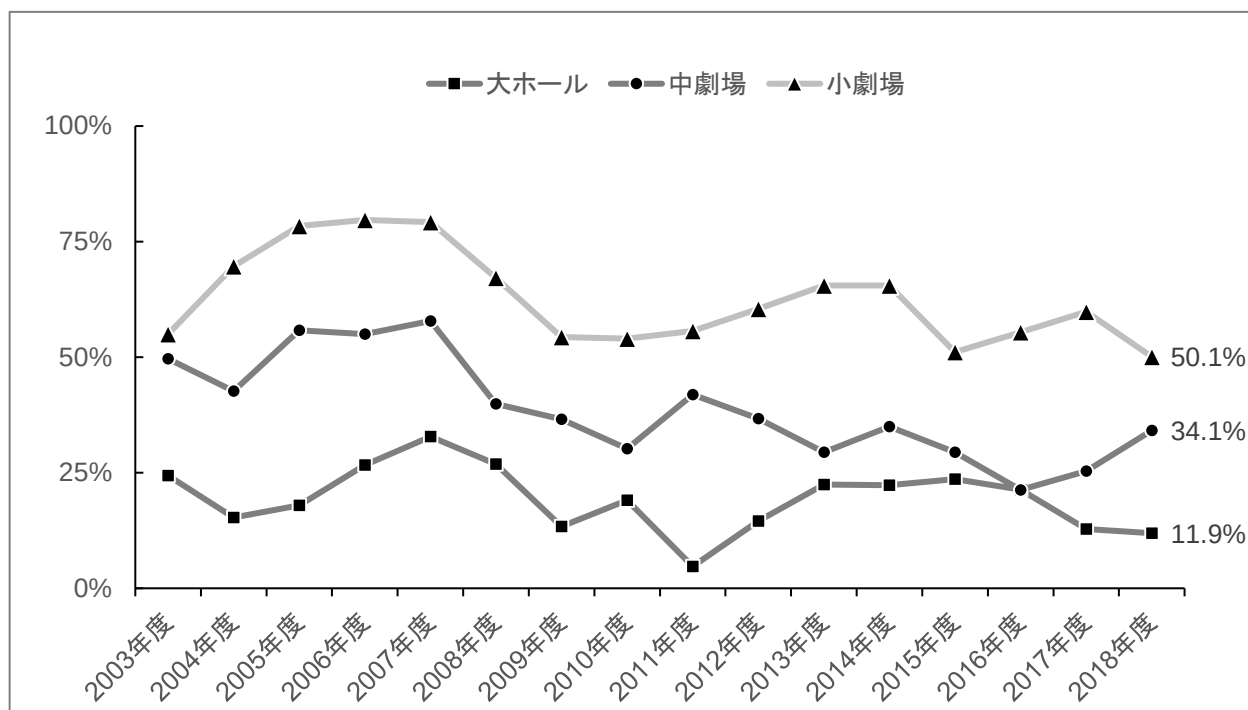


(11) ホール別の自主事業・貸館事業比率

ホール別の自主事業と貸館事業の利用件数の比率は、2018年度は大ホールが11.9%、中劇場が34.1%、小劇場が50.1%となっている。とくに小劇場の自主事業での利用の比率は、2003年度以降で最少となっている。

ホール別の自主事業比率
[件数ベース]

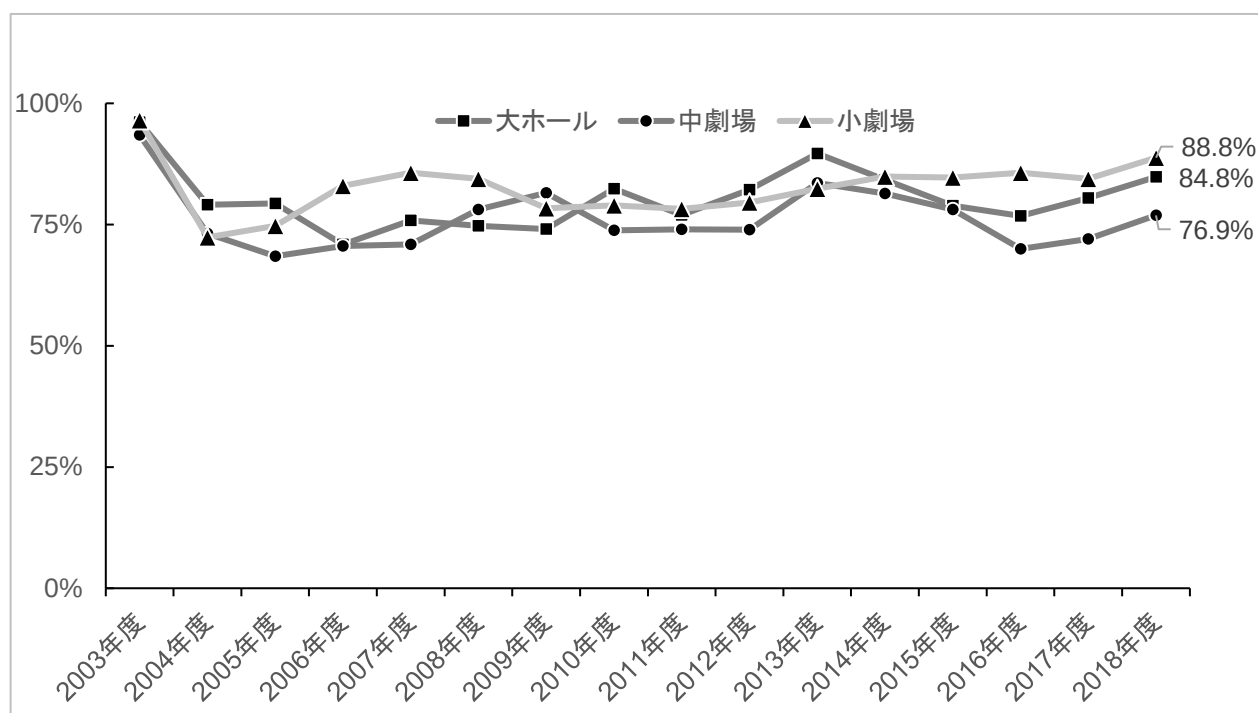
	大ホール	中劇場	小劇場
2003年度	24.4%	49.7%	55.0%
2004年度	15.3%	42.7%	69.7%
2005年度	17.9%	55.8%	78.4%
2006年度	26.7%	55.0%	79.7%
2007年度	32.8%	57.8%	79.2%
2008年度	26.9%	39.9%	67.2%
2009年度	13.4%	36.6%	54.4%
2010年度	19.1%	30.2%	54.0%
2011年度	4.7%	41.9%	55.7%
2012年度	14.5%	36.7%	60.4%
2013年度	22.5%	29.4%	65.5%
2014年度	22.3%	35.0%	65.5%
2015年度	23.6%	29.5%	51.1%
2016年度	21.3%	21.3%	55.4%
2017年度	12.8%	25.4%	59.8%
2018年度	11.9%	34.1%	50.1%



(12) 稼働率

2018年度の施設稼働率(利用対象日数に対する公演日数の割合)は、大ホールが84.8%、中劇場は76.9%、小劇場は88.8%となっており、3ホール合計では83.5%となっている。

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	公演 日数	利用対 象日数	稼働率	公演 日数	利用対 象日数	稼働率	公演 日数	利用対 象日数	稼働率	公演 日数	利用対 象日数	稼働率
2003年度	99	103	96.1%	100	107	93.5%	83	86	96.5%	282	296	95.3%
2004年度	219	277	79.1%	207	283	73.1%	220	304	72.4%	646	864	74.8%
2005年度	223	281	79.4%	189	276	68.5%	222	297	74.7%	634	854	74.2%
2006年度	202	285	70.9%	199	282	70.6%	254	306	83.0%	655	873	75.0%
2007年度	220	290	75.9%	205	289	70.9%	257	300	85.7%	682	879	77.6%
2008年度	192	257	74.7%	203	260	78.1%	249	295	84.4%	644	812	79.3%
2009年度	194	262	74.0%	212	260	81.5%	221	282	78.4%	627	804	78.0%
2010年度	215	261	82.4%	197	267	73.8%	225	285	78.9%	637	813	78.4%
2011年度	211	274	77.0%	202	273	74.0%	234	299	78.3%	647	846	76.5%
2012年度	217	264	82.2%	204	276	73.9%	237	298	79.5%	658	838	78.5%
2013年度	226	252	89.7%	204	244	83.6%	229	278	82.4%	659	774	85.1%
2014年度	192	228	84.2%	188	231	81.4%	208	245	84.9%	588	704	83.5%
2015年度	228	289	78.9%	225	288	78.1%	244	288	84.7%	697	865	80.6%
2016年度	218	284	76.8%	177	253	70.0%	246	287	85.7%	641	824	77.8%
2017年度	206	256	80.5%	206	286	72.0%	217	257	84.4%	629	799	78.7%
2018年度	190	224	84.8%	173	225	76.9%	198	223	88.8%	561	672	83.5%
累計	3,252	4,087	79.6%	3,091	4,100	75.4%	3,544	4,330	81.8%	9,887	12,517	79.0%



(13) 5か年毎の事業数、公演(実施)回数、入場者(参加者)数

2003年度から2017年度までの15年間で5か年毎で3期に区分して利用件数、利用者数、稼働率の平均を算出した。5か年毎の利用者数では、大ホールで、第1期で163,183人だったのが、第2期、第3期と利用者数が減少し、2018年度では152,226人となっている。その一方で、稼働率は全体的に増加する傾向にあり、とくに大ホールの稼働率は第1期が77.9%だったのが、第2期、第3期と伸び続け、2018年度では84.8%となっている。

5か年毎の平均利用件数と2018年度の利用件数

	大ホール	中劇場	小劇場	計
第1期 平均 2003年度～2007年度	499	495	566	1,561
第2期 平均 2008年度～2012年度	520	548	614	1,682
第3期 平均 2013年度～2017年度	553	527	602	1,682
2018年度	494	466	517	1,477

5か年毎の平均利用者数と2018年度の利用者数

	大ホール	中劇場	小劇場	計
第1期 平均 2003年度～2007年度	163,183	85,524	25,395	274,102
第2期 平均 2008年度～2012年度	158,443	98,753	30,870	288,066
第3期 平均 2013年度～2017年度	154,860	91,428	29,024	275,312
2018年度	152,226	75,711	27,174	255,111

5か年毎の平均稼働率※と2018年度の稼働率

	大ホール	中劇場	小劇場	計
第1期 平均 2003年度～2007年度	77.9%	72.8%	80.1%	77.0%
第2期 平均 2008年度～2012年度	78.1%	76.2%	79.9%	78.1%
第3期 平均 2013年度～2017年度	81.7%	76.8%	84.4%	81.0%
2018年度	84.8%	76.9%	88.8%	83.5%

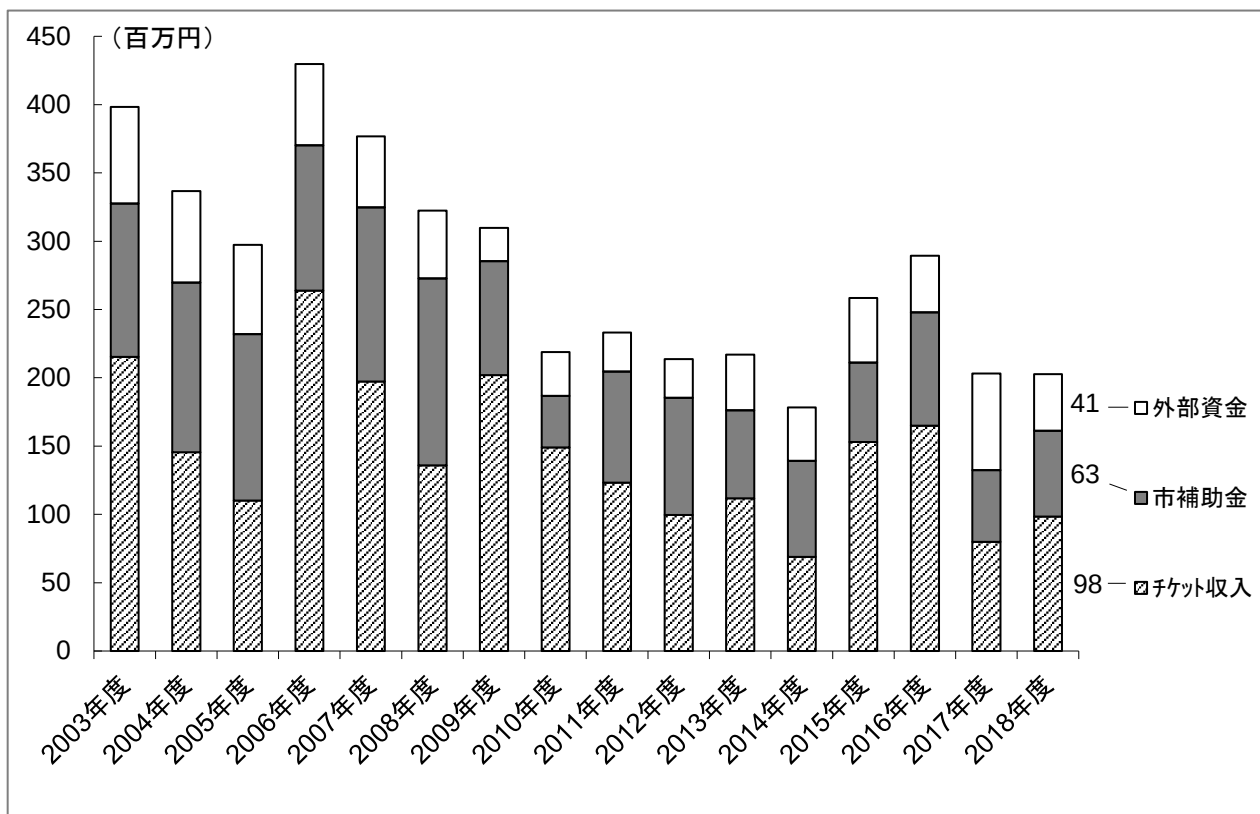
※平均稼働率は加重平均(5年間ごとの公演日数の合計を利用可能日数の合計で割った数値)となっている。

(14) 事業費の財源内訳

2018年度の事業費は、2億261万6千円となっている。その内訳を見ると、チケット収入が9,848万6千円、市補助金が6,274万5千円、外部資金が4,138万5千円となっている。

(単位:千円)

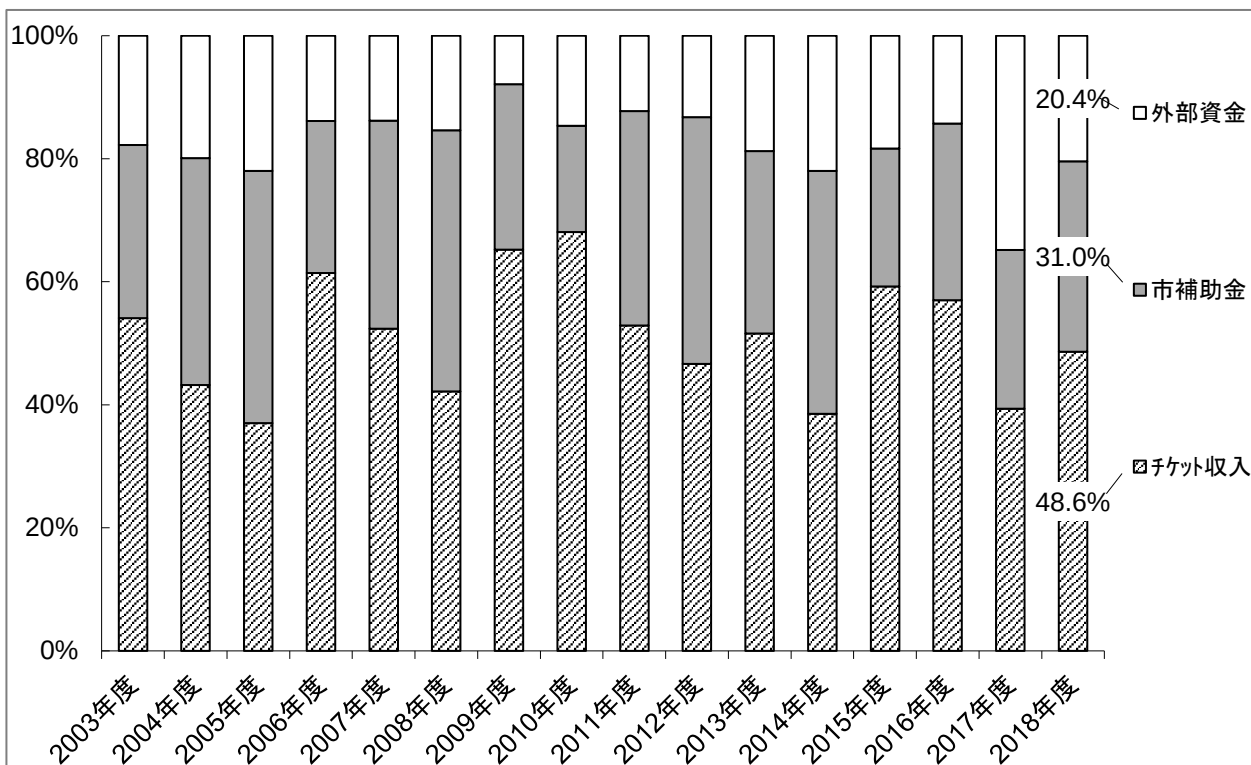
	チケット収入	市補助金	外部資金	(内訳)				計
				文化庁	地域創造	その他助成金	協賛金	
2003年度	215,389	112,225	70,700	49,000	10,000	11,700	0	398,314
2004年度	145,429	124,198	67,000	49,000	18,000	0	0	336,627
2005年度	110,060	121,965	65,295	45,795	19,500	0	0	297,320
2006年度	263,901	106,363	59,517	45,800	13,717	0	0	429,781
2007年度	197,355	127,456	52,051	36,600	15,451	0	0	376,862
2008年度	135,979	136,854	49,579	27,400	22,179	0	0	322,412
2009年度	202,004	83,331	24,432	18,000	6,432	0	0	309,767
2010年度	149,051	37,726	32,072	11,000	10,572	0	10,500	218,849
2011年度	123,355	81,302	28,509	26,902	1,607	0	0	233,166
2012年度	99,616	85,741	28,262	25,349	2,165	748	0	213,619
2013年度	111,886	64,354	40,693	33,965	6,728	0	0	216,933
2014年度	68,803	70,401	39,222	30,552	8,670	0	0	178,426
2015年度	153,107	58,001	47,376	36,236	7,707	3,433	0	258,484
2016年度	164,939	83,014	41,384	37,012	3,651	721	0	289,337
2017年度	80,032	52,420	70,786	62,534	6,851	1,401	0	203,238
2018年度	98,486	62,745	41,385	36,731	3,500	1,154	0	202,616
累計	2,055,967	1,262,337	675,494	498,133	149,579	17,282	10,500	3,993,798



(15) 事業費の財源比率

2018年度の事業費の財源比率を見ると、チケット収入が48.6%、市の補助金が31.0%、外部資金が20.4%となっている。

	チケット収入	市補助金	外部資金
2003年度	54.1%	28.2%	17.7%
2004年度	43.2%	36.9%	19.9%
2005年度	37.0%	41.0%	22.0%
2006年度	61.4%	24.7%	13.8%
2007年度	52.4%	33.8%	13.8%
2008年度	42.2%	42.4%	15.4%
2009年度	65.2%	26.9%	7.9%
2010年度	68.1%	17.2%	14.7%
2011年度	52.9%	34.9%	12.2%
2012年度	46.6%	40.1%	13.2%
2013年度	51.6%	29.7%	18.8%
2014年度	38.6%	39.5%	22.0%
2015年度	59.2%	22.4%	18.3%
2016年度	57.0%	28.7%	14.3%
2017年度	39.4%	25.8%	34.8%
2018年度	48.6%	31.0%	20.4%
累計	51.5%	31.6%	16.9%



(16) 5か年毎の事業費の財源内訳

2003年度から2017年度までの15年間で3期に区分して財源の内訳の比率の平均を算出した。5か年毎の財源内訳の比率は増減しながら、チケット収入5割、市の補助金3割、外部資金2割の前後を推移している。

5か年毎の事業費の財源内訳の平均割合※

	チケット収入	市補助金	外部資金
第1期 平均 2003年度～2007年度	50.7%	32.2%	17.1%
第2期 平均 2008年度～2012年度	54.7%	32.7%	12.5%
第3期 平均 2013年度～2017年度	50.5%	28.6%	20.9%
2018年度	48.6%	31.0%	20.4%
参考: 全国平均試算値	36.6%	52.7%	10.7%

※平均割合は加重平均(5年間ごとに各収入の累計を収入全体の累計で割った数値)となっている。

(17) 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額

2018年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約1,806万円の減収、補助金等収入は約1,471万円の減収となっている。2018年度は事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。

(単位:千円)

	事業収入			補助金等収入		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	194,300 48.6%	215,389 54.1%	21,089	205,700 51.4%	182,925 45.9%	22,775
2004年度	146,346 41.1%	145,429 43.2%	917	209,300 58.9%	191,198 56.8%	18,102
2005年度	130,500 37.3%	110,060 37.0%	20,440	219,500 62.7%	187,260 63.0%	32,240
2006年度	265,709 53.9%	263,901 61.4%	1,808	227,531 46.1%	165,880 38.6%	61,651
2007年度	212,173 50.2%	197,355 52.4%	14,818	210,800 49.8%	179,507 47.6%	31,293
2008年度	269,172 54.1%	135,979 42.2%	133,193	228,412 45.9%	186,433 57.8%	41,979
2009年度	157,949 44.7%	202,004 65.2%	44,055	195,470 55.3%	107,763 34.8%	87,707
2010年度	110,503 43.9%	149,051 68.1%	38,548	141,200 56.1%	69,798 31.9%	71,402
2011年度	140,284 45.8%	123,355 52.9%	16,929	166,136 54.2%	109,811 47.1%	56,325
2012年度	101,983 38.6%	99,616 46.6%	2,367	162,000 61.4%	114,003 53.4%	47,997
2013年度	84,322 36.7%	111,886 51.6%	27,564	145,632 63.3%	105,047 48.4%	40,585
2014年度	46,545 27.2%	68,803 43.5%	22,258	124,423 72.8%	89,336 56.5%	35,087
2015年度	155,232 56.2%	153,107 59.2%	2,125	120,780 43.8%	105,377 40.8%	15,403
2016年度	225,012 60.5%	164,939 57.0%	60,073	147,154 39.5%	124,398 43.0%	22,756
2017年度	90,332 36.0%	80,032 39.4%	10,300	160,689 64.0%	123,206 60.6%	37,483
2018年度	116,546 49.5%	98,486 48.6%	18,060	118,836 50.5%	104,130 51.4%	14,706
累計	2,446,908 46.8%	2,319,392 51.9%	127,516	2,783,563 53.2%	2,146,072 48.1%	637,491

補助金等収入における市補助金と外部資金の内訳(千円)

	市補助金			外部資金		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	135,000	112,225	22,775	70,700	70,700	0
2004年度	135,000	124,198	10,802	74,300	67,000	7,300
2005年度	151,000	121,965	29,035	68,500	65,295	3,205
2006年度	145,000	106,363	38,637	82,531	59,517	23,014
2007年度	149,000	127,456	21,544	61,800	52,051	9,749
2008年度	149,000	136,854	12,146	79,412	49,579	29,833
2009年度	135,000	83,331	51,669	60,470	24,432	36,038
2010年度	108,000	37,726	70,274	33,200	32,072	1,128
2011年度	128,000	81,302	46,698	38,136	28,509	9,627
2012年度	128,000	85,741	42,259	34,000	28,262	5,738
2013年度	111,000	64,354	46,646	34,632	40,693	6,061
2014年度	89,284	50,114	39,170	35,139	39,222	4,083
2015年度	82,588	58,001	24,587	38,192	47,376	9,184
2016年度	99,989	83,014	16,975	47,165	41,384	5,781
2017年度	94,576	52,420	42,156	66,113	70,786	4,673
2018年度	81,116	62,745	18,371	37,720	41,385	3,665
累計	1,921,553	1,387,809	533,744	862,010	758,263	103,747

(18) 5か年毎の事業費の財源内訳

2003年度から2017年度までの15年間を5カ年毎で3期に区分して事業収入、補助金等収入の予算額・決算額比率の平均を算出した。5カ年毎の事業収入と補助金等収入の比率は増減しながら、事業収入5割、補助金等収入5割の前後を推移している。

事業収入、補助金等収入の予算額・決算額のバランス※

	事業収入		補助金等収入	
	予算額	決算額	予算額	決算額
第1期 平均 2003年度～2007年度	46.9%	50.7%	53.1%	49.3%
第2期 平均 2008年度～2012年度	46.6%	54.7%	53.4%	45.3%
第3期 平均 2013年度～2017年度	46.3%	51.4%	53.7%	48.6%
2018年度	49.5%	48.6%	50.5%	51.4%

※平均割合は加重平均(5年間ごとに各収入の累計を収入全体の累計で割った数値)となっている。

II

觀客調查結果

序 観客調査の実施要領

観客調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2018年度に北九州芸術劇場で実施した主催事業および提携・協力事業公演24公演
- 配布・回収方法:各公演の開演時に配布、終演時に回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 実施時期: 2018年4月7日～2019年3月29日
- 有効回答数:940、回収率:12.3%(配布数:7,661件)
- 調査対象の公演名、会場、ジャンル、公演ごとの配布数、回収数等の詳細は、図表-資 I -1のとおりである。

図表-資 I -1 アンケート調査実施公演一覧

公 演 名	会 場	公演ジャンル	配布 日	配布 数	回収 数	回収率 (%)
MONO「隣の芝生も。」	小劇場	小劇場・現代演劇	4/7	100	18	18.0%
赤道の下のマクベス	中劇場	小劇場・現代演劇	4/15	431	50	11.6%
「寿歌」	小劇場	小劇場・現代演劇	5/26	99	18	18.2%
PARCO プロデュース 2018「ハングマン」	中劇場	小劇場・現代演劇	6/21	261	35	13.4%
北九州芸術劇場プロデュース / 市民参加 企画 合唱物語「わたしの青い鳥 2018」	中劇場	音楽劇	7/1	411	65	15.8%
フィリップ・ドゥクフレ / DCA「新作短 編集(2017)－Nouvells Pièces Courtes」	中劇場	ダンス・現代舞踊	7/7	238	51	21.4%
「劇トツ×20分」2018	小劇場	小劇場・現代演劇	7/8	156	46	29.5%
大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2018—海外編—「ホワイテ “White”」	小劇場	パフォーマンス	7/20	48	3	6.3%
シアターサーカス「MACHINE DE CIRQUE マシン・ド・シルク」	中劇場	パフォーマンス	8/2	593	26	4.4%
大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2018「不思議の国のアリス」	中劇場 舞台上	ダンス・現代舞踊	8/11	178	31	17.4%
二兎社「ザ・空気 ver.2 誰も書いては ならぬ」	中劇場	小劇場・現代演劇	8/25	635	79	12.4%
森下真樹「ベートーヴェン交響曲第 5 番 『運命』全楽章を踊る」	小劇場	ダンス・現代舞踊	9/22	115	20	17.4%
北九州芸術劇場+市民共同創作リーディ ング「Re:北九州の記憶」	小劇場	小劇場・現代演劇	10/7	126	30	23.8%
PARCO プロデュース 2018「チルドレン」	中劇場	小劇場・現代演劇	10/13	378	59	15.6%
ゴジゲン第 15 回公演「君が君で君で君を 君を君を」	小劇場	小劇場・現代演劇	10/19	79	9	11.4%
NODA・MAP 第 22 回公演「贗作 桜の 森の満開の下」	大ホール	小劇場・現代演劇	10/25	1,194	78	6.5%
ゲゲゲの先生へ	大ホール	小劇場・現代演劇	11/17	873	94	10.8%
北九州術劇場プロデュース 九州男児劇 「せなに泣く」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/29	99	14	14.1%
KERA・MAP #008 「修道女たち」	中劇場	小劇場・現代演劇	12/1	432	37	8.6%
空晴+南河内万歳一座☆オールスターズ 「隠れ家」	小劇場	小劇場・現代演劇	3/2	60	14	23.3%
シアターラボ 2019 リーディング公演	創造工房 ・稽古場	小劇場・現代演劇	3/9	60	29	48.3%
ストップギャップダンスカンパニー「エノ ーマスルーム」	小劇場	ダンス・現代舞踊	3/16	109	18	16.5%
山海塾「Arc 薄明・薄暮」世界初演	中劇場	ダンス・現代舞踊	3/23	370	65	17.6%

公 演 名	会 場	公演ジャンル	配布 日	配布 数	回収 数	回収率 (%)
コント集団カジャラ 第4回公演「怪獣たちの宴」	中劇場	小劇場・現代演劇	3/29	616	51	8.3%
計	—	—	—	7,661	940	12.3%

(注) 配布数は、アンケートを配布する公演初日の入場者数と設定している。

(2) 調査項目

- 来場公演名、ジャンル(調査票の右肩に記載されている公演名から分類)
- 北九州芸術劇場での鑑賞活動(鑑賞した公演、公演に来た理由、情報入手経路)
- 公演内容や劇場サービスに対する満足度、総合満足度
- 運営方針に対する賛同
- 公演鑑賞前後の飲食やショッピング
- 日頃の芸術鑑賞活動(鑑賞頻度、北九州芸術劇場での鑑賞経験)
- 来場の妨げになっていること
- 基本属性(性別、年齢層、居住エリア、チケットクラブへの入会)

(3) 来場公演のジャンル、年齢の分類

①来場公演のジャンル

- 調査結果の集計にあたっては、ジャンルごとの傾向を把握するため、公演を「小劇場・現代演劇」、「音楽劇」、「ダンス・現代舞踊」、「パフォーマンス」の4つのジャンルに分類した(例年では、「ミュージカル・商業演劇」、「古典芸能(歌舞伎・能等)」を加えて集計しているが、2018年度は当該分野の事業が行われなかった)。
- 調査対象24公演のジャンル分類は図表-資 I -1にも記しているとおり、
 - 小劇場・現代演劇： 16公演 ※下記他ジャンルの12公演以外
 - 音楽劇： 1公演…北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥 2018」
 - ダンス・現代舞踊： 5公演…フィリップ・ドックフレ/DCA「新作短編集(2017)－Nouvelles Pièces Courtes」／大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2018「不思議の国のアリス」／森下真樹「ベートーヴェン交響曲第5番『運命』全楽章を踊る」／ストップギャップダンスカンパニー「エノーマスルーム」／山海塾「Arc 薄明・薄暮」世界初演
 - パフォーマンス： 2公演…大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2018—海外編—「ホワイト“White”」／シアターサーカス「MACHINE DE CIRQUE マシーン・ド・シルク」

となっている。

※18年度のアンケート結果は、「小劇場・現代演劇」の観客が多いことに留意が必要であるが、劇場全体の公演プログラムとして「小劇場・現代演劇」が多いことを考えると、18年度の観客全体と回答者像に大きな乖離はないと考えられる。

②年齢層

- 実数で記載されている年齢については、年齢ごとの傾向を把握するため、「18歳未満」、「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の6つの年齢層に分類した。

(4) 基本分析軸の設定

- アンケート調査結果の集計・分析にあたっては、鑑賞活動や満足度に関する傾向に顕著な差が出ると考えられる、「来場公演のジャンル」、「性別」、「年齢層」、「チケットクラブへの入会」、「北

九州芸術劇場での鑑賞経験」の5つを集計・分析の柱(基本分析軸)として設定した。

- なお、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」は、08年度までは「今日が初めて」「1～5回」「6回以上」の3分類としていたが、鑑賞経験の多い来場者が増えてきたことに伴い、09年度からは、「今日が初めて」「1～2回」「3～5回」「6～10回」「11回以上」の5分類としている。
- 基本分析軸の詳細は図表-資 I -2のとおりである。

図表-資 I -2 基本分析軸

基本分析軸	項目	回収数	占有率
全 体		940	—
来場公演の ジャンル n=940	小劇場・現代演劇	664	70.6%
	音楽劇	65	6.9%
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0%
	古典芸能(歌舞伎・能等)	0	0.0%
	ダンス・現代舞踊	185	19.7%
	パフォーマンス	26	2.8%
性別 n=835	男性	186	22.3%
	女性	649	77.7%
年齢層 n=793	18歳未満	47	5.9%
	18～29歳	88	11.1%
	30歳代	101	12.7%
	40歳代	196	24.7%
	50歳代	206	26.0%
	60歳以上	155	19.5%
チケットクラブへの 入会 n=825	加入	237	25.2%
	未加入	588	62.6%
北九州芸術劇場 での鑑賞経験 n=833	今日が初めて	205	21.8%
	1～2回	107	11.4%
	3～5回	160	17.0%
	6～10回	120	12.8%
	11回以上	241	25.6%

(注1) 基本分析軸に無回答は含まない。

(注2) 無回答の件数は、性別:105件、年齢層:147件、チケットクラブへの入会の有無:115件、北九州芸術劇場での鑑賞経験:107件である。「来場公演のジャンル」は、調査票にあらかじめ記載された公演名から分類するため、無回答はゼロである。

1 属性

回答者の性別は、「男性」が22.3%、「女性」が77.7%と、「女性」の割合が高い。

		調査数(n)	Q12性別 (単位: %)	
			男性	女性
全体		835	22.3	77.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	599	22.7	77.3
	音楽劇	53	30.2	69.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	158	20.9	79.1
	パフォーマンス	25	4.0	96.0
性別	男性	186	100.0	0.0
	女性	649	0.0	100.0
年齢層	18歳未満	46	21.7	78.3
	18～29歳	88	31.8	68.2
	30歳代	101	19.8	80.2
	40歳代	196	20.4	79.6
	50歳代	206	23.8	76.2
	60歳以上	154	20.1	79.9
チケットクラブ	加入	237	14.8	85.2
	未加入	578	24.9	75.1
鑑賞経験	今日が初めて	203	27.6	72.4
	1～2回	106	23.6	76.4
	3～5回	156	21.8	78.2
	6～10回	120	23.3	76.7
	11回以上	237	15.6	84.4

※n=835は、無回答(105件)を除く。

※表中の網掛け部分は、各属性のうち無回答以外の最高の占率を表す(以下、いずれの表についても同様)。

[来場公演のジャンル別]

- いずれのジャンルでも「女性」の割合が高い。「音楽劇」で「男性」の割合が30.2%と他のジャンルに比べて高い

[年齢別]

- いずれの年齢層でも「女性」の割合が高い。「18～29歳」で「男性」の割合が31.8%と他の年齢層に比べて高い。

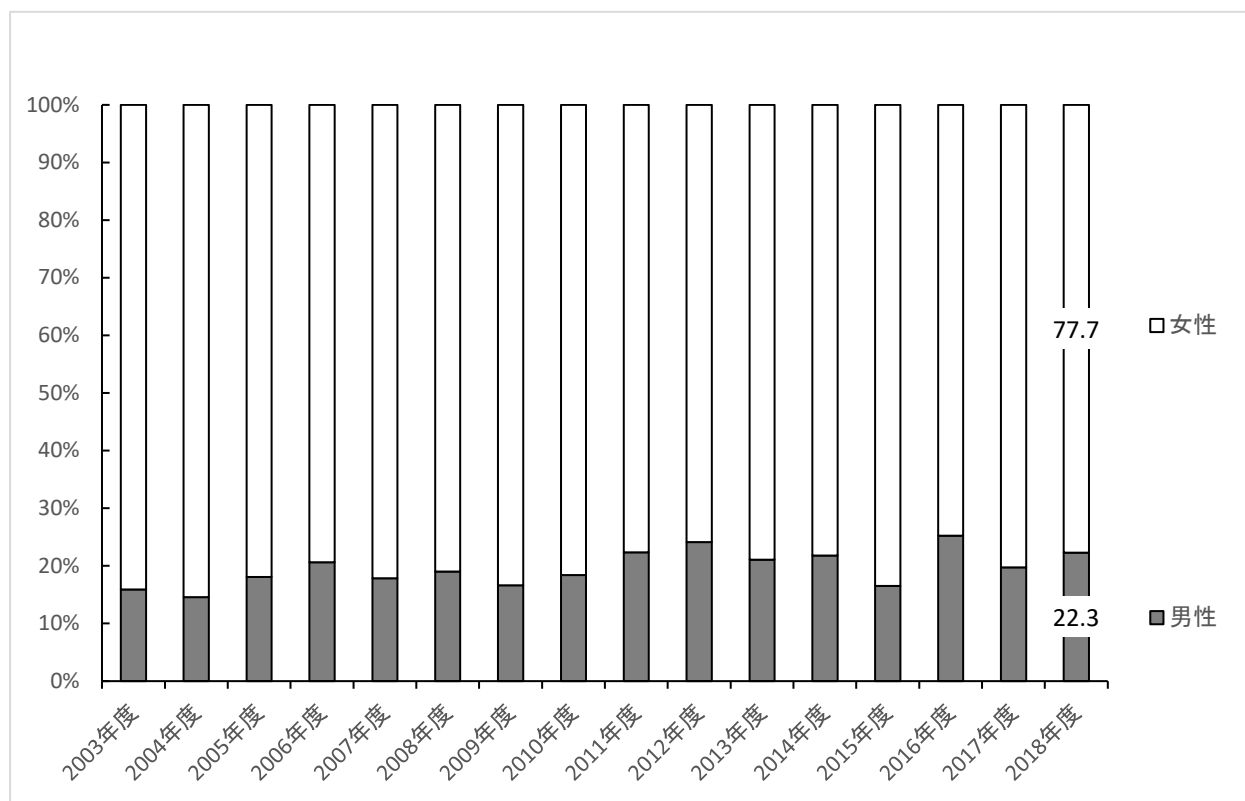
[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 「加入」は「女性」が85.2%と特に割合が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 鑑賞経験を問わず「女性」の割合が高い。6～10回では「男性」の割合が24.3%と他の鑑賞経験に比べて高い。

性別の割合の推移を見ると、「女性」は7割から8割、「男性」は2割から3割のあいだを増減している。



回答者の平均年齢は45.6歳。「50歳代」が26.0%と最も割合が高い。「40歳代」が24.7%、「60歳以上」が19.5%、「30歳代」が12.7%、「18～29歳」が11.1%、「18歳未満」が5.9%と、幅広い年齢層の観客が来場している。

		調査数 (n)	Q13年齢層 (単位: %)						平均年 齢(歳)
			18歳未 満	18～29 歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以 上	
全体		793	5.9	11.1	12.7	24.7	26.0	19.5	45.6
ジャンル	小劇場・現代演劇	567	3.5	13.2	13.1	23.8	26.8	19.6	46.0
	音楽劇	49	10.2	8.2	12.2	26.5	18.4	24.5	45.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	152	11.2	5.3	12.5	26.3	27.0	17.8	44.7
	パフォーマンス	25	20.0	4.0	8.0	32.0	16.0	20.0	41.1
性別	男性	178	5.6	15.7	11.2	22.5	27.5	17.4	44.6
	女性	613	5.9	9.8	13.2	25.4	25.6	20.1	45.9
年齢層	18歳未満	47	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.6
	18～29歳	88	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.9
	30歳代	101	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	35.0
	40歳代	196	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	44.5
	50歳代	206	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	53.9
	60歳以上	155	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	65.0
チケット クラブ	加入	220	0.5	5.9	8.2	28.6	31.8	25.0	50.2
	未加入	555	7.7	13.2	14.8	22.7	24.1	17.5	43.9
鑑賞 経験	今日が初めて	192	7.8	22.4	20.8	24.5	17.7	6.8	38.3
	1～2回	103	5.8	17.5	15.5	24.3	23.3	13.6	42.5
	3～5回	154	6.5	8.4	10.4	23.4	26.6	24.7	47.0
	6～10回	114	5.3	7.9	14.9	26.3	27.2	18.4	46.8
	11回以上	218	4.1	2.3	5.0	24.8	33.5	30.3	51.6

※n=793は、無回答(147件)を除く。

[来場公演のジャンル別]

- 平均年齢が最も高いのは「小劇場・現代演劇」の45.6歳、最も低いのは「パフォーマンス」の41.1歳となっている。

[性別]

- 平均年齢は、「男性」が44.6歳、「女性」が45.9歳と、女性の平均年齢が若干高い。
- 「男性」では「18～29歳」の割合が女性に比べて高い。

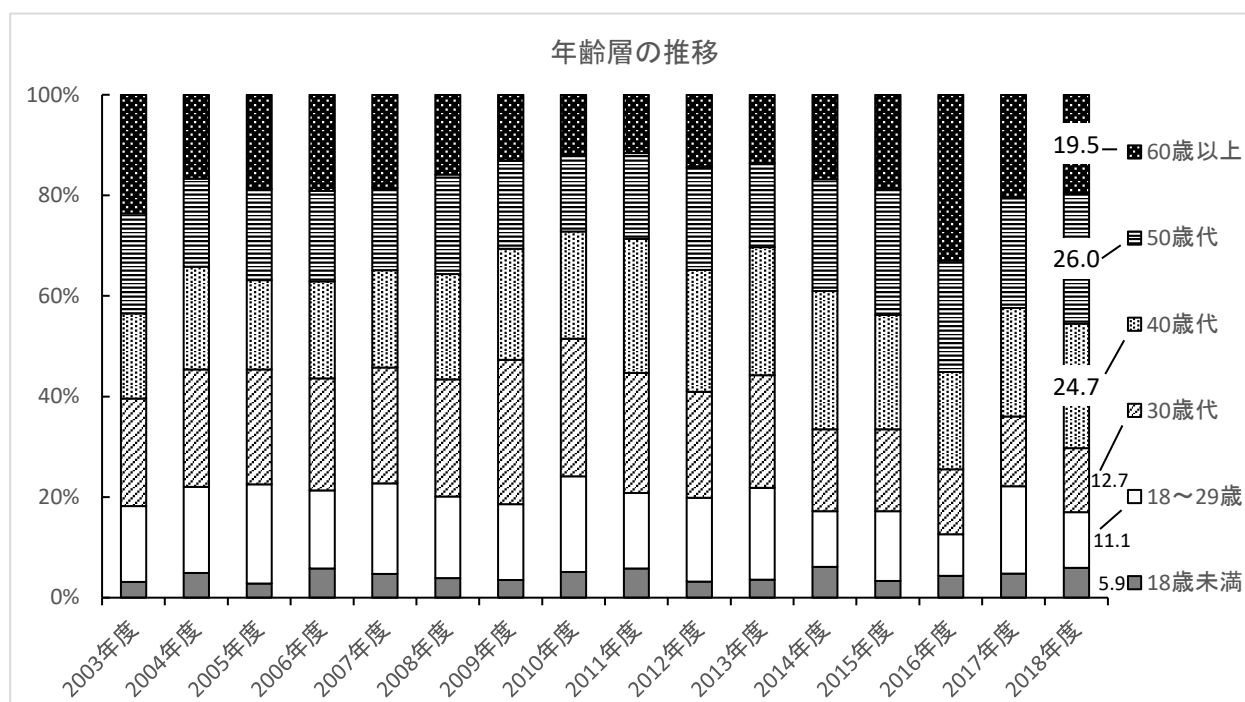
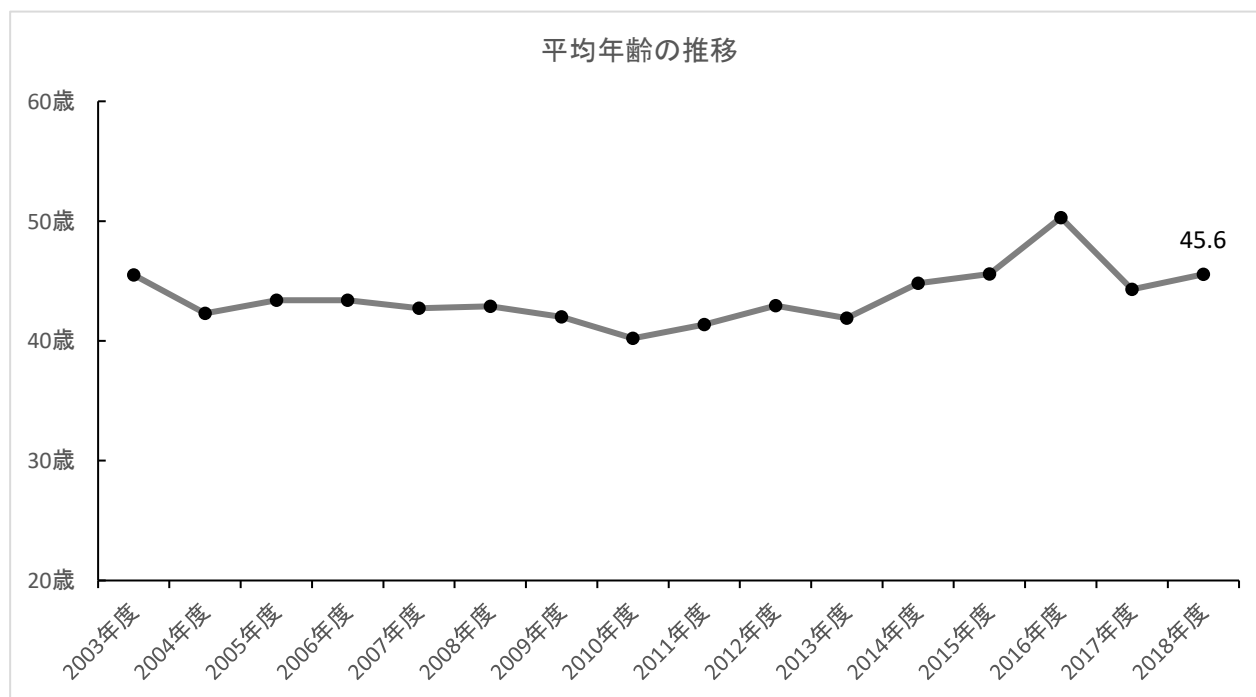
[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 「加入」の場合の平均年齢は50.2歳、「未加入」の場合は43.9歳と、加入の平均年齢が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど概ね平均年齢が高い。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が2回以下の回答者では、「18～29歳」の割合が高い。

年齢層の割合の推移を見ると、2016年度が最も平均年齢が高く50.3歳となったが、それ以外は40歳代で推移している。年齢層の推移を見ると、2004年度から2010年度までは「30歳代」が最も高い割合だったのが、2011年度以降は「40歳代」「50歳代」「60歳以上」の割合が最も高い年度が続いている。



回答者の居住エリアは、北九州市及び周辺地域が50.1%（「北九州市」：43.7%、北九州市周辺：6.4%）を占めるが、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は37.7%となっている。福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県（22件）、熊本県（18件）、佐賀県（12件）、長崎県（8件）、宮崎県（5件）、鹿児島県（9件）等の記載がある。九州・山口以外では、沖縄県、千葉県の回答もある。

		調査数 (n)	Q11居住エリア (単位：%)							北九州市 + 周辺	北九州 以外の市 + 周辺
			北九州市	北九州市 周辺	福岡市 + 周辺	北九州 以外の市・ 福岡周	山口県	その他	無回答		
	全体	940	43.7	6.4	13.7	10.6	8.9	4.4	12.2	50.1	37.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	38.4	6.3	16.4	12.7	10.7	4.5	11.0	44.7	44.3
	音楽劇	65	66.2	7.7	0.0	6.2	0.0	1.5	18.5	73.8	7.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	49.7	6.5	10.8	6.5	5.9	4.9	15.7	56.2	28.1
	パフォーマンス	26	80.8	3.8	0.0	0.0	7.7	3.8	3.8	84.6	11.5
性別	男性	186	47.3	7.0	13.4	15.1	7.5	4.8	4.8	54.3	40.9
	女性	649	49.6	6.9	15.9	10.9	10.6	4.8	1.2	56.5	42.2
年齢層	18歳未満	47	74.5	0.0	0.0	4.3	17.0	2.1	2.1	74.5	23.4
	18～29歳	88	34.1	9.1	25.0	15.9	3.4	10.2	2.3	43.2	54.5
	30歳代	101	39.6	7.9	10.9	20.8	10.9	6.9	3.0	47.5	49.5
	40歳代	196	47.4	6.6	17.9	12.8	6.6	6.1	2.6	54.1	43.4
	50歳代	206	44.2	5.3	18.4	9.7	18.0	2.9	1.5	49.5	49.0
	60歳以上	155	65.8	11.0	8.4	8.4	4.5	0.6	1.3	76.8	21.9
チケット クラブ	加入	237	57.4	5.5	15.6	8.4	11.0	0.8	1.3	62.9	35.9
	未加入	588	45.6	7.8	14.6	13.3	9.2	6.5	3.1	53.4	43.5
鑑賞経験	今日が初めて	205	24.4	6.8	21.0	23.4	6.8	15.1	2.4	31.2	66.3
	1～2回	107	45.8	7.5	11.2	13.1	13.1	5.6	3.7	53.3	43.0
	3～5回	160	55.0	7.5	10.6	10.6	11.9	0.6	3.8	62.5	33.8
	6～10回	120	60.8	7.5	18.3	5.0	5.0	1.7	1.7	68.3	30.0
	11回以上	241	60.2	6.6	13.7	5.8	11.6	0.4	1.7	66.8	31.5

〔来場公演のジャンル別〕

- ジャンルを問わず「北九州市」の占める割合が最も高く、特に「北九州市」の割合が高いのは「パフォーマンス」（80.8%）となっている。

〔性別〕

- 性別では、男女ともに「北九州市」の割合が高いものの、性別で大きな差はない。

〔年齢別〕

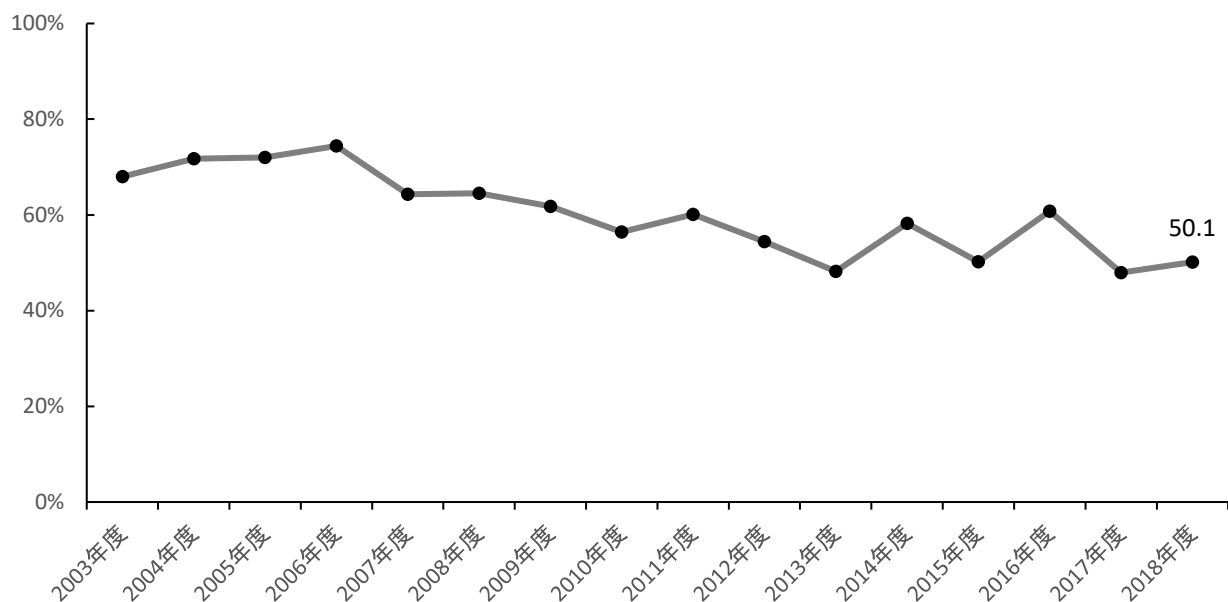
- 「北九州市」の割合は、18歳未満と60歳以上で高く、それぞれ74.5%、65.8%となっている。
- その他の年代では30代を除き、「北九州市」に次いで「福岡市＋周辺」からの来場者の割合も高い。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

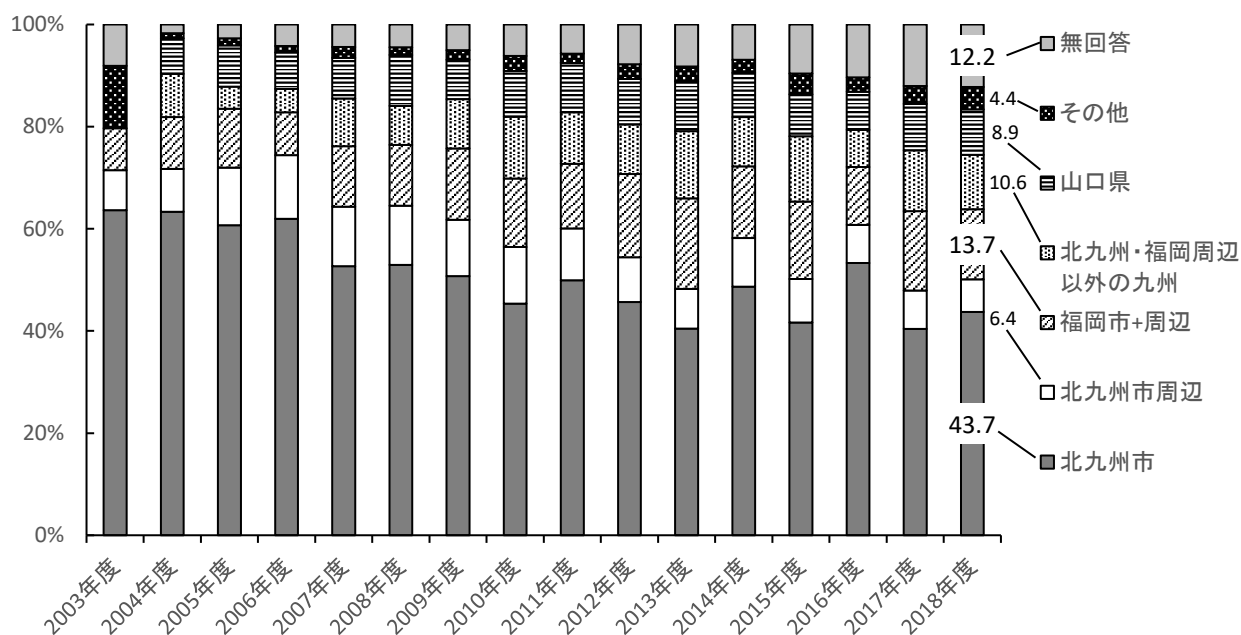
- 11回以上の来場者は60.2%が「北九州市」の居住となっており、鑑賞経験が多いほど「北九州市」の割合が高い傾向となっている。市内に居住していること（＝劇場に来やすいこと）が鑑賞経験にも影響しているものと考えられる。

居住エリアの推移を見ると、北九州市及び周辺の来場者は開館当初は7割から8割だったが、徐々に北九州市及び周辺以外からの来場者の割合が伸びており、2013年は北九州市及び周辺地域が48.2%、それ以外のエリアの割合が43.6%となった。2014年度以降は北九州市及び周辺地域が5割から6割を推移している。

居住エリア(北九州市+周辺の割合)の推移



居住エリアの推移



チケットクラブに加入している割合は25.2%、加入していない割合は62.6%である。

		調査数(n)	Q9チケットクラブへの入会 (単位: %)		
			はい	いいえ	無回答
全体		940	25.2	62.6	12.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	29.7	59.9	10.4
	音楽劇	65	6.2	75.4	18.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	15.7	67.6	16.8
	パフォーマンス	26	26.9	61.5	11.5
性別	男性	186	18.8	77.4	3.8
	女性	649	31.1	66.9	2.0
年齢層	18歳未満	47	2.1	91.5	6.4
	18～29歳	88	14.8	83.0	2.3
	30歳代	101	17.8	81.2	1.0
	40歳代	196	32.1	64.3	3.6
	50歳代	205	34.1	64.9	1.0
	60歳以上	153	35.3	62.7	2.0
チケットクラブ	加入	237	100.0	0.0	0.0
	未加入	588	0.0	100.0	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	205	8.3	89.3	2.4
	1～2回	107	7.5	90.7	1.9
	3～5回	160	23.1	75.0	1.9
	6～10回	120	38.3	59.2	2.5
	11回以上	241	52.7	46.5	0.8

[来場公演のジャンル別]

- チケットクラブに加入している割合(加入率)は、「小劇場・現代演劇」が29.7%と最も高い。

[性別]

- 加入率は、「男性」が18.8%、「女性」が31.1%と、女性の割合が高い。

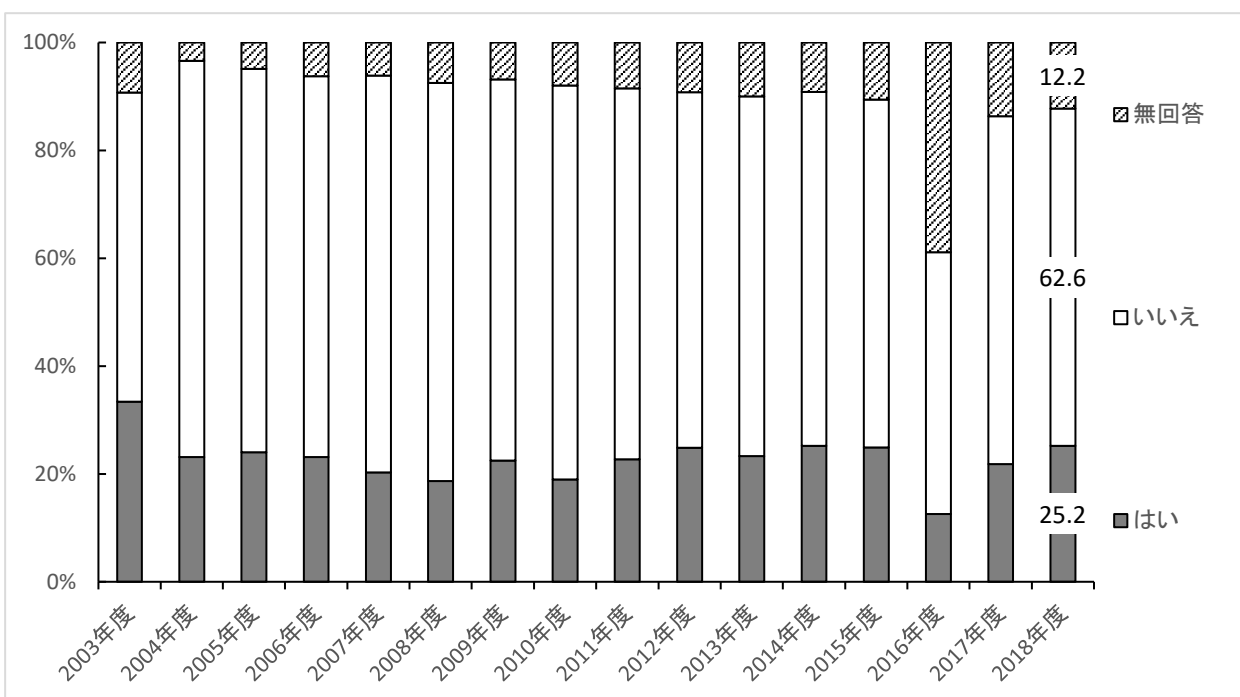
[年齢別]

- 加入率は、「60歳以上」が35.3%、「50歳代」が34.1%で高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど加入している割合は高く、特に、「11回以上」の加入率の高さは52.7%となっている。

チケットクラブの加入・非加入の割合の推移を見ると、「加入」の割合は2016年度に12.6%と最も低い割合となっているが、それ以外の年度は2割前後を推移している。



(5) チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向

Q9

現在チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向のある割合は15.6%、ない割合は48.6%である。無回答の割合も35.7%と高い(入会の意向が明確ではない人は無回答の場合が多いと考えられる)。

		全体	Q9-1今後の意向			(単位: %)
			はい	いいえ	無回答	
全体		588	15.6	48.6	35.7	
ジャンル	小劇場・現代演劇	398	18.1	45.5	36.4	
	音楽劇	49	2.0	67.3	30.6	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	125	12.0	51.2	36.8	
	パフォーマンス	16	25.0	50.0	25.0	
性別	男性	144	13.9	59.7	26.4	
	女性	434	16.6	45.2	38.2	
年齢層	18歳未満	43	11.6	58.1	30.2	
	18～29歳	73	13.7	58.9	27.4	
	30歳代	82	15.9	51.2	32.9	
	40歳代	126	20.6	44.4	34.9	
	50歳代	134	17.2	46.3	36.6	
	60歳以上	97	13.4	46.4	40.2	
チケットクラブ	加入	0	0.0	0.0	0.0	
	未加入	588	63.1	48.6	35.7	
鑑賞経験	今日が初めて	183	12.6	56.8	30.6	
	1～2回	97	14.4	50.5	35.1	
	3～5回	120	15.0	45.8	39.2	
	6～10回	71	22.5	45.1	32.4	
	11回以上	112	18.8	39.3	42.0	

※n=588は、チケットクラブ加入(237件)を除く。

〔来場公演のジャンル別〕

- ・ 今後の入会意向は、「パフォーマンス」が高く(25.0%)、音楽劇で低い(2.0%)。

〔性別〕

- ・ 性別で顕著な差は見当たらない。

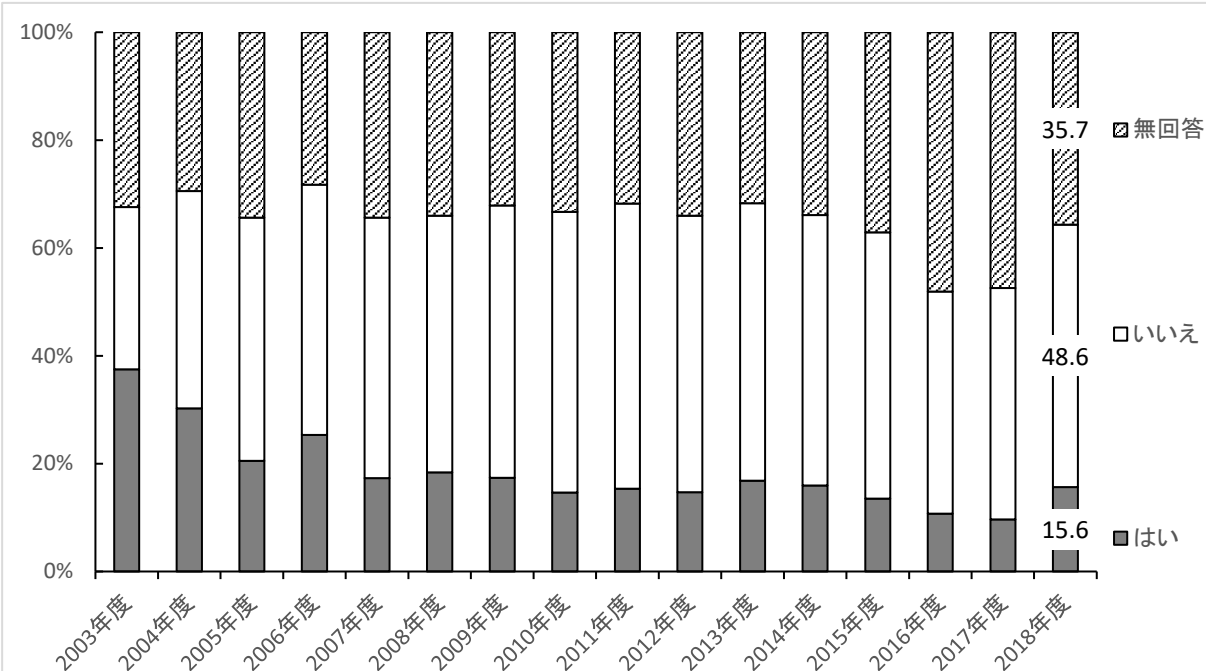
〔年齢別〕

- ・ 入会意向は「40歳代」で高く(20.6%)、「18歳未満」は低い(11.6%)。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

- ・ 入会意向は、「6～10回」のグループで高くなっている(22.5%)。概ね鑑賞経験が多いほど高い傾向となっている。

今後の入会意向の推移を見ると、2003年度は37.5%だったものの、2007年度以降は20%を下回っており、2017年度は9.7%と最も低い割合となっている。



2 本日の公演や劇場に関する意見

(1) 来場公演のジャンル

回答者が鑑賞した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が70.6%である。そのほかのジャンルについては、「ダンス・現代舞踊」が19.7%、「音楽劇」が6.9%、「ミュージカル・商業演劇」が2.8%となっている。

※ 2018年度のアンケート配布24公演のうち、「小劇場・現代演劇」が16公演を占めていることから、全体の数字は、「小劇場・現代演劇」の影響が大きいことに留意が必要である。

		調査数 (n)	ジャンル					(単位: %)
			小劇場・ 現代演劇	音楽劇	ミュージ カル・商 業演劇	古典芸能 (歌舞伎・ 能)	ダンス・ 現代舞踊	パフォー マンス
全体		940	70.6	6.9	0.0	0.0	19.7	2.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音楽劇	65	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	26	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
性別	男性	186	73.1	8.6	0.0	0.0	17.7	0.5
	女性	649	71.3	5.7	0.0	0.0	19.3	3.7
年齢層	18歳未満	47	42.6	10.6	0.0	0.0	36.2	10.6
	18～29歳	88	85.2	4.5	0.0	0.0	9.1	1.1
	30歳代	101	73.3	5.9	0.0	0.0	18.8	2.0
	40歳代	196	68.9	6.6	0.0	0.0	20.4	4.1
	50歳代	205	74.1	4.4	0.0	0.0	19.5	2.0
	60歳以上	153	72.5	7.8	0.0	0.0	16.3	3.3
チケット クラブ	加入	237	83.1	1.7	0.0	0.0	12.2	3.0
	未加入	588	67.7	8.3	0.0	0.0	21.3	2.7
鑑賞 経験	今日が初めて	205	73.7	7.8	0.0	0.0	16.6	2.0
	1～2回	107	64.5	11.2	0.0	0.0	21.5	2.8
	3～5回	160	68.1	6.3	0.0	0.0	21.3	4.4
	6～10回	120	70.8	8.3	0.0	0.0	17.5	3.3
	11回以上	241	76.8	2.5	0.0	0.0	18.3	2.5

[性別]

- 性別で顕著な差は見当たらない。

[年齢別]

- すべての年代で「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に「18～29歳」で高い。
- 「18歳未満」では「ダンス・現代舞踊」の割合が36.2%と他の年齢層に比べて高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 加入・未加入ともに「小劇場・現代演劇」の割合が最も高く、「加入」は83.1%を占めている。

[北九州芸術芸場での鑑賞経験別]

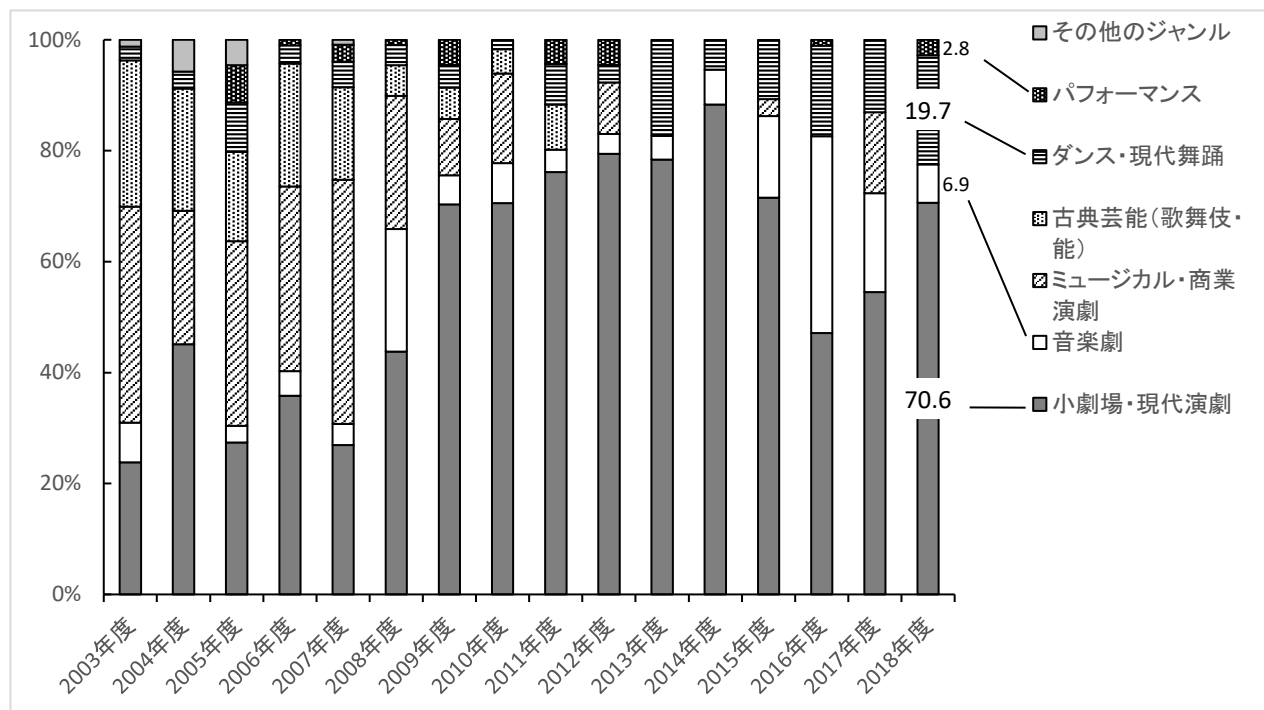
- すべて鑑賞経験の頻度で「小劇場・現代演劇」の割合が最も高くなっている。

[過去調査と比較して]

- 過去調査と比較して、07年度以降、若干の増減はあるが「小劇場・現代演劇」の割合が増加しており、14年度が最も高くなっている。

(1) 来場公演のジャンル

過去調査と比較して、2007年度までは「ミュージカル・商業演劇」の割合が大きかったが、07年度以降、若干の増減はあるが「小劇場・現代演劇」の割合が増加しており、14年度が最も高くなっている。
2013年度以降、年度によって増減はあるものの「ダンス・現代舞踊」の割合が増加する傾向にある。



(2) 公演情報の入手経路

Q1

公演情報の入手経路については、「友人・知人から聞いた」が19.1%、「ホームページ・ブログ」が18.5%、「他の公演会場で配布されたチラシ」(15.2%)となっており、続いて「Facebook、TwitterなどのSNS」(15.0%)となっている。

「雑誌・タウン情報誌」名の具体的な書き込みをみると「情報誌『Q』」(20件)、「ナッセ」(6件)、「かるかる」(4件)、「サンデー」(4件)、「リビング北九州」(3件)などの地域情報誌(紙)名の記載もある。

「その他」の具体的な書き込みをみると、ファンクラブからの案内、互助会の幹旋、保育園・幼稚園、学校、職場からの紹介なども多く、情報の入手経路は多様である。

※15年度から、14年度以前の調査で使用していた選択肢「インターネット・ホームページ」を「ホームページ・ブログ」と「Facebook、TwitterなどのSNS」の2つに分け、「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」を削除した。

		調査数（n）	Q1公演情報の入手経路												(単位: %)	
			雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	ホームページ、ブログ	Facebook、TwitterなどのSNS	友人・知人から聞いた	出演者、公演関係者から聞いた	その他	無回答	
全体		940	6.6	6.1	2.1	2.6	11.7	11.6	15.2	18.5	15.0	19.1	13.0	7.7	2.2	
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	6.2	6.3	2.0	2.1	9.8	13.4	16.7	22.0	19.1	18.4	10.2	6.9	2.3	
	音楽劇	65	1.5	1.5	1.5	3.1	6.2	0.0	3.1	4.6	0.0	26.2	63.1	3.1	4.6	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	185	10.3	6.5	3.2	4.3	18.9	9.7	15.1	11.4	7.0	21.1	7.0	9.2	1.6	
	パフォーマンス	26	3.8	7.7	0.0	0.0	23.1	7.7	7.7	15.4	3.8	7.7	0.0	26.9	0.0	
性別	男性	186	4.3	6.5	2.2	4.8	11.8	8.1	15.1	20.4	13.4	24.7	16.7	5.9	3.2	
	女性	649	7.2	6.2	1.7	2.0	12.3	13.6	16.0	19.9	15.9	17.6	10.2	8.6	0.9	
年齢層	18歳未満	47	4.3	2.1	0.0	0.0	19.1	2.1	4.3	6.4	4.3	40.4	10.6	12.8	2.1	
	18～29歳	88	0.0	0.0	1.1	1.1	5.7	2.3	10.2	26.1	40.9	28.4	18.2	2.3	2.3	
	30歳代	101	3.0	5.0	0.0	2.0	11.9	8.9	8.9	22.8	19.8	24.8	9.9	6.9	1.0	
	40歳代	196	7.7	3.6	0.5	2.6	10.7	13.3	14.8	27.0	16.8	12.2	9.2	7.7	1.0	
	50歳代	205	6.3	5.9	5.4	3.4	14.1	17.6	19.5	20.5	8.8	16.6	10.2	8.8	1.0	
	60歳以上	153	13.1	16.3	0.7	4.6	15.0	15.0	19.6	8.5	5.2	19.0	11.8	9.8	1.3	
チケットクラブ	加入	237	9.7	5.9	0.4	0.4	13.1	26.6	27.0	31.6	18.1	8.0	5.1	6.3	0.8	
	未加入	588	5.4	6.6	2.7	3.6	12.1	6.5	11.4	15.8	13.6	24.0	14.5	8.7	1.5	
鑑賞経験	今日が初めて	205	4.4	5.4	1.5	2.0	5.4	4.9	2.0	19.5	24.4	27.3	14.1	5.9	2.0	
	1～2回	107	2.8	3.7	2.8	3.7	10.3	3.7	11.2	13.1	10.3	29.9	21.5	4.7	0.9	
	3～5回	160	4.4	9.4	4.4	0.6	13.1	11.3	11.3	13.8	7.5	21.3	8.8	12.5	1.3	
	6～10回	120	5.8	5.8	0.0	1.7	12.5	8.3	16.7	21.7	13.3	13.3	14.2	8.3	1.7	
	11回以上	241	12.4	6.6	1.7	4.1	18.7	24.1	32.4	26.1	14.1	10.4	6.6	8.7	1.2	

[来場公演のジャンル別]

- 公演情報の入手経路は、ジャンルによって特徴があり、以下の割合が最も高い
 - 小劇場・現代演劇:「ホームページ、ブログ」(22.0%)
 - 音楽劇:「友人・知人から聞いた」(63.1%)
 - ダンス・現代舞踊:「友人・知人から聞いた」(21.1%)

[性別]

- 「男性」は「友人・知人から聞いた」、「女性」は「ホームページ・ブログ」の割合が最も高い。

[年齢別]

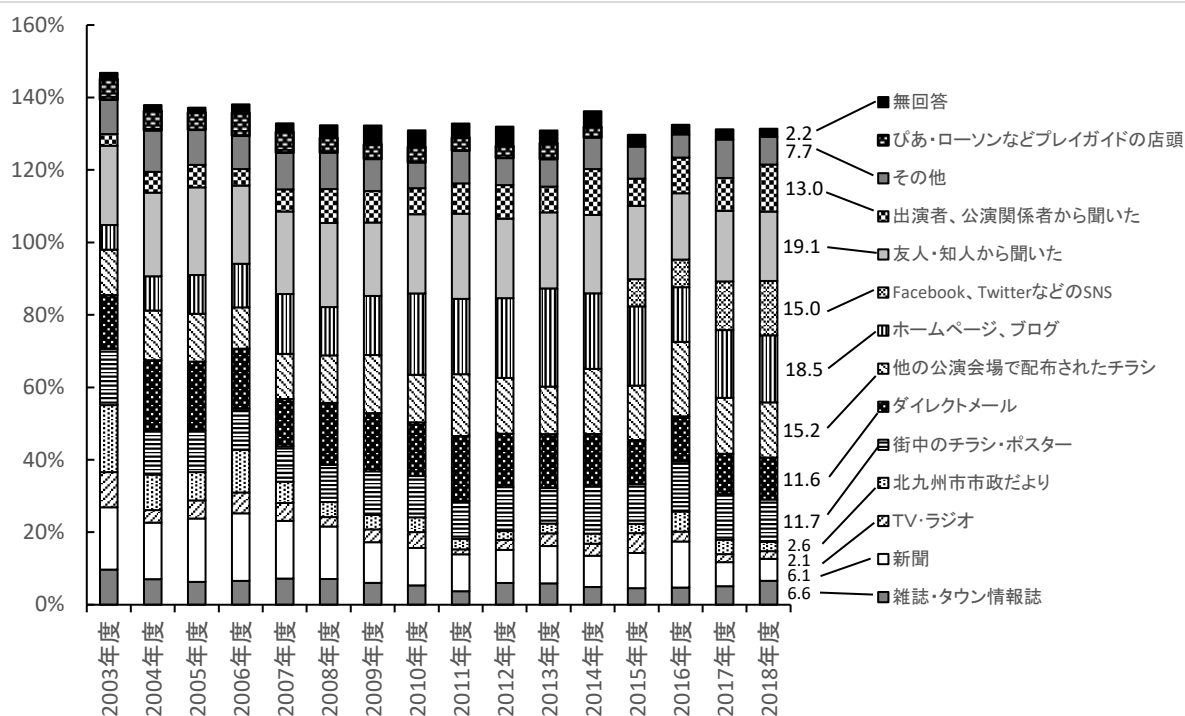
- 公演情報の入手経路は、年齢による特徴も顕著で、「18歳未満」と「30歳代」では「友人・知人から聞いた」、「18～29歳」では「Facebook、TwitterなどのSNS」、「40歳代」と「50歳代」は「ホームページ、ブログ」、「60歳以上」は「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 「加入」は「ホームページ・ブログ」が31.6%で最も高く、次いで「他の公演会場で配布されたチラシ」、「ダイレクトメール」が高い割合を占める。これら3項目の割合の高さは、未加入と比べて顕著である。
- 一方、未加入の場合は、「友人・知人から聞いた」が24.0%と最も高く、次いで「ホームページ、ブログ」、「出演者、公演関係者から聞いた」となっている。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が5回までの回答者では「友人・知人から聞いた」の割合が最も高く、「6～10回」は「ホームページ、ブログ」、「11回以上」は「他の公演で配布されたチラシ」の割合が最も高い。
- 鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」の割合は多くなる傾向にある一方で、「友人・知人から聞いた」の割合は少なくなる傾向にある。



2011年度以降は「ホームページ、ブログ」と「友人・知人から聞いた」と最上位が年によって入れ替わっている。16年度は初めて「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い割合となった。

一方、年度によって増減はあるが、「新聞」の割合が06年度をピーク(18.7%)として減少、18年度はこれまでに最も低くなった(6.1%)。「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」も06年度(6.3%)から減少傾向にある。

(3) 公演に来た理由

Q2

公演に来た理由については、「公演内容が面白そうだったから」が54.1%、「出演者が好きだから」が49.9%となっている。

		調査数 (n)	Q2公演に来た理由 (単位: %)									
			から 出演者 等が 好きだ	から 出演者 等が 有名だ	う 公演 内容が 面白そ	か 劇場に 来て みた	から 劇場が 近くだ った	知 り合 い だ から 関係 者 が	人 に 誘 わ れ た か ら	ら 人 に 勧 め ら れ た か	そ の 他	無 回 答
全体		940	49.9	10.0	54.1	4.7	14.5	11.4	10.0	5.2	7.6	2.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	63.1	11.6	56.0	5.4	16.7	8.9	7.8	4.7	7.1	2.3
	音楽劇	65	10.8	3.1	20.0	0.0	3.1	63.1	20.0	10.8	4.6	4.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	22.7	8.1	56.2	4.3	8.6	3.8	15.1	5.9	8.6	1.6
	パフォーマンス	26	3.8	0.0	76.9	0.0	26.9	0.0	3.8	0.0	19.2	0.0
性別	男性	186	39.8	12.4	51.1	5.4	8.6	17.2	11.3	7.5	4.8	2.7
	女性	649	53.9	10.3	57.5	4.8	17.3	8.8	9.7	4.3	8.3	1.1
年齢層	18歳未満	47	19.1	4.3	51.1	8.5	12.8	14.9	40.4	12.8	8.5	4.3
	18～29歳	88	55.7	12.5	54.5	10.2	18.2	18.2	15.9	9.1	4.5	2.3
	30歳代	101	57.4	5.0	39.6	6.9	10.9	12.9	8.9	5.0	7.9	1.0
	40歳代	196	55.6	11.2	55.6	4.6	13.3	6.6	5.6	4.6	10.2	1.0
	50歳代	205	52.2	10.2	56.6	2.0	15.6	10.7	7.3	2.9	5.9	0.5
	60歳以上	153	41.2	13.1	68.6	5.2	19.0	8.5	9.8	5.2	8.5	1.3
チケット クラブ	加入	237	62.4	14.8	68.8	2.1	22.8	4.2	1.3	2.5	8.4	0.8
	未加入	588	46.6	9.0	50.0	6.1	12.2	13.4	13.6	6.0	7.1	1.4
鑑賞 経験	今日が初めて	205	49.8	7.3	38.5	14.1	7.8	14.6	16.6	6.8	6.3	2.4
	1～2回	107	44.9	9.3	45.8	3.7	11.2	17.8	15.9	12.1	9.3	0.9
	3～5回	160	49.4	11.3	52.5	3.8	13.8	8.8	10.6	4.4	5.6	0.6
	6～10回	120	47.5	11.7	62.5	0.8	15.8	15.0	7.5	2.5	12.5	0.8
	11回以上	241	56.4	13.3	72.2	0.4	24.1	4.6	3.7	2.5	6.2	1.2

[来場公演のジャンル別]

- 公演に来た理由は、ジャンルによって特徴があり、
 - 小劇場・現代演劇:「出演者等が好きだから」(63.1%)
 - 音楽劇:「公演内容が面白そうだったから」(63.1%)
 - ダンス・現代舞踊:「公演内容が面白そうだったから」(56.2%)
 - パフォーマンス:「公演内容が面白そうだったから」(76.9%)

の割合が最も高い。

[性別]

- 「男性」に比べて「女性」の割合が特に高いのは、「出演者等が好きだから」(53.9%)と「劇場が近かったから」(17.3%)。
- 「女性」に比べて「男性」の割合が特に高いのは「出演者や関係者が知り合いだから」(17.2%)。

【年齢別】

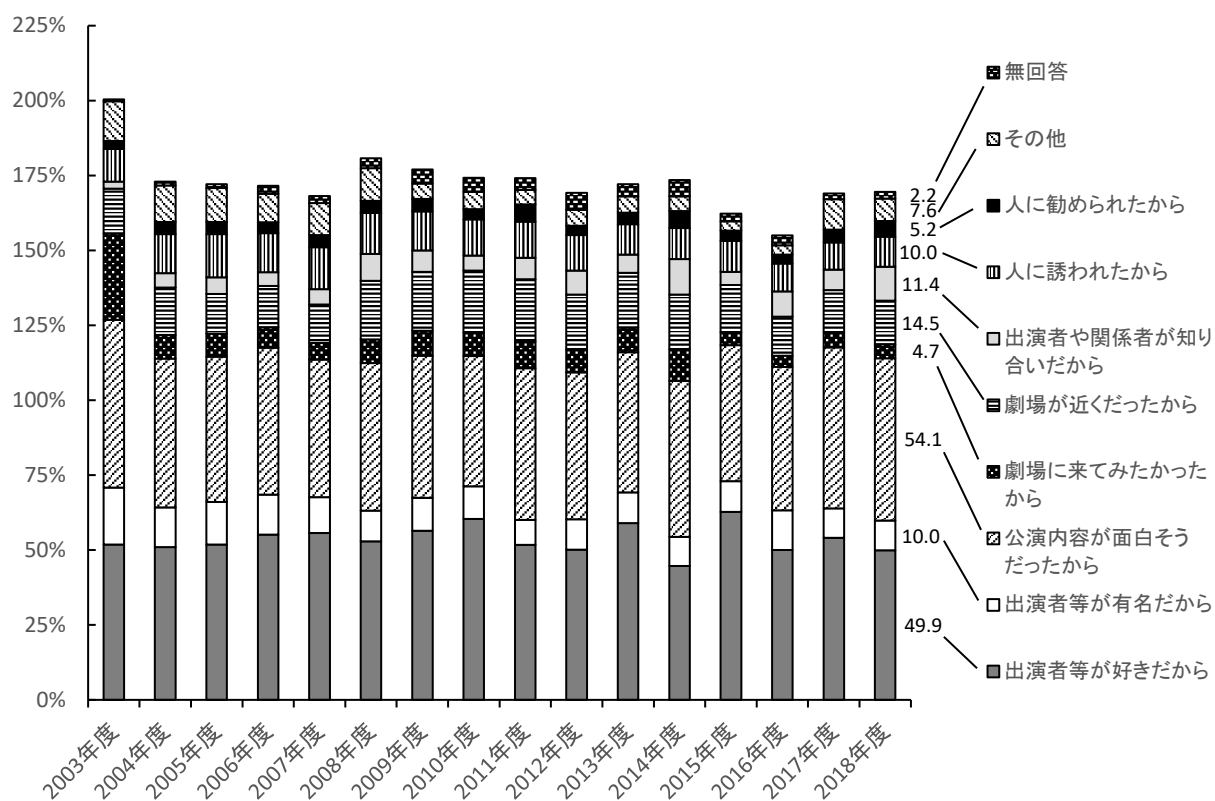
- ・「18歳未満」では「人に誘われたから」の割合が他の年代に比べて高い。
- ・「18～29歳」から「40歳代まで」は「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。

【チケットクラブへの加入・未加入別】

- ・「加入」では「公演内容が面白そうだったから」、「出演者等が好きだから」、「劇場が近くだったから」の割合が「未加入」に比べて高い。
- ・「未加入」では「人に誘われたから」、「出演者や関係者が知り合いだから」の割合が「加入」に比べて高い。

【北九州芸術劇場での鑑賞経験別】

- ・「今日が初めて」では「出演者等が好きだから」の割合が最も高く、それ以外の鑑賞経験では「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高くなっている。
- ・鑑賞経験が多いほど「公演内容が面白そうだったから」の割合が高く、鑑賞経験が少ないほど「人に誘われたから」の割合は高くなっている。



過去調査と比較して、18年度は03年度に次いで「公演内容が面白そうだったから」の割合が高くなっている。「公演内容が面白そうだったから」が「出演者等が好きだから」を上回ったのは03年度、14年度、18年度の3回となっている。15年度は「出演者等が好きだから」が過去最高の割合となった。

公演前後に飲食やショッピングをしている割合は51.3%である。飲食をしている場合の平均金額は1,776.7円、ショッピングをしている場合の平均金額は3,635.8円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額は増額し、ショッピング平均額は減少している。

(単位: %)					(単位: 円)		
		調査数 (n)	Q6公演前後の飲食・ショッピング			飲食をしている場合の 平均金額 (n=397)	ショッピングを している場合の平均金 額 (n=215)
			はい	いいえ	無回答		
全体		940	51.3	35.5	13.2	1776.7	3635.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	53.8	35.1	11.1	1809.5	3685.1
	音楽劇	65	38.5	38.5	23.1	1964.5	4563.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	47.6	35.7	16.8	1616.6	3375.6
	パフォーマンス	26	46.2	38.5	15.4	1510.0	2562.5
性別	男性	186	51.1	41.9	7.0	2076.3	3369.3
	女性	649	59.0	38.7	2.3	1693.7	3684.1
年齢層	18歳未満	47	40.4	44.7	14.9	1308.1	1514.3
	18～29歳	88	52.3	43.2	4.5	1245.4	2272.7
	30歳代	101	55.4	44.6	0.0	1772.9	2850.0
	40歳代	196	65.8	32.7	1.5	1780.4	3124.6
	50歳代	205	54.1	42.9	2.9	1910.4	3647.5
	60歳以上	153	62.7	32.7	4.6	1947.5	5063.4
チケットクラブ	加入	237	62.9	35.0	2.1	1614.9	3170.3
	未加入	588	54.9	41.5	3.6	1860.0	3888.4
鑑賞経験	今日が初めて	205	60.0	38.0	2.0	1971.0	4424.4
	1～2回	107	58.9	39.3	1.9	1741.4	2513.8
	3～5回	160	54.4	41.9	3.8	1854.3	4048.0
	6～10回	120	58.3	35.0	6.7	1607.8	2573.7
	11回以上	241	56.0	41.1	2.9	1625.8	4034.3

〔来場公演のジャンル別〕

- ・ 飲食・ショッピングの割合は「小劇場・現代演劇」が高い。飲食をしている場合の平均額、ショッピングをしている場合の平均金額では、ともに「音楽劇」が高い。

〔性別〕

- ・ 飲食やショッピングをしている割合は、「男性」が51.1%、「女性」が59.0%と「女性」の方が高い。飲食の平均金額では「男性」が「女性」を上回っている。

〔年齢別〕

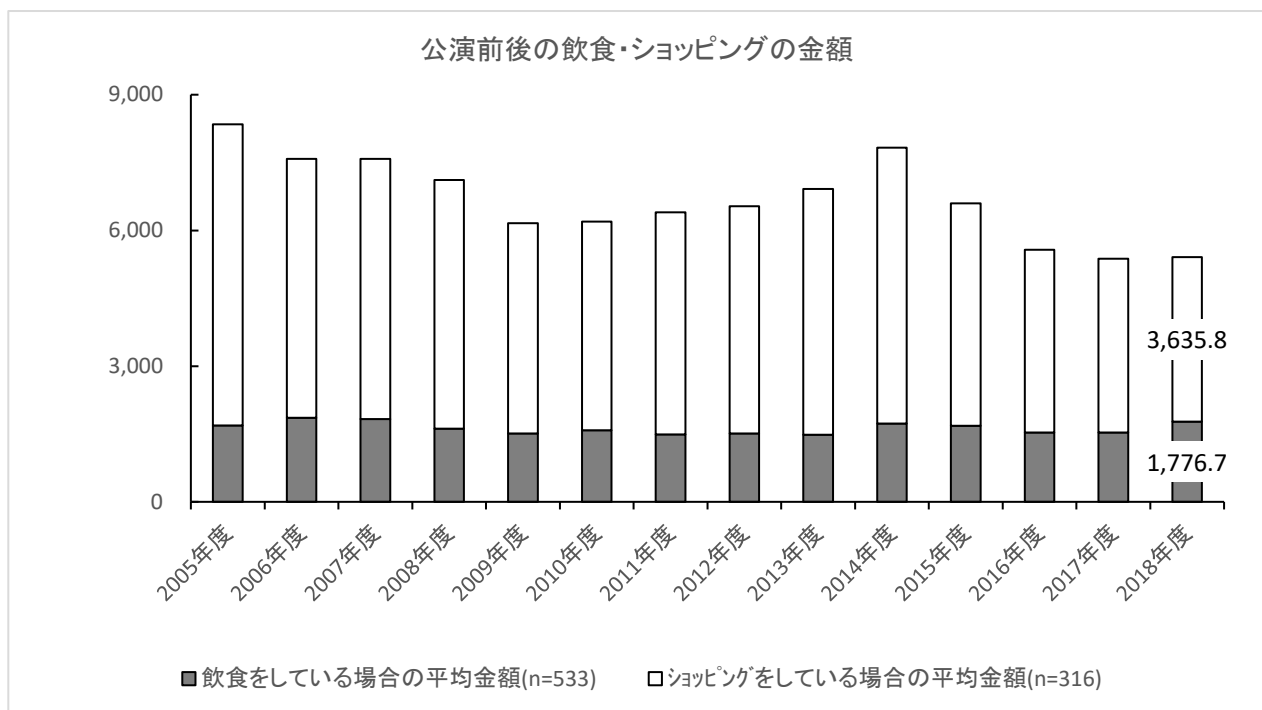
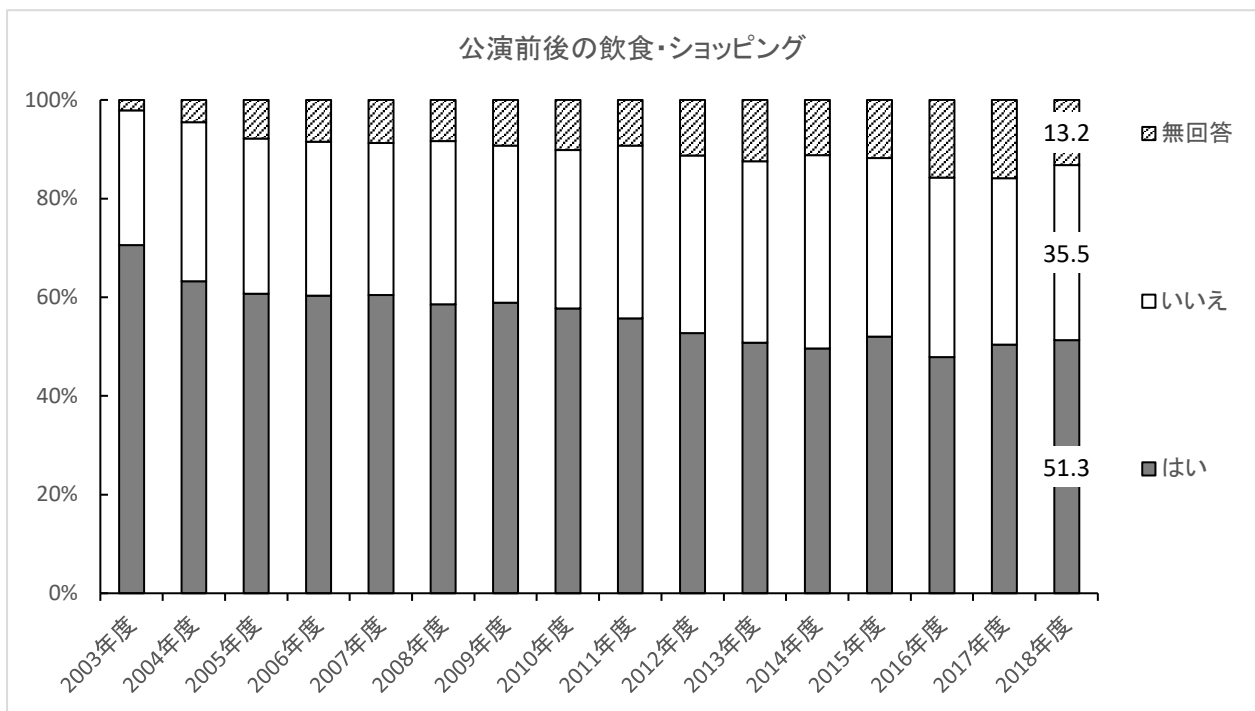
- ・ 飲食やショッピングをしている割合では「40歳代」が高く、飲食とショッピングの平均金額では「60歳以上」が最も高い。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

- ・ 飲食やショッピングをしている割合は、「加入」が62.9%、「未加入」は54.9%で、「加入」が「未加入」を上回っている。飲食とショッピングの平均金額では、「未加入」が「加入」を上回っている。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

- ・ 飲食やショッピングをしている割合は、「今日が初めて」が最も高く、飲食をしている場合の平均額でも「今日が初めて」が最も高い。



過去調査と比較して、年によって増減はあるものの、飲食やショッピングをしている割合は概ね減少傾向にあり、16年度の割合は過去最低となっている。飲食やショッピングの平均金額は、年度によってかなりの増減が見られるが、16年度から3力年の平均金額には大きな変化はない。

公演や劇場に対する9項目の満足度を満足層(※)の割合でみると、「劇場ロビーの飲食サービス」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」以外の6項目で満足層の割合が90%以上を占めており、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の4項目は95%を超えている。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

「たいへん満足」と回答した割合が高い(5割以上)のは、「本日の公演内容」(62.9%)、「劇場係員の応対」(52.2%)の2項目である。「本日の公演内容」については、ジャンル、性別、年齢層、鑑賞経験を問わず、満足層の割合と「たいへん満足」の割合はいずれも高い(ただし年齢層では、「60歳以上」で「無回答」の割合も高い)。ジャンル別では、パフォーマンスの「たいへん満足」の割合が他と比べてとても高い。

[来場公演のジャンル別]

- ジャンルで顕著な差は見られない。

[性別]

- 性別で顕著な差は見られない。

[年齢別]

- 「劇場ロビーの飲食サービス」については、「50歳代」の満足層の割合が低い。
- 満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに、年齢層が高いほど低くなり、この傾向は「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」の2項目で顕著である。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 加入・未加入別で顕著な差は見られない。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 鑑賞頻度で、満足度に顕著な差はみられない。

※無回答の割合が20%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」の3項目である。「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、サービスを利用したことがない人が無回答になっていると考えられる。

本日の公演内容

		全体	Q3-2					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層
			たいへん満足	まあ満足	少し不満	まったく不満	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満	まったく不満		
	全体	940	62.9	18.1	1.0	0.2	17.9	940	76.6	22.0	1.2	0.3	98.6	1.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	64.0	14.8	1.2	0.3	19.7	664	79.7	18.4	1.5	0.4	98.1	1.9
	音楽劇	65	52.3	26.2	0.0	0.0	21.5	65	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	59.5	28.6	0.5	0.0	11.4	185	67.1	32.3	0.6	0.0	99.4	0.6
	パフォーマンス	26	84.6	7.7	0.0	0.0	7.7	26	91.7	8.3	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	52.2	26.3	1.6	0.5	19.4	186	64.7	32.7	2.0	0.7	97.3	2.7
	女性	649	67.5	15.9	0.9	0.2	15.6	649	79.9	18.8	1.1	0.2	98.7	1.3
年齢層	18歳未満	47	70.2	10.6	0.0	0.0	19.1	47	86.8	13.2	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～29歳	88	75.0	11.4	0.0	0.0	13.6	88	86.8	13.2	0.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	101	75.2	15.8	1.0	0.0	7.9	101	81.7	17.2	1.1	0.0	98.9	1.1
	40歳代	196	67.9	16.3	0.5	1.0	14.3	196	79.2	19.0	0.6	1.2	98.2	1.8
	50歳代	205	61.0	20.5	1.5	0.0	17.1	206	73.1	25.1	1.8	0.0	98.2	1.8
	60歳以上	153	48.4	24.8	2.6	0.0	24.2	155	64.4	32.2	3.4	0.0	96.6	3.4
チケットクラブ	加入	237	62.4	16.0	1.3	0.0	20.3	237	78.3	20.1	1.6	0.0	98.4	1.6
	未加入	588	64.8	19.2	1.0	0.3	14.6	588	75.9	22.5	1.2	0.4	98.4	1.6
鑑賞経験	今日が初めて	205	70.2	15.6	0.5	0.0	13.7	205	81.4	18.1	0.6	0.0	99.4	0.6
	1～2回	107	73.8	15.0	0.9	0.0	10.3	107	82.3	16.7	1.0	0.0	99.0	1.0
	3～5回	160	58.8	24.4	1.9	0.0	15.0	160	69.1	28.7	2.2	0.0	97.8	2.2
	6～10回	120	60.0	21.7	0.8	1.7	15.8	120	71.3	25.7	1.0	2.0	97.0	3.0
	11回以上	241	59.8	16.2	1.2	0.0	22.8	241	77.4	21.0	1.6	0.0	98.4	1.6

(5) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度

Q3

本日の公演のチケット料金

(単位: %)

(単位: %)

		全体	Q3-2					「無回答」を除いた割合					満足層	不満足層
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
	全体	940	46.4	36.4	4.0	0.3	12.9	940	53.2	41.8	4.6	0.4	95.0	5.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	47.0	36.3	3.5	0.5	12.8	664	53.9	41.6	4.0	0.5	95.5	4.5
	音楽劇	65	41.5	33.8	4.6	0.0	20.0	65	51.9	42.3	5.8	0.0	94.2	5.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	43.8	38.4	5.9	0.0	11.9	185	49.7	43.6	6.7	0.0	93.3	6.7
	パフォーマンス	26	61.5	30.8	3.8	0.0	3.8	26	64.0	32.0	4.0	0.0	96.0	4.0
性別	男性	186	44.6	33.9	4.8	0.5	16.1	186	53.2	40.4	5.8	0.6	93.6	6.4
	女性	649	46.7	38.7	4.2	0.3	10.2	649	52.0	43.1	4.6	0.3	95.0	5.0
年齢層	18歳未満	47	61.7	19.1	4.3	0.0	14.9	47	72.5	22.5	5.0	0.0	95.0	5.0
	18～29歳	88	62.5	25.0	4.5	0.0	8.0	88	67.9	27.2	4.9	0.0	95.1	4.9
	30歳代	101	46.5	42.6	5.0	0.0	5.9	101	49.5	45.3	5.3	0.0	94.7	5.3
	40歳代	196	46.4	38.3	3.6	1.0	10.7	196	52.0	42.9	4.0	1.1	94.9	5.1
	50歳代	205	45.4	40.0	4.4	0.5	9.8	206	50.3	44.3	4.9	0.5	94.6	5.4
	60歳以上	153	33.3	43.1	5.2	0.0	18.3	155	41.7	52.0	6.3	0.0	93.7	6.3
チケットクラブ	加入	237	43.0	41.8	3.4	0.4	11.4	237	48.6	47.1	3.8	0.5	95.7	4.3
	未加入	588	47.3	36.6	4.8	0.3	11.1	588	53.2	41.1	5.4	0.4	94.3	5.7
鑑賞経験	今日が初めて	205	54.1	29.3	4.9	0.0	11.7	205	61.3	33.1	5.5	0.0	94.5	5.5
	1～2回	107	52.3	35.5	5.6	0.0	6.5	107	56.0	38.0	6.0	0.0	94.0	6.0
	3～5回	160	41.9	41.9	5.6	0.6	10.0	160	46.5	46.5	6.3	0.7	93.1	6.9
	6～10回	120	38.3	45.0	4.2	0.8	11.7	120	43.4	50.9	4.7	0.9	94.3	5.7
	11回以上	241	43.2	40.7	2.5	0.4	13.3	241	49.8	46.9	2.9	0.5	96.7	3.3

公演情報の入手のしやすさ

		全体	Q3-3					「無回答」を除いた割合					同上	
			同上					回答数	同上					
	全体	940	35.0	44.3	8.2	1.6	11.0	940	39.3	49.7	9.2	1.8	89.0	11.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	33.7	44.9	9.6	1.8	9.9	664	37.5	49.8	10.7	2.0	87.3	12.7
	音楽劇	65	41.5	33.8	0.0	1.5	23.1	65	54.0	44.0	0.0	2.0	98.0	2.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	34.1	47.6	6.5	1.1	10.8	185	38.2	53.3	7.3	1.2	91.5	8.5
	パフォーマンス	26	57.7	30.8	3.8	0.0	7.7	26	62.5	33.3	4.2	0.0	95.8	4.2
性別	男性	186	33.9	43.5	8.6	2.2	11.8	186	38.4	49.4	9.8	2.4	87.8	12.2
	女性	649	35.3	46.1	8.8	1.7	8.2	649	38.4	50.2	9.6	1.8	88.6	11.4
年齢層	18歳未満	47	51.1	27.7	4.3	0.0	17.0	47	61.5	33.3	5.1	0.0	94.9	5.1
	18～29歳	88	37.5	52.3	6.8	1.1	2.3	88	38.4	53.5	7.0	1.2	91.9	8.1
	30歳代	101	33.7	48.5	8.9	1.0	7.9	101	36.6	52.7	9.7	1.1	89.2	10.8
	40歳代	196	35.7	46.4	9.7	2.0	6.1	196	38.0	49.5	10.3	2.2	87.5	12.5
	50歳代	205	33.7	50.7	8.3	2.0	5.4	206	35.6	53.6	8.8	2.1	89.2	10.8
	60歳以上	153	26.8	41.2	11.1	3.3	17.6	155	33.6	49.2	13.3	3.9	82.8	17.2
チケットクラブ	加入	237	36.7	46.0	10.1	1.3	5.9	237	39.0	48.9	10.8	1.3	87.9	12.1
	未加入	588	34.7	45.1	8.3	2.0	9.9	588	38.5	50.0	9.2	2.3	88.5	11.5
鑑賞経験	今日が初めて	205	31.7	45.4	9.8	2.4	10.7	205	35.5	50.8	10.9	2.7	86.3	13.7
	1～2回	107	39.3	43.0	9.3	0.0	8.4	107	42.9	46.9	10.2	0.0	89.8	10.2
	3～5回	160	29.4	46.9	14.4	3.1	6.3	160	31.3	50.0	15.3	3.3	81.3	18.7
	6～10回	120	33.3	45.8	9.2	2.5	9.2	120	36.7	50.5	10.1	2.8	87.2	12.8
	11回以上	241	40.2	46.9	3.7	0.4	8.7	241	44.1	51.4	4.1	0.5	95.5	4.5

(5) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度

Q3

チケットの予約・購入のしやすさ

(単位: %)

(単位: %)

		全体	Q3-4					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
	全体	940	37.2	40.3	7.3	1.4	13.7	940	43.2	46.7	8.5	1.6	89.9	10.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	35.8	40.5	8.3	2.0	13.4	664	41.4	46.8	9.6	2.3	88.2	11.8
	音楽劇	65	35.4	35.4	4.6	0.0	24.6	65	46.9	46.9	6.1	0.0	93.9	6.1
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	39.5	42.7	5.4	0.0	12.4	185	45.1	48.8	6.2	0.0	93.8	6.2
	パフォーマンス	26	61.5	30.8	3.8	0.0	3.8	26	64.0	32.0	4.0	0.0	96.0	4.0
性別	男性	186	37.1	40.3	7.5	1.6	13.4	186	42.9	46.6	8.7	1.9	89.4	10.6
	女性	649	37.6	41.3	8.2	1.5	11.4	649	42.4	46.6	9.2	1.7	89.0	11.0
年齢層	18歳未満	47	51.1	29.8	2.1	0.0	17.0	47	61.5	35.9	2.6	0.0	97.4	2.6
	18～29歳	88	44.3	45.5	6.8	0.0	3.4	88	45.9	47.1	7.1	0.0	92.9	7.1
	30歳代	101	41.6	39.6	7.9	1.0	9.9	101	46.2	44.0	8.8	1.1	90.1	9.9
	40歳代	196	39.3	42.9	9.2	1.0	7.7	196	42.5	46.4	9.9	1.1	89.0	11.0
	50歳代	205	35.1	45.4	6.8	2.9	9.8	206	38.9	50.3	7.6	3.2	89.2	10.8
	60歳以上	153	26.1	39.2	11.1	1.3	22.2	155	34.2	50.0	14.2	1.7	84.2	15.8
チケットクラブ	加入	237	37.6	41.4	11.4	1.3	8.4	237	41.0	45.2	12.4	1.4	86.2	13.8
	未加入	588	37.9	41.0	6.8	1.5	12.8	588	43.5	47.0	7.8	1.8	90.4	9.6
鑑賞経験	今日が初めて	205	38.5	41.0	7.3	1.5	11.7	205	43.6	46.4	8.3	1.7	90.1	9.9
	1～2回	107	44.9	33.6	11.2	0.9	9.3	107	49.5	37.1	12.4	1.0	86.6	13.4
	3～5回	160	30.0	45.0	10.0	2.5	12.5	160	34.3	51.4	11.4	2.9	85.7	14.3
	6～10回	120	33.3	40.8	7.5	2.5	15.8	120	39.6	48.5	8.9	3.0	88.1	11.9
	11回以上	241	40.7	43.2	6.2	0.0	10.0	241	45.2	47.9	6.9	0.0	93.1	6.9

電話予約・チケットカウンターの対応

		全体	Q3-5					「無回答」を除いた割合					同上	
			同上					回答数	同上					
	全体	940	41.4	31.0	2.2	0.1	25.3	940	55.4	41.5	3.0	0.1	96.9	3.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	41.1	31.3	2.7	0.2	24.7	664	54.6	41.6	3.6	0.2	96.2	3.8
	音楽劇	65	40.0	29.2	1.5	0.0	29.2	65	56.5	41.3	2.2	0.0	97.8	2.2
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	40.0	31.9	1.1	0.0	27.0	185	54.8	43.7	1.5	0.0	98.5	1.5
	パフォーマンス	26	61.5	19.2	0.0	0.0	19.2	26	76.2	23.8	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	42.5	33.3	2.2	0.0	22.0	186	54.5	42.8	2.8	0.0	97.2	2.8
	女性	100	41.6	31.0	2.5	0.2	24.8	100	55.3	41.2	3.3	0.2	96.5	3.5
年齢層	18歳未満	47	53.2	19.1	2.1	0.0	25.5	47	71.4	25.7	2.9	0.0	97.1	2.9
	18～29歳	88	60.2	27.3	1.1	0.0	11.4	88	67.9	30.8	1.3	0.0	98.7	1.3
	30歳代	101	46.5	29.7	1.0	0.0	22.8	101	60.3	38.5	1.3	0.0	98.7	1.3
	40歳代	196	46.9	31.6	1.0	0.5	19.9	196	58.6	39.5	1.3	0.6	98.1	1.9
	50歳代	205	37.1	35.6	4.4	0.0	22.9	206	48.1	46.2	5.7	0.0	94.3	5.7
	60歳以上	153	28.1	32.7	3.3	0.0	35.9	155	44.4	50.5	5.1	0.0	94.9	5.1
チケットクラブ	加入	237	41.8	35.4	3.8	0.4	18.6	237	51.3	43.5	4.7	0.5	94.8	5.2
	未加入	588	41.8	30.3	1.9	0.0	26.0	588	56.6	40.9	2.5	0.0	97.5	2.5
鑑賞経験	今日が初めて	205	45.4	29.8	1.5	0.0	23.4	205	59.2	38.9	1.9	0.0	98.1	1.9
	1～2回	107	47.7	26.2	2.8	0.0	23.4	107	62.2	34.1	3.7	0.0	96.3	3.7
	3～5回	160	38.8	36.9	2.5	0.0	21.9	160	49.6	47.2	3.2	0.0	96.8	3.2
	6～10回	120	35.0	35.8	2.5	0.0	26.7	120	47.7	48.9	3.4	0.0	96.6	3.4
	11回以上	241	41.5	30.3	2.9	0.4	24.9	241	55.2	40.3	3.9	0.6	95.6	4.4

(5) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度

Q3

劇場係員の対応

(単位: %)

(単位: %)

		全体	Q3-6					「無回答」を除いた割合					満足層	不満足層
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
	全体	940	52.2	36.1	1.4	0.4	9.9	940	58.0	40.0	1.5	0.5	98.0	2.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	50.9	37.2	2.0	0.6	9.3	664	56.1	41.0	2.2	0.7	97.2	2.8
	音楽劇	65	52.3	32.3	0.0	0.0	15.4	65	61.8	38.2	0.0	0.0	100.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	53.5	35.1	0.0	0.0	11.4	185	60.4	39.6	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	26	76.9	23.1	0.0	0.0	0.0	26	76.9	23.1	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	48.4	39.8	1.6	0.5	9.7	186	53.6	44.0	1.8	0.6	97.6	2.4
	女性	649	54.1	36.5	1.5	0.5	7.4	649	58.4	39.4	1.7	0.5	97.8	2.2
年齢層	18歳未満	47	61.7	21.3	2.1	0.0	14.9	47	72.5	25.0	2.5	0.0	97.5	2.5
	18～29歳	88	68.2	28.4	1.1	0.0	2.3	88	69.8	29.1	1.2	0.0	98.8	1.2
	30歳代	101	61.4	32.7	2.0	0.0	4.0	101	63.9	34.0	2.1	0.0	97.9	2.1
	40歳代	196	58.7	34.7	2.0	1.0	3.6	196	60.8	36.0	2.1	1.1	96.8	3.2
	50歳代	205	42.0	49.3	1.5	0.5	6.8	206	45.0	52.9	1.6	0.5	97.9	2.1
	60歳以上	153	44.4	39.2	0.7	0.0	15.7	155	53.4	45.8	0.8	0.0	99.2	0.8
チケットクラブ	加入	237	45.1	43.9	3.4	0.8	6.8	237	48.4	47.1	3.6	0.9	95.5	4.5
	未加入	588	56.0	34.7	0.9	0.3	8.2	588	60.9	37.8	0.9	0.4	98.7	1.3
鑑賞経験	今日が初めて	205	57.6	32.2	1.5	0.0	8.8	205	63.1	35.3	1.6	0.0	98.4	1.6
	1～2回	107	65.4	27.1	2.8	0.0	4.7	107	68.6	28.4	2.9	0.0	97.1	2.9
	3～5回	160	47.5	45.6	0.6	0.6	5.6	160	50.3	48.3	0.7	0.7	98.7	1.3
	6～10回	120	50.0	42.5	0.0	0.8	6.7	120	53.6	45.5	0.0	0.9	99.1	0.9
	11回以上	241	49.0	37.8	2.5	0.8	10.0	241	54.4	41.9	2.8	0.9	96.3	3.7

劇場の入口・案内表示のわかりやすさ

		全体	Q3-7					「無回答」を除いた割合					同上	
			同上					回答数	同上					
	全体	940	42.6	40.9	6.0	0.6	10.0	940	47.3	45.4	6.6	0.7	92.7	7.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	42.2	42.3	5.3	0.8	9.5	664	46.6	46.8	5.8	0.8	93.3	6.7
	音楽劇	65	43.1	35.4	3.1	0.0	18.5	65	52.8	43.4	3.8	0.0	96.2	3.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	41.6	38.4	9.2	0.5	10.3	185	46.4	42.8	10.2	0.6	89.2	10.8
	パフォーマンス	26	57.7	34.6	7.7	0.0	0.0	26	57.7	34.6	7.7	0.0	92.3	7.7
性別	男性	186	36.6	44.6	6.5	1.1	11.3	186	41.2	50.3	7.3	1.2	91.5	8.5
	女性	649	44.8	41.1	6.5	0.6	6.9	649	48.2	44.2	7.0	0.7	92.4	7.6
年齢層	18歳未満	47	57.4	19.1	8.5	0.0	14.9	47	67.5	22.5	10.0	0.0	90.0	10.0
	18～29歳	88	55.7	37.5	2.3	1.1	3.4	88	57.6	38.8	2.4	1.2	96.5	3.5
	30歳代	101	49.5	44.6	3.0	0.0	3.0	101	51.0	45.9	3.1	0.0	96.9	3.1
	40歳代	196	50.5	37.2	6.1	1.0	5.1	196	53.2	39.2	6.5	1.1	92.5	7.5
	50歳代	205	35.1	48.8	7.3	1.0	7.8	206	38.1	52.9	7.9	1.1	91.0	9.0
	60歳以上	153	30.7	48.4	7.8	0.0	13.1	155	35.6	54.8	9.6	0.0	90.4	9.6
チケットクラブ	加入	237	38.8	48.1	5.5	0.4	7.2	237	41.8	51.8	5.9	0.5	93.6	6.4
	未加入	588	44.4	39.8	7.0	0.9	8.0	588	48.2	43.3	7.6	0.9	91.5	8.5
鑑賞経験	今日が初めて	205	47.3	34.6	7.8	2.0	8.3	205	51.6	37.8	8.5	2.1	89.4	10.6
	1～2回	107	51.4	37.4	7.5	0.0	3.7	107	53.4	38.8	7.8	0.0	92.2	7.8
	3～5回	160	38.8	45.6	10.0	0.0	5.6	160	41.1	48.3	10.6	0.0	89.4	10.6
	6～10回	120	43.3	44.2	5.8	0.0	6.7	120	46.4	47.3	6.3	0.0	93.8	6.3
	11回以上	241	38.6	47.3	2.9	0.8	10.4	241	43.1	52.8	3.2	0.9	95.8	4.2

(5) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度

Q3

劇場やロビーのデザイン、雰囲気

		全体	Q3-8					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層
			たいへん満足	まあ満足	少し不満	まったく不満	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満	まったく不満		
	全体	940	48.2	40.1	1.8	0.3	9.6	940	53.3	44.4	2.0	0.4	97.6	2.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	47.9	41.1	1.7	0.5	8.9	664	52.6	45.1	1.8	0.5	97.7	2.3
	音楽劇	65	47.7	33.8	1.5	0.0	16.9	65	57.4	40.7	1.9	0.0	98.1	1.9
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	47.0	40.0	2.7	0.0	10.3	185	52.4	44.6	3.0	0.0	97.0	3.0
	パフォーマンス	26	65.4	30.8	0.0	0.0	3.8	26	68.0	32.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	43.0	43.5	3.8	0.5	9.1	186	47.3	47.9	4.1	0.6	95.3	4.7
	女性	649	49.2	41.8	1.5	0.3	7.2	649	53.0	45.0	1.7	0.3	98.0	2.0
年齢層	18歳未満	47	63.8	14.9	4.3	0.0	17.0	47	76.9	17.9	5.1	0.0	94.9	5.1
	18～29歳	88	65.9	31.8	0.0	0.0	2.3	88	67.4	32.6	0.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	101	56.4	37.6	3.0	0.0	3.0	101	58.2	38.8	3.1	0.0	96.9	3.1
	40歳代	196	56.6	37.8	2.0	0.5	3.1	196	58.4	38.9	2.1	0.5	97.4	2.6
	50歳代	205	38.5	52.2	2.4	0.0	6.8	206	41.4	56.0	2.6	0.0	97.4	2.6
	60歳以上	153	30.7	52.3	1.3	0.0	15.7	155	37.4	61.1	1.5	0.0	98.5	1.5
チケットクラブ	加入	237	43.0	48.1	2.1	0.4	6.3	237	45.9	51.4	2.3	0.5	97.3	2.7
	未加入	588	49.7	40.0	2.0	0.3	8.0	588	54.0	43.4	2.2	0.4	97.4	2.6
鑑賞経験	今日が初めて	205	52.7	36.1	2.0	1.0	8.3	205	57.4	39.4	2.1	1.1	96.8	3.2
	1～2回	107	57.9	37.4	0.9	0.0	3.7	107	60.2	38.8	1.0	0.0	99.0	1.0
	3～5回	160	50.0	43.1	2.5	0.0	4.4	160	52.3	45.1	2.6	0.0	97.4	2.6
	6～10回	120	45.0	45.8	2.5	0.0	6.7	120	48.2	49.1	2.7	0.0	97.3	2.7
	11回以上	241	39.8	47.7	1.7	0.4	10.4	241	44.4	53.2	1.9	0.5	97.7	2.3

劇場ロビーの飲食サービス

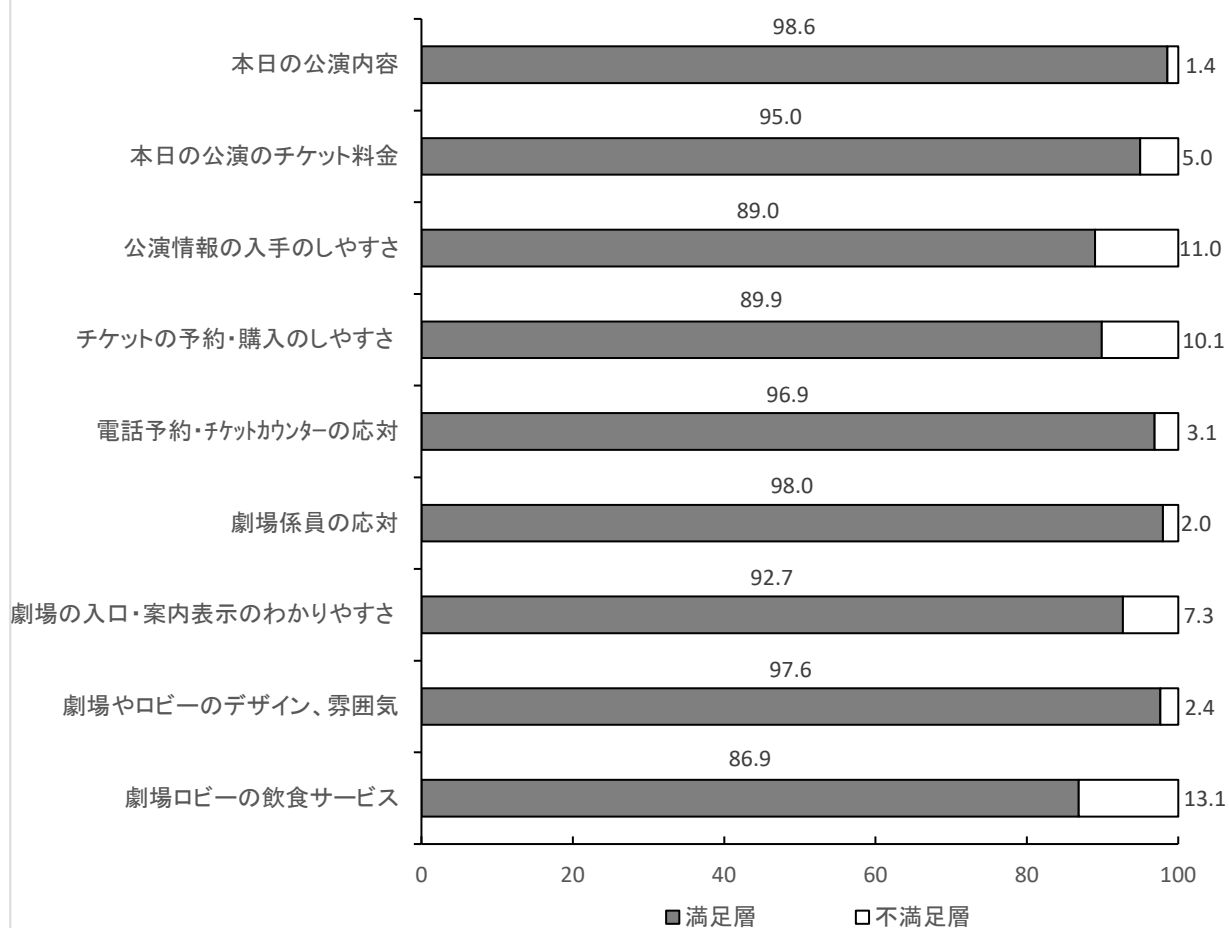
(単位: %)

(単位: %)

		全体	Q3-9					「無回答」を除いた割合					同上	
			同上					回答数	同上					
	全体	940	26.6	39.6	8.7	1.3	23.8	940	34.9	52.0	11.5	1.7	86.9	13.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	27.0	40.5	8.7	1.2	22.6	664	34.8	52.3	11.3	1.6	87.2	12.8
	音楽劇	65	26.2	33.8	4.6	4.6	30.8	65	37.8	48.9	6.7	6.7	86.7	13.3
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	24.9	35.7	10.3	0.5	28.6	185	34.8	50.0	14.4	0.8	84.8	15.2
	パフォーマンス	26	30.8	57.7	7.7	0.0	3.8	26	32.0	60.0	8.0	0.0	92.0	8.0
性別	男性	186	23.7	40.3	12.4	2.7	21.0	186	29.9	51.0	15.6	3.4	81.0	19.0
	女性	649	27.4	41.8	8.2	1.1	21.6	649	35.0	53.2	10.4	1.4	88.2	11.8
年齢層	18歳未満	47	44.7	27.7	2.1	4.3	21.3	47	56.8	35.1	2.7	5.4	91.9	8.1
	18～29歳	88	39.8	39.8	5.7	0.0	14.8	88	46.7	46.7	6.7	0.0	93.3	6.7
	30歳代	101	28.7	44.6	12.9	0.0	13.9	101	33.3	51.7	14.9	0.0	85.1	14.9
	40歳代	196	27.0	43.9	8.2	1.0	19.9	196	33.8	54.8	10.2	1.3	88.5	11.5
	50歳代	205	21.5	46.3	13.2	1.0	18.0	206	26.2	56.5	16.1	1.2	82.7	17.3
	60歳以上	153	18.3	38.6	7.2	2.6	33.3	155	28.2	57.3	10.7	3.9	85.4	14.6
チケットクラブ	加入	237	26.6	45.1	10.1	1.3	16.9	237	32.0	54.3	12.2	1.5	86.3	13.7
	未加入	588	26.7	40.0	8.8	1.4	23.1	588	34.7	52.0	11.5	1.8	86.7	13.3
鑑賞経験	今日が初めて	205	31.7	34.6	9.8	2.0	22.0	205	40.6	44.4	12.5	2.5	85.0	15.0
	1～2回	107	34.6	39.3	8.4	0.0	17.8	107	42.0	47.7	10.2	0.0	89.8	10.2
	3～5回	160	24.4	41.9	11.9	1.3	20.6	160	30.7	52.8	15.0	1.6	83.5	16.5
	6～10回	120	25.0	41.7	10.8	0.8	21.7	120	31.9	53.2	13.8	1.1	85.1	14.9
	11回以上	241	21.2	47.7	5.8	2.1	23.2	241	27.6	62.2	7.6	2.7	89.7	10.3

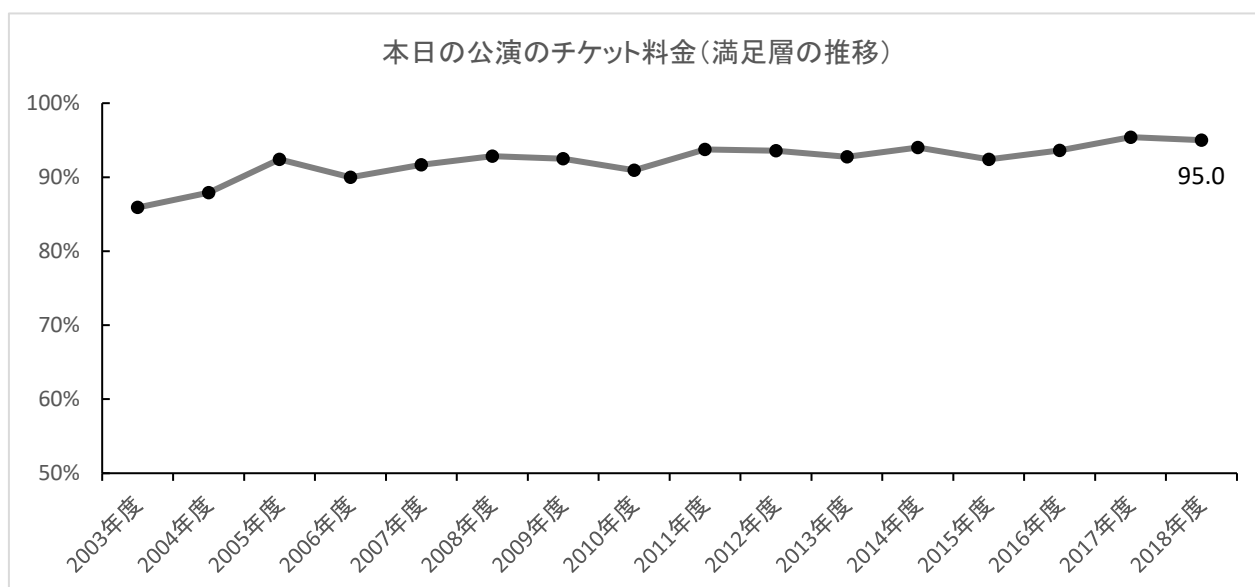
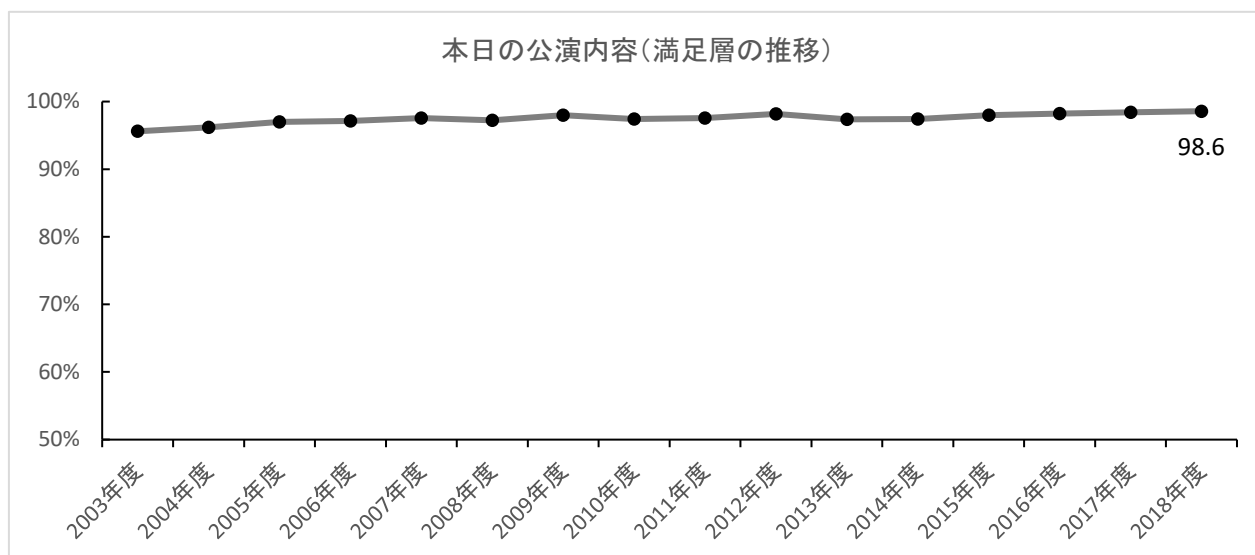
満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの対応」、「劇場係員の対応」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の6項目である。

満足層と不満足層の割合(無回答を除く)

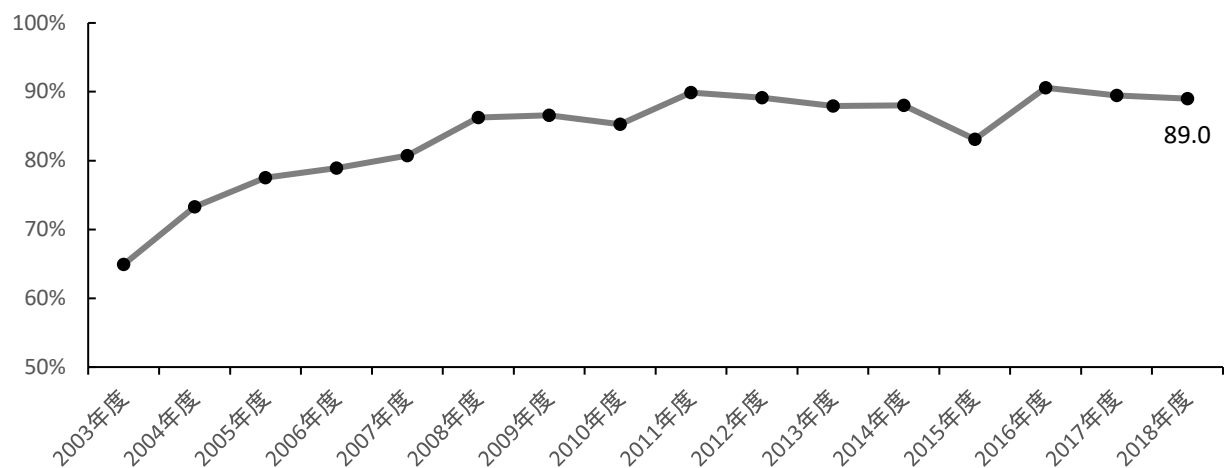


	満足層	不満足層
本日の公演内容	98.6	1.4
本日の公演のチケット料金	95.0	5.0
公演情報の入手のしやすさ	89.0	11.0
チケットの予約・購入のしやすさ	89.9	10.1
電話予約・チケットカウンターの対応	96.9	3.1
劇場係員の対応	98.0	2.0
劇場の入口・案内表示のわかりやすさ	92.7	7.3
劇場やロビーのデザイン、雰囲気	97.6	2.4
劇場ロビーの飲食サービス	86.9	13.1

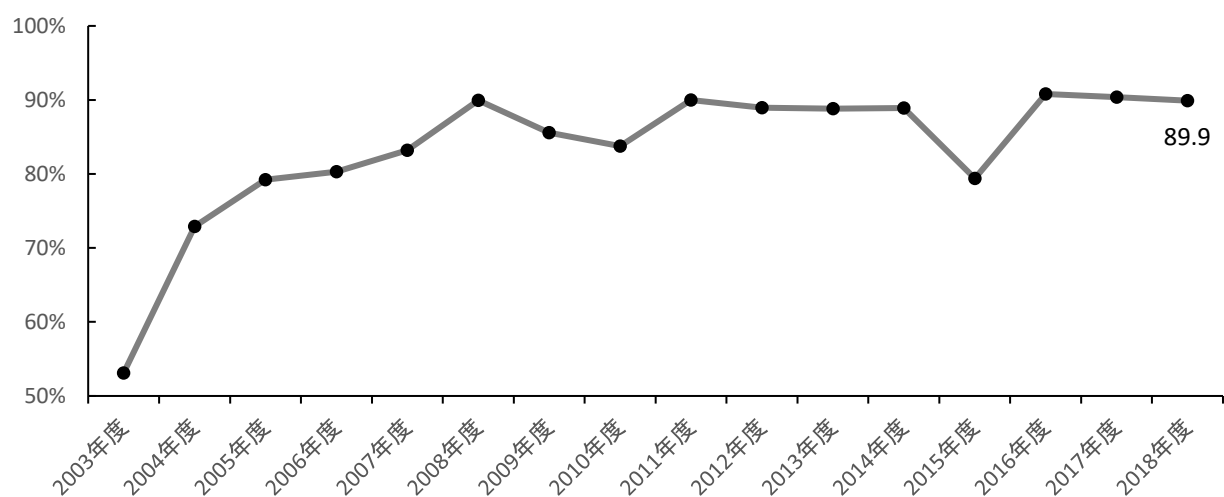
過去調査結果の満足層(※)の推移を見ると、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」は03年度もしくは04年度以降は安定して高い評価を得ており、それ以外の項目でも、おおむね増加傾向となっている。18年度は「本日の公演内容」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」で過去最高の満足層の割合となっている。
※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。



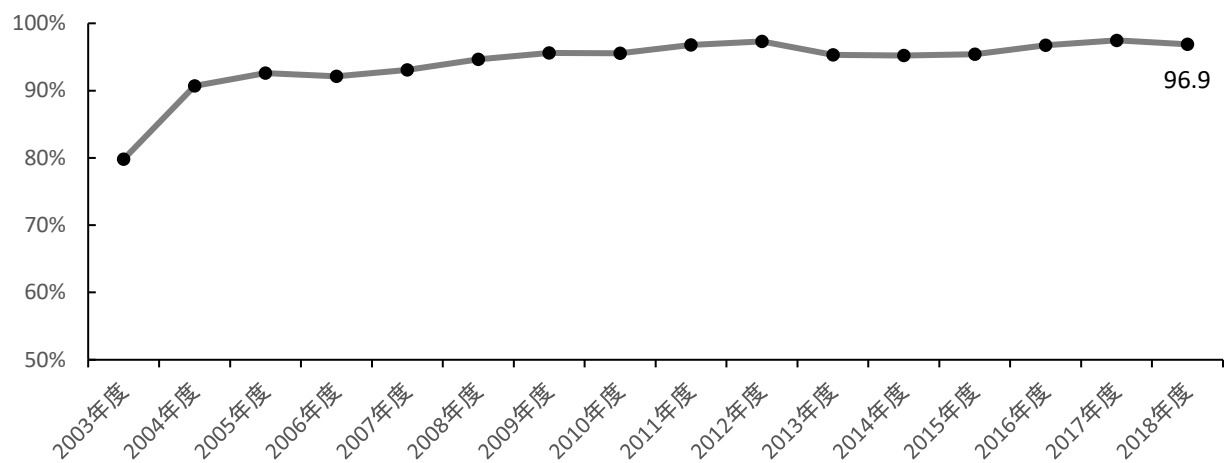
公演情報の入手のしやすさ(満足層の推移)

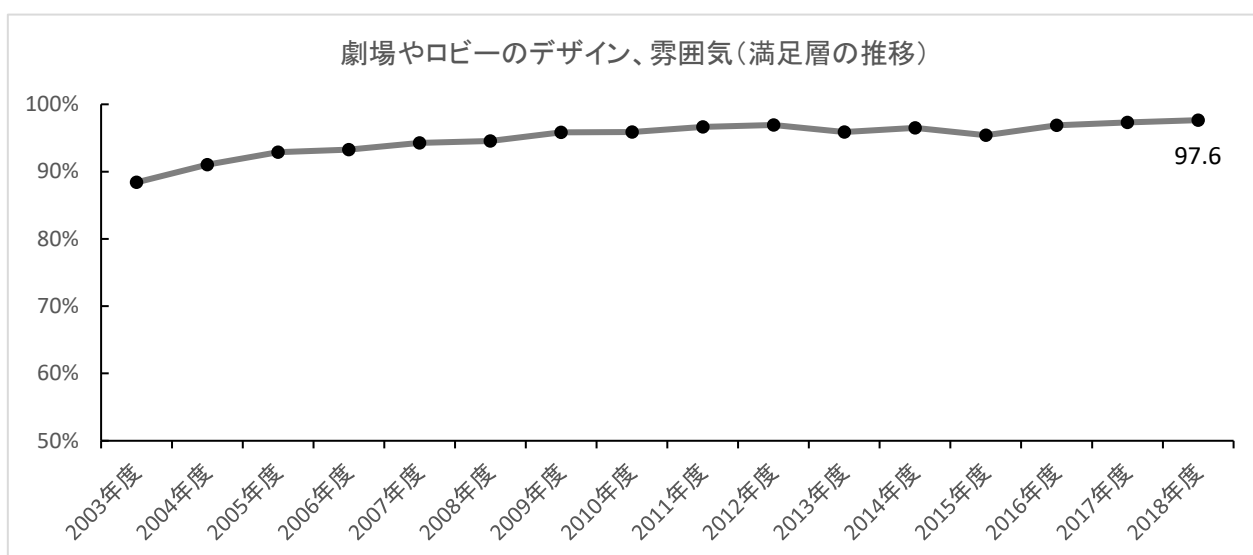
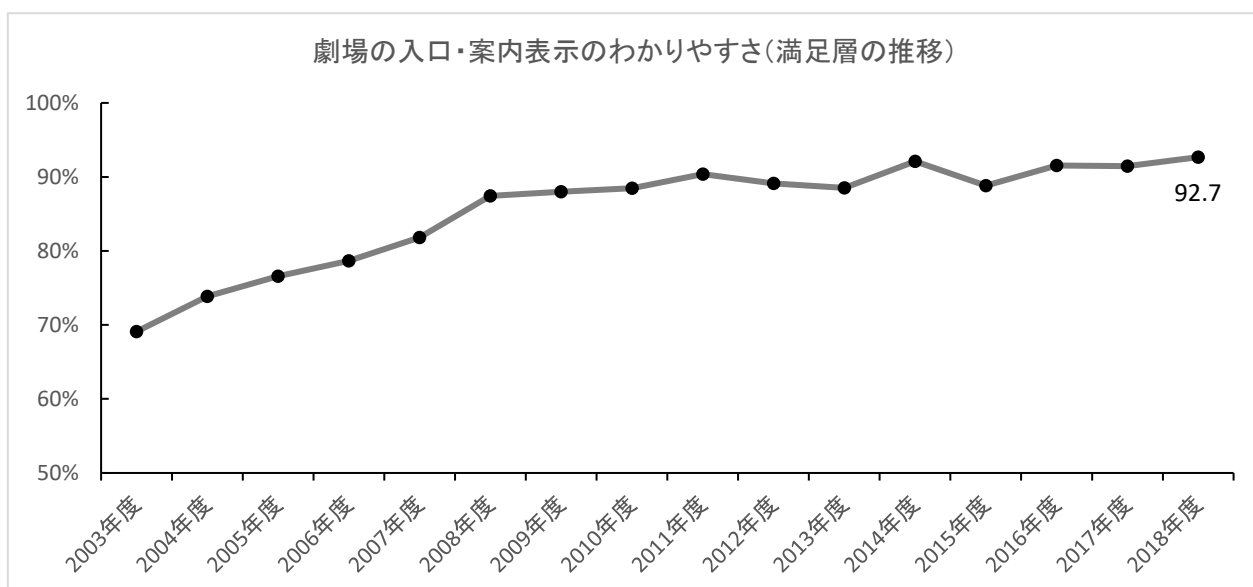
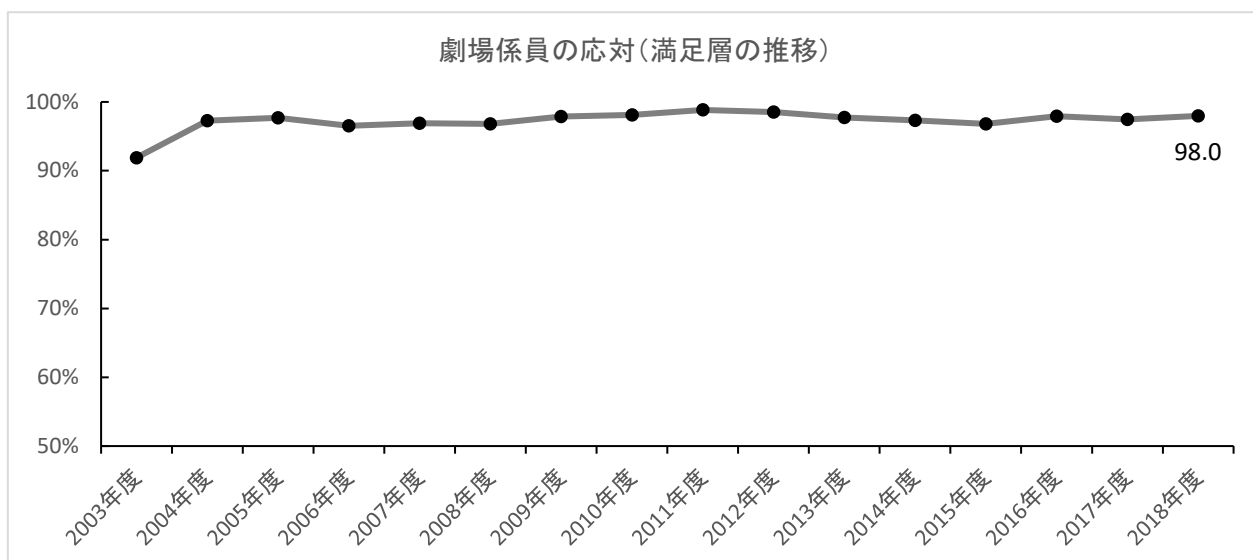


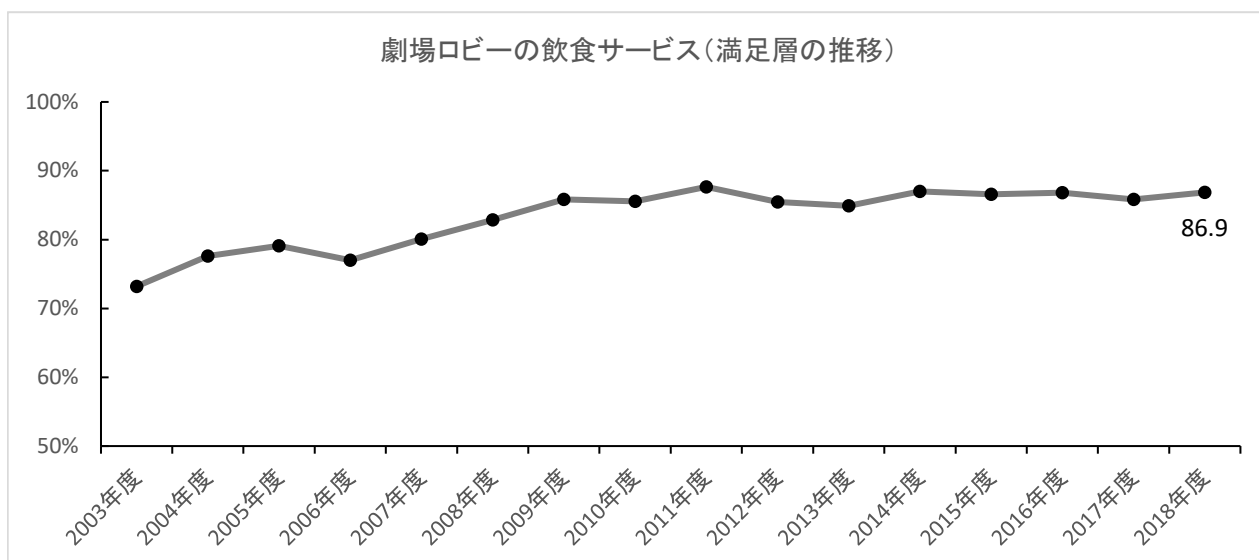
チケットの予約・購入のしやすさ(満足層の推移)



電話予約・チケットカウンターの対応(満足層の推移)







(6) 総合的な満足度

Q4

劇場に対する総合的な意見(満足度)については、満足層が97.8%('たいへん満足'+'まあ満足')の割合。無回答は除く)である。

総合的な満足度

(単位:%)

(単位:%)

		全体	Q4総合的な満足度					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層
			たいへん満足	まあ満足	少し不満	まったく不満	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満	まったく不満		
	全体	940	40.2	41.8	1.6	0.2	16.2	940	48.0	49.9	1.9	0.3	97.8	2.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	40.2	43.4	1.5	0.3	14.6	664	47.1	50.8	1.8	0.4	97.9	2.1
	音楽劇	65	29.2	46.2	0.0	0.0	24.6	65	38.8	61.2	0.0	0.0	100.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	42.7	36.2	2.7	0.0	18.4	185	52.3	44.4	3.3	0.0	96.7	3.3
	パフォーマンス	26	50.0	30.8	0.0	0.0	19.2	26	61.9	38.1	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	37.1	41.4	1.6	0.5	19.4	186	46.0	51.3	2.0	0.7	97.3	2.7
	女性	649	42.2	43.3	1.8	0.0	12.6	649	48.3	49.6	2.1	0.0	97.9	2.1
年齢層	18歳未満	47	21.5	46.3	13.2	1.0	18.0	47	26.2	56.5	16.1	1.2	82.7	17.3
	18～29歳	88	60.2	29.5	1.1	0.0	9.1	88	66.3	32.5	1.3	0.0	98.8	1.3
	30歳代	101	49.5	37.6	1.0	0.0	11.9	101	56.2	42.7	1.1	0.0	98.9	1.1
	40歳代	196	43.4	40.3	1.0	0.5	14.8	196	50.9	47.3	1.2	0.6	98.2	1.8
	50歳代	205	36.6	50.7	2.4	0.0	10.2	206	40.5	56.8	2.7	0.0	97.3	2.7
	60歳以上	153	26.8	53.6	2.0	0.0	17.6	155	32.8	64.8	2.3	0.0	97.7	2.3
チケットクラブ	加入	237	36.7	46.0	0.8	0.0	16.5	237	43.9	55.1	1.0	0.0	99.0	1.0
	未加入	588	43.4	41.0	2.2	0.2	13.3	588	50.0	47.3	2.5	0.2	97.3	2.7
鑑賞経験	今日が初めて	205	48.3	33.7	1.0	0.0	17.1	205	58.2	40.6	1.2	0.0	98.8	1.2
	1～2回	107	48.6	38.3	3.7	0.0	9.3	107	53.6	42.3	4.1	0.0	95.9	4.1
	3～5回	160	33.1	54.4	1.3	0.0	11.3	160	37.3	61.3	1.4	0.0	98.6	1.4
	6～10回	120	38.3	49.2	0.0	0.8	11.7	120	43.4	55.7	0.0	0.9	99.1	0.9
	11回以上	241	37.8	42.7	2.1	0.0	17.4	241	45.7	51.8	2.5	0.0	97.5	2.5

[来場公演のジャンル別]

- ・「たいへん満足」の割合は、「パフォーマンス」が特に高い。

[性別]

- ・満足度では、性別で顕著な差はない。

[年齢別]

- ・「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」の年齢層で「たいへん満足」の割合が高い。

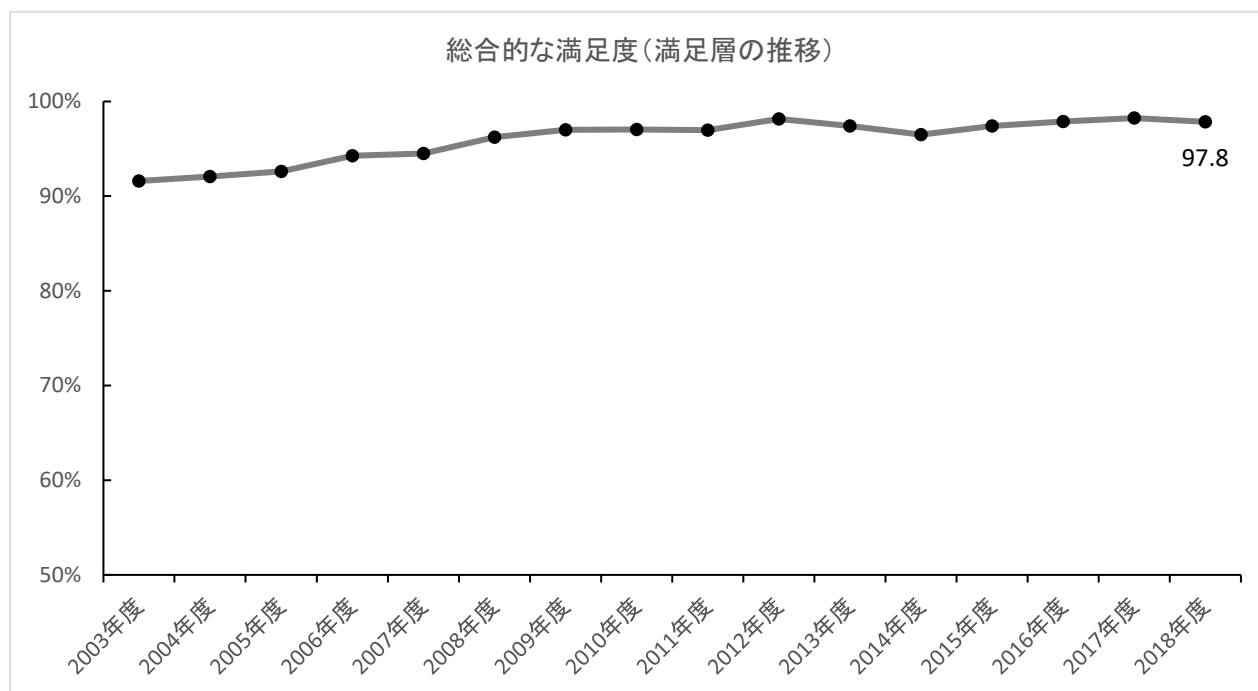
[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・満足度では、加入・未加入で顕著な差はない。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・満足度では、鑑賞頻度で顕著な差はない。

過去調査結果の満足層の推移を見ると、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、17年度は12年度と同率で過去最高の割合となっている。



「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」(※)については、いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は95%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は98.5%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も77.2%と高い割合を占める。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わった。

[来場公演のジャンル別]

- 「観る」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。特に「小劇場・現代演劇」では「ぜひやってほしい」が80.4%となっている。
- 「創る」、「育つ」、「支える」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が最も高い割合となっている。

[性別]

- 賛同する割合では、性別で顕著な差はないが、「ぜひやってほしい」の割合は、「観る」については女性で、「創る」、「育つ」、「支える」については男性で高い。

[年齢別]

- 「観る」:いずれの年代でも「ぜひやってほしい」の割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。
- 「創る」、「育つ」、「支える」:29歳以下の世代で「ぜひやってほしい」への割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。
- 「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」:いずれも60歳以上で無回答の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 「観る」については加入の割合が高く、「創る」、「育つ」、「支える」については未加入の割合が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 鑑賞頻度で顕著な傾向はみられない。

運営方針:観る

(単位:%)

(単位:%)

		全体	Q5-1					「無回答」を除いた割合					賛同する割合	賛同しない割合
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	回答数	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない		
	全体	940	77.2	14.4	1.4	0.0	7.0	940	83.1	15.4	1.5	0.0	98.5	1.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	80.4	12.5	1.1	0.0	6.0	664	85.6	13.3	1.1	0.0	98.9	1.1
	音楽劇	65	69.2	12.3	4.6	0.0	13.8	65	80.4	14.3	5.4	0.0	94.6	5.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	69.2	20.5	1.6	0.0	8.6	185	75.7	22.5	1.8	0.0	98.2	1.8
	パフォーマンス	26	73.1	23.1	0.0	0.0	3.8	26	76.0	24.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	69.9	21.5	3.2	0.0	5.4	186	73.9	22.7	3.4	0.0	96.6	3.4
	女性	649	82.4	12.6	0.8	0.0	4.2	649	86.0	13.2	0.8	0.0	99.2	0.8
年齢層	18歳未満	47	72.3	19.1	2.1	0.0	6.4	47	77.3	20.5	2.3	0.0	97.7	2.3
	18～29歳	88	81.8	17.0	0.0	0.0	1.1	88	82.8	17.2	0.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	101	83.2	14.9	1.0	0.0	1.0	101	84.0	15.0	1.0	0.0	99.0	1.0
	40歳代	196	82.7	10.7	3.1	0.0	3.6	196	85.7	11.1	3.2	0.0	96.8	3.2
	50歳代	205	80.0	17.1	1.0	0.0	2.0	206	81.7	17.3	1.0	0.0	99.0	1.0
	60歳以上	153	76.5	13.7	0.7	0.0	9.2	155	84.4	14.9	0.7	0.0	99.3	0.7
チケットクラブ	加入	237	86.1	10.1	0.0	0.0	3.8	237	89.5	10.5	0.0	0.0	100.0	0.0
	未加入	588	76.9	16.8	1.9	0.0	4.4	588	80.4	17.6	2.0	0.0	98.0	2.0
鑑賞経験	今日が初めて	205	79.5	14.6	1.5	0.0	4.4	205	83.2	15.3	1.5	0.0	98.5	1.5
	1～2回	107	85.0	11.2	0.9	0.0	2.8	107	87.5	11.5	1.0	0.0	99.0	1.0
	3～5回	160	79.4	16.3	0.6	0.0	3.8	160	82.5	16.9	0.6	0.0	99.4	0.6
	6～10回	120	79.2	14.2	3.3	0.0	3.3	120	81.9	14.7	3.4	0.0	96.6	3.4
	11回以上	241	78.4	15.4	0.4	0.0	5.8	241	83.3	16.3	0.4	0.0	99.6	0.4

(7) 劇場の運営方針について

Q5

運営方針：創る

(単位：%)

(単位：%)

		全体	Q5-2					「無回答」を除いた割合					賛同する割合	賛同しない割合
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	回答数	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない		
	全体	940	58.6	30.0	2.7	0.0	8.7	940	64.2	32.9	2.9	0.0	97.1	2.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	58.7	30.1	2.9	0.0	8.3	664	64.0	32.8	3.1	0.0	96.9	3.1
	音楽劇	65	61.5	23.1	1.5	0.0	13.8	65	71.4	26.8	1.8	0.0	98.2	1.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	57.3	30.8	2.7	0.0	9.2	185	63.1	33.9	3.0	0.0	97.0	3.0
	パフォーマンス	26	57.7	38.5	0.0	0.0	3.8	26	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	66.7	23.7	3.8	0.0	5.9	186	70.9	25.1	4.0	0.0	96.0	4.0
	女性	649	58.6	32.5	2.6	0.0	6.3	649	62.5	34.7	2.8	0.0	97.2	2.8
年齢層	18歳未満	47	74.5	19.1	0.0	0.0	6.4	47	79.5	20.5	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～29歳	88	73.9	20.5	1.1	0.0	4.5	88	77.4	21.4	1.2	0.0	98.8	1.2
	30歳代	101	60.4	35.6	3.0	0.0	1.0	101	61.0	36.0	3.0	0.0	97.0	3.0
	40歳代	196	63.8	27.6	4.1	0.0	4.6	196	66.8	28.9	4.3	0.0	95.7	4.3
	50歳代	205	52.2	39.5	4.4	0.0	3.9	206	54.0	40.9	5.1	0.0	94.9	5.1
	60歳以上	153	54.9	32.0	0.7	0.0	12.4	155	63.2	36.0	0.7	0.0	99.3	0.7
チケットクラブ	加入	237	51.5	38.4	3.8	0.0	6.3	237	55.0	41.0	4.1	0.0	95.9	4.1
	未加入	588	63.3	28.2	2.6	0.0	6.0	588	67.3	30.0	2.7	0.0	97.3	2.7
鑑賞経験	今日が初めて	205	66.8	22.4	3.4	0.0	7.3	205	72.1	24.2	3.7	0.0	96.3	3.7
	1～2回	107	63.6	29.9	1.9	0.0	4.7	107	66.7	31.4	2.0	0.0	98.0	2.0
	3～5回	160	58.8	33.1	3.8	0.0	4.4	160	61.4	34.6	3.9	0.0	96.1	3.9
	6～10回	120	56.7	33.3	4.2	0.0	5.8	120	60.2	35.4	4.4	0.0	95.6	4.4
	11回以上	241	56.4	35.7	1.2	0.0	6.6	241	60.4	38.2	1.3	0.0	98.7	1.3

運営方針：育つ

		全体	Q5-3					「無回答」を除いた割合					同上	
			同上					回答	同上					
	全体	940	56.2	30.7	3.7	0.2	9.1	940	61.8	33.8	4.1	0.2	95.7	4.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	56.2	31.9	3.3	0.3	8.3	664	61.2	34.8	3.6	0.3	96.1	3.9
	音楽劇	65	56.9	24.6	3.1	0.0	15.4	65	67.3	29.1	3.6	0.0	96.4	3.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	54.6	28.6	5.9	0.0	10.8	185	61.2	32.1	6.7	0.0	93.3	6.7
	パフォーマンス	26	65.4	30.8	0.0	0.0	3.8	26	68.0	32.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	58.6	26.3	7.5	0.5	7.0	186	63.0	28.3	8.1	0.6	91.3	8.7
	女性	649	57.5	33.3	2.8	0.0	6.5	649	61.4	35.6	3.0	0.0	97.0	3.0
年齢層	18歳未満	47	70.2	14.9	8.5	0.0	6.4	47	75.0	15.9	9.1	0.0	90.9	9.1
	18～29歳	88	69.3	23.9	2.3	0.0	4.5	88	72.6	25.0	2.4	0.0	97.6	2.4
	30歳代	101	58.4	37.6	3.0	0.0	1.0	101	59.0	38.0	3.0	0.0	97.0	3.0
	40歳代	196	59.2	33.7	2.0	0.5	4.6	196	62.0	35.3	2.1	0.5	97.3	2.7
	50歳代	205	54.1	38.0	4.4	0.0	3.4	206	55.8	39.2	5.0	0.0	95.0	5.0
	60歳以上	153	50.3	32.0	4.6	0.0	13.1	155	58.5	36.3	5.2	0.0	94.8	5.2
チケットクラブ	加入	237	44.3	45.1	4.2	0.0	6.3	237	47.3	48.2	4.5	0.0	95.5	4.5
	未加入	588	63.1	26.7	3.6	0.2	6.5	588	67.5	28.5	3.8	0.2	96.0	4.0
鑑賞経験	今日が初めて	205	64.4	25.4	3.4	0.0	6.8	205	69.1	27.2	3.7	0.0	96.3	3.7
	1～2回	107	66.4	25.2	3.7	0.0	4.7	107	69.6	26.5	3.9	0.0	96.1	3.9
	3～5回	160	57.5	31.9	5.6	0.0	5.0	160	60.5	33.6	5.9	0.0	94.1	5.9
	6～10回	120	54.2	33.3	5.0	0.8	6.7	120	58.0	35.7	5.4	0.9	93.8	6.3
	11回以上	241	51.5	39.4	1.7	0.0	7.5	241	55.6	42.6	1.8	0.0	98.2	1.8

(7) 劇場の運営方針について

Q5

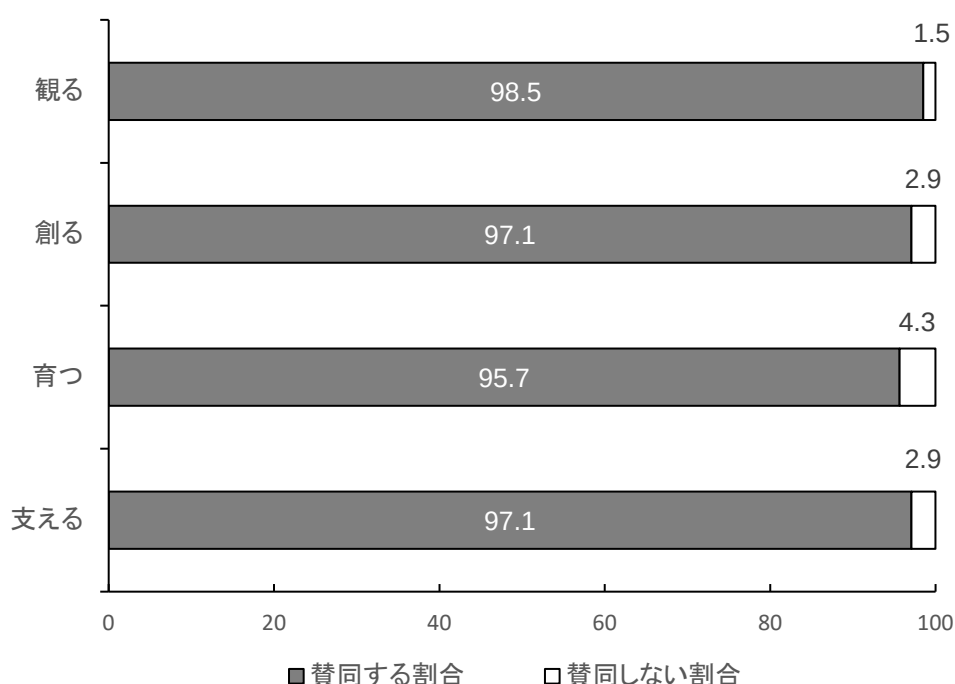
運営方針: 支える

(単位: %)

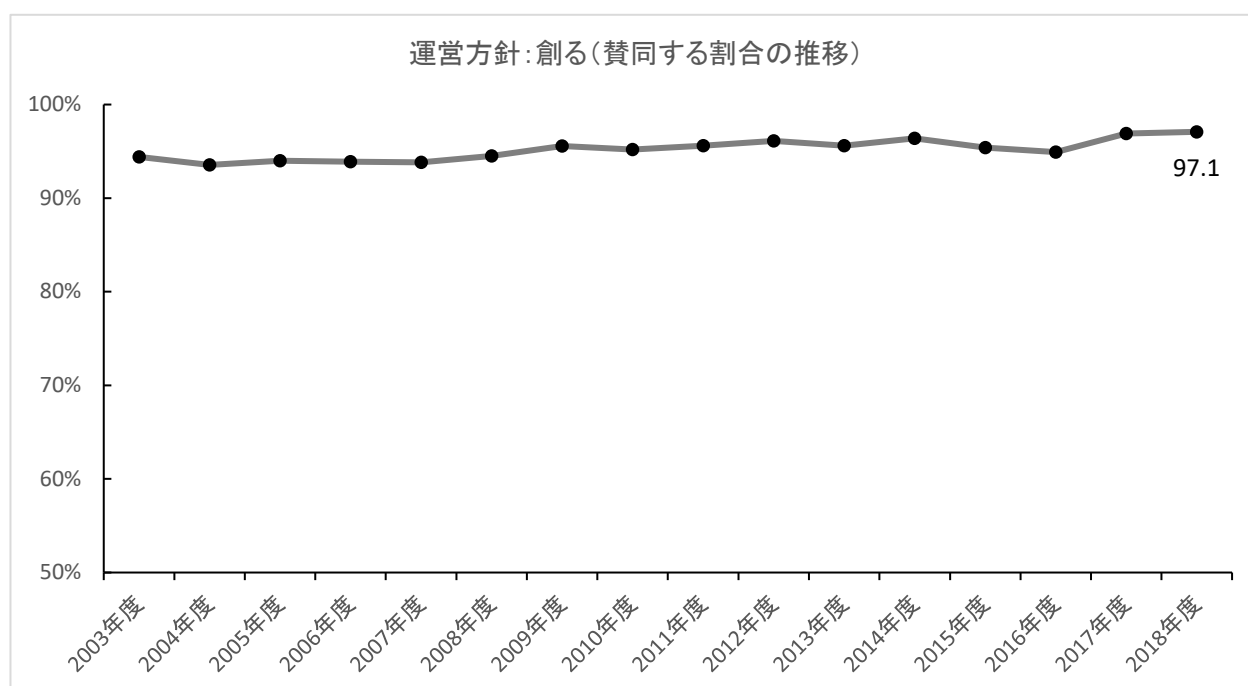
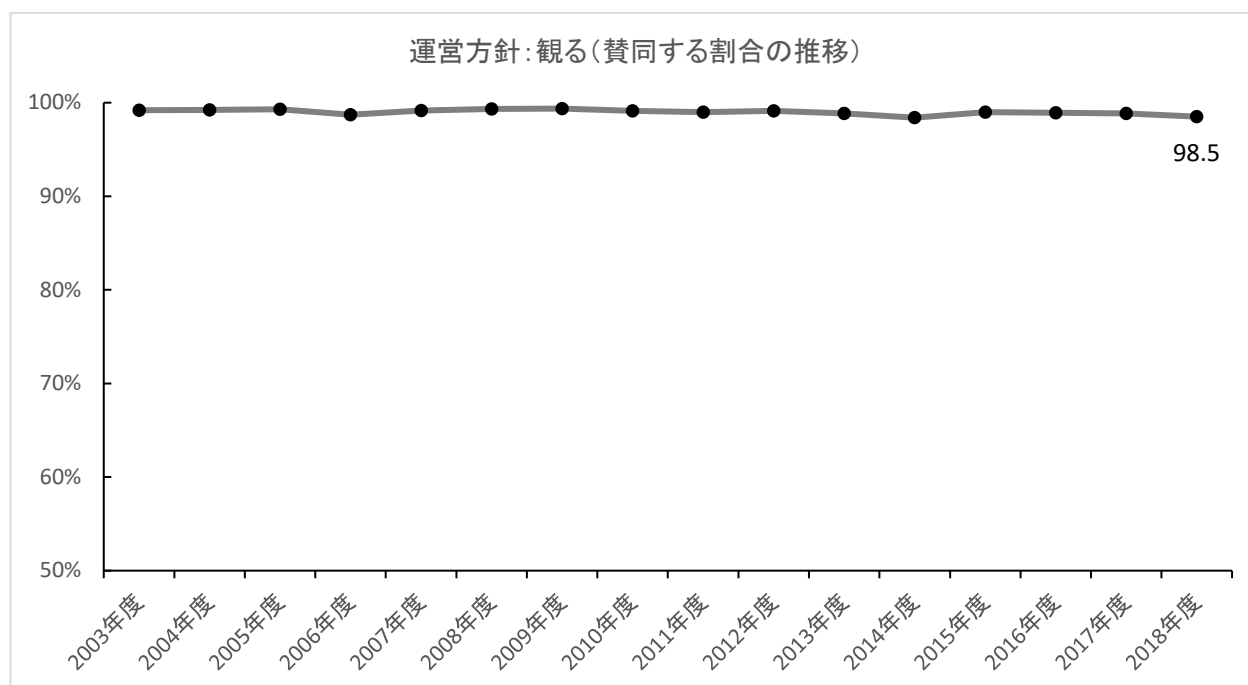
(単位: %)

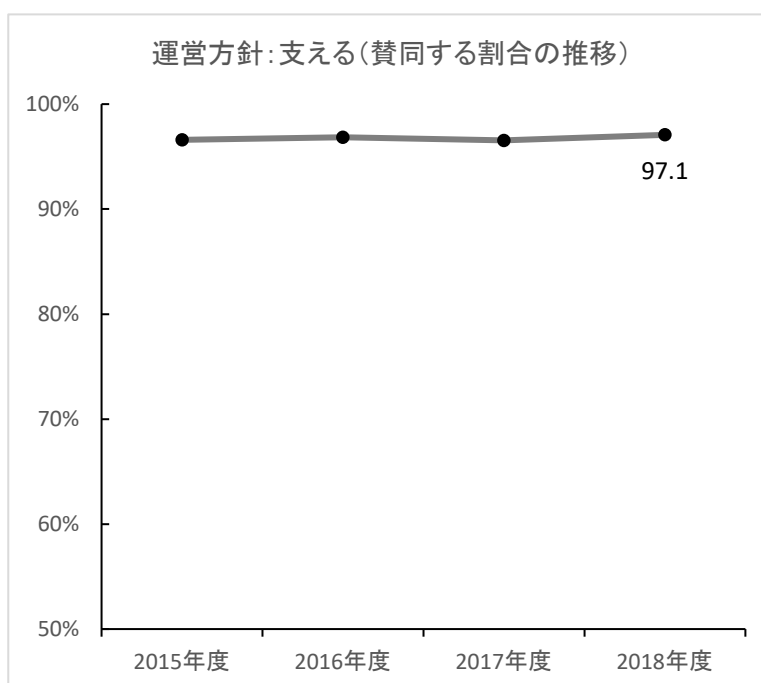
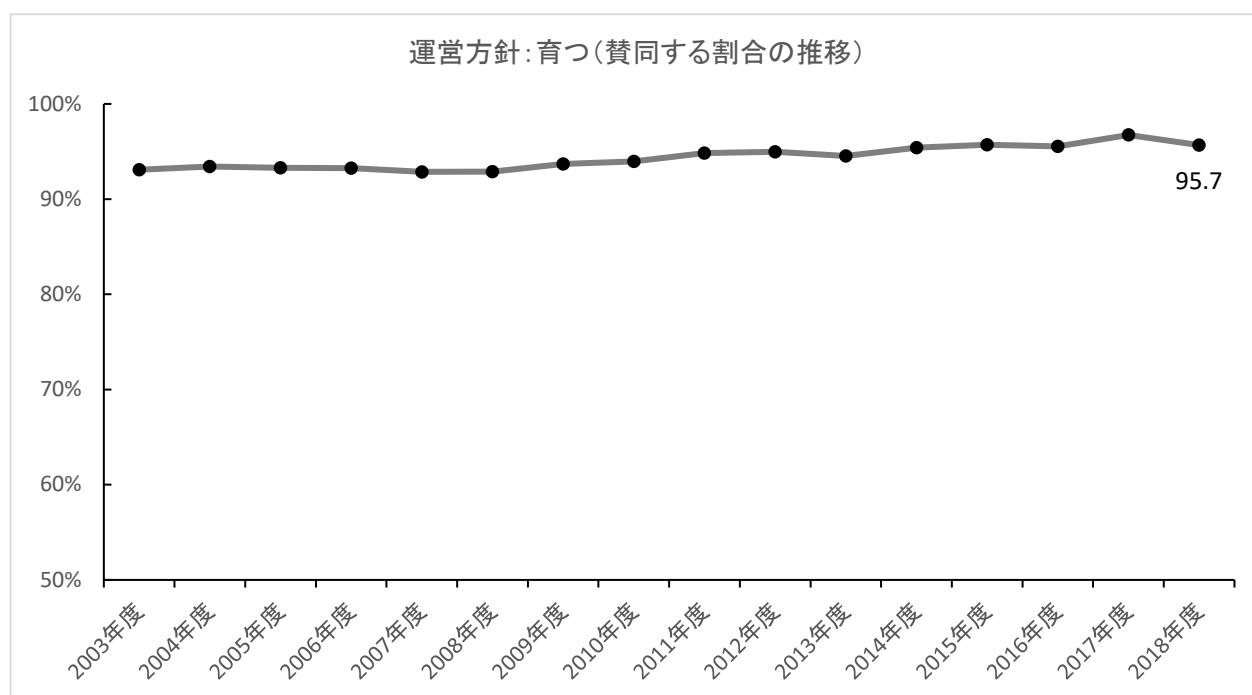
		全体	Q5-4					「無回答」を除いた割合					賛同する割合	賛同しない割合
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	回答数	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない		
	全体	940	58.0	30.2	2.6	0.1	9.1	940	63.8	33.3	2.8	0.1	97.1	2.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	58.1	30.9	2.3	0.2	8.6	664	63.6	33.8	2.5	0.2	97.4	2.6
	音楽劇	65	64.6	18.5	3.1	0.0	13.8	65	75.0	21.4	3.6	0.0	96.4	3.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	53.0	33.0	3.8	0.0	10.3	185	59.0	36.7	4.2	0.0	95.8	4.2
	パフォーマンス	26	73.1	23.1	0.0	0.0	3.8	26	76.0	24.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	186	62.4	26.3	4.8	0.0	6.5	186	66.7	28.2	5.2	0.0	94.8	5.2
	女性	649	59.2	32.0	2.2	0.0	6.6	649	63.4	34.3	2.3	0.0	97.7	2.3
年齢層	18歳未満	47	70.2	17.0	6.4	0.0	6.4	47	75.0	18.2	6.8	0.0	93.2	6.8
	18～29歳	88	73.9	19.3	2.3	0.0	4.5	88	77.4	20.2	2.4	0.0	97.6	2.4
	30歳代	101	56.4	41.6	1.0	0.0	1.0	101	57.0	42.0	1.0	0.0	99.0	1.0
	40歳代	196	59.7	33.2	2.0	0.0	5.1	196	62.9	34.9	2.2	0.0	97.8	2.2
	50歳代	205	57.1	36.6	3.4	0.0	2.9	206	58.5	37.5	4.0	0.0	96.0	4.0
	60歳以上	153	53.6	29.4	2.6	0.0	14.4	155	63.2	33.8	3.0	0.0	97.0	3.0
チケットクラブ	加入	237	44.7	45.6	3.8	0.0	5.9	237	47.5	48.4	4.0	0.0	96.0	4.0
	未加入	588	65.5	25.7	2.4	0.0	6.5	588	70.0	27.5	2.5	0.0	97.5	2.5
鑑賞経験	今日が初めて	205	64.4	25.9	2.9	0.0	6.8	205	69.1	27.7	3.1	0.0	96.9	3.1
	1～2回	107	71.0	21.5	1.9	0.0	5.6	107	75.2	22.8	2.0	0.0	98.0	2.0
	3～5回	160	58.1	33.1	4.4	0.0	4.4	160	60.8	34.6	4.6	0.0	95.4	4.6
	6～10回	120	55.0	35.0	3.3	0.0	6.7	120	58.9	37.5	3.6	0.0	96.4	3.6
	11回以上	241	54.8	36.1	1.2	0.0	7.9	241	59.5	39.2	1.4	0.0	98.6	1.4

運営方針への賛同する割合と賛同しない割合(無回答を除く)



過去調査結果を通じて、「観る」への賛同は極めて高い割合を維持している。
一方、「創る」と「育つ」は、「観る」に比べて賛同の割合は低いものの、一定の割合を維持しており、18年度は「創る」に賛同する割合が97.1%と過去最高となっている。





3 日頃の鑑賞活動

(1) コンサートや演劇に出かける頻度

Q7

コンサートや演劇に出かける頻度については、「年に1～2回程度」(20.1%)が最も割合が高く、次いで「年に3～4回程度」が18.4%、「年に5～9回程度」(14.6%)と続いており、月に1回以上出かける割合は26.2%となっている。日頃コンサートや演劇に出かける人は多く、回答者の鑑賞頻度は多様である。

		調査 数(n)	コンサートや演劇に出かける頻度 (単位: %)									月1回 以上の 割
			今日 が初 めて	ほと んど行 かない	年に1 ～2回 程度	年に3 ～4回 程度	年に5 ～9回 程度	月に1 回程 度	月に2 回程 度	月に3 回以 上	無回 答	
全体		940	3.4	6.4	20.1	18.4	14.6	12.3	6.9	6.9	11.0	26.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	2.7	5.1	18.7	19.4	15.5	14.3	7.2	7.7	9.3	29.2
	音楽劇	65	10.8	9.2	33.8	13.8	6.2	7.7	0.0	1.5	16.9	9.2
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	3.2	9.7	21.1	15.7	13.5	7.6	8.1	5.9	15.1	21.6
	パフォーマンス	26	3.8	7.7	15.4	23.1	19.2	7.7	7.7	7.7	7.7	23.1
性別	男性	186	3.8	11.8	21.5	17.7	12.4	14.0	8.1	8.6	2.2	30.6
	女性	649	3.9	5.7	22.5	21.3	17.3	13.4	7.7	7.6	0.8	28.7
年齢層	18歳未満	47	12.8	14.9	12.8	17.0	19.1	10.6	4.3	4.3	4.3	19.1
	18～29歳	88	4.5	17.0	20.5	12.5	15.9	12.5	8.0	9.1	0.0	29.5
	30歳代	101	7.9	7.9	27.7	25.7	12.9	5.9	5.0	5.9	1.0	16.8
	40歳代	196	3.6	4.6	25.0	22.4	18.4	12.8	5.6	7.1	0.5	25.5
	50歳代	205	1.0	5.4	21.5	22.0	17.6	12.2	12.2	7.3	1.0	31.6
	60歳以上	153	2.0	3.9	22.9	17.0	15.0	21.6	5.9	10.5	1.3	38.1
チケット クラブ	加入	237	1.3	1.3	10.1	19.8	19.8	19.8	10.5	16.9	0.4	47.3
	未加入	588	4.9	9.4	27.2	21.3	14.5	11.2	6.8	4.3	0.5	22.3
鑑賞 経験	今日が初めて	205	14.1	15.1	30.7	14.6	9.8	9.3	3.4	2.9	0.0	15.6
	1～2回	107	0.9	15.0	42.1	20.6	9.3	6.5	2.8	1.9	0.9	11.2
	3～5回	160	0.0	6.9	30.0	28.1	16.3	12.5	3.8	2.5	0.0	18.8
	6～10回	120	0.8	0.8	15.0	32.5	25.8	11.7	9.2	4.2	0.0	25.0
	11回以上	241	0.0	0.4	5.0	15.4	19.9	23.2	15.4	19.9	0.8	58.5

[来場公演のジャンル別]

- ・「小劇場・現代演劇」では、月1回以上出かける割合が29.2%とジャンル中で最も高い。

[性別]

- ・「男性」、「女性」とともに「年に1～2回程度」の割合が最も高い。
- ・月1回以上出かける割合をみると、「男性」は30.6%、「女性」は28.7%と、「男性」の割合が高い。

[年齢別]

- ・「18歳未満」では「年に5～9回程度」の割合が最も高い。
- ・月1回以上の割合が最も高いのは「60歳以上」(38.1%)で、月1回以上の割合が最も低いのは「30歳代」(16.8%)となっている

[チケットクラブへの加入・未加入別]

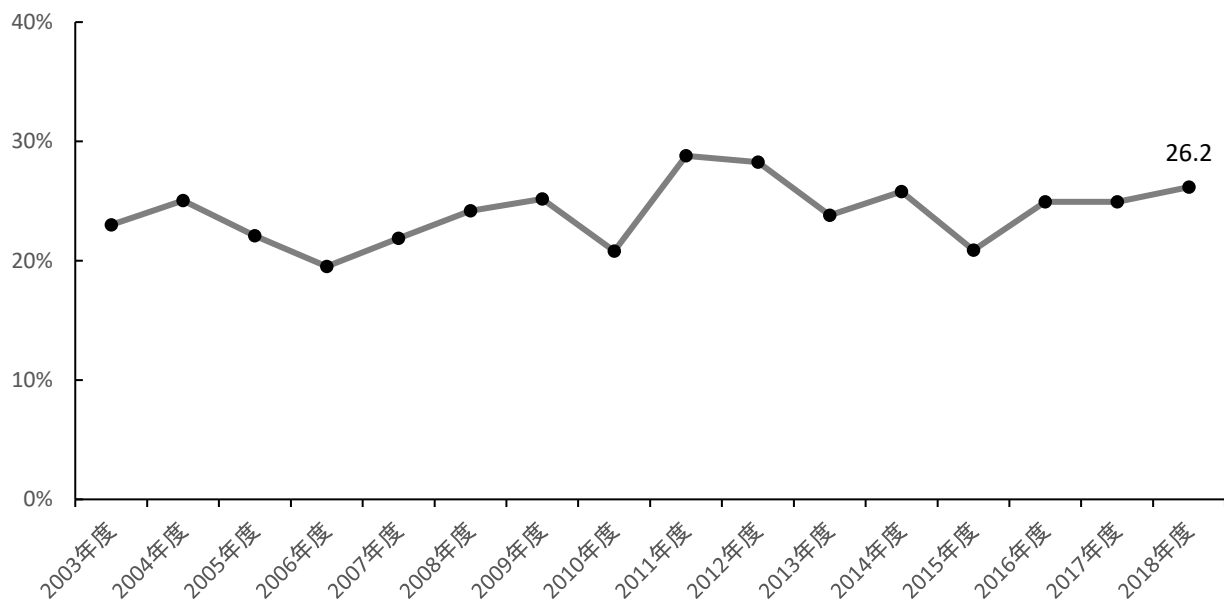
- ・「加入」の場合は「年に3～4回程度」、「年に5～9回程度」、「月に1回程度」が同率で19.8%、「未加入」の場合は「年に1～2回」(27.2%)の割合が最も高い。
- ・「加入」の場合は月に1回以上の割合が47.3%を占めており、「未加入」(22.3%)に比べて日頃からコンサートや演劇に出かける頻度が高いことがわかる。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

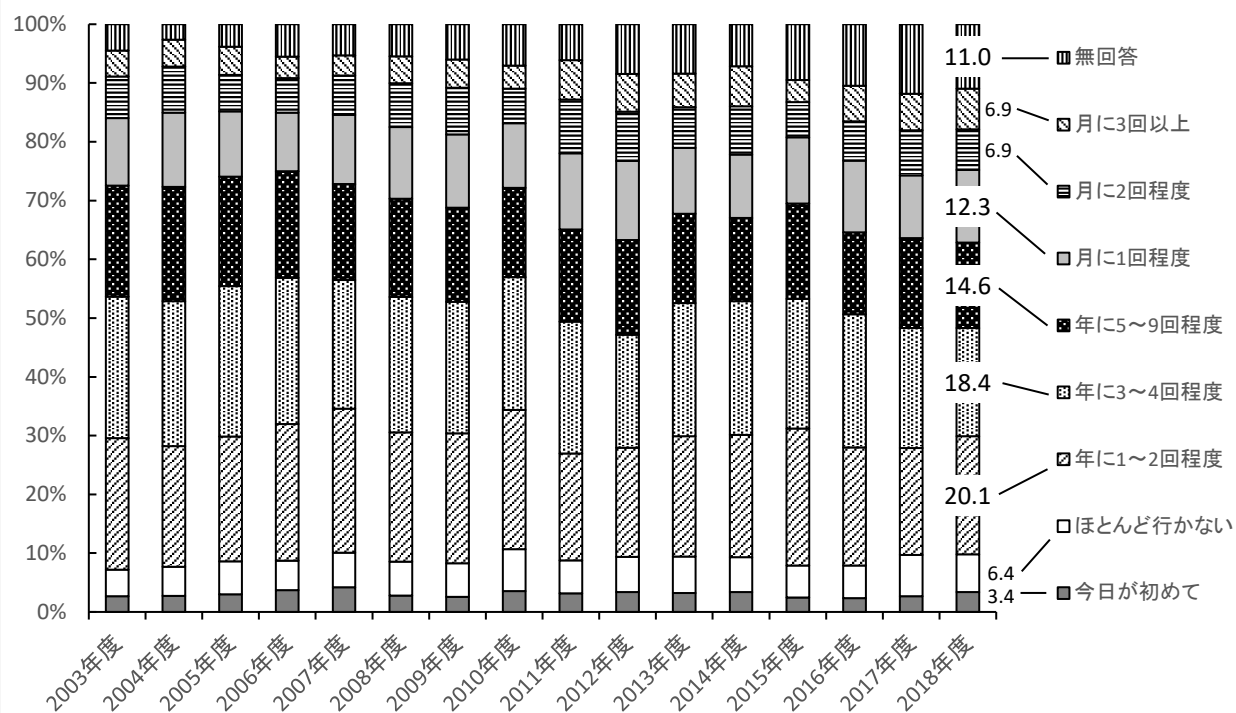
- ・北九州芸術劇場での鑑賞頻度が高いほど、日頃コンサートや演劇に出かける頻度も高く、その傾向は顕著である。北九州芸術劇場で「11回以上」の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は58.5%を占める。

過去の調査を見ると、コンサートや演劇にでかける頻度が月1回以上の割合の回答が過去最高の割合は11年度(28.8%)となっている。

コンサートや演劇に出かける頻度(月1回以上の割合)の推移



コンサートや演劇に出かける頻度の推移



(2) 北九州芸術劇場での鑑賞経験

Q8

北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「11回以上」が25.6%と最も高い。次いで、「今日が初めて」(21.8%)、「3～5回」(17.0%)、「6～10回」(12.8%)、「1～2回」(11.4%)と、大きな偏りがなく分布している。初めてからリピーターまで、幅広い層が来場している。

		調査数 (n)	Q8北九州芸術劇場での鑑賞経験 (単位: %)						6回以上 の割合
			今日が 初めて	1～2回	3～5回	6～10 回	11回以 上	無回答	
全体		940	21.8	11.4	17.0	12.8	25.6	11.4	38.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	22.7	10.4	16.4	12.8	27.9	9.8	40.7
	音楽劇	65	24.6	18.5	15.4	15.4	9.2	16.9	24.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	18.4	12.4	18.4	11.4	23.8	15.7	35.1
	パフォーマンス	26	15.4	11.5	26.9	15.4	23.1	7.7	38.5
性別	男性	186	30.1	13.4	18.3	15.1	19.9	3.2	34.9
	女性	649	22.7	12.5	18.8	14.2	30.8	1.1	45.0
年齢層	18歳未満	47	31.9	12.8	21.3	12.8	19.1	2.1	31.9
	18～29歳	88	48.9	20.5	14.8	10.2	5.7	0.0	15.9
	30歳代	101	39.6	15.8	15.8	16.8	10.9	1.0	27.7
	40歳代	196	24.0	12.8	18.4	15.3	27.6	2.0	42.9
	50歳代	205	16.1	11.7	20.0	15.1	35.6	1.5	50.5
	60歳以上	153	7.8	9.2	24.8	13.7	42.5	2.0	56.1
チケット クラブ	加入	237	7.2	3.4	15.6	19.4	53.6	0.8	73.0
	未加入	588	31.1	16.5	20.4	12.1	19.0	0.9	31.1
鑑賞 経験	今日が初めて	205	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1～2回	107	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5回	160	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6～10回	120	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	11回以上	241	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0

[来場公演のジャンル別]

- いずれのジャンルも、初めてからリピーターまで幅広い観客層となっているが、「小劇場・現代演劇」は「11回以上」の割合が最も高く、「音楽劇」は、「今日が初めて」の割合が最も高い。

[性別]

- 「男性」は「今日が初めて」が最も多く、「女性」は「11回以上」の割合が最も高い。

[年齢別]

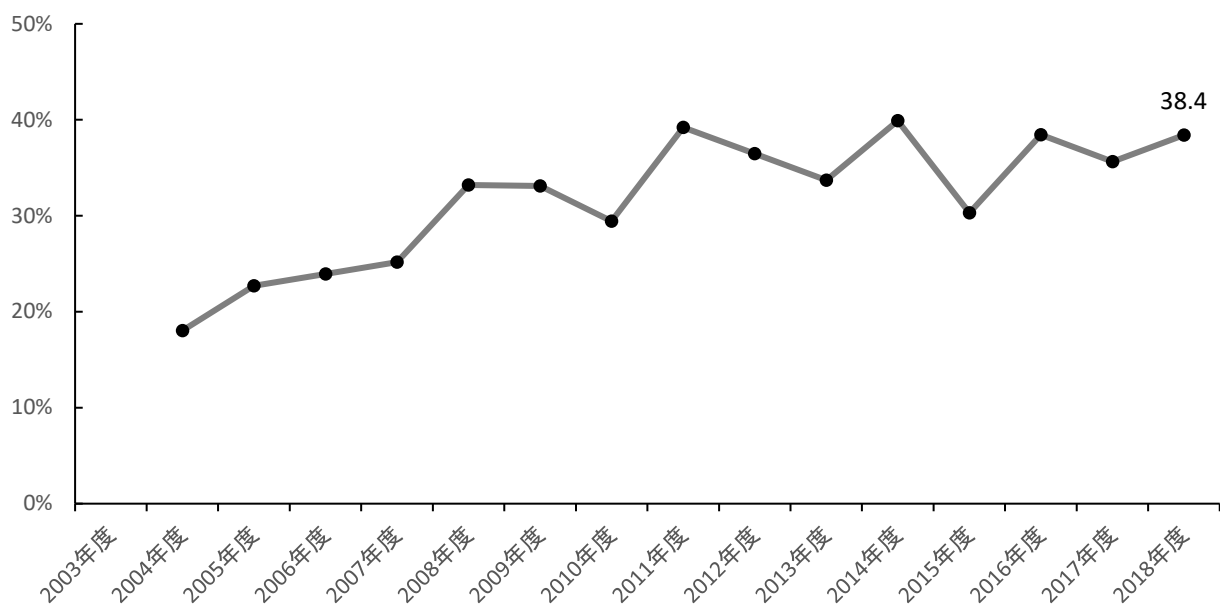
- 「30歳代」までのグループは「今日が初めて」の割合が最も高く、「40歳代」以上のグループは「11回以上」の割合が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

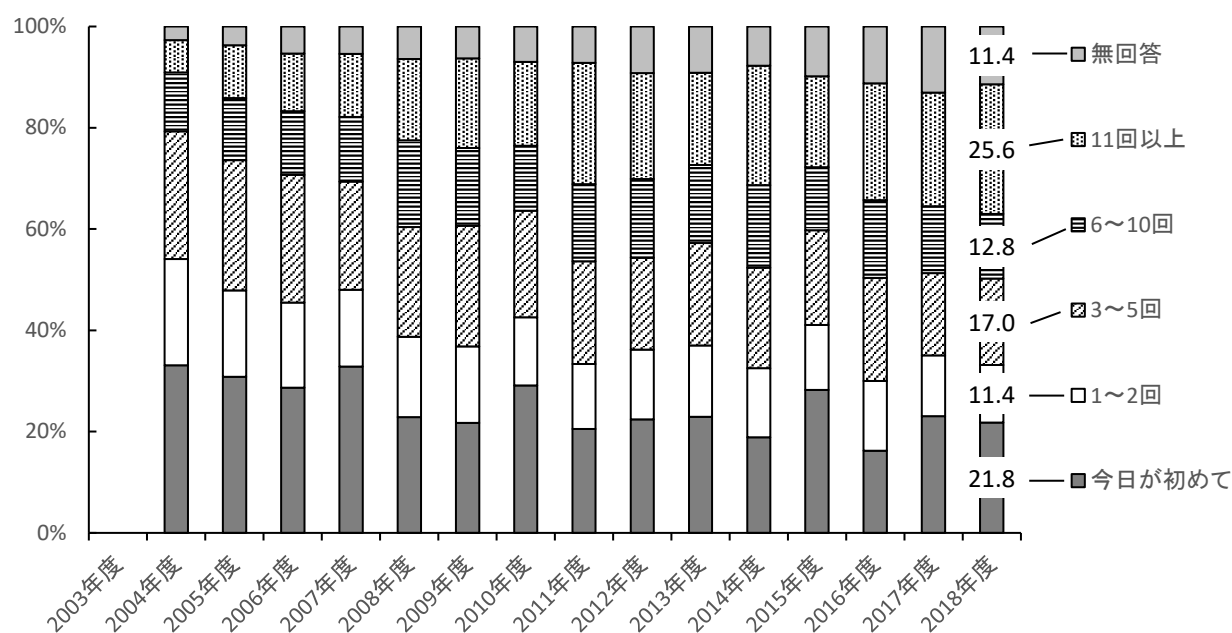
- 「加入」の場合は「11回以上」が53.6%と顕著に高く、6回以上の割合も73.0%となっている。一方、「未加入」の場合は「今日が初めて」が31.1%と最も高く、6回以上来場している割合は31.1%となっている。

北九州芸術劇場の鑑賞経験が6回以上の割合の推移を見ると、08年度までの調査では増加傾向で08～09年度は30%を超えていたものの、10年度は29.4%と減少し、11年度以降は、6回以上の割合が30%から40%の間を増減している。6回以上の割合は14年度で39.9%と過去最高となっている。

北九州芸術劇場での鑑賞経験(6回以上の割合)の推移



北九州芸術劇場での鑑賞経験の推移



(3) 来場の妨げになっていること

Q10

来場の妨げになっていること(※)は、「会場が遠い」(26.7%)、「チケット代金が高い」(22.6%)、「開催時間が間に合わない」(19.8%)、「仕事や勉強で忙しい」(18.5%)、「特に妨げは感じない」(17.1%)となっている。
※2015年度から設問を加えた。

		調査数 (n)	Q10来場の妨げになっていること (単位: %)										
			見たい作品が少ない	報いがない	チケット代金が高い	会場が遠い	開催時間が間に合わない	周りに一緒に見に行く人がいない	仕事や勉強で忙しい	子どもや家族がいて出かけられない	その他	特に妨げは感じない	無回答
全体		940	15.7	13.3	22.6	26.7	19.8	4.7	18.5	5.7	3.2	17.1	12.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	664	14.9	11.6	24.1	30.7	22.6	4.4	19.1	3.8	3.6	16.3	12.5
	音楽劇	65	15.4	30.8	20.0	16.9	9.2	10.8	23.1	15.4	1.5	12.3	20.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	185	18.4	14.1	17.8	18.9	14.6	3.8	15.7	8.6	2.2	20.5	9.2
	パフォーマンス	26	19.2	7.7	23.1	3.8	11.5	3.8	11.5	11.5	3.8	26.9	15.4
性別	男性	186	15.1	16.7	26.9	25.8	20.4	6.5	23.1	4.8	1.6	18.8	4.3
	女性	649	18.5	14.3	25.0	31.0	22.7	4.8	20.0	6.9	3.9	19.4	5.1
年齢層	18歳未満	47	19.1	12.8	14.9	23.4	8.5	2.1	19.1	6.4	0.0	29.8	12.8
	18～29歳	88	13.6	12.5	29.5	42.0	21.6	11.4	26.1	0.0	0.0	17.0	2.3
	30歳代	101	19.8	23.8	20.8	38.6	18.8	5.0	22.8	8.9	4.0	12.9	3.0
	40歳代	196	15.3	14.3	29.1	31.1	28.1	5.6	24.5	9.2	3.6	10.7	3.1
	50歳代	205	19.0	12.2	23.4	26.3	24.9	2.9	25.4	8.3	5.4	21.5	3.9
	60歳以上	153	17.6	15.7	27.5	22.2	16.3	5.2	7.2	2.0	3.9	30.1	8.5
チケットクラブ	加入	237	21.9	2.5	31.2	27.8	26.2	2.1	21.1	5.9	5.1	19.4	4.6
	未加入	588	15.8	19.9	23.1	31.0	20.2	6.5	20.7	6.6	2.9	19.2	4.6
鑑賞経験	今日が初めて	205	12.7	22.9	20.0	41.0	19.5	7.8	19.0	6.3	3.4	18.0	2.9
	1～2回	107	17.8	18.7	27.1	38.3	17.8	5.6	22.4	6.5	2.8	9.3	6.5
	3～5回	160	21.3	16.9	25.0	22.5	18.1	6.3	20.0	8.8	1.9	20.0	4.4
	6～10回	120	18.3	13.3	30.8	24.2	22.5	4.2	18.3	2.5	4.2	22.5	4.2
	11回以上	241	18.3	5.4	26.1	24.9	29.0	2.9	23.2	7.1	5.0	22.0	5.8

[来場公演のジャンル別]

- ・「音楽劇」では「いつ何をやっているか情報がない」が最も高い割合となっており、「ダンス・現代舞踊」と「パフォーマンス」では「特に妨げは感じない」が最も高い。

[性別]

- ・「男性」では「チケット代金が高い」が最も高く、「女性」では「会場が遠い」が最も高い。

[年齢別]

- ・「18歳未満」と「60歳以上」では「特に妨げは感じない」の割合が最も高い。

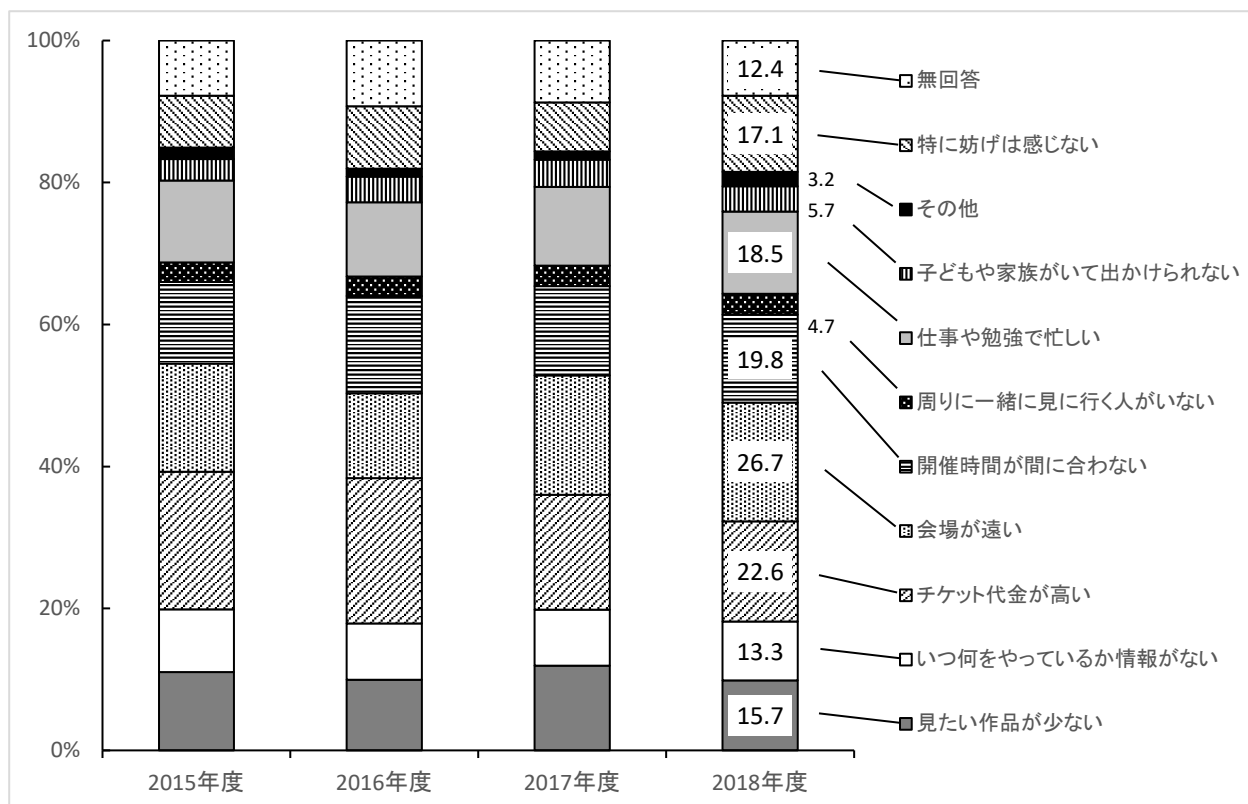
[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・「加入」では「チケット代金が高い」が最も高く、「未加入」では「会場が遠い」最も高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験の「3～5回」と「6～10回」では「チケット代金が高い」の割合が最も高く、「11回以上」では「開催時間が間に合わない」の割合が最も高い。

来場の妨げになっていることの割合の推移を見ると、18年度では「特に妨げは感じない」の割合が17年度以前に比べて高く、「チケット代金が高い」の割合が低くなっている。



参考 | 調査票

北九州芸術劇場 自主事業公演アンケート		公演名 (〇〇〇〇)
お帰りの際にロビー備え付けの回収箱にお入れいただくか、後日、 郵送（下記住所宛）もしくはファックスにてご返送ください。		FAX 送付先： 093-562-2633
北九州芸術劇場 アンケート係 〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-111 TEL: 093-562-2620		
本日は、北九州芸術劇場の公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様の声を今後の事業に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。		
すべての設問にご回答いただいた方々の中から抽選で、△△△△△の招待券をペアで5組・10名の方に差し上げます。 なお、当選者の発表は当選通知の発送にかえさせていただきます。		

Q 1 今日の公演は何でお知りになりましたか。(〇はいくつでも)

- 1 雑誌・タウン情報誌 (誌名: _____)
2 新聞 (紙名: _____)
- 3 TV・ラジオ
4 北九州市 市政だより
- 5 街中のチラシ・ポスター
6 ダイレクトメール
- 7 他の公演会場で配布されたチラシ
8 インターネット・ホームページ
- 9 友人・知人から聞いた
10 出演者、公演関係者から聞いた
- 11 ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭
12 その他 (具体的に _____)

Q 2 今日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

- 1 出演者、出演団体が好きだから
2 出演者、出演団体が有名だから
- 3 公演内容が面白そうだったから
4 劇場に来てみたかったから
- 5 劇場が近くだったから
6 出演者や関係者が知り合いだから
- 7 人に誘われたから
8 人に薦められたから
- 9 その他 (具体的に _____)

Q 3 今日の公演や北九州芸術劇場についてあなたのご意見をお聞かせください。(〇は各項目ひとつずつ)

	1 たいへん 満足	2 まあ 満足	3 少し 不満足	4 まったく 不満足
(記入見本)	1	②	3	4
本日の公演内容	1	2	3	4
本日の公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
(北九州芸術劇場の) 電話予約やチケットカウンターでの対応	1	2	3	4
劇場係員の対応	1	2	3	4
劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ	1	2	3	4
劇場やロビーのデザイン、雰囲気	1	2	3	4
劇場ロビーの飲食サービス	1	2	3	4

Q 4 総合的にみて北九州芸術劇場に対するあなたのご意見をお聞かせください。(〇はひとつ)

- 1 たいへん満足している 2 まあ満足している 3 あまり満足していない 4 まったく満足していない

Q 5 北九州芸術劇場は次のような方針で運営しています。あなたのご意見をお聞かせください。

(〇は各項目ひとつだけ)

		1 ぜひやっ てほしい	2 まあやっ てほしい	3 あまり やる必要 はない	4 まったく やる必要 がない
観る	東京、大阪など舞台芸術の先進都市からエンターテイン ト性や芸術性の高い‘旬’の舞台作品を招きます	1	2	3	4
創る	劇場のオリジナル・プロデュースで本格的な舞台作品を創り ます	1	2	3	4
育つ	アーティストを小・中学校のクラスに派遣するなどの活動を通 じて、地域に舞台芸術を愛する人が根づく土壌を作ります	1	2	3	4
支える	市民の文化活動の支援や、地元劇団等の創作活動の支援を行 います	1	2	3	4

Q 6 今日の公演前に飲食やショッピングをされましたか。また公演後される予定ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ
「1 はい」とお答えになった方へ。だいたいいくらぐらい
お使いになりましたか。あるいはお使いになる予定ですか。
飲食とショッピングの別にご記入ください。

飲食 円ぐらい

ショッピング 円ぐらい

Q 7 日頃、コンサートや演劇などの公演にどのくらいの頻度でお出かけになっていますか。(○はひとつだけ)

- 1 今日が初めて 2 ほとんど行かない 3 年に1～2回程度 4 年に3～4回程度
5 年に5～9回程度 6 月に1回程度 7 月に2回程度 8 月に3回以上

Q 8 では、今までに北九州芸術劇場で何回ぐらい公演をご覧になりましたか。(○はひとつ)

- 1 今日が初めて 2 1～2回 3 3～5回 4 6～10回 5 11回以上

Q 9 あなたは北九州芸術劇場のチケットクラブ会員ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ (→今後入会をお考えですか 1 はい 2 いいえ)

Q 10 普段、興味をお持ちのジャンルに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 小劇場・現代演劇 2 有名俳優の演劇(「博多座」の公演など)
3 能・狂言・文楽・歌舞伎等 4 ミュージカル(四季含む)・宝塚歌劇
5 バレエ 6 モダンダンス、現代舞踊等
7 クラシック音楽・オペラ 8 寄席・演芸・お笑い・独演会など
9 ポップス・ロック 10 ジャズ・フュージョン
11 映画 12 美術 13 その他(具体的に)

Q 11 お住まいのエリアをお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 北九州市 2 北九州市周辺(直方市、田川市、行橋市、中間市、宗像市、福津市、宮若市、遠賀郡等)
3 福岡市 4 福岡市周辺(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、糸島市、糟屋郡等)
5 上記以外の福岡県内(具体的に) 6 福岡県以外の九州(具体的に)
7 下関市 8 下関市以外の山口県(具体的に)
9 その他(具体的に)

Q 12 ご性別をお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 男性 2 女性

Q 13 ご年齢をお答えください。

ご年齢 歳

Q 14 最後に、今後、北九州芸術劇場で観てみたいアーティスト、劇団、作品、あるいは北九州芸術劇場へのご要望などについて自由にご記入ください。

※本日の座席番号 階 列 番

お名前とご連絡先のご記入をお願いします。(招待券の抽選への参加にはご記入が必要です。ご記入頂いた情報は、招待券の抽選・発送と劇場及び演劇関係者からのご案内の目的以外には一切使いません)

■お名前 (フリガナ)

■ご住所 〒

■Tel ■E-mail

今後、北九州市芸術文化振興財団が主催する公演のご案内をお送りする場合がありますが、よろしいですか。

- 1 すでに届いている 2 はい(郵送で・E-mailで・両方で) 3 いいえ

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同、またのご来場を心よりお待ちしております。

III

貸館利用者
調査結果

序 利用者調査の実施要領

貸館利用者調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2018年度の貸館利用者(大ホール、中劇場、小劇場)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:215件
- 回答数(回収率):147件(68.4%)

(2) 集計・分析にあたっての留意事項

- 貸館利用者調査(「施設利用に関するアンケート調査」)は、2005年度から北九州芸術劇場が独自に開始し、2006年度からは北九州市の方針により、北九州芸術劇場、響ホール、門司市民会館、若松市民会館、八幡市民会館の5館で共通の調査票を用いた調査を実施することとなった。
- 調査票は、2005年度に北九州芸術劇場で実施した調査票に基づき、2006年度から5館共通の調査票を再設計している。そのため、共通の項目が多い一方、統合できない項目もある。
- 2009年度から、満足度項目のうち、運営・応対面に関する項目を若干変更している。また、「Q4:劇場を利用したきっかけ」を新たに設けている。

(3) 調査項目

- 劇場の使いごちに対する総合的な満足度
- 劇場の施設に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 劇場の運営や応対に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 施設を利用する際重視すること
- うち最も重視すること、2番目に重視すること
- 劇場を利用したきっかけ
- その他自由回答

利用者調査結果

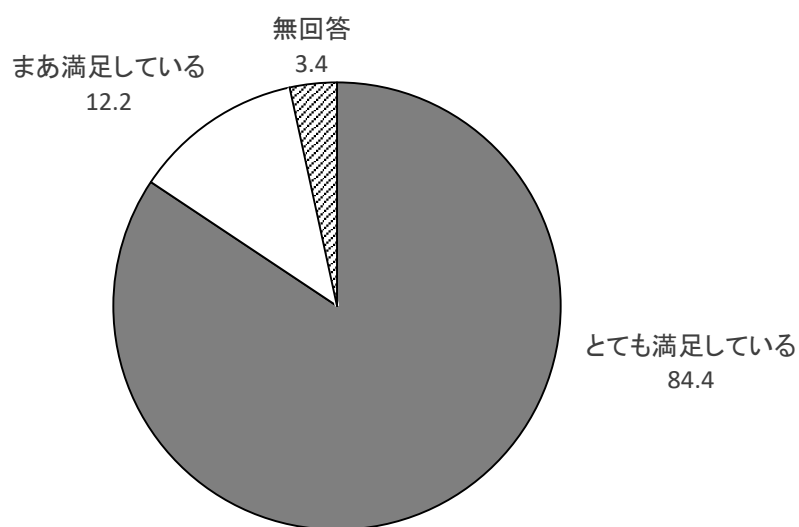
(1) 使いごちに関する総合的な意見

Q1

北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が84.4%、「まあ満足している」が12.2%である。劇場利用者の満足度は大変高い。

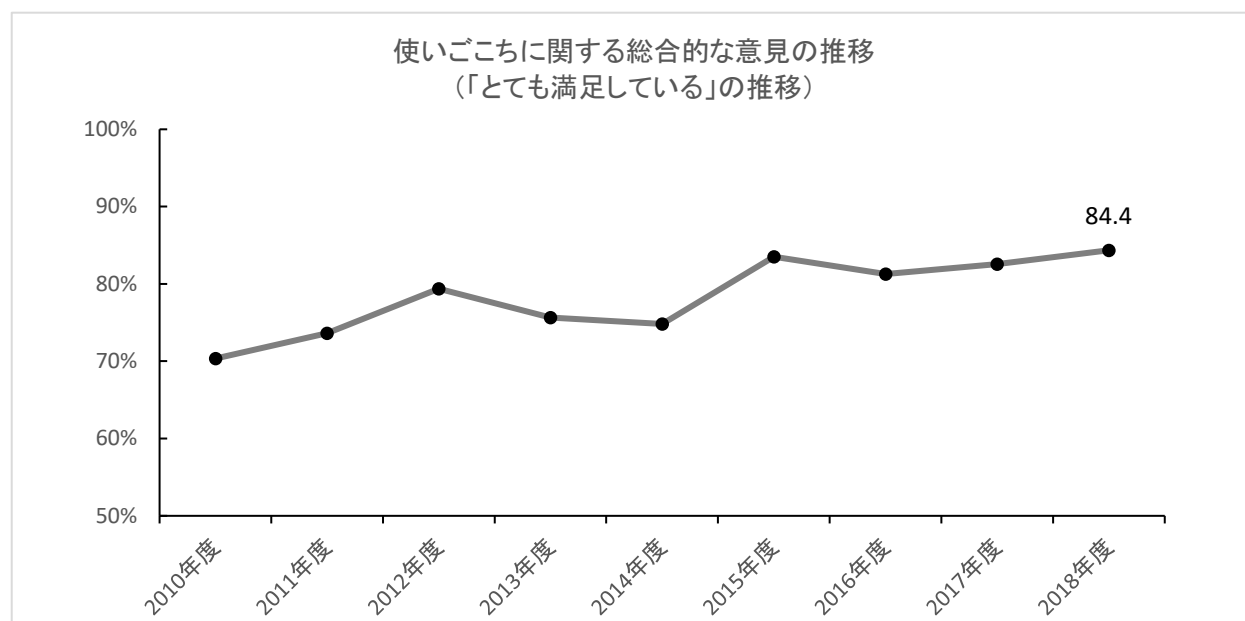
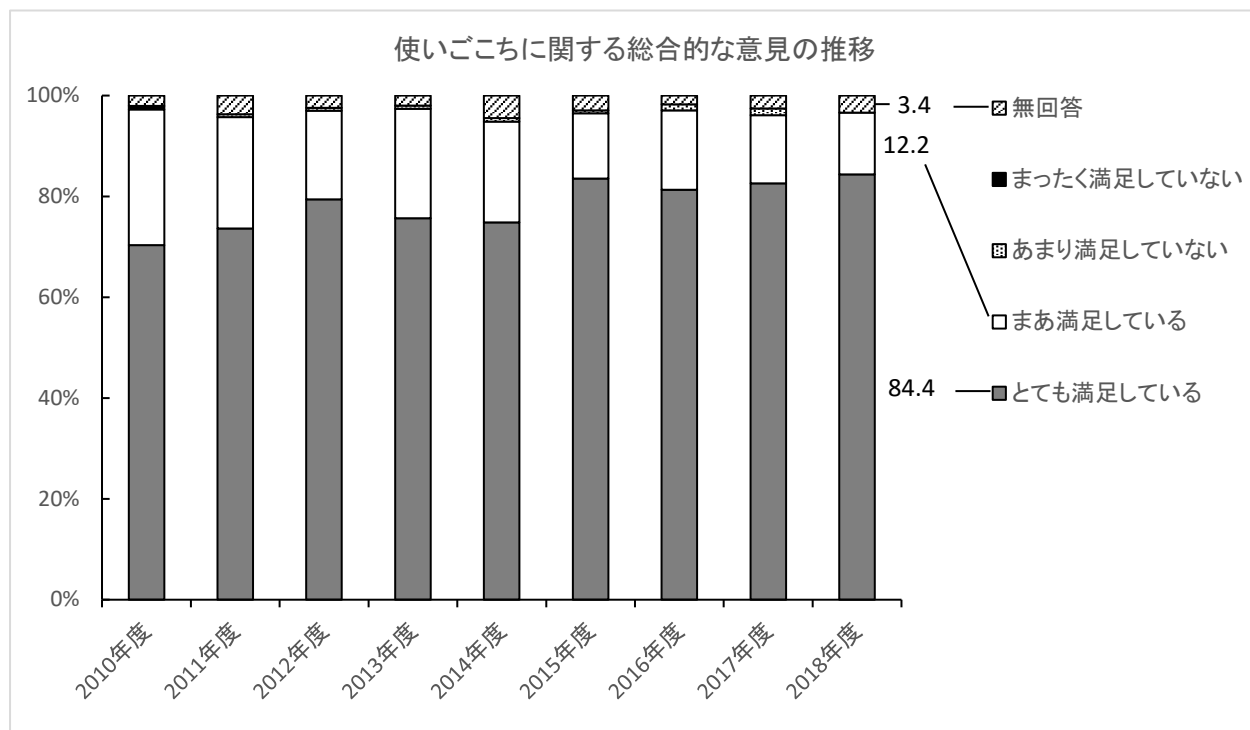
	調査数(n)	Q1 使いごちに関する総合的な意見 (単位: %)				
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答
2010年度	145	70.3	26.9	0.0	0.7	2.1
2011年度	163	73.6	22.1	0.6	0.0	3.7
2012年度	165	79.4	17.6	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	75.7	21.7	0.7	0.0	2.0
2014年度	135	74.8	20.0	0.7	0.0	4.4
2015年度	170	83.5	12.9	0.6	0.0	2.9
2016年度	171	81.3	15.8	1.2	0.0	1.8
2017年度	155	82.6	13.5	1.3	0.0	2.6
2018年度	147	84.4	12.2	0.0	0.0	3.4

2018年度利用者の使いごちに関する総合的な意見



集計表には、参考として10年度～16年度の各年度の数字を掲載している。

経年変化でみると、10年度以降で「とても満足している」回答が、最も高い割合となっている。

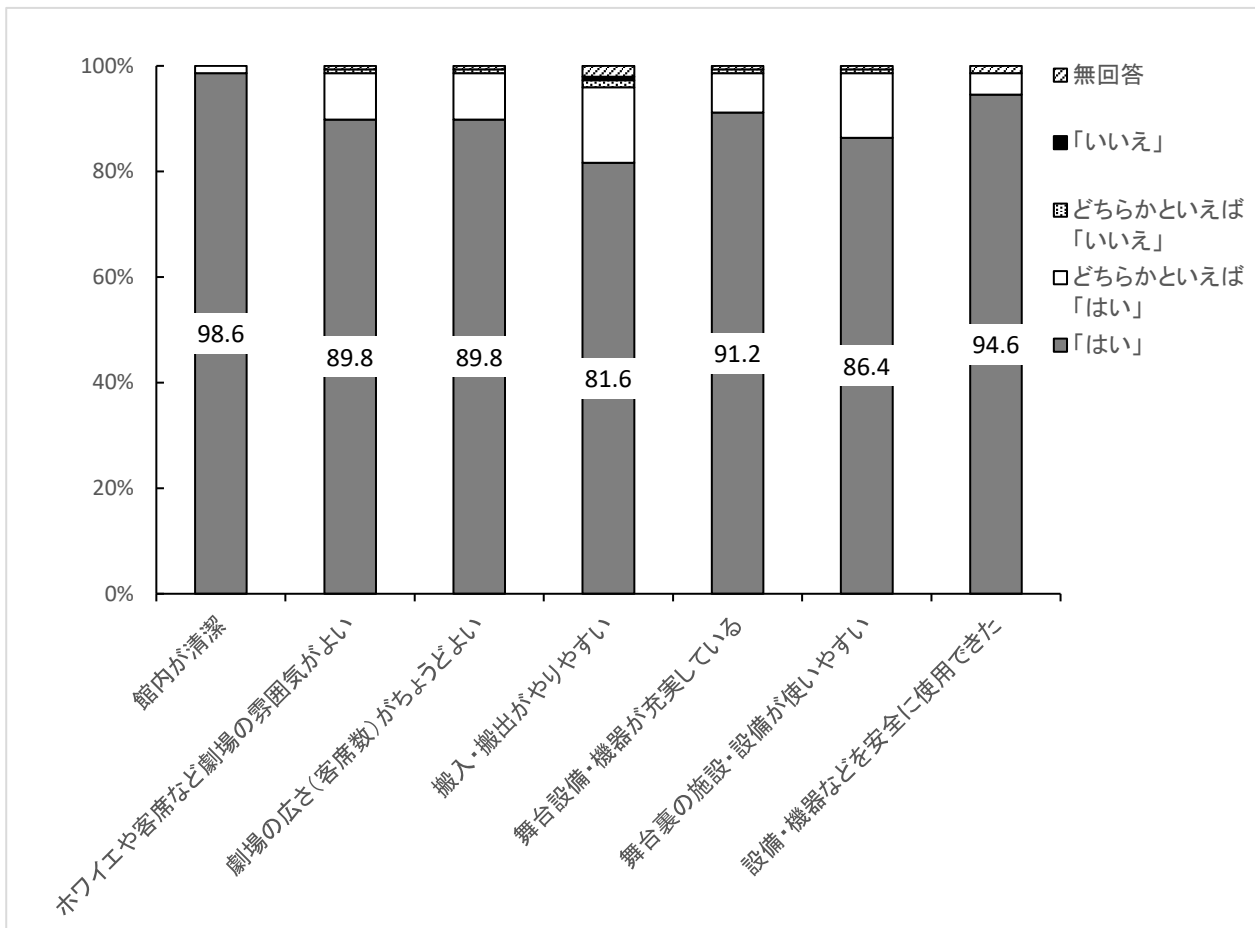


劇場の施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「館内が清潔」で100%となっており、他の項目はいずれも95%以上となっている。

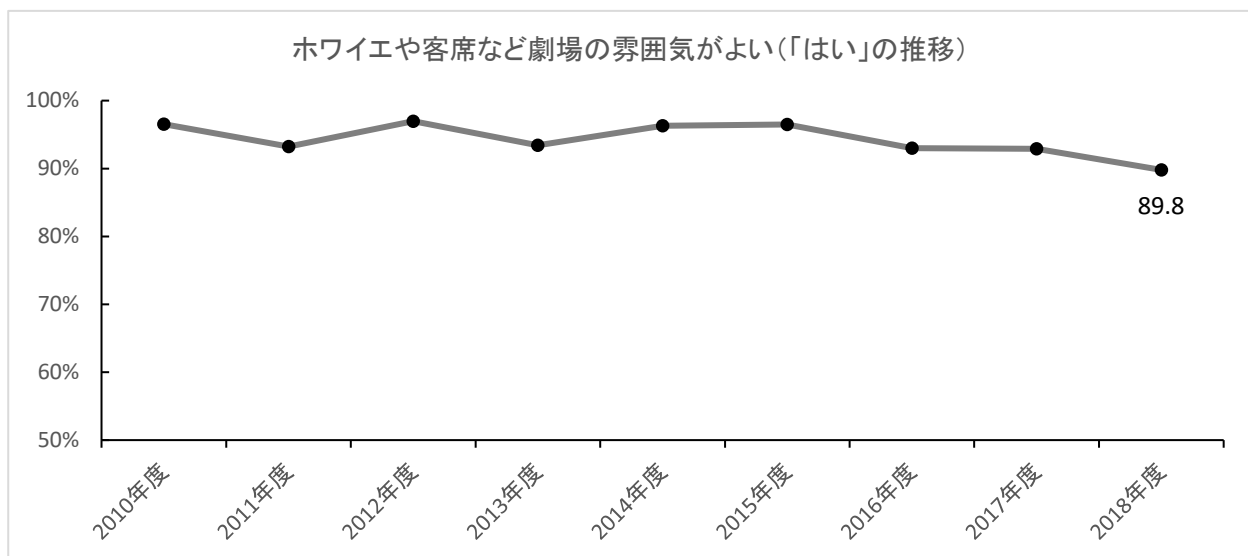
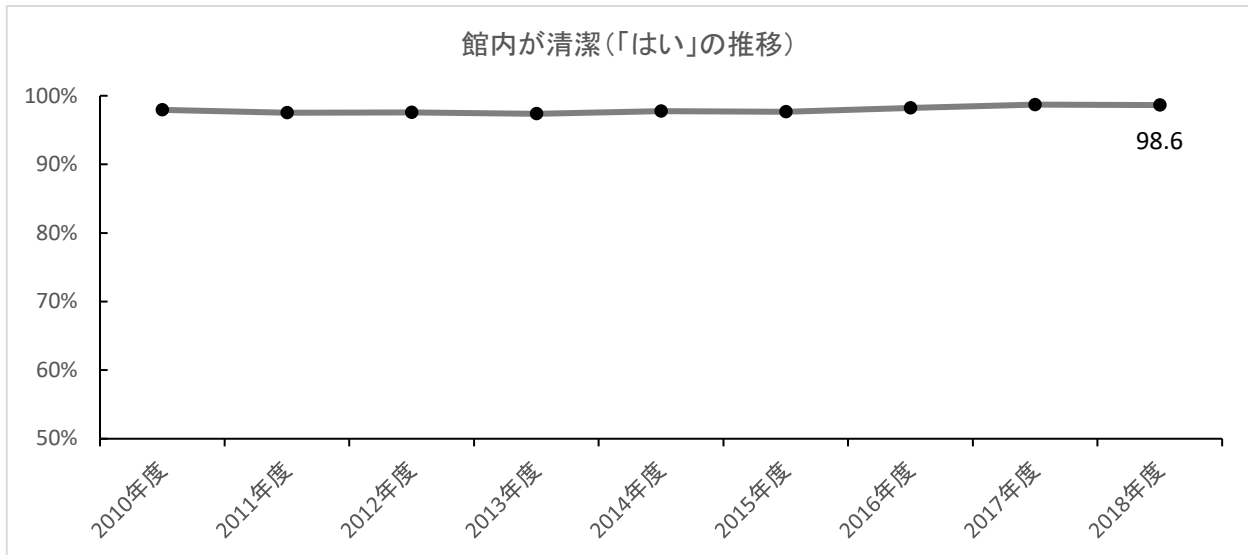
「はい」の割合をみると、「館内が清潔」、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備・機器が充実している」の3項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い。

(単位: %)

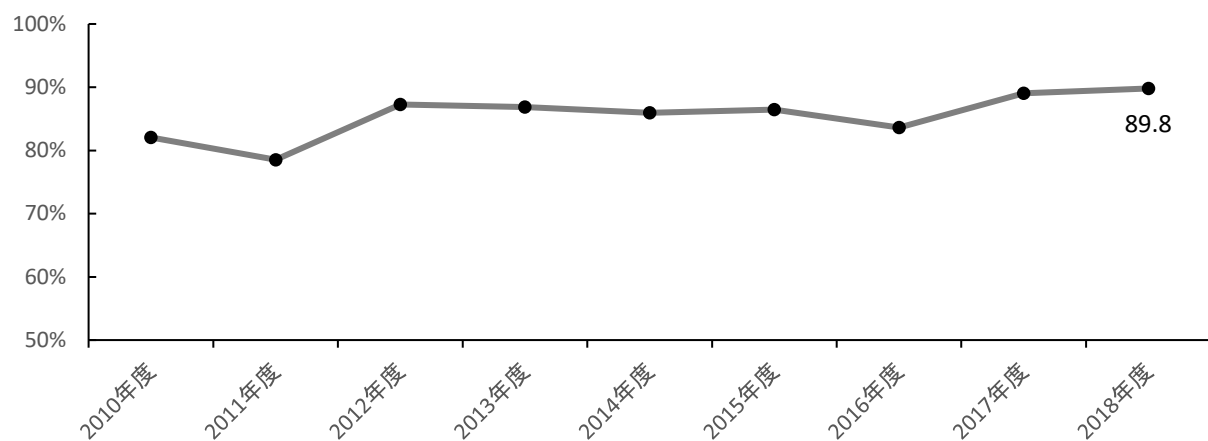
	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
館内が清潔	98.6	1.4	0.0	0.0	0.0
ホワイエや客席など劇場の雰囲気がい	89.8	8.8	0.7	0.0	0.7
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい	89.8	8.8	0.7	0.0	0.7
搬入・搬出がやりやすい	81.6	14.3	1.4	0.7	2.0
舞台設備・機器が充実している	91.2	7.5	0.7	0.0	0.7
舞台裏の施設・設備が使いやすい	86.4	12.2	0.7	0.0	0.7
設備・機器などを安全に使用できた	94.6	4.1	0.0	0.0	1.4



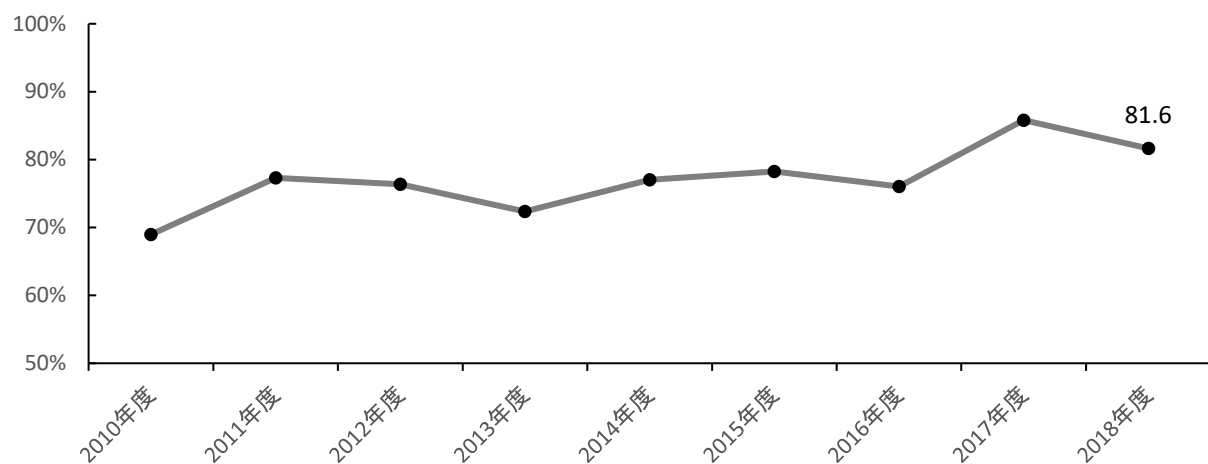
経年変化を見ると、「館内が清潔」は「はい」の回答が10年以降97%を超えており常に高い割合を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」だが、17年度に次いで2番目に高い割合(81.6%)となっている。一方、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」が徐々に減少傾向にあり、10年度以降で最も低い割合(89.8%)となっている。



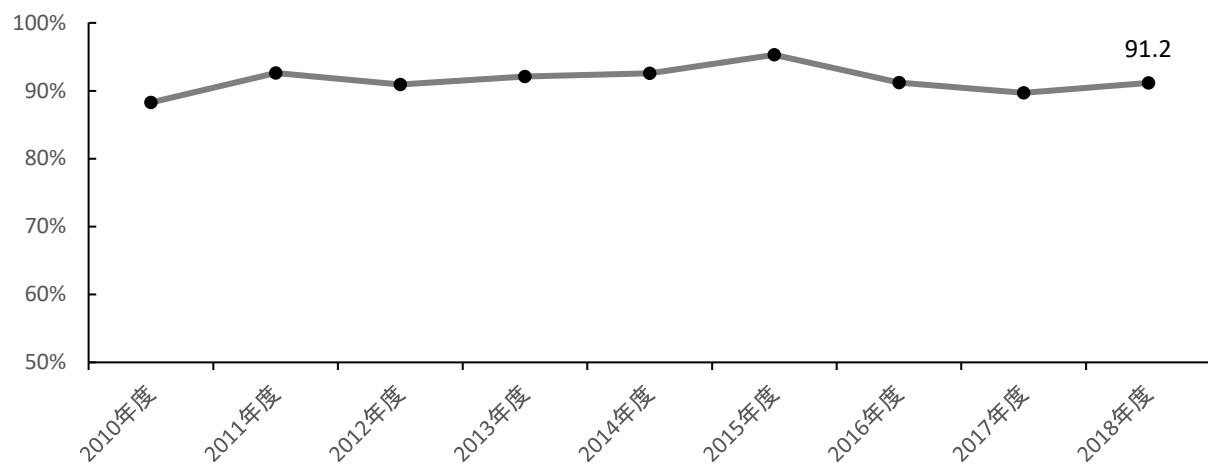
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい(「はい」の推移)

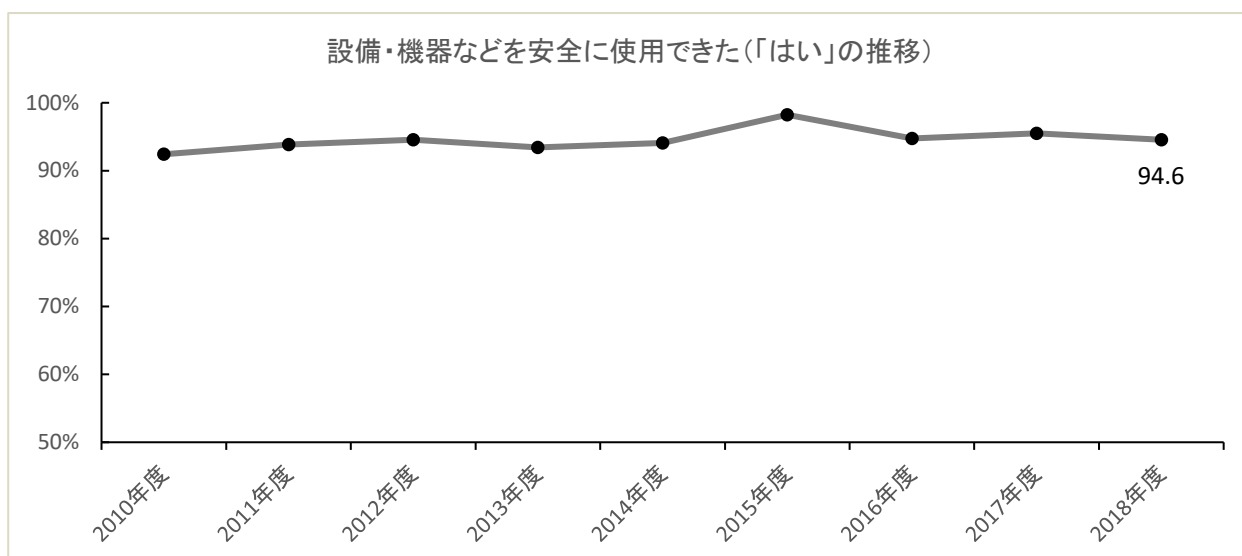
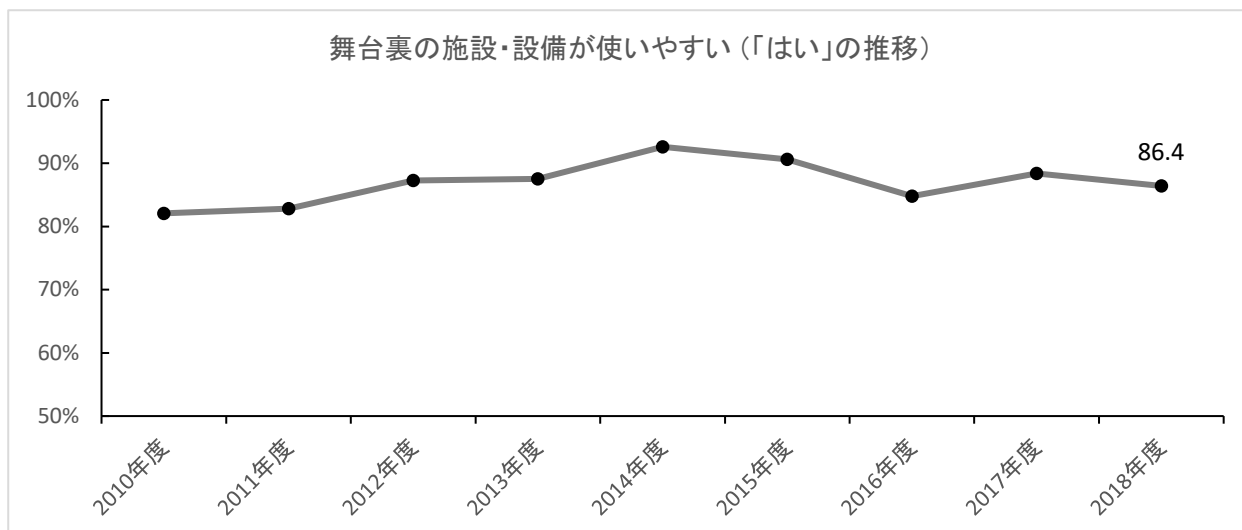


搬入・搬出がやりやすい(「はい」の推移)



舞台設備・機器が充実している(「はい」の推移)





(2) 劇場に関する意見 【施設について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えば「はい」	どちらかとい えば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-施設① 館内が清潔						
2010年度	145	97.9	2.1	0.0	0.0	0.0
2011年度	163	97.5	2.5	0.0	0.0	0.0
2012年度	165	97.6	2.4	0.0	0.0	0.0
2013年度	152	97.4	2.6	0.0	0.0	0.0
2014年度	135	97.8	2.2	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	97.6	1.8	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	98.2	1.8	0.0	0.0	0.0
2017年度	155	98.7	1.3	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	98.6	1.4	0.0	0.0	0.0
Q2-施設② ホワイエや客席など劇場の雰囲気がい						
2010年度	145	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
2011年度	163	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0
2012年度	165	97.0	3.0	0.0	0.0	0.0
2013年度	152	93.4	5.9	0.7	0.0	0.0
2014年度	135	96.3	3.0	0.7	0.0	0.0
2015年度	170	96.5	2.9	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	93.0	5.8	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	89.8	8.8	0.7	0.0	0.7
Q2-施設③ 劇場の広さ(客席数)がちょうどよい						
2010年度	145	82.1	12.4	2.1	2.8	0.7
2011年度	163	78.5	16.0	3.7	1.8	0.0
2012年度	165	87.3	10.3	1.2	0.6	0.6
2013年度	152	86.8	9.2	3.3	0.7	0.0
2014年度	135	85.9	9.6	0.7	3.0	0.7
2015年度	170	86.5	10.6	1.8	0.6	0.6
2016年度	171	83.6	14.6	1.8	0.0	0.0
2017年度	155	89.0	7.7	1.9	1.3	0.0
2018年度	147	89.8	8.8	0.7	0.0	0.7
Q2-施設④ 搬入・搬出がしやすい						
2010年度	145	69.0	22.1	6.2	1.4	1.4
2011年度	163	77.3	14.7	4.9	1.2	1.8
2012年度	165	76.4	17.6	3.6	0.6	1.8
2013年度	152	72.4	24.3	2.6	0.0	0.7
2014年度	135	77.0	14.8	5.2	0.7	2.2
2015年度	170	78.2	17.6	2.9	1.2	0.0
2016年度	171	76.0	18.7	4.1	0.0	1.2
2017年度	155	85.8	12.3	0.6	0.6	0.6
2018年度	147	81.6	14.3	1.4	0.7	2.0

(2) 劇場に関する意見 【施設について】

Q2

(単位: %)

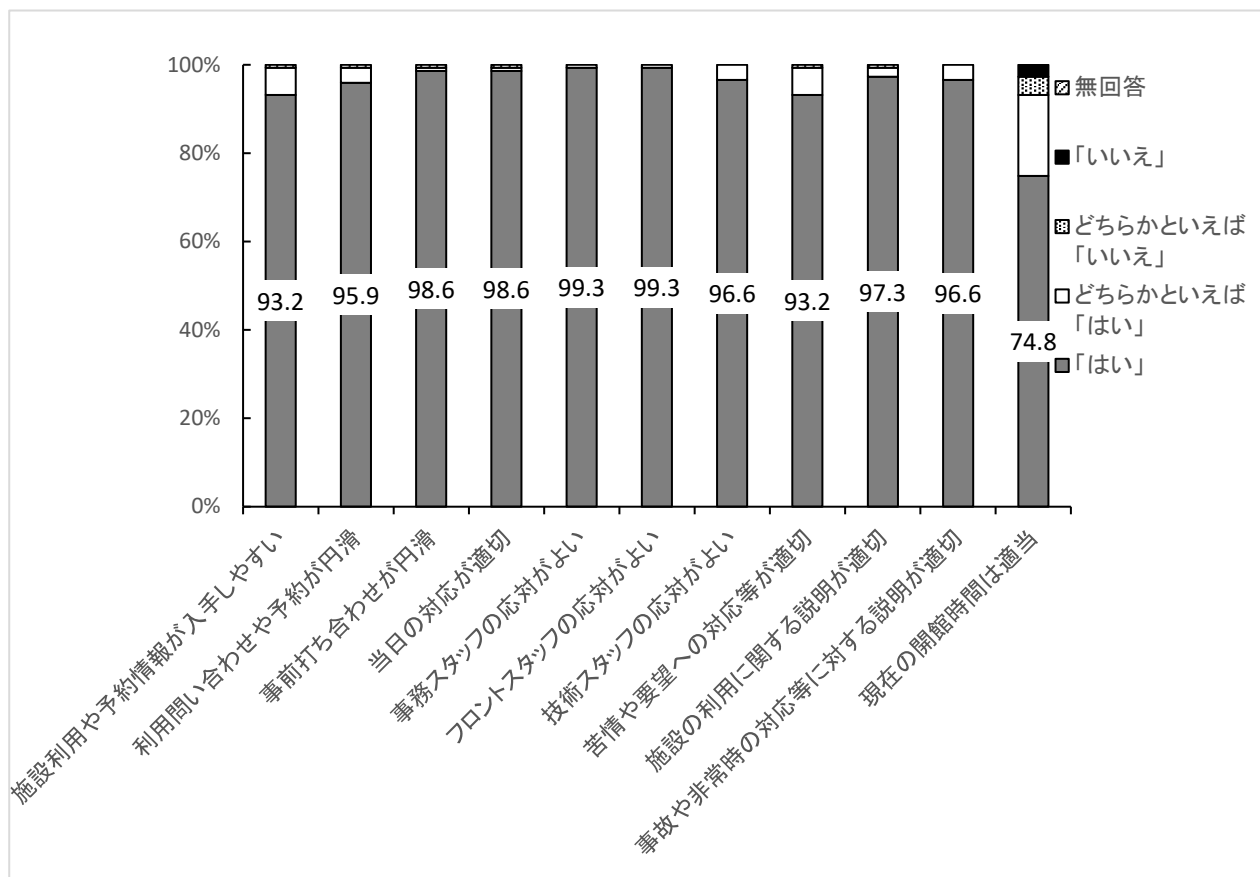
	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えば「はい」	どちらかとい えば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-施設⑤ 舞台設備・機器が充実している						
2010年度	145	88.3	10.3	0.0	0.0	1.4
2011年度	163	92.6	6.7	0.0	0.0	0.6
2012年度	165	90.9	7.9	0.0	0.0	1.2
2013年度	152	92.1	7.2	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	92.6	4.4	1.5	0.0	1.5
2015年度	170	95.3	4.7	0.0	0.0	0.0
2016年度	171	91.2	7.0	1.2	0.0	0.6
2017年度	155	89.7	9.7	0.6	0.0	0.0
2018年度	147	91.2	7.5	0.7	0.0	0.7
Q2-施設⑥ 舞台裏の施設・設備が使いやすい						
2010年度	145	82.1	15.2	0.0	1.4	1.4
2011年度	163	82.8	12.9	2.5	0.6	1.2
2012年度	165	87.3	9.1	3.0	0.0	0.6
2013年度	152	87.5	10.5	1.3	0.0	0.7
2014年度	135	92.6	5.2	1.5	0.7	0.0
2015年度	170	90.6	7.6	0.6	0.6	0.6
2016年度	171	84.8	12.3	2.3	0.6	0.0
2017年度	155	88.4	11.6	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	86.4	12.2	0.7	0.0	0.7
Q2-施設⑦ 設備・機器などを安全に使用できた						
2010年度	145	92.4	6.2	0.0	0.0	1.4
2011年度	163	93.9	4.9	0.6	0.0	0.6
2012年度	165	94.5	3.6	0.0	0.0	1.8
2013年度	152	93.4	5.3	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	94.1	5.2	0.0	0.0	0.7
2015年度	170	98.2	1.2	0.0	0.6	0.0
2016年度	171	94.7	4.1	0.0	0.0	1.2
2017年度	155	95.5	3.9	0.0	0.6	0.0
2018年度	147	94.6	4.1	0.0	0.0	1.4

劇場の運営や対応に関する11項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「現在の開館時間は適当」以外の10項目で99%以上となっている。「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」については、肯定的な評価が100%と高い評価となっている。

「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「はい」(74.8%)の回答が少なくなっている。

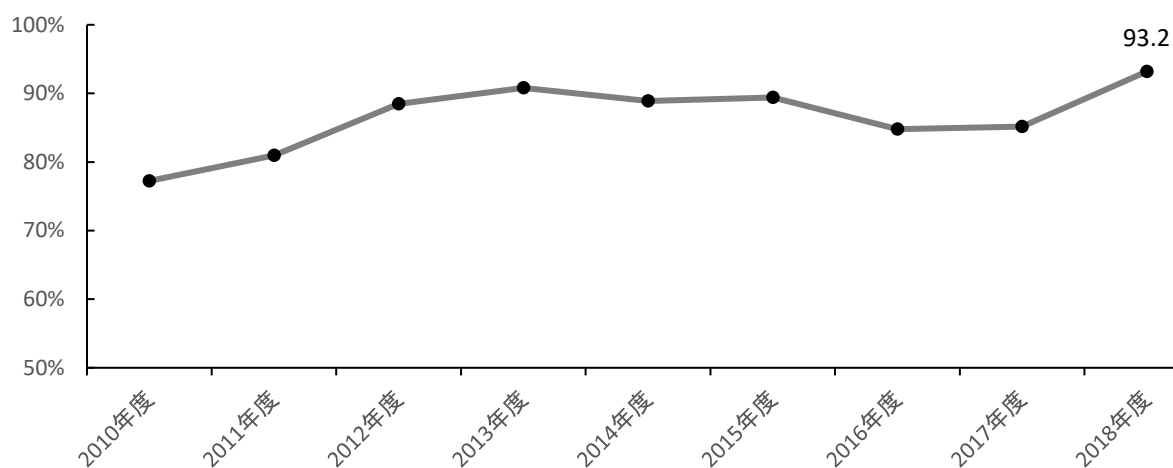
(単位: %)

	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
施設利用や予約情報が入手しやすい	93.2	6.1	0.0	0.0	0.7
利用問い合わせや予約が円滑	95.9	3.4	0.0	0.0	0.7
事前打ち合わせが円滑	98.6	0.7	0.0	0.0	0.7
当日の対応が適切	98.6	0.7	0.0	0.0	0.7
事務スタッフの対応がよい	99.3	0.7	0.0	0.0	0.0
フロントスタッフの対応がよい	99.3	0.7	0.0	0.0	0.0
技術スタッフの対応がよい	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
苦情や要望への対応等が適切	93.2	6.1	0.0	0.0	0.7
施設の利用に関する説明が適切	97.3	2.0	0.0	0.0	0.7
事故や非常時の対応等に対する説明が適切	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
現在の開館時間は適当	74.8	18.4	4.1	2.7	0.0

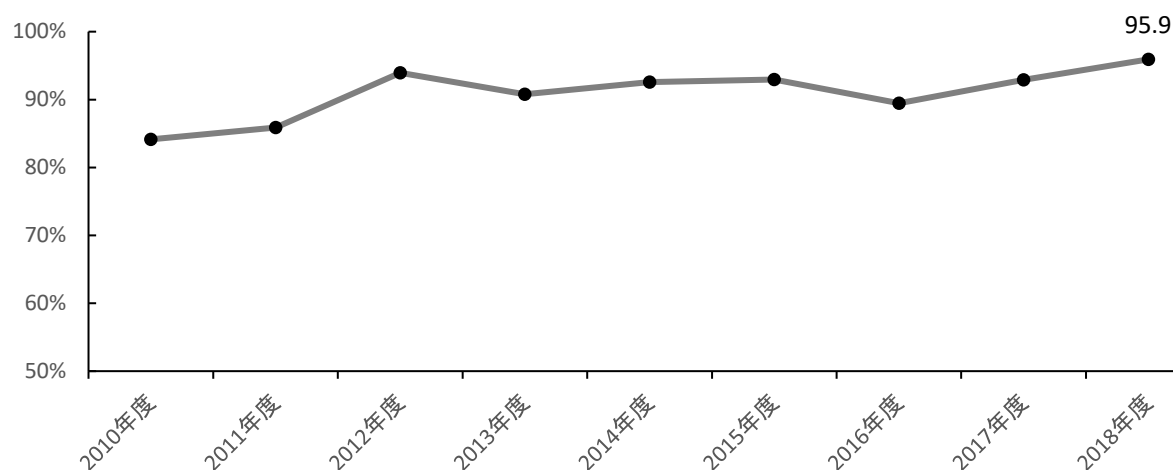


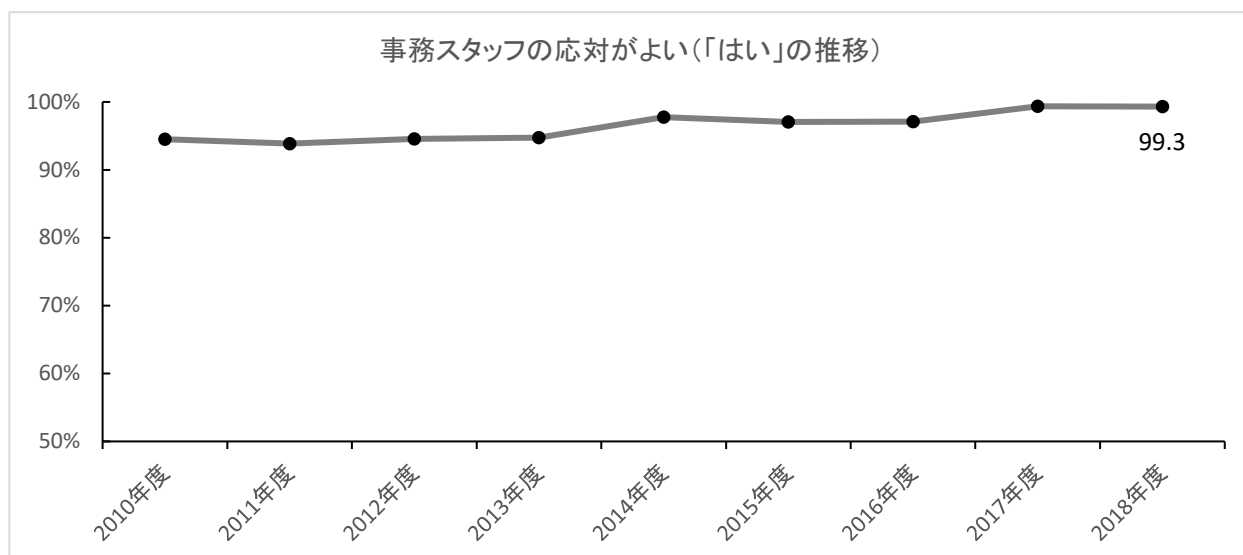
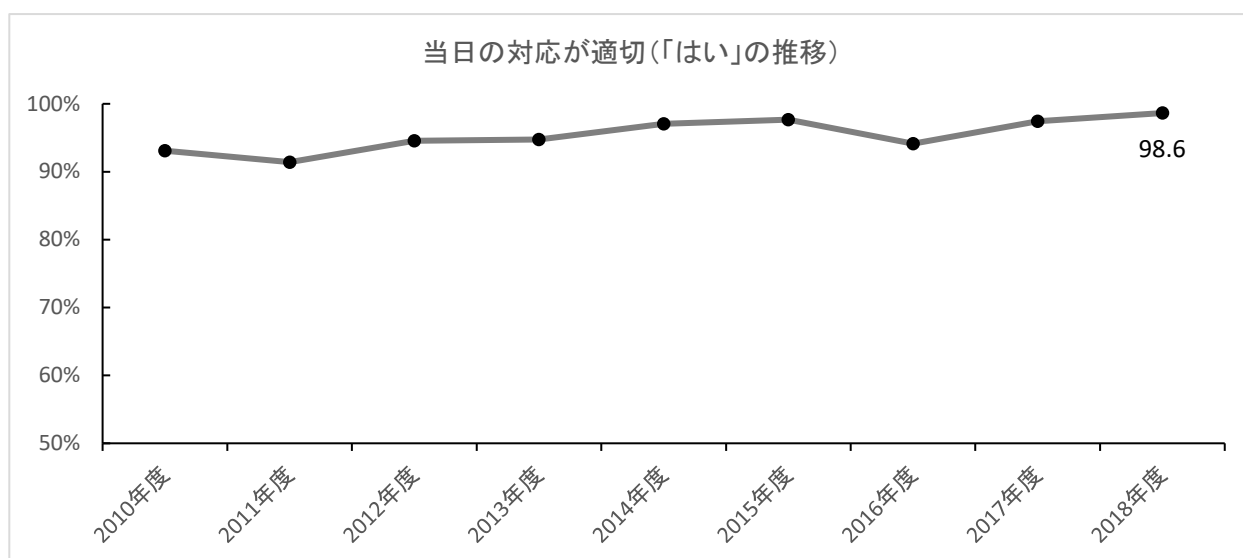
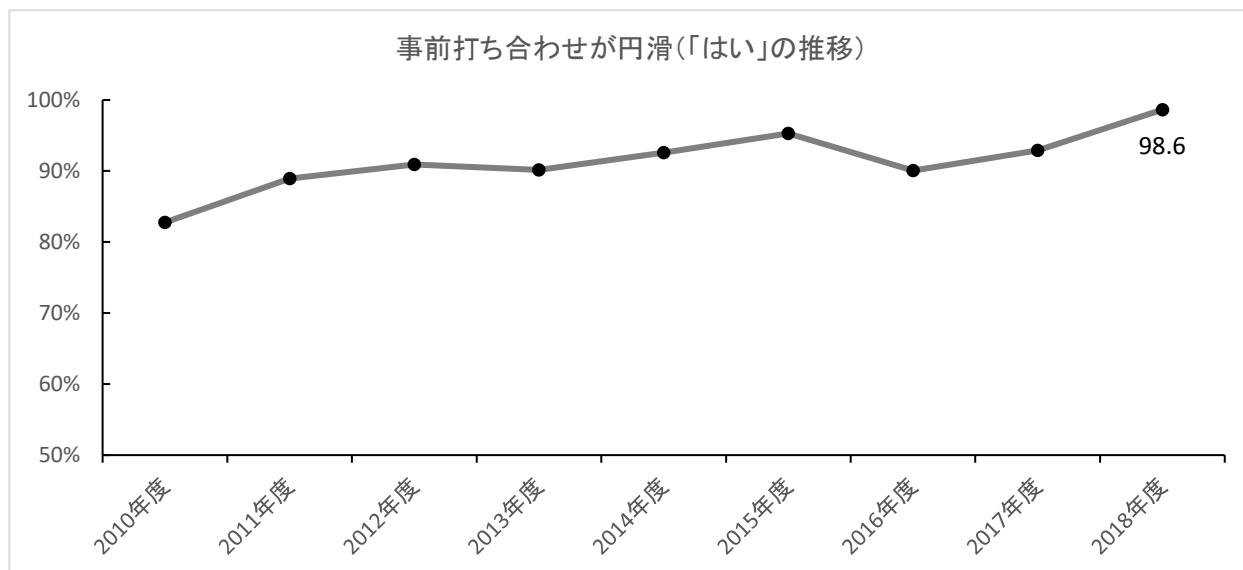
経年変化を見ると、「事務スタッフの対応がよい」、「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの対応がよい」は「はい」の回答が10年以降90%を超えており常に高い割合を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「現在の開館時間は適当」だが、17年度に続いて高い割合（74.8%）となっている。

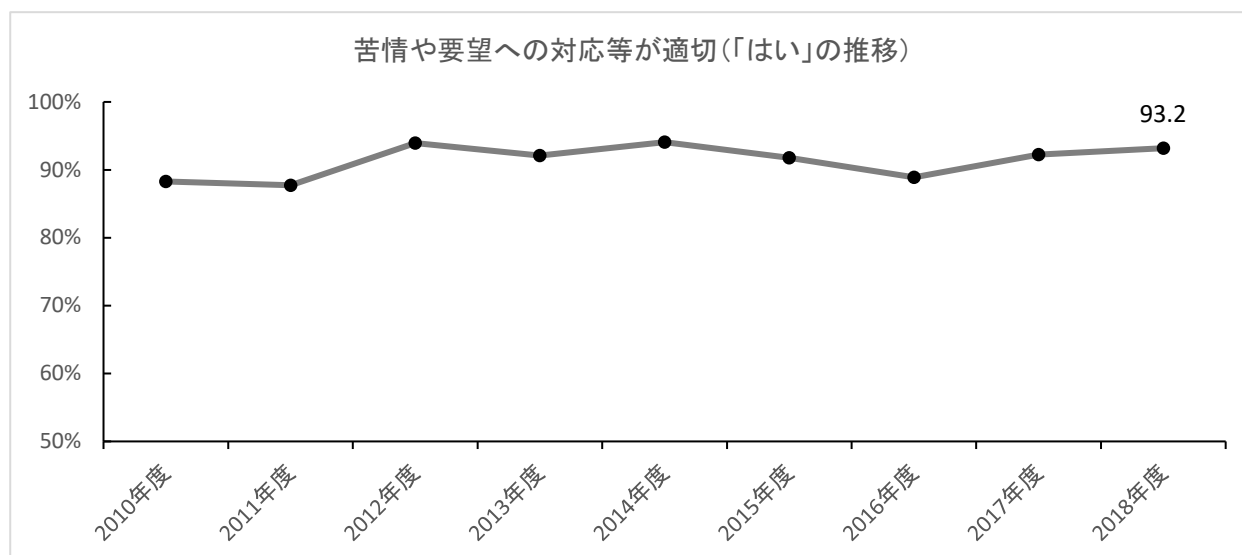
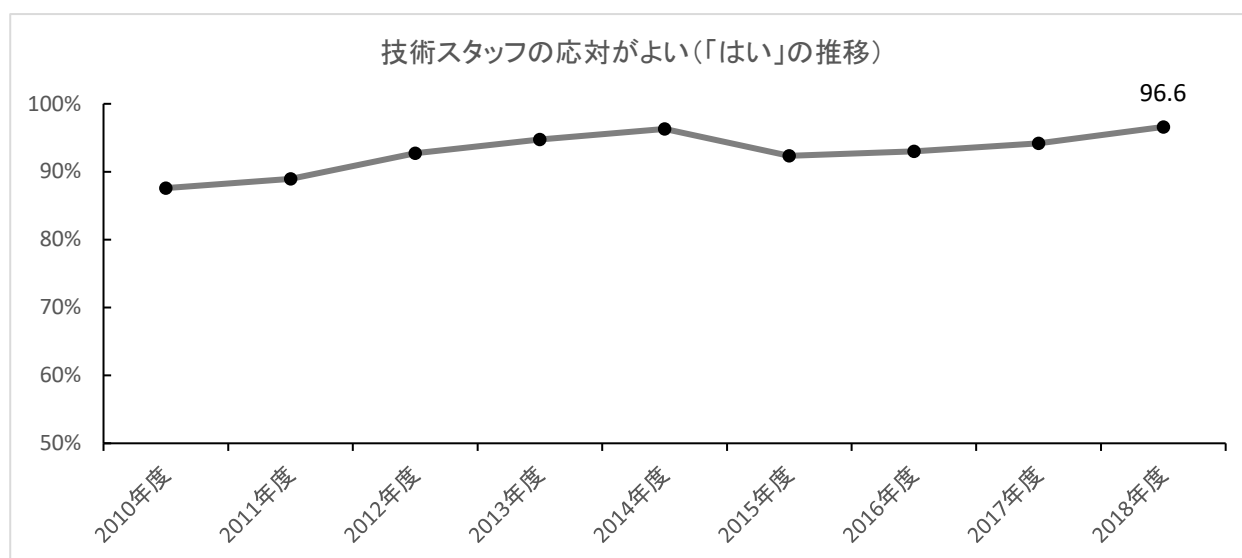
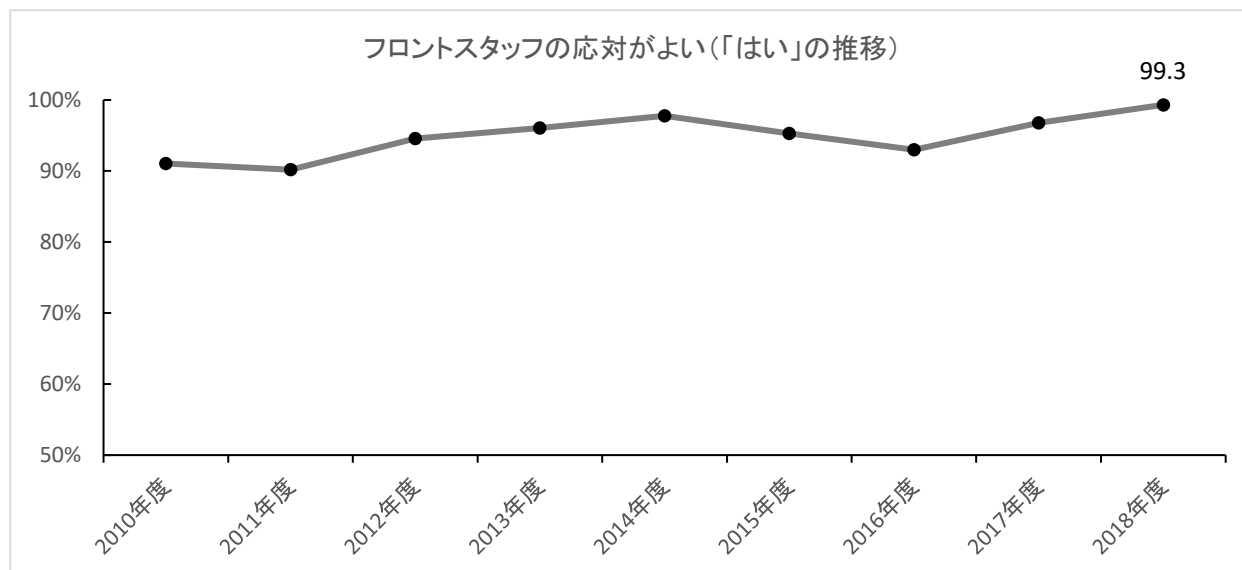
施設利用や予約情報が入手しやすい（「はい」の推移）

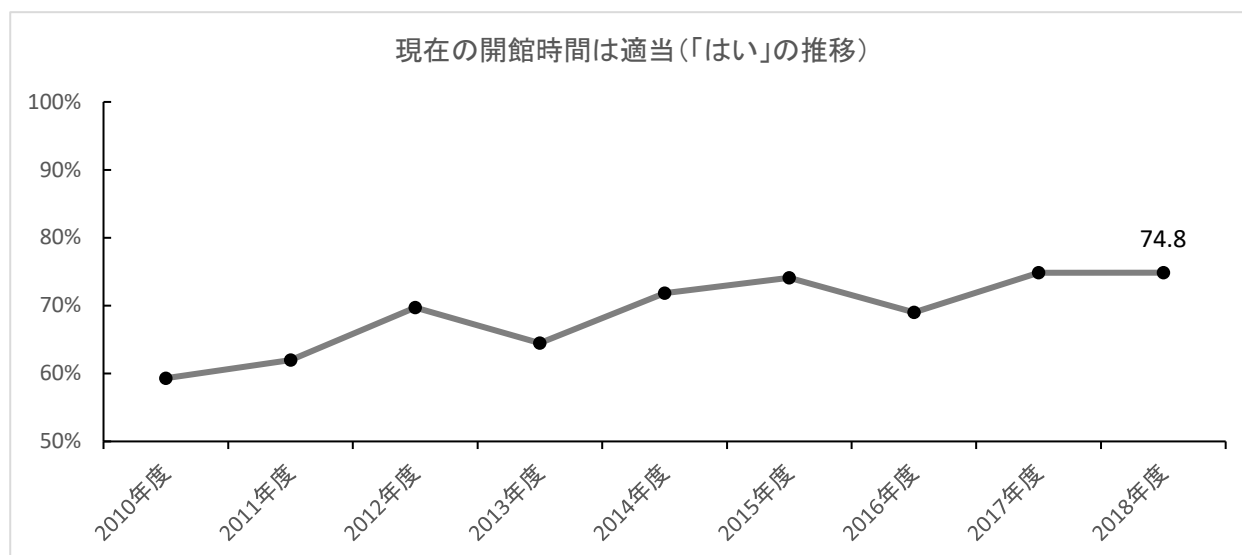
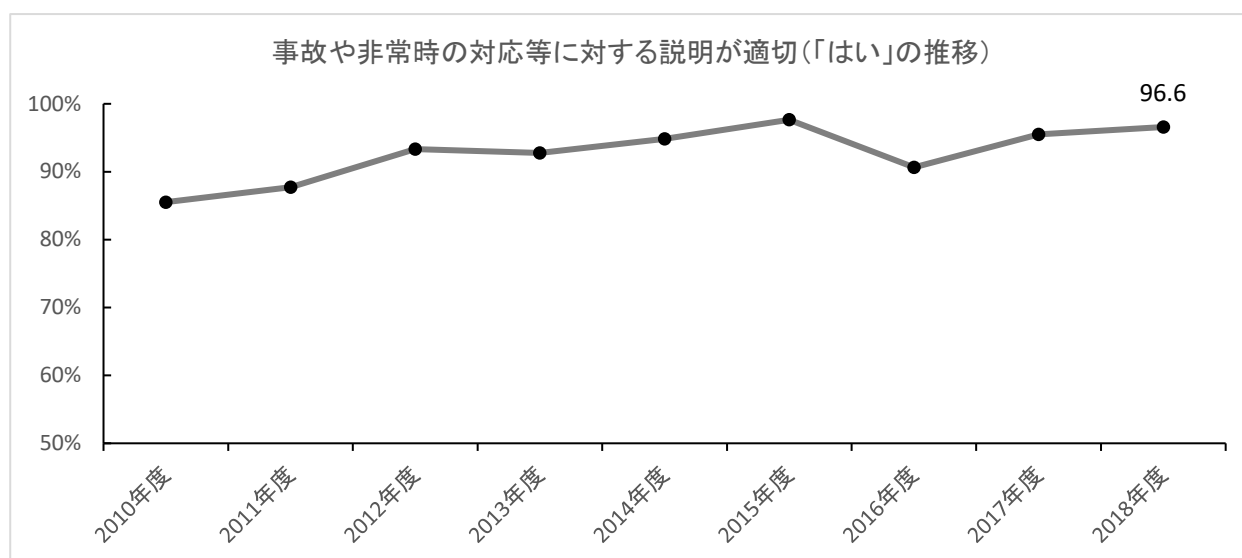
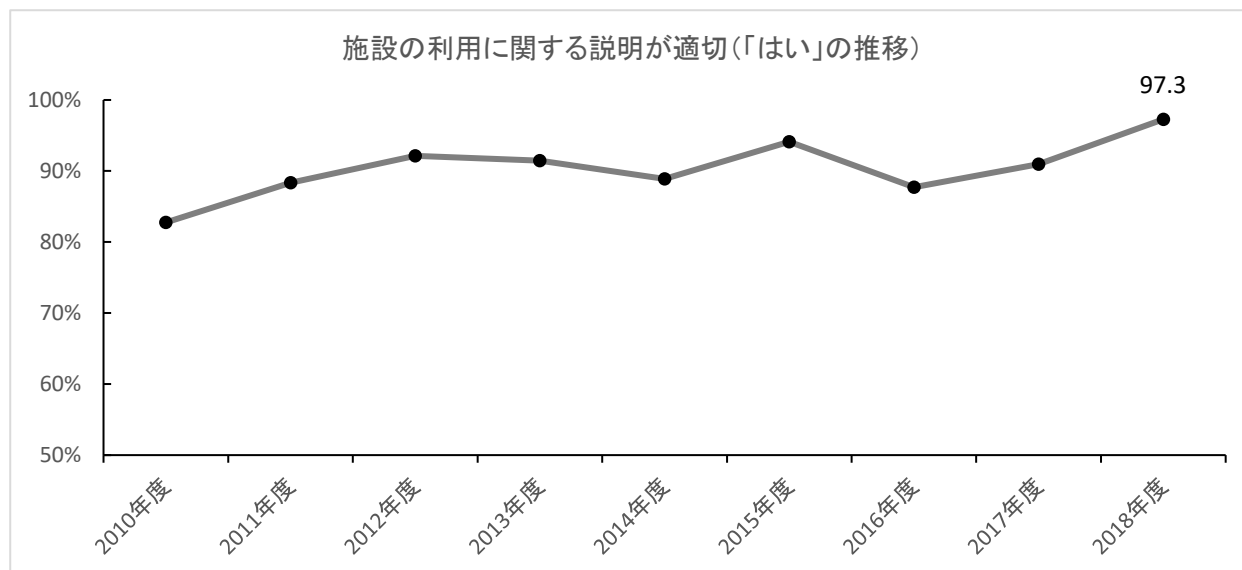


利用問い合わせや予約が円滑（「はい」の推移）









(2) 劇場に関する意見【運営について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えば「はい」	どちらかとい えば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・対応① 施設利用や予約情報が入手しやすい						
2010年度	145	77.2	17.9	0.0	0.7	4.1
2011年度	163	81.0	14.1	1.8	0.0	3.1
2012年度	165	88.5	9.1	0.6	0.0	1.8
2013年度	152	90.8	7.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	88.9	6.7	0.0	0.0	4.4
2015年度	170	89.4	8.2	0.6	0.0	1.8
2016年度	171	84.8	11.1	1.8	0.0	2.3
2017年度	155	85.2	11.6	0.6	0.0	2.6
2018年度	147	93.2	6.1	0.0	0.0	0.7
Q2-施設② 利用問い合わせや予約が円滑						
2010年度	145	84.1	9.0	0.7	1.4	4.8
2011年度	163	85.9	8.0	2.5	0.0	3.7
2012年度	165	93.9	2.4	0.6	0.0	3.0
2013年度	152	90.8	7.2	0.0	0.0	2.0
2014年度	135	92.6	3.7	0.0	0.0	3.7
2015年度	170	92.9	4.7	0.0	0.0	2.4
2016年度	171	89.5	7.0	0.0	0.0	3.5
2017年度	155	92.9	3.2	0.6	0.0	3.2
2018年度	147	95.9	3.4	0.0	0.0	0.7
Q2-運営・対応③ 事前打ち合わせが円滑						
2010年度	145	82.8	12.4	1.4	2.1	1.4
2011年度	163	89.0	6.7	1.2	0.6	2.5
2012年度	165	90.9	5.5	0.6	0.6	2.4
2013年度	152	90.1	5.3	2.0	0.7	2.0
2014年度	135	92.6	1.5	2.2	0.0	3.7
2015年度	170	95.3	3.5	0.0	0.6	0.6
2016年度	171	90.1	5.8	1.8	0.0	2.3
2017年度	155	92.9	3.2	1.3	0.0	2.6
2018年度	147	98.6	0.7	0.0	0.0	0.7
Q2-運営・対応④ 当日の対応が適切						
2010年度	145	93.1	4.8	0.0	1.4	0.7
2011年度	163	91.4	5.5	1.2	0.0	1.8
2012年度	165	94.5	3.6	0.0	0.6	1.2
2013年度	152	94.7	3.3	0.7	0.0	1.3
2014年度	135	97.0	3.0	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	97.6	1.8	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	94.2	4.1	0.0	0.0	1.8
2017年度	155	97.4	0.6	0.6	0.0	1.3
2018年度	147	98.6	0.7	0.0	0.0	0.7

(2) 劇場に関する意見【施設について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えは「はい」	どちらかとい えは「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・対応⑤ 事務スタッフの対応がよい						
2010年度	145	94.5	4.1	0.0	1.4	0.0
2011年度	163	93.9	4.3	0.6	0.0	1.2
2012年度	165	94.5	4.2	0.0	0.0	1.2
2013年度	152	94.7	3.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	97.8	2.2	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	97.1	2.4	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	97.1	2.3	0.0	0.0	0.6
2017年度	155	99.4	0.6	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	99.3	0.7	0.0	0.0	0.0
Q2-運営・対応⑥ フロントスタッフの対応がよい						
2010年度	145	91.0	7.6	0.0	1.4	0.0
2011年度	163	90.2	6.7	0.0	0.0	3.1
2012年度	165	94.5	3.6	0.0	0.0	1.8
2013年度	152	96.1	3.3	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	97.8	1.5	0.7	0.0	0.0
2015年度	170	95.3	3.5	0.0	0.0	1.2
2016年度	171	93.0	5.8	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	96.8	1.9	0.6	0.0	0.6
2018年度	147	99.3	0.7	0.0	0.0	0.0
Q2-運営・対応⑦ 技術スタッフの対応がよい						
2010年度	145	87.6	6.9	0.7	1.4	3.4
2011年度	163	89.0	8.0	0.6	0.0	2.5
2012年度	165	92.7	4.8	0.0	0.6	1.8
2013年度	152	94.7	3.9	0.0	0.7	0.7
2014年度	135	96.3	2.2	0.0	0.0	1.5
2015年度	170	92.4	4.7	1.2	0.0	1.8
2016年度	171	93.0	4.7	0.0	1.2	1.2
2017年度	155	94.2	5.2	0.6	0.0	0.0
2018年度	147	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
Q2-運営・対応⑧ 苦情や要望への対応等が適切						
2010年度	145	88.3	9.0	0.0	1.4	1.4
2011年度	163	87.7	8.0	0.6	0.0	3.7
2012年度	165	93.9	3.0	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	92.1	5.3	0.7	0.0	2.0
2014年度	135	94.1	2.2	0.7	0.0	3.0
2015年度	170	91.8	6.5	0.0	0.0	1.8
2016年度	171	88.9	9.4	1.2	0.0	0.6
2017年度	155	92.3	3.9	0.6	0.0	3.2
2018年度	147	93.2	6.1	0.0	0.0	0.7

(2) 劇場に関する意見【施設について】

Q2

(単位: %)

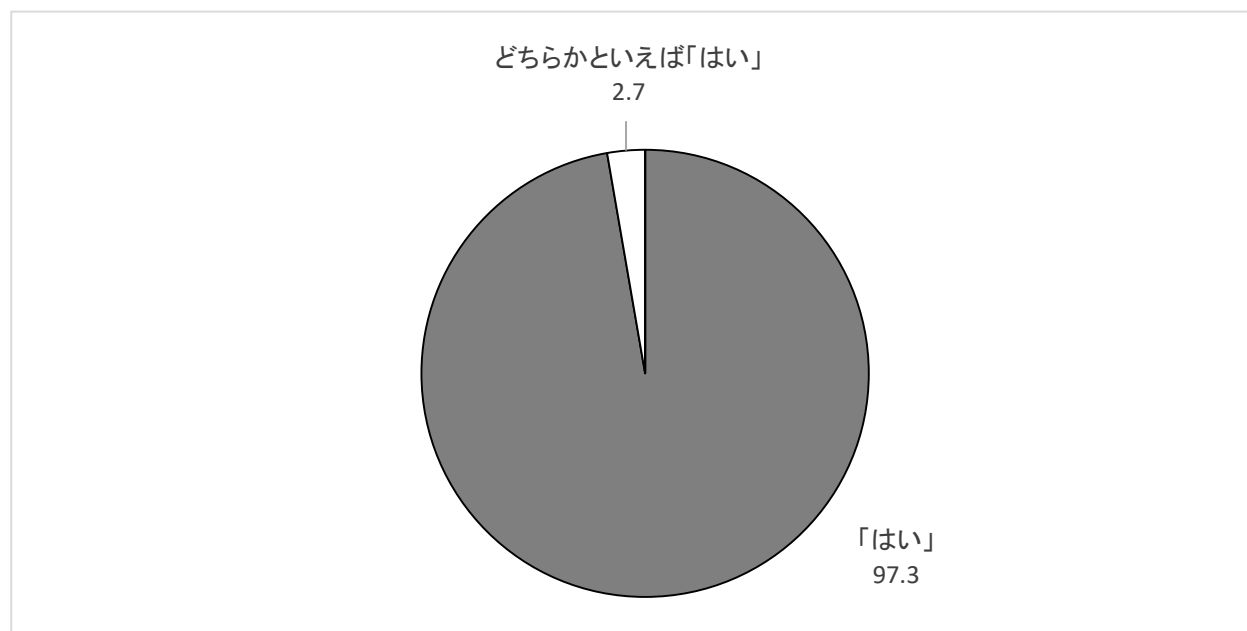
	調査数(n)	「はい」	どちらかとい え「はい」	どちらかとい え「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・対応⑨ 施設の利用に関する説明が適切						
2010年度	145	82.8	11.0	2.8	0.0	3.4
2011年度	163	88.3	6.1	1.2	0.0	4.3
2012年度	165	92.1	4.2	0.0	0.0	3.6
2013年度	152	91.4	5.9	0.0	0.0	2.6
2014年度	135	88.9	4.4	0.7	0.7	5.2
2015年度	170	94.1	2.9	0.0	0.0	2.9
2016年度	171	87.7	8.8	1.2	0.0	2.3
2017年度	155	91.0	5.8	0.0	0.0	3.2
2018年度	147	97.3	2.0	0.0	0.0	0.7
Q2-運営・対応⑩ 事故や非常時の対応等に対する説明が適切						
2010年度	145	85.5	11.0	0.7	0.0	2.8
2011年度	163	87.7	8.0	2.5	0.0	1.8
2012年度	165	93.3	3.6	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	92.8	5.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	94.8	3.7	0.0	0.0	1.5
2015年度	170	97.6	1.2	0.0	0.0	1.2
2016年度	171	90.6	8.2	0.0	0.0	1.2
2017年度	155	95.5	3.2	0.0	0.0	1.3
2018年度	147	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
Q2-運営・対応⑪ 現在の開館時間は適当						
2010年度	145	59.3	19.3	14.5	4.8	2.1
2011年度	163	62.0	19.6	12.9	3.7	1.8
2012年度	165	69.7	17.6	5.5	3.0	4.2
2013年度	152	64.5	22.4	8.6	3.3	1.3
2014年度	135	71.9	17.8	5.9	3.7	0.7
2015年度	170	74.1	16.5	6.5	1.8	1.2
2016年度	171	69.0	21.6	5.3	2.9	1.2
2017年度	155	74.8	15.5	5.2	3.9	0.6
2018年度	147	74.8	18.4	4.1	2.7	0.0

(3) 劇場に関する意見【今後の利用の意向】

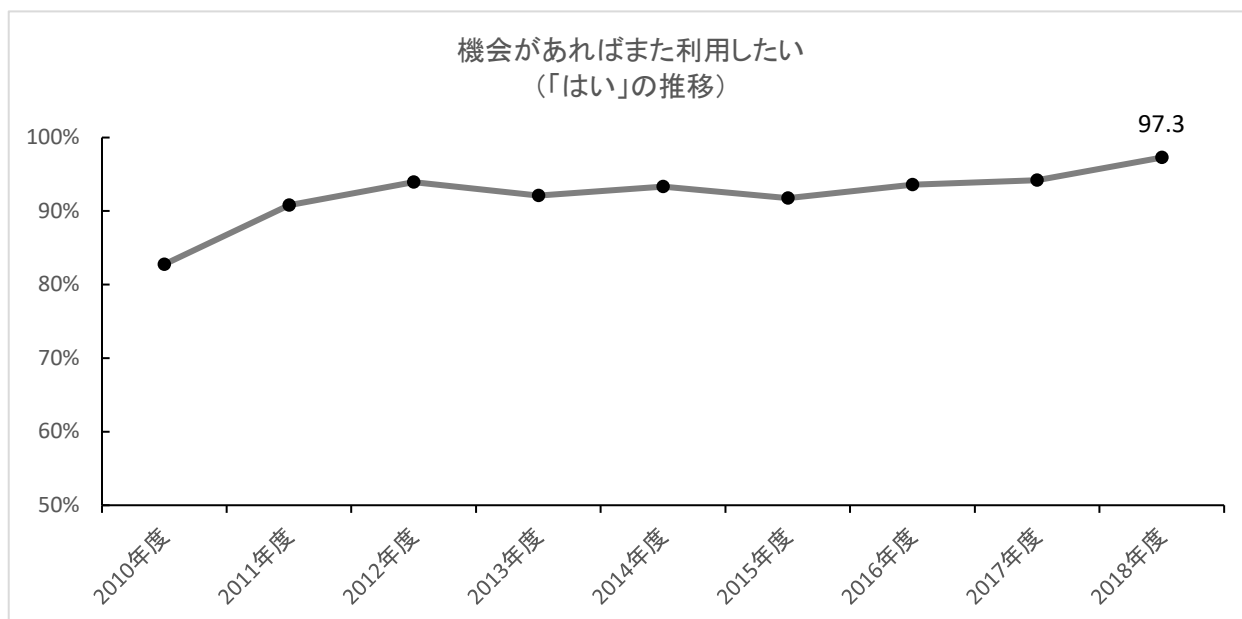
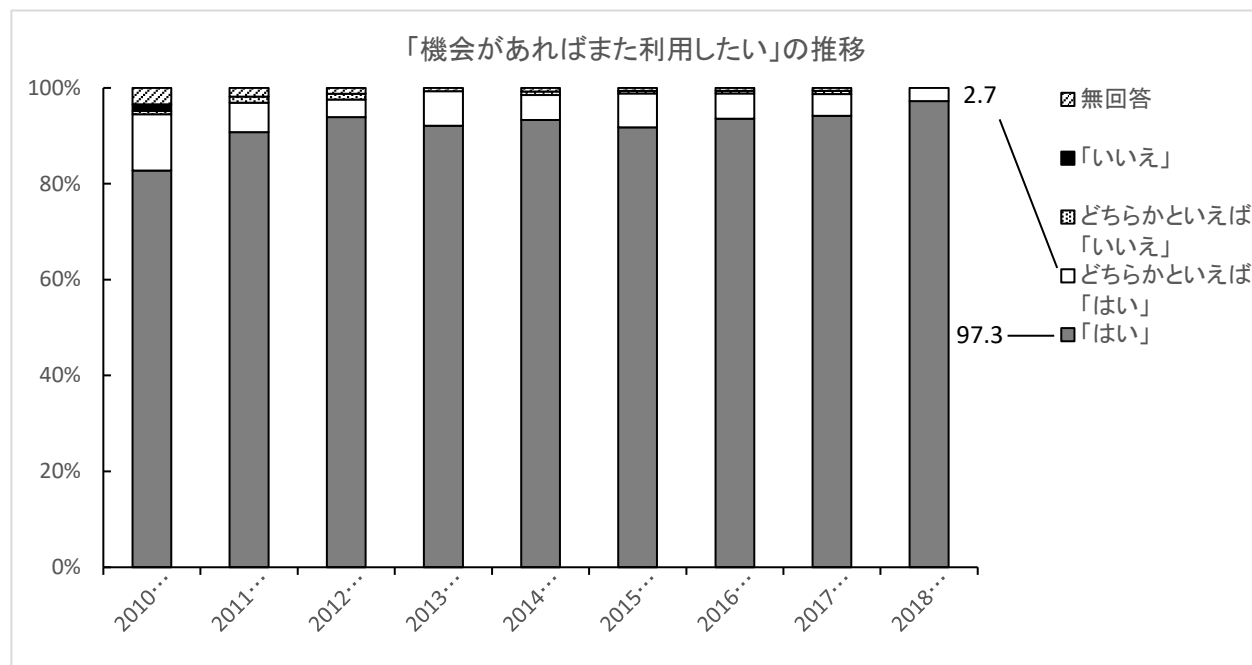
Q2

今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が97.3%、「どちらかといえば『はい』」が2.7%となっている。今後の利用の意向のある回答（「はい」+「どちらかといえば『はい』」）は100.0%となっている。

	調査数(n)	Q2 機会があればまた利用したい (単位: %)				
		「はい」	どちらかとい えは「はい」	どちらかとい えは「いいえ」	「いいえ」	無回答
2010年度	145	82.8	11.7	0.7	1.4	3.4
2011年度	163	90.8	6.1	1.2	0.0	1.8
2012年度	165	93.9	3.6	1.2	0.0	1.2
2013年度	152	92.1	7.2	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	93.3	5.2	0.7	0.0	0.7
2015年度	170	91.8	7.1	0.6	0.0	0.6
2016年度	171	93.6	5.3	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	94.2	4.5	0.6	0.0	0.6
2018年度	147	97.3	2.7	0.0	0.0	0.0



経年変化でみると、10年度以降で「はい」の回答が、最も高い割合となっている。

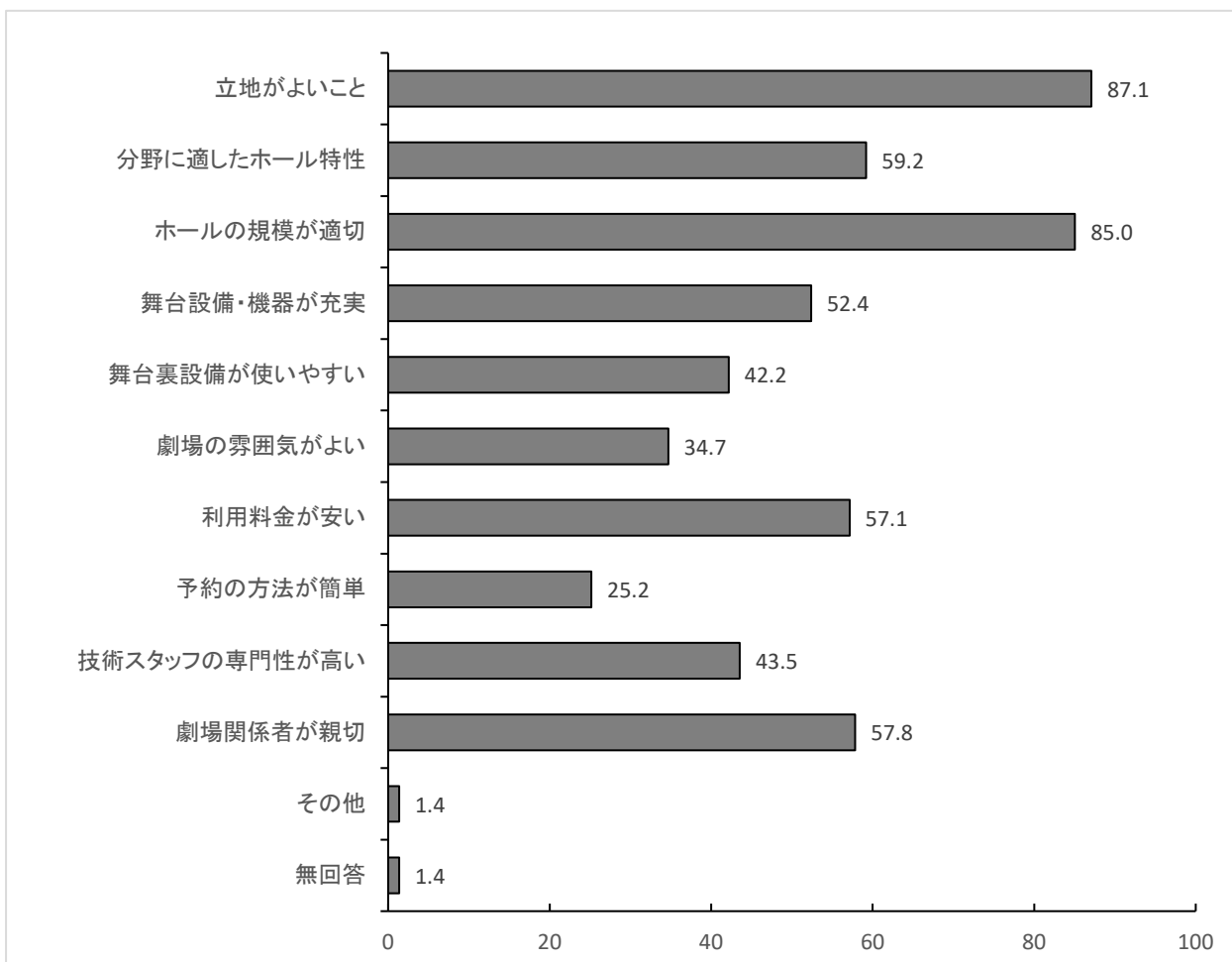


(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

施設を利用する際重視することとして最も回答が多いのは、「立地がよいこと」(87.1%)、「ホールの規模が適切」(85.0%)となっている。次いで、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「利用料金が安い」、「舞台設備・機器が充実」が50%台となっている。「立地がよいこと」と「ホールの規模が適切」、「利用料金が安い」は、10年度以降で最も高い割合となっている。

	調査数 (n)	Q3 施設利用の際、重視すること (単位: %)											
		立地が よいこ と	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフ の専門 性が高 い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
2010年度	145	82.8	49.0	75.9	52.4	33.1	29.0	53.8	17.9	35.9	46.9	1.4	2.1
2011年度	163	85.3	58.3	79.8	55.8	41.7	44.8	48.5	17.2	33.7	52.1	3.7	1.2
2012年度	165	84.8	69.7	83.6	60.0	44.8	42.4	52.7	16.4	38.8	59.4	3.6	0.6
2013年度	152	86.8	54.6	77.0	50.0	42.1	30.9	55.9	20.4	39.5	57.9	5.3	0.7
2014年度	135	85.2	60.0	77.8	56.3	39.3	38.5	54.8	22.2	41.5	63.0	1.5	1.5
2015年度	170	84.1	64.7	80.6	51.8	38.2	30.6	53.5	17.6	40.0	52.9	2.4	2.4
2016年度	171	84.2	63.7	84.8	50.3	40.9	36.3	47.4	15.2	36.3	54.4	4.1	0.6
2017年度	155	85.8	73.5	76.1	66.5	52.3	41.3	56.1	29.7	50.3	69.0	0.6	0.6
2018年度	147	87.1	59.2	85.0	52.4	42.2	34.7	57.1	25.2	43.5	57.8	1.4	1.4



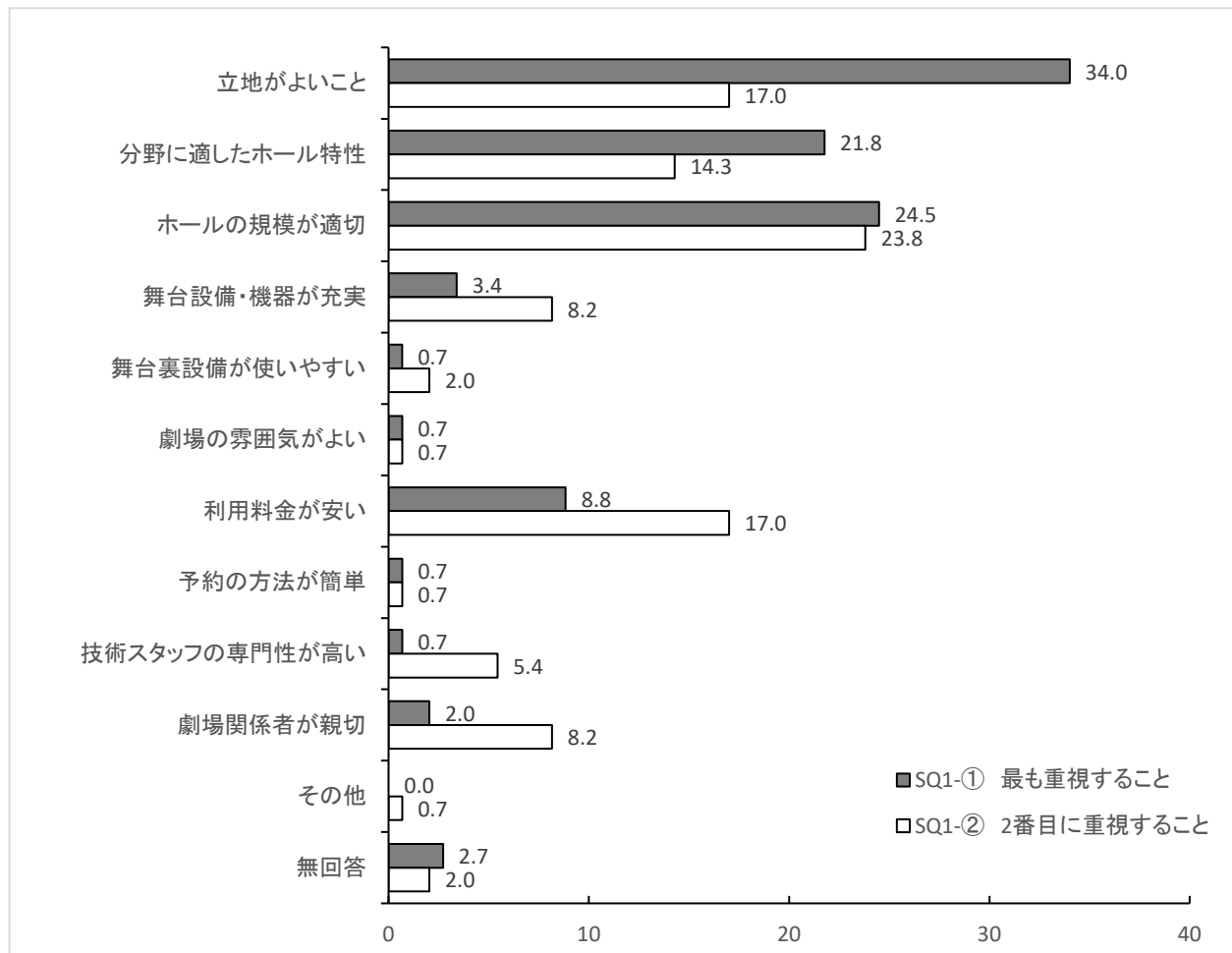
(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

施設を利用する際に最も重視することは「立地が良いこと」(34.0%)が最も多く、次いで「ホールの規模が適切」(24.5%)、「分野に適したホール特性」(21.8%)と続いている。

2番目に重視することは、「ホールの規模が適切」(23.8%)が最も多く、次いで「立地が良いこと」と「利用料金が安い」が同割合(17.0%)となっている。「利用料金が安い」は、最も重視する割合よりも2番目に重視する割合が高い。

	Q3 施設利用の際、重視すること (単位: %)	
	SQ1-① 最も重視すること	SQ1-② 2番目に重視すること
立地がよいこと	34.0	17.0
分野に適したホール特性	21.8	14.3
ホールの規模が適切	24.5	23.8
舞台設備・機器が充実	3.4	8.2
舞台裏設備が使いやすい	0.7	2.0
劇場の雰囲気がよい	0.7	0.7
利用料金が安い	8.8	17.0
予約の方法が簡単	0.7	0.7
技術スタッフの専門性が高い	0.7	5.4
劇場関係者が親切	2.0	8.2
その他	0.0	0.7
無回答	2.7	2.0



(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

	調査数 (n)	SQ1-① 最も重視すること (単位: %)											
		立地が よいこ と	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフ の専門 性が高 い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
2010年度	145	31.7	20.7	29.0	4.8	0.7	0.7	6.9	0.0	0.0	2.8	0.7	2.1
2011年度	163	28.2	22.7	27.0	4.9	0.6	0.6	7.4	0.0	1.2	4.3	1.2	1.8
2012年度	165	29.7	29.1	25.5	3.6	0.0	0.6	4.8	0.0	1.8	3.6	0.0	1.2
2013年度	152	29.6	26.3	27.0	1.3	0.7	0.7	6.6	0.0	0.7	3.3	2.6	1.3
2014年度	135	31.9	25.9	23.0	4.4	0.0	1.5	6.7	0.0	0.7	4.4	0.0	1.5
2015年度	170	24.7	26.5	26.5	2.9	0.0	1.2	10.6	0.0	0.6	2.9	1.2	2.9
2016年度	171	25.7	24.0	28.7	4.7	1.8	1.2	8.8	0.0	0.6	2.3	1.8	0.6
2017年度	155	30.3	26.5	21.9	6.5	0.6	0.0	10.3	0.6	0.0	3.2	0.0	0.0
2018年度	147	34.0	21.8	24.5	3.4	0.7	0.7	8.8	0.7	0.7	2.0	0.0	2.7

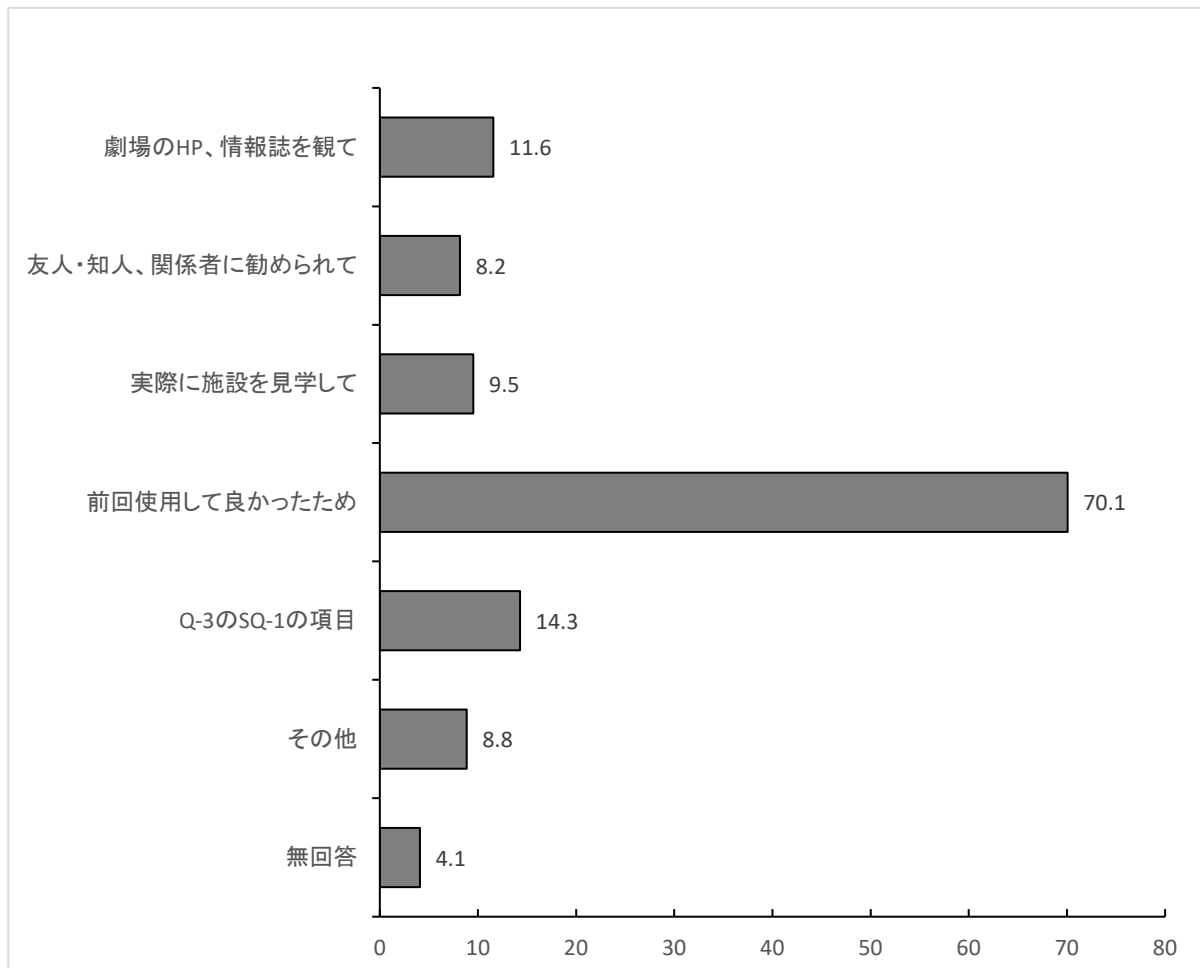
	調査数 (n)	SQ1-② 2番目に重視すること (単位: %)											
		立地が よいこ と	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフ の専門 性が高 い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
2010年度	145	21.4	9.0	19.3	8.3	3.4	3.4	15.9	0.7	3.4	9.7	0.7	4.8
2011年度	163	23.9	9.8	20.2	10.4	3.7	4.9	18.4	0.0	2.5	3.7	0.0	2.5
2012年度	165	18.8	9.7	23.6	9.7	5.5	5.5	14.5	0.0	4.2	6.1	0.0	2.4
2013年度	152	19.1	11.2	22.4	10.5	1.3	3.3	19.7	0.7	3.3	5.3	1.3	2.0
2014年度	135	17.0	14.1	25.9	6.7	4.4	2.2	15.6	0.0	5.2	5.2	0.0	3.7
2015年度	170	20.0	11.2	23.5	11.2	1.8	2.9	15.3	0.0	5.3	4.7	0.0	4.1
2016年度	171	21.6	12.3	25.7	7.0	2.9	1.2	12.3	0.0	5.8	9.4	0.6	1.2
2017年度	155	16.8	14.8	23.2	8.4	7.1	1.9	14.8	0.6	5.2	6.5	0.0	0.6
2018年度	147	17.0	14.3	23.8	8.2	2.0	0.7	17.0	0.7	5.4	8.2	0.7	2.0

(5) 劇場を利用したきっかけ

Q4

劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、70.1%を占めている。劇場への満足度が高くリピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」(14.3%)となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっている。

	調査数(n)	Q4 劇場を利用したきっかけ (単位: %)						
		劇場のHP、情報誌を観て	友人・知人、関係者に勧められて	実際に施設を見学して	前回使用して良かったため	Q-3のSQ-1の項目	その他	無回答
2010年度	145	15.9	11.7	12.4	58.6	19.3	5.5	6.2
2011年度	163	12.9	12.3	12.3	61.3	22.7	6.1	5.5
2012年度	165	14.5	8.5	14.5	70.3	26.1	3.6	2.4
2013年度	152	10.5	14.5	11.2	71.7	23.0	9.9	1.3
2014年度	135	7.4	9.6	7.4	73.3	23.7	7.4	3.7
2015年度	170	10.6	8.2	7.6	71.2	18.2	5.3	5.9
2016年度	171	12.3	8.2	12.9	67.8	17.0	7.0	2.9
2017年度	155	7.7	6.5	8.4	72.9	20.6	11.0	2.6
2018年度	147	11.6	8.2	9.5	70.1	14.3	8.8	4.1



参考 | 利用者調査 調査票

施設利用に関するアンケート調査（ホール用）

このたびは、北九州芸術劇場をご利用いただきありがとうございます。皆様の声を今後の運営に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本アンケートへの個別のご回答内容が公表されることはありませんので、忌憚ないご意見をお聞かせください。

ご回答は後日ファックスでも受け付けております。

（北九州芸術劇場） TEL093-562-2655/ FAX 093-562-2588

Q-1 今回ご利用されて、北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的なご意見はいかがですか。

（○は1つ）

1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

（「まったく満足していない」とご回答された方へ） 具体的なお意見をお聞かせください

Q-2 本日ご利用されての北九州芸術劇場に関するご意見をお聞かせください。それぞれの項目について、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の4つの回答から、あなたのお考えに一番近いものに○をつけてください。（○は各項目1つずつ）

（施設について）

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 館内は清潔に保たれていましたか。	1	2	3	4	
2 ホワイエや客席など雰囲気 がよかったですか。	1	2	3	4	
3 広さ（客席数等）はちょうど よかったですか。	1	2	3	4	
4 搬入・搬出がやりやすかつ たですか。	1	2	3	4	

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
5 舞台設備・機器は充実して いましたか。	1	2	3	4	
6 楽屋、休憩室など舞台裏の 施設・設備が使いやすかつ たですか。	1	2	3	4	
7 設備・機器を使用する際、 安全に使用できましたか。	1	2	3	4	

(運営・対応について)

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 施設利用や予約に関する情報 は入手しやすかったですか。	1	2	3	4	
2 利用問い合わせや予約・受 付は円滑でしたか。	1	2	3	4	
3 事前打合わせは円滑でし たか。	1	2	3	4	
4 当日の対応は適切でした か。	1	2	3	4	
5 事務スタッフの対応はよか ったですか。	1	2	3	4	
6 フロントスタッフの対応は よかったですか。	1	2	3	4	
7 技術スタッフの対応はよか ったですか（技術的な助言 や援助は適切でしたか）。	1	2	3	4	
8 苦情や要望への対応は適切 でしたか。	1	2	3	4	
9 設備、料金、使用時間等施 設の利用に関する説明は適 切でしたか。	1	2	3	4	
10 事故防止や非常時の対応等 に関する説明は適切でした か。	1	2	3	4	
11 現在の開館時間（午前10 時～午後10時）は適当で あると思いますか。	1	2	3	4	
12 次回利用する機会があれ ば、また利用したいと思いますか。	1	2	3	4	

Q-3 施設を利用する際、重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 立地がよいこと
2. 公演分野に適したホール特性（残響、舞台の広さ等）をもっていること
3. ホールの規模（客席数）が適切であること
4. 舞台設備・機器が充実していること
5. 楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと
6. ホワイエや客席などの雰囲気がいよいこと
7. 利用料金が安いこと
8. 予約の方法が簡単なこと
9. 技術スタッフの専門性が高いこと
10. スタッフが親切なこと
11. その他（具体的に：_____）

SQ-1 上記10項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することは何ですか。

最も重視
すること

2番目に重視
すること

Q-4 北九州芸術劇場をご利用いただいたきっかけ及び理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 劇場のホームページ、情報誌（チラシなどを含む）を見て
2. 友人・知人、その他関係者に勧められて
3. 実際に施設を見学して
4. 前回使用して良かったため
5. 上記Q-3のSQ-1の項目が備わっているため
6. その他（具体的に：_____）

Q-5 北九州芸術劇場を利用するに当たって、良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、ご意見をお聞かせください。
また、ご利用回数が2回以上の方で前回のご利用と比べ良くなったと感じた点、改善されていないと感じた点についても、ご意見をお聞かせください。

◎ 差し支えなければ、ご記入ください。

①貴団体名（個人の場合はお名前）	
②ご記入者の所属・ご担当業務	
③ご利用日時	年 月 日（ ）～ 月 日（ ）
④ご利用施設	大ホール・中劇場・小劇場
④北九州芸術劇場の利用回数	1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上 （いずれか1つに〇）

ご協力ありがとうございました。

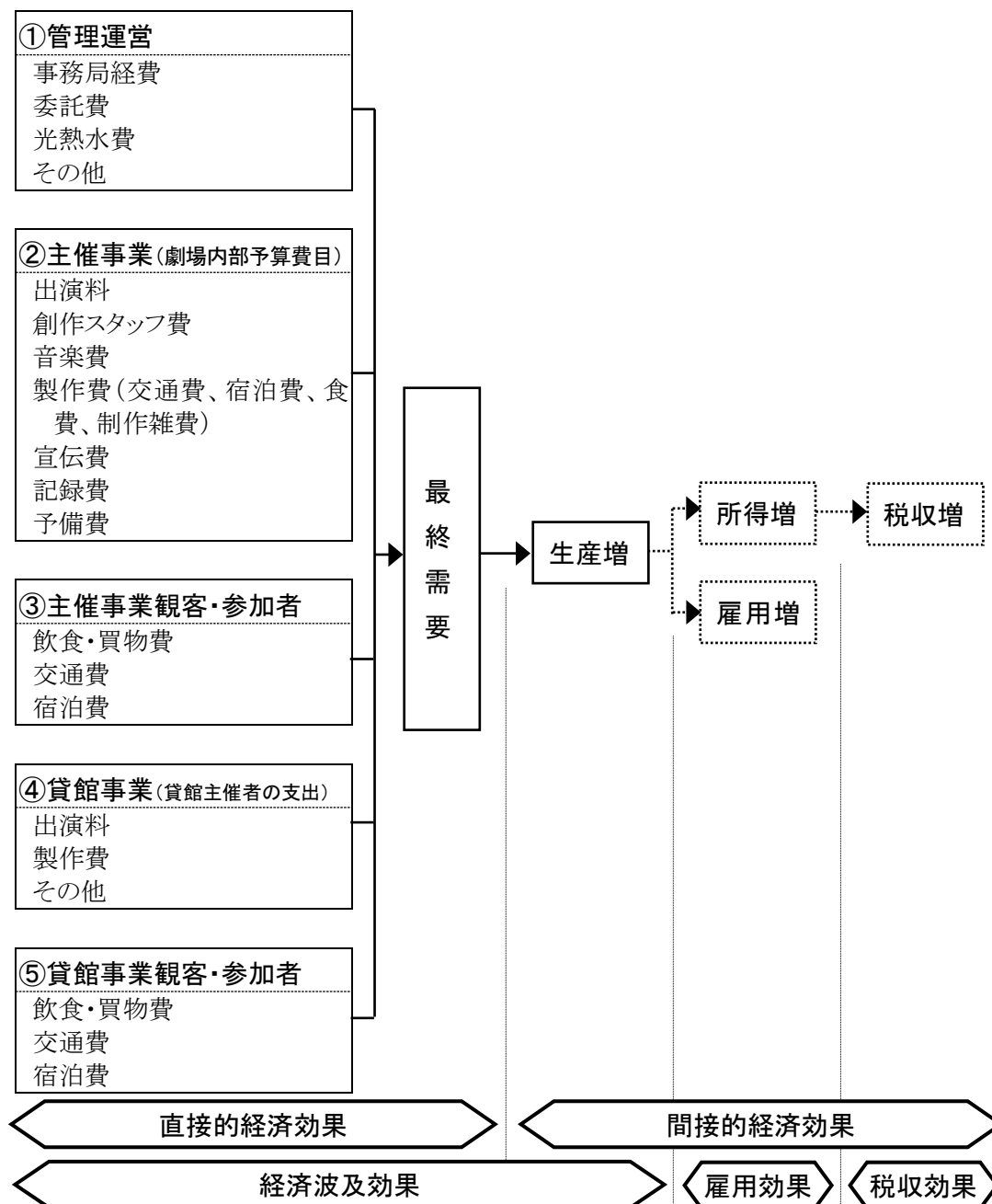
IV

經濟波及效果

1. 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果の基本構造

- 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果としては、図表-資Ⅳ-1に整理したように5種類の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらからもたらされる所得増、雇用増、税収増などが考えられる。
- 経済波及効果としてどこまでを含めるかについては、ケースバイケースであるが、今回の調査でも、基礎的な経済波及効果として、産業連関表に基づいた生産増に加え、福岡県の雇用表を用いて雇用効果まで試算することとした。

図表-資Ⅳ-1 北九州芸術劇場における経済波及効果の基本構造



- 前記の5種類の支出は、劇場の運営や事業に伴うもの(①、②、④)と、観客の消費支出に伴うもの(③、⑤)に分けられるが、経済波及効果も、それぞれ、劇場の運営や事業の実施に伴う波及効果、観客の消費支出に伴う波及効果、に分けられる。

- 産業連関表に基づいて、経済波及効果を把握するためには、運営や事業に伴う支出、観客の消費支出を、産業連関表の産業分類に分類し直す必要がある。
- 産業連関表の部門別の定義や範囲と、劇場の支出内容、観客の消費支出の内容を照らし合わせて、図表-資Ⅳ-2の対応表を作成した。

図表-資Ⅳ-2 産業連関表(平成23年度・37部門)と劇場における支出費目の関係

産業部門名	劇場運営・事業に伴う最終需要				
	管理運営	主催事業	主催事業観客	貸館事業	貸館事業観客
1 農林水産業					
2 鉱業					
3 飲食料品					
4 繊維製品					
5 パルプ・紙・木製品					
6 化学製品					
7 石油・石炭製品					
8 プラスチック・ゴム					
9 窯業・土石製品					
10 鉄鋼					
11 非鉄金属					
12 金属製品					
13 はん用機械					
14 生産用機械					
15 業務用機械					
16 電子部品					
17 電気機械					
18 情報・通信機器					
19 輸送機械					
20 その他の製造工業製品	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷
21 建設					
22 電力・ガス・熱供給	光熱費 (電力・ガス)				
23 水道	上下水道費				
24 廃棄物処理	廃棄物処理	廃棄物処理		廃棄物処理	
25 商業	物品購入 (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)
26 金融・保険	保険料	保険料		保険料	
27 不動産					
28 運輸・郵便	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費
29 情報通信	通信費	通信費	通信費	通信費	通信費
30 公務					
31 教育・研究					
32 医療・福祉					
33 その他の非営利団体サービス					
34 対事業所サービス	広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)、事務用品賃貸、委託(清掃・警備、舞台技術スタッフ)	広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)、委託(公演、舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)		広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)	
35 対個人サービス	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	出演者・講師等 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	劇団等(興行団) 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)
36 事務用品	事務用品	事務用品		事務用品	
37 分類不明					

注) 括弧内は産業連関表における産業分類名

2. 劇場運営に伴う最終需要と観客の消費支出

(1) 管理運営に伴う最終需要

- まず、北九州芸術劇場の管理運営に伴う支出を、費目別に整理したものが下表である。舞台技術スタッフの委託料など、対事業所サービス部門への支出が最も大きく、次いで、電力・ガス・熱供給部門への支出が大きいことがわかる。

図表-資Ⅳ-3 管理運営に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
20 その他の製造工業製品	印刷製本費	890	200	1,090	
22 電力・ガス・熱供給	光熱水量費	162,142	0	162,142	電気・ガス
23 水道	光熱水量費	7,684	0	7,684	
25 商業	消耗品費	3,965	337	4,302	
26 金融・保険	保険料	3,428	654	4,082	
28 運輸・郵便	旅費交通費	794	232	1,026	交通費
	通信運搬費	127	1	128	宅配便
29 情報通信	雑費・通信運搬費・支払負担金	978	2,183	3,160	電話等
34 対事業所サービス	広告宣伝費	5,108	940	6,047	
	委託費(舞台技術)	94,569	0	94,569	
	支払負担金(警備)	18,736	0	18,736	
	支払負担金(清掃)	38,801	0	38,801	
	その他	228,838	69,929	298,767	
35 対個人サービス	ケータリング費	2	94	96	
	旅費交通費	0	0	0	宿泊費
36 事務用品	消耗品費他	2,417	123	2,540	
計		568,479	74,693	643,172	

- なお、北九州市外への支出については、北九州市の産業連関表を活用することは不適切であるため、支出額は北九州市内と市外に分けて算出した(以降の項目も同様)。
- 北九州芸術劇場の管理運営に伴う最終需要は約6億4,317万円で、うち88.4%(約5億6,848万円)が市内への支出となっている。

(2) 主催事業における最終需要

- 同様に、北九州芸術劇場の主催事業の実施に伴う支出を費目別に整理したものが、図表-資Ⅳ-4である。
- 主催事業では、スタッフ経費などの対事業所サービス、北九州までの交通費などの運輸、出演料などの対個人サービスへの支出が大きい。対個人サービスでは、北九州市に滞在する出演者や関係者の招聘旅費交通費(約1,083万円)が最も大きく、次いで諸謝金(約837万円)、出演委託費(約278万円)などとあわせると、約2,519万円が使われた計算となる。
- 主催事業の実施に伴う最終需要額は、約2億262万円、うち24.5%(約4,959万円)が市内への支出となっている。

図表-資Ⅳ-4 主催事業の実施に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考	
		北九州市内	市外	合計		
20	その他の製造工業製品	印刷製本費	4,376	1,179	5,554	チラシ・ポスター
22	電力・ガス・熱供給	光熱水量費	0	10	10	
24	廃棄物処理	廃棄物処理	0	0	0	
26	金融・保険	保険料	370	268	638	
28	運輸・郵便	招聘旅費交通費・旅費交通費	7,361	8,114	15,474	交通費
		委託費	31	527	559	運搬
		通信運搬費	84	38	122	宅配便
29	情報通信	通信運搬費	2,004	31	2,034	電話等
34	対事業所サービス	委託費(舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)	14,818	62	14,880	
		委託費(公演料・出演料・講師料)	0	123,195	123,195	
		委託費(調律費)	139	313	453	ピアノ調律
		委託費(広告宣伝)	1,251	146	1,397	
		委託費(デザイン費)	623	0	623	
		その他	6,223	5,796	12,019	
		35	対個人サービス	委託費(委託・出演料)	270	2,510
諸謝金(講師・スタッフ謝金)	3,413			4,953	8,366	
委託費(撮影・映像編集)	104			2,146	2,250	
宿泊・招聘旅費交通費・旅費交通費	7,476			3,352	10,828	宿泊費
ケータリング費	579			389	968	食費
その他	0			0	0	
37	事務用品	消耗品費・消耗什器備品費	464	0	464	委託費・その他
計			49,587	153,029	202,616	

(3) 主催事業の観客の消費支出

- 次に、主催事業の観客の消費支出の試算を行った(図表-資Ⅳ-5)。
- 18年度の観客アンケートの調査結果を見ると、回答者数全体の940人のうち、51.3%の人が公演の前後に飲食もしくはショッピングをしたと回答しており、これを飲食、ショッピングの別に整理すると、飲食金額の回答者数397人から、飲食をした人の割合は42.2%、一人あたりの平均金額は1,776.7円となっている。また、ショッピング金額の回答者数215人から、ショッピングした人の割合は22.9%、一人あたりの平均金額は3,635.8円となっている。観劇前後の消費行動としては、飲食をする人の割合の方が高いが、消費単価はショッピングが飲食の約2倍となっている。
- 主催事業のうち、創造事業、公演事業、提携事業、舞台芸術フェスティバルなどの北九州市内(北九州芸術劇場)での公演の入場者(18年度の公演事業は北九州芸術劇場を含む市内のみ)は2万2,075人であることから、観劇に伴う飲食の支出額は約1,657万円、ショッピングの支出額は約1,836万円、計約3,492万円と推計される。なお、18年度は、17年度に比べて飲食の平均単価が増加したものの、ショッピングの平均単価が減少した結果、北九州市内での観客消費支出は減少している(17年度:約4,599万円)。

図表-資IV-5 観劇前後の消費行動と消費支出

	飲食	ショッピング
アンケートでの金額の回答者数（人）	397	215
消費行動の割合	42.2%	22.9%
一人あたりの平均金額（円）	1,776.7	3,635.8

	観客数 （人）	合計支出額(千円)		
		飲食	ショッピング	合計
北九州市内での公演	22,075	16,565	18,357	34,922
北九州市外での公演	0	0	0	0
合計	22,075	16,565	18,357	34,922

注) 上記の表中の数値は、実数に基づく計算結果を転載したものである。消費行動の割合と一人あたりの平均金額は小数点第2位以下を四捨五入しているため、表中の数値を再計算したものと、合計支出額が異なる箇所がある(以下、いずれの表にも共通)。

- 交通費については、同じく観客アンケート調査の居住地のデータから、平均的な往復の交通費を設定し、推計を行った。その際の前提条件は昨年度調査と同様、以下のとおりとした。
 - 北九州市内の居住者の交通費については、バス・JR とも片道300円と想定し、九州内の居住者の交通費については、居住地別に最寄り駅から小倉駅までの JR 運賃(特急利用、新幹線利用なし)で試算した。
 - その他の地域には、広島、東京・千葉・神奈川、大阪・兵庫・神戸(03年度調査)などの回答があったため、大阪から新幹線利用と想定した。
 - 片道が2時間を超える場合は、宿泊を伴うこととし、一人当たり、宿泊費6,000円、宿泊に伴う飲食費3,000円を支出したものと想定した。
 - 劇場までの交通手段として、相当数の観客が自家用車を利用していると思われる(03年度調査では約33%)が、すべて JR・バス利用と想定した。
- 北九州芸術劇場以外で開催した公演の観客の交通費については、往復1,000円と想定した。
- なお、学芸事業の参加者の消費行動は、観劇客とは異なると思われるため、この分析には含めなかった。
- 以上の結果、主催事業の観客の消費支出額は、図表-資IV-6のとおり、合計で約1億3,662万円と推計される。

図表-資IV-6 主催事業の観客の消費支出額

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
25 商業	ショッピング(公演前後)	18,357	0	18,357	
28 運輸・郵便	旅費・交通費	9,539	65,741	75,280	
35 対個人サービス	食費(公演前後)	16,565	0	16,565	
	宿泊費	17,631	0	17,631	
	食費(宿泊に伴う)	8,807	0	8,807	
合計		70,881	65,741	136,621	

(4) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う最終需要(参考値)

- 貸館事業の場合も、劇場の主催事業と同様、主催者の様々な支出が経済波及効果を生み出すものと考えられる。貸館事業の事業主催者の支出額については、アンケート調査等で把握する必要があるが、該当する調査を実施していないため、便宜的に、貸館事業の1公

演(講演含む)当たりの支出額について、主催公演の20%、30%という二つのケースを想定し、それらがすべて北九州市内での支出だったと仮定して、参考値を試算することとした。

- 18年度の貸館事業の公演等の年間延べ回数276件から、同一主催者・同一内容の利用で複数回の公演等を行ったものを1回として計上すると、207回の利用があった。そこから試算した結果は、下表のとおりであり、貸館事業の1公演当たりの支出額が主催公演の20%のケースで約5,695万円、30%のケースで約8,543万円となった。
- この試算は、貸館事業の実際の支出額に基づいていないため、最終需要額はあくまでも参考値である点に留意が必要である。

図表-資Ⅳ-7 貸館事業に伴う最終需要(参考値)

	金額(千円)			備考
	北九州市内	市外	合計	
1公演あたりの支出が主催公演の20%の場合	56,951	0	56,951	
1公演あたりの支出が主催公演の30%の場合	85,427	0	85,427	

(5) 貸館事業(市主催・共催含む)の観客の消費支出

- 貸館事業の観客についてはアンケート調査の対象外だったため、主催事業の観客のデータを援用して、消費支出を試算した。試算の結果、貸館事業における観客の消費支出の金額は、約3億2,304万円であった(図表-資Ⅳ-8)。試算の前提条件は以下のとおりである。
 - 主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくい。ため、貸館入場者の消費支出については、飲食、ショッピングをした割合、一人当たりの単価とも、主催公演の80%と仮定した。
 - 貸館入場者の交通費については、80%が北九州市内、20%が北九州市周辺に居住しているものと想定した。
 - 18年度の貸館(市主催・共催含む)の総入場者数は、157,768人とした。

図表-資Ⅳ-8 貸館事業の観客の消費支出額(参考値)

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
25 商業	ショッピング(公演前後)	104,958	0	104,958	
28 運輸	旅費・交通費	123,375	0	123,375	
35 対個人サービス	食費(公演前後)	94,709	0	137,467	
合計		323,041	0	323,041	

3. 経済波及効果の計算結果

- 以上の最終需要および消費支出に基づき、北九州市内の支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度北九州市産業連関表」を使って、北九州市外への支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度全国産業連関表」を使って計算した。
- なお支出額は2018年度の金額であるが、物価変動にともなうデフレート計算は行っていない。

(1) 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

- まず、管理運営に伴う経済波及効果(図表-資Ⅳ-9)は、北九州市内が約7億3,389万円、北九州市外が約1億2,483万円、合計が約8億5,872万円で、それぞれ最終需要に対する生産

誘発係数は1.29、1.67、1.34である。

- また、主催事業に伴う経済波及効果は、北九州市内が約6,449万円、北九州市外が約2億5,691万円、合計が約3億2,141万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.30、1.68、1.59である。
- 劇場の管理運営や主催事業に伴う経済波及効果の合計は約11億8,012万円で、生産誘発係数は1.40である。

図表-資Ⅳ-9 管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

	管理運営			主催事業			合計
	北九州市内	北九州市外	計	北九州市内	北九州市外	計	
最終需要(支出額)	568,479	74,693	643,172	49,587	153,029	202,616	845,788
農林水産業	24	86	110	46	755	800	910
鉱業	1,147	33	1,179	5	90	95	1,275
飲食物品	25	67	92	334	1,810	2,145	2,236
繊維製品	78	128	206	10	270	279	485
パルプ・紙・木製品	1,246	954	2,200	275	1,899	2,174	4,374
化学製品	21	1,026	1,047	3	2,146	2,149	3,196
石油・石炭製品	-142	799	657	-10	2,645	2,635	3,292
プラスチック・ゴム	2,000	1,437	3,436	230	2,822	3,052	6,489
窯業・土石製品	422	283	705	38	570	608	1,313
鉄鋼	337	1,366	1,702	30	2,653	2,683	4,385
非鉄金属	158	350	508	22	683	705	1,213
金属製品	617	386	1,003	75	826	901	1,904
はん用機械	138	720	858	8	1,336	1,344	2,203
生産用機械	880	943	1,824	55	1,743	1,798	3,622
業務用機械	180	464	644	13	861	874	1,518
電子部品	-106	1,133	1,028	-7	2,093	2,086	3,114
電気機械	698	681	1,379	45	1,270	1,315	2,693
情報・通信機器	3	78	82	0	147	148	229
輸送機械	1,693	3,732	5,425	121	7,129	7,250	12,675
その他の製造工業製品	5,535	1,325	6,861	4,858	3,314	8,173	15,033
建設	6,494	610	7,105	280	1,385	1,665	8,770
電力・ガス・熱供給	183,786	1,190	184,976	836	2,835	3,672	188,648
水道	8,501	171	8,672	128	515	643	9,315
廃棄物処理	762	103	865	88	386	475	1,339
商業	13,651	3,581	17,232	1,491	7,532	9,024	26,255
金融・保険	11,573	2,126	13,698	1,017	3,303	4,320	18,018
不動産	4,276	1,316	5,591	621	2,799	3,421	9,012
運輸・郵便	13,070	2,824	15,894	9,425	15,032	24,457	40,351
情報通信	18,147	10,131	28,278	3,412	14,502	17,914	46,193
公務	1,195	208	1,403	94	409	503	1,906
教育・研究	2,782	1,010	3,791	227	1,895	2,122	5,914
医療・福祉	35	12	47	6	30	36	83
その他の非営利団体サービス	1,005	232	1,236	96	488	584	1,820
対事業所サービス	444,538	83,747	528,285	27,585	154,572	182,156	710,441
対個人サービス	675	354	1,029	12,055	13,988	26,043	27,073
事務用品	3,494	305	3,798	590	372	962	4,760
分類不明	4,952	918	5,870	390	1,803	2,193	8,064
合計	733,889	124,827	858,717	64,493	256,912	321,406	1,180,122
生産誘発係数	1.29	1.67	1.34	1.30	1.68	1.59	1.40

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(2) 主催事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果

- 次に、主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果(図表-資IV-10)をみると、北九州市内が約9,159万円、北九州市外が約1億1,495万円、合計が約2億653万円である。それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.29、1.75、1.51となっている。

図表-資IV-10 主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果

	(千円)		
	主催公演の観客		
	北九州市内	北九州市外	計
最終需要(支出額)	70,881	65,741	136,621
農林水産業	157	51	208
鉱業	13	168	182
飲食料品	1,205	40	1,245
繊維製品	18	93	111
パルプ・紙・木製品	189	774	962
化学製品	3	417	420
石油・石炭製品	-16	7,691	7,675
プラスチック・ゴム	146	618	764
窯業・土石製品	43	149	192
鉄鋼	30	738	768
非鉄金属	12	139	151
金属製品	128	320	448
はん用機械	2	131	133
生産用機械	9	136	145
業務用機械	7	74	81
電子部品	-1	185	184
電気機械	12	164	176
情報・通信機器	0	26	26
輸送機械	39	2,272	2,310
その他の製造工業製品	421	427	848
建設	519	1,363	1,882
電力・ガス・熱供給	2,146	1,271	3,417
水道	344	405	749
廃棄物処理	263	275	538
商業	21,040	3,052	24,091
金融・保険	924	2,080	3,004
不動産	1,394	1,984	3,379
運輸・郵便	12,324	74,041	86,366
情報通信	1,241	2,392	3,632
公務	103	177	280
教育・研究	178	522	700
医療・福祉	7	69	76
その他の非営利団体サービス	157	148	305
対事業所サービス	4,307	11,496	15,804
対個人サービス	43,588	108	43,696
事務用品	206	169	375
分類不明	427	780	1,207
合計	91,586	114,945	206,531
生産誘発係数	1.29	1.75	1.51

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(3) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う経済波及効果(参考値)

- 次に、貸館主催者の最終需要(事業支出)、ならびに貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果は図表-資料IV-11のとおりで、1公演・講演当たりの事業費が主催公演の20%の場合、経済波及効果は約7,290万円、30%の場合は約1億936万円で、生産誘発係数はともに1.28である。
- また、貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果は、約4億2,124万円、生産誘発係数は1.30である。
- なお、貸館事業の場合は、公演や講演の事業支出、観客の消費支出とも、全額が北九州市内への支出と想定した。

図表-資IV-11 貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出に伴う経済波及効果(参考値)

(千円)

	貸館公演・講演事業		観客の消費支出
	ケース①	ケース②	
最終需要(支出額)	56,951	85,427	323,041
農林水産業	28	43	352
鉱業	5	7	47
飲食料品	201	302	2,664
繊維製品	10	16	74
パルプ・紙・木製品	165	247	832
化学製品	3	4	9
石油・石炭製品	-7	-11	-139
プラスチック・ゴム	242	363	692
窯業・土石製品	40	60	161
鉄鋼	32	49	151
非鉄金属	19	29	47
金属製品	64	96	548
はん用機械	15	22	10
生産用機械	97	145	53
業務用機械	20	30	29
電子部品	-12	-17	-7
電気機械	76	115	68
情報・通信機器	0	1	1
輸送機械	194	291	348
その他の製造工業製品	2,035	3,052	1,650
建設	257	385	2,818
電力・ガス・熱供給	736	1,105	7,728
水道	98	148	1,175
廃棄物処理	59	89	786
商業	1,291	1,937	114,126
金融・保険	888	1,333	5,507
不動産	569	854	7,350
運輸・郵便	5,986	8,978	141,801
情報通信	2,455	3,683	5,694
公務	126	189	591
教育・研究	237	356	967
医療・福祉	5	8	53
その他の非営利団体サービス	108	162	532
対事業所サービス	48,814	73,222	24,931
対個人サービス	7,251	10,877	96,185
事務用品	272	408	952
分類不明	521	782	2,449
合計	72,904	109,356	421,235
生産誘発係数	1.28	1.28	1.30

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致していない。

(4) 雇用効果

- ここまでの計算結果に基づき、福岡県産業連関表の雇用表を用いて、北九州市内の雇用効果を試算した。
- 具体的には、先に計算した北九州芸術劇場の管理運営、主催事業、主催公演の観客の消費支出、貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出、それぞれに伴う北九州市内の生産額と、福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて雇用効果を計算した。その結果は、図表-資IV-12に示したとおりである。
- 貸館の事業費が主催公演の20%と想定した場合(①)、就業者数(労働量)で約129人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で116人、同じく30%と想定した場合(②)、就業者数(労働量)で約133人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で119人の労働誘発効果、雇用効果があったという結果となった。

- 分野別にみると、対事業所サービス、対個人サービス、商業の分野での雇用効果が大きい。

図表-資IV-12 北九州芸術劇場の雇用効果(人)

	ケース①		ケース②	
	就業者数	雇用者数	就業者数	雇用者数
その他の製造工業製品	1	1	1	1
建設	1	1	1	1
電力・ガス・熱供給	3	3	3	3
商業	16	15	16	15
金融・保険	1	1	1	1
運輸・郵便	14	13	14	14
情報通信	1	1	1	1
対事業所サービス	64	57	67	59
対個人サービス	28	24	29	24
合計	129	116	133	119

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) まとめ

- ここまでの経済波及効果の分析結果を整理すると、図表-資IV-13のとおりとなる。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、観客の消費支出によるものも含め、約9億8,200万円で、そのうち、70.1%にあたる約6億8,900万円が、北九州市内での最終需要となっている。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、観客の消費支出によるものも含め、約13億8,700万円で、そのうち64.2%にあたる約8億9,000万円が北九州市内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.41、北九州市内で1.29である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみと想定)は、約4億9,400万円～5億3,100万円で、生産誘発係数は1.30である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約18億8,100万円～19億1,700万円で、北九州市内に限ってみると、約13億8,400万円～14億2,100万円となっている。これは、17年度に比べて総合計と北九州市内の両方で減少している(17年度は、総合計:約19億9,200万円～20億2,600万円、北九州市内:約14億7,900万円～15億1,300万円)。誘発係数は17年度と同じく1.38となっている。
- また、北九州市内の雇用効果は、就業者ベースで約129～133人、雇用者ベースで約116～119人である。

注) 上記数字は、試算結果の計算値を転載したものである。図表-資IV-13の各データは百万円未満を四捨五入しているため、表中に掲載している数値を再計算したものと、合計値やパーセンテージが一致しない場合がある。

図表-資Ⅳ-13 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(18年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	⇒ 6億4,300万円 (5億6,800万円)	⇒ 8億5,900万円 (7億3,400万円)	1.34 (1.29)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	⇒ 2億300万円 (5,000万円)	⇒ 3億2,100万円 (6,400万円)	1.59 (1.30)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	⇒ 1億3,700万円 (7,100万円)	⇒ 2億700万円 (9,200万円)	1.51 (1.29)
	小計	⇒ 9億8,200万円 (6億8,900万円)	⇒ 13億8,700万円 (8億9,000万円)	1.41 (1.29)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	⇒ 5,700万円 ～8,500万円	⇒ 7,300万円 ～1億900万円	1.28
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	⇒ 3億2,300万円	⇒ 4億2,100万円	1.30
	小計(参考値)	⇒ 3億8,000万円 ～4億800万円	⇒ 4億9,400万円 ～5億3,100万円	1.30
	合計(参考値)	⇒ 13億6,200万円 ～13億9,100万円 (10億6,900万円 ～10億9,700万円)	⇒ 18億8,100万円 ～19億1,700万円 (13億8,400万円 ～14億2,100万円)	1.38 (1.29)
		雇用効果		
		(北九州市内)		
		129～133人(就業者ベース)		
		116～119人(雇用者ベース)		

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

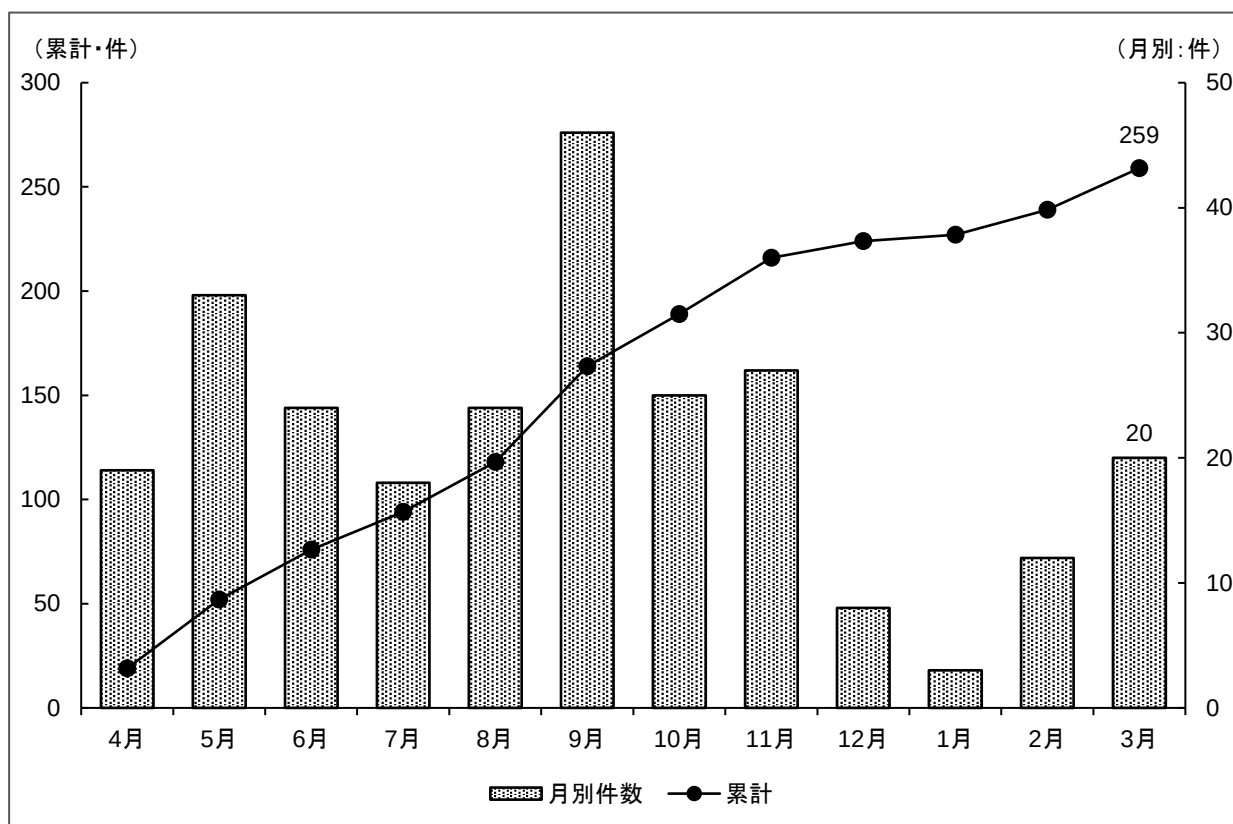


パブリシティ効果

(1) 月ごとの掲載件数と累計

2018年度のパブリシティ効果について、「日経テレコン」記事検索に基づき、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は259件となっている。9月の掲載件数が46件で最も多く、1月が3件で最も少なくなっている。

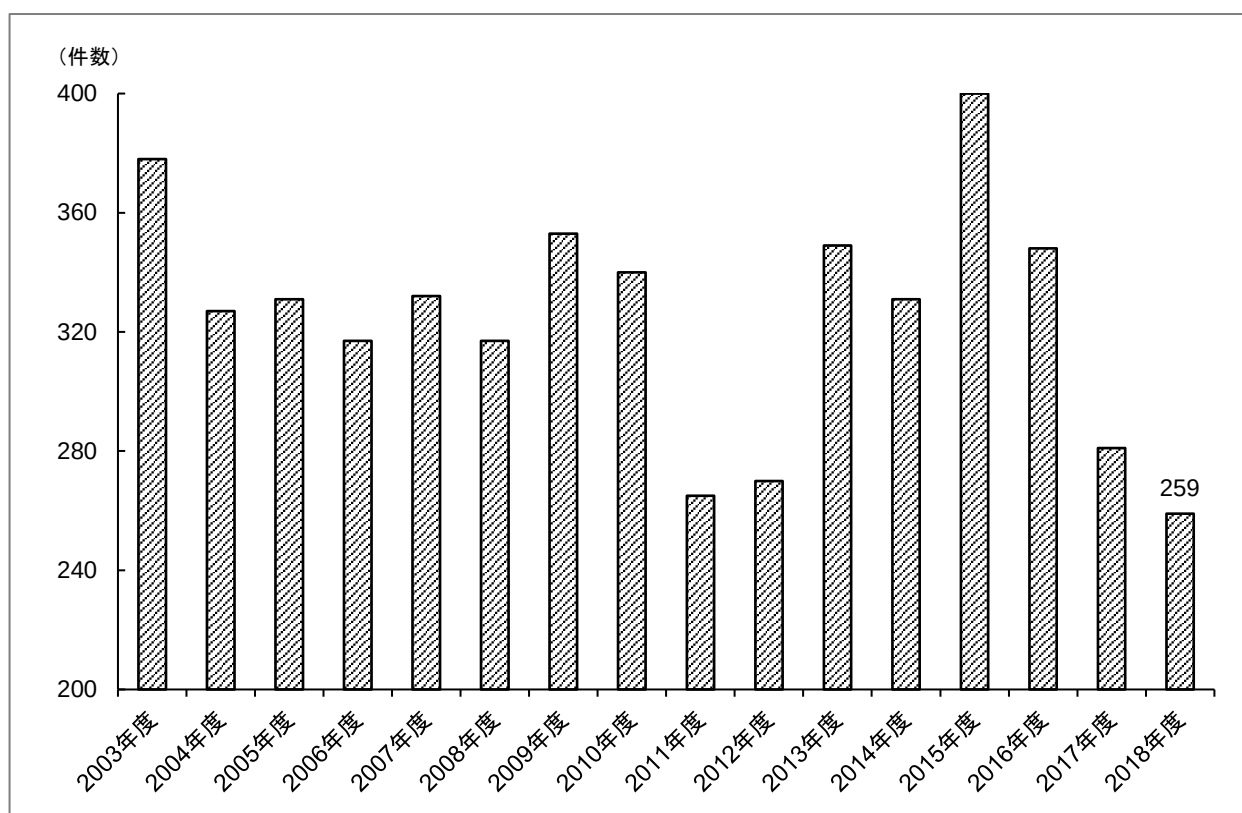
年	月	月別件数	累計
2018年度	4月	19	19
	5月	33	52
	6月	24	76
	7月	18	94
	8月	24	118
	9月	46	164
	10月	25	189
	11月	27	216
	12月	8	224
	1月	3	227
	2月	12	239
	3月	20	259



(2) 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移

2003年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。11年度は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられるが、18年度は11年度を下回り、掲載件数は開館以降で最も少ない件数となっている。

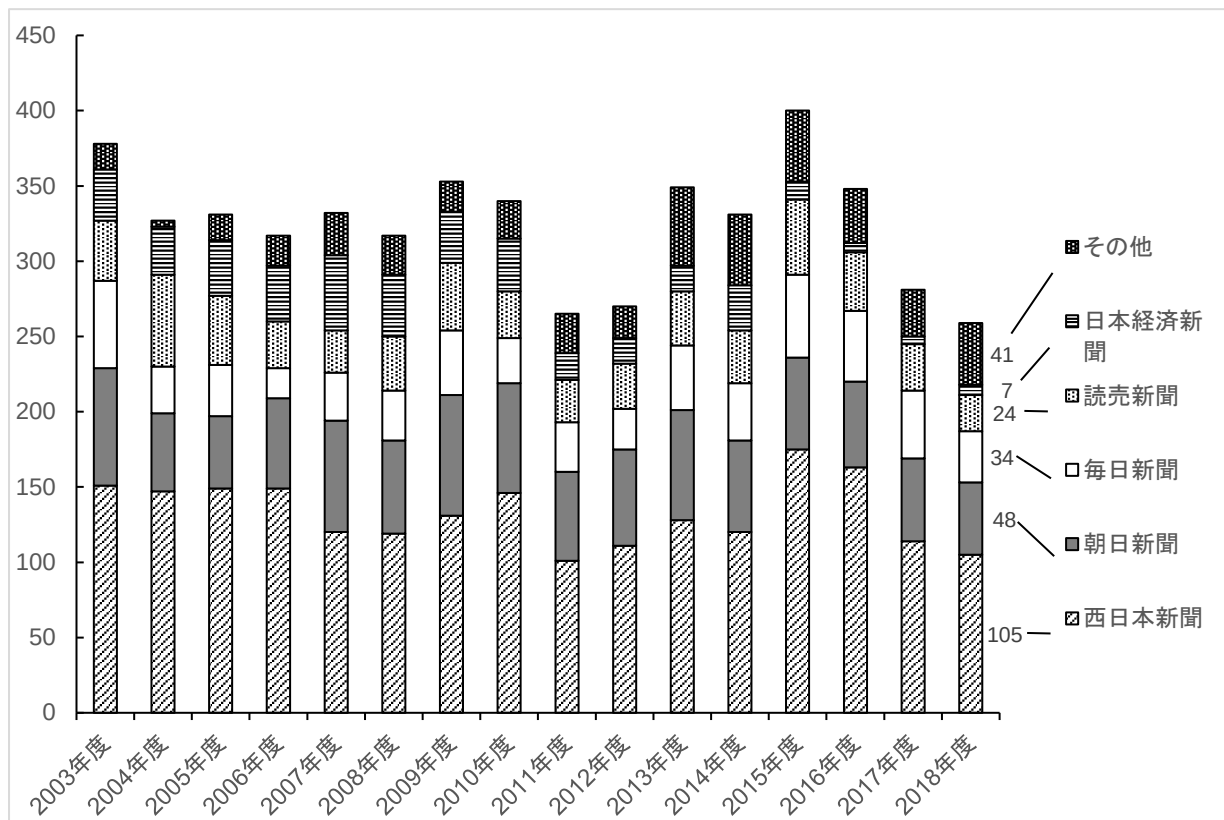
年度	掲載件数
2003年度	378
2004年度	327
2005年度	331
2006年度	317
2007年度	332
2008年度	317
2009年度	353
2010年度	340
2011年度	265
2012年度	270
2013年度	349
2014年度	331
2015年度	400
2016年度	348
2017年度	281
2018年度	259



(3) 新聞別件数一覧

新聞別に見ると、2018年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(105件)、次いで、朝日新聞(48件)、毎日新聞(34件)、読売新聞(24件)、日経新聞(7件)となっている。その他、九州各県をはじめとする地方新聞は41件となっている。

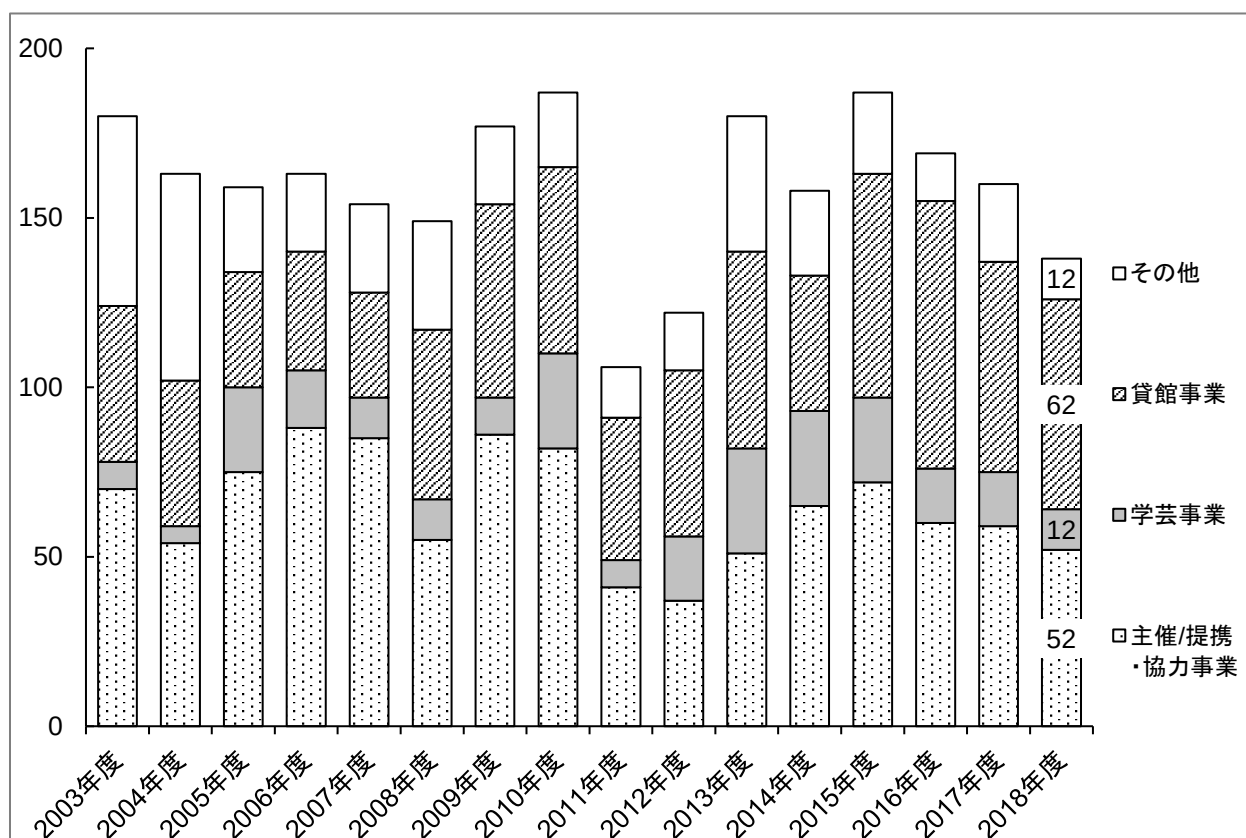
	西日本新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	日本経済新聞	その他	計
2003年度	151	78	58	40	34	17	378
2004年度	147	52	31	61	32	4	327
2005年度	149	48	34	46	37	17	331
2006年度	149	60	20	31	37	20	317
2007年度	120	74	32	28	50	28	332
2008年度	119	62	33	36	41	26	317
2009年度	131	80	43	45	34	20	353
2010年度	146	73	30	31	35	25	340
2011年度	101	59	33	28	18	26	265
2012年度	111	64	27	30	17	21	270
2013年度	128	73	43	36	17	52	349
2014年度	120	61	38	35	30	47	331
2015年度	175	61	55	50	12	47	400
2016年度	163	57	47	39	6	36	348
2017年度	114	55	45	31	5	31	281
2018年度	105	48	34	24	7	41	259



(4) 新聞掲載記事の内容と件数

北九州芸術劇場として記事性が高く、公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、2018年度は138件であった(17年度:160件)。その内容を、「主催/提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、52件、12件、62件、12件であった。

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	70	8	46	56	180
2004年度	54	5	43	61	163
2005年度	75	25	34	25	159
2006年度	88	17	35	23	163
2007年度	85	12	31	26	154
2008年度	55	12	50	32	149
2009年度	86	11	57	23	177
2010年度	82	28	55	22	187
2011年度	41	8	42	15	106
2012年度	37	19	49	17	122
2013年度	51	31	58	40	180
2014年度	65	28	40	25	158
2015年度	72	25	66	24	187
2016年度	60	16	79	14	169
2017年度	59	16	62	23	160
2018年度	52	12	62	12	138
累計	980	261	747	426	2,414

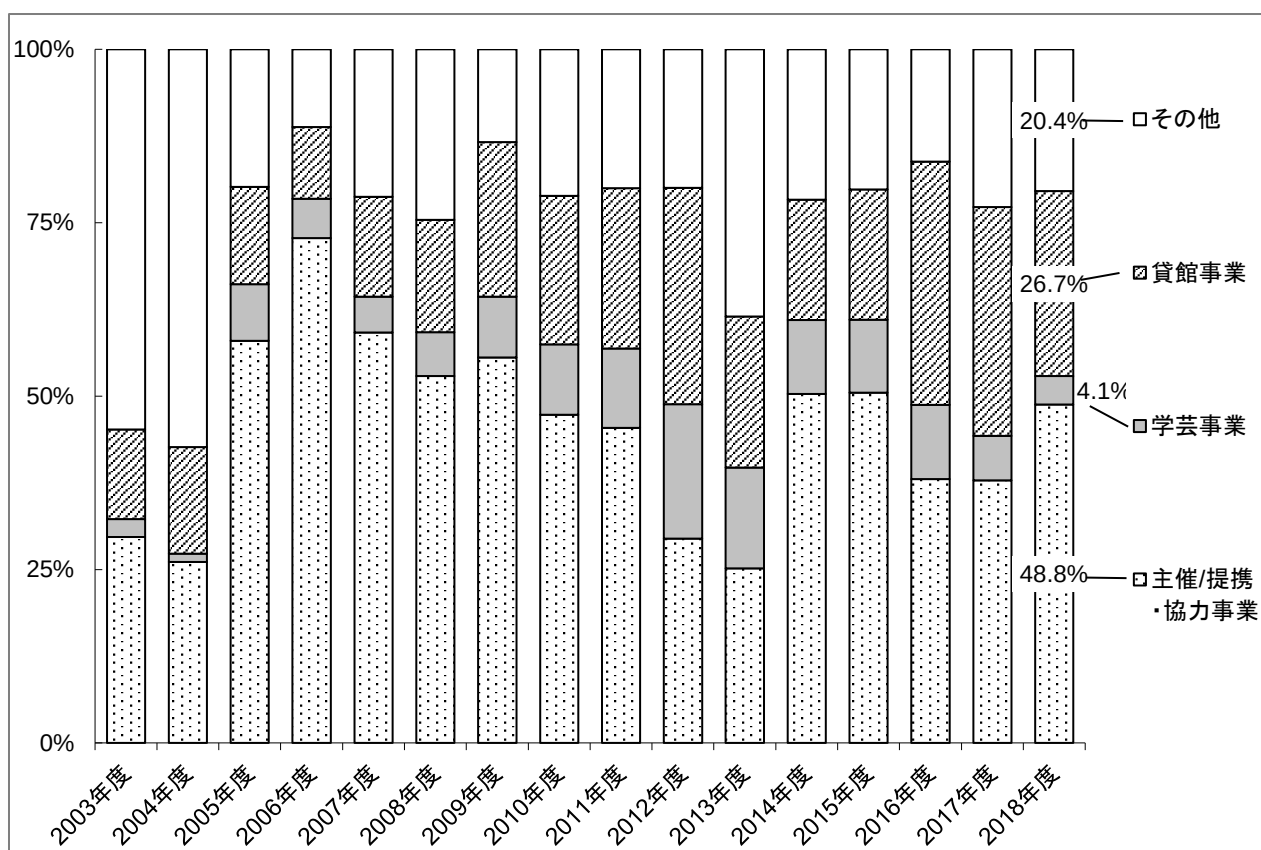


(5) 新聞掲載記事の内容と金額換算

北九州芸術劇場として記事性が高く、公演の内容紹介が掲載されている138件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億6,400万円という結果となっている(17年度:約1億5,300万円)。18年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約6,300万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模を大幅に上回る成果を生み出していると言える。

(金額:千円)

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	62,140	5,331	27,072	114,683	209,226
2004年度	46,211	2,141	27,235	101,577	177,164
2005年度	110,044	15,505	26,622	37,678	189,849
2006年度	160,243	12,451	22,741	24,680	220,115
2007年度	66,027	5,777	16,056	23,737	111,597
2008年度	66,588	7,926	20,392	30,961	125,867
2009年度	65,542	10,316	26,293	15,755	117,906
2010年度	64,078	13,718	28,986	28,598	135,380
2011年度	42,162	10,621	21,443	18,563	92,789
2012年度	31,969	21,021	33,825	21,646	108,461
2013年度	41,879	24,104	36,272	64,035	166,291
2014年度	104,207	22,050	35,890	44,928	207,075
2015年度	97,930	20,472	36,429	39,170	194,002
2016年度	56,447	15,910	52,070	24,061	148,488
2017年度	57,825	9,840	50,418	34,746	152,829
2018年度	80,236	6,733	43,848	33,605	164,423
累計	1,073,293	197,183	461,744	624,819	2,357,039



北九州芸術劇場事業評価調査(その16) 報告書

調査・発行 | 公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11
tel. 093-562-2655 fax. 093-562-2588

調査委託 | 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室
〒100-0073 千代田区九段北4-1-7
tel. 03-3512-1883 fax. 03-5211-1084

発行日 | 2020年3月

©(公財)北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
(株)ニッセイ基礎研究所
無断転載・複写を禁じます。

